まちづくりチャレンジ600

地域再生大賞実行委員会 編



未来へつなぐ、みんなで

共同通信社

まちづくり
チャレンジ
600

未来へつなぐ、みんなで

地域再生大賞実行委員会 編

共同通信社

目次

4 ごあいさつ
5 選考委員のことば
6 地域再生大賞とは
7 主催、協賛、後援
8 **第12回地域再生大賞**
～未来へつなぐ、みんなで～
受賞50団体決定
14 【分析】ＳＤＧｓの視点から見た地域再生
19 第12回記念楯の紹介
20 【寄稿】地域再生大賞の12年を振り返る
～６００事例の分析を通じて～
日本経済研究所・池原沙都実さん
28 【インタビュー】自治体とＳＤＧｓ
神奈川県理事・山口健太郎さん

187 **協賛社・後援団体のことば**
188 井村屋グループ
189 住友化学
190 中日本高速道路（ＮＥＸＣＯ中日本）
191 日本取引所グループ（ＪＰＸ）
192 東日本高速道路（ＮＥＸＣＯ東日本）
193 ゆうちょ銀行
194 ローソン
195 城南信用金庫
196 中小企業基盤整備機構
197 都市再生機構（ＵＲ）
198 **年表・地域再生大賞のあゆみ**
199 **地域再生大賞事務局連絡先**

受賞団体データ集

30 第1〜12回の受賞団体一覧

37 都道府県別・団体データ

北海道・東北ブロック
38 北海道
44 青森
53 秋田
47 岩手
56 山形
50 宮城
59 福島

関東・甲信越ブロック
65 茨城
77 千葉
86 新潟
68 栃木
80 東京
89 山梨
71 群馬
83 神奈川
92 長野
74 埼玉

東海・北陸ブロック
95 富山
107 静岡
98 石川
110 愛知
101 福井
113 三重
104 岐阜

近畿ブロック
116 滋賀
125 兵庫
119 京都
128 奈良
122 大阪
131 和歌山

中国・四国ブロック
134 鳥取
152 香川
143 広島
155 愛媛
137 島根
146 山口
140 岡山
158 高知
149 徳島

九州・沖縄ブロック
161 福岡
173 大分
164 佐賀
176 宮崎
167 長崎
179 鹿児島
170 熊本
182 沖縄

地域再生大賞

ごあいさつ

第12回地域再生大賞実行委員会委員長　坂野　洋一
（北國新聞社編集局長）

全国各地の新聞46紙と共同通信が２０１０年度に開始した地域再生大賞は、第12回を迎えました。この間、東日本大震災や新型コロナウイルス禍という事態にも屈せず、地域の人々はまちづくりに取り組んでいます。

これまで延べ６００に及ぶ受賞団体のほとんどは今も活動を続けています。国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）が注目を集めていますが、現場のこのような取り組みこそがＳＤＧｓを先取り、実践する地域の底力といえるのではないでしょうか。

今回は長年、地域活動を積み重ねてきた団体に加え、若い人々が工夫を凝らしてネットワークを広げ、世代を超えて地域の良さを発見し、発展させる意欲的なケースが目立ちました。

３月には受賞団体６００の現状を収録した「まちづくりチャレンジ６００」を電子版として無料公開しました。それぞれの団体で活動する人々の情熱と知恵が、日本そして世界の未来に生かされることを願っています。

選考委員のことば

豊かさ生む新たな関係性



沼尾　波子
（委員長）

Profile　東洋大教授。慶応大大学院修了。2017 年から現職。専門は地方財政論。地域を支える行財政システムを研究。千葉県出身

「未来へつなぐ、みんなで」と題した今回、全国から優れた取り組みが多数寄せられた。パンデミック（新型コロナウイルス感染症の世界的大流行）や大規模災害を契機に、人と人とのつながりの再構築や、自然環境の保全・再生など、次世代に豊かな地域を継承する力強い活動がみられた。

ＳＤＧｓを掲げたこともあり、大手企業の取り組みや、行政と地元企業、団体などが連携した大胆な活動も挙がるなど推薦団体・活動の幅が広がった。いずれも地域や社会の課題に根差した丁寧な取り組みで、優劣つけられるものではなく、審査は難航を極めた。

大賞「河原部社」は、中高生が自分を知り、地域や社会とつながるきっかけを創出する拠点だ。支援する・されるという関係を超えた創造的プラットフォームの運営は、他地域のモデルとなる。

準大賞「こまちぷらす」は、地域で暮らす多様な人々のつながりを支える場と人材育成に取り組む。「石徹白洋品店」は地域の風土や文化に根差した暮らしの伝承と再生を、衣類から興した。

自分を軸に、他者とつながり、活動を展開することで、自分も相手も社会も豊かになるという社会経済関係が、若い世代を中心に新しい形で創出されている。こうした活動が各地で広がりを見せていることに希望を感じた。

地方課題解決の先駆者に



大桃　美代子

Profile　タレント。新潟県中越地震での実家被災を契機に食育や農業、地域振興に取り組む。新潟食料農業大客員教授

地域再生大賞の各賞を受賞された皆さま、おめでとうございます。コロナ禍で対面での活動が制限される中、地方の課題がさらにあらわになった年でした。ＩＴなど新しいツールに慣れ、非接触が日常化しましたが、同じ場所で話すこと、思うこと、感じることを求めていて、孤独ゆえの新しい課題も生まれています。地方の課題はさまざまで、問題解決に答えを探す先駆者がここにいます。地域の宝です。ご縁をつなげる賞になっていただけると幸いです。

想像力が変革と未来を呼ぶ

社会のオンライン化が急速に進み、空間を超えて効率的に人や物がつながることができるようになった。そんな時代だからこそ、オフラインで人や物がつながり、化学反応のような創発が生まれている取り組みをいくつも見ることができたことが印象的だった。「未来へつなぐ、みんなで」というテーマに思惟（しい）を巡らせながらの審査だったが、偶発的に生まれる、さまざまな出来事やイマジネーションが、未来を担う若いエネルギー、社会を変革するエネルギーを育み、輝く未来へとつなげてくれるように思う。



佐藤　宏亮

Profile　早稲田大大学院修了。18年から芝浦工業大教授。建築の視点から各地のまちづくりに参画している。愛知県出身

若い人の突破力感じる

過疎や貧困、子育てなど、地域の困りごとや課題を、住民自らサポーターとなって解決しようという取り組みが目立った。地域の底力を感じさせるもので、行政だけに依存せず、住民が主導的に地域での暮らしを豊かにするものだ。また、大賞、準大賞となった河原部社や石徹白洋品店をはじめ、若い人たちの突破力を感じさせる取り組みもあった。見えざる壁をいともやすやすと越えていく若い人たちの姿に、地域の未来を感じざるを得ない。



藤波　匠

Profile　東京農工大大学院修了。15年から日本総合研究所上席主任研究員。地域再生、人口問題などが専門。神奈川県出身

地域再生大賞とは

地域再生大賞は、地方新聞46紙と共同通信社が、地域に活気を与え魅力を高める活動に取り組み、成果を上げた団体を表彰しようと2010年度に設けました。人口減少、高齢化、格差、災害など、地域の課題解決に挑む団体を応援する思いを込めました。

毎年度、秋に新聞社などが計50の団体を大賞候補として推薦。選考委員が書類審査、現地調査を経て年明けに大賞、準大賞、ブロック賞、優秀賞などを決定します。受賞団体の取り組みは新聞紙面やインターネットで多角的に報道します。第12回（21年度）は副賞として、大賞1団体に100万円、準大賞2団体に各15万円、ブロック賞・特別賞の計9団体に各10万円などを贈呈しました。

表彰式は毎年2月です。第12回は新型コロナウイルス感染拡大のため、各地で個別に表彰しました。団体の活動の様子は公式ホームページ、公式フェイスブックページに連日、掲載しています。

公式ホームページ　https://chiikisaisei.jp/

主催

地域再生大賞実行委員会
（北海道新聞、室蘭民報、デーリー東北、岩手日報、河北新報、秋田魁新報、山形新聞、福島民報、福島民友新聞、茨城新聞、下野新聞、上毛新聞、埼玉新聞、千葉日報、東京新聞、神奈川新聞、新潟日報、山梨日日新聞、信濃毎日新聞、北日本新聞、北國新聞、福井新聞、岐阜新聞、静岡新聞、中日新聞、伊勢新聞、京都新聞、神戸新聞、奈良新聞、日本海新聞、山陰中央新報、山陽新聞、中国新聞、徳島新聞、四国新聞、愛媛新聞、高知新聞、西日本新聞、佐賀新聞、長崎新聞、熊本日日新聞、大分合同新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、沖縄タイムス、琉球新報、共同通信）

協力・日本放送協会

協賛（50音順）

imuraya group
住友化学
NEXCO 中日本
JPX JAPAN EXCHANGE GROUP
NEXCO 東日本
ゆうちょ銀行
LAWSON
城南信用金庫

後援（50音順）

外務省
厚生労働省
財務省 Ministry of Finance, JAPAN
全国市長会
全国知事会
全国町村会
総務省 MIC Ministry of Internal Affairs and Communications
地域経済活性化支援機構
Be a Great Small. 中小機構
街に、ルネッサンス UR都市機構
内閣府
JFC 日本政策金融公庫
農林水産省

「第12回地域再生大賞 ― 未来へつなぐ、みんなで」受賞50団体が決定

２０２１年度の地域再生大賞は「未来へつなぐ、みんなで」というサブテーマを設けた。コロナ禍が続く中だったが、現場からの取り組みは例年にも増して斬新。若い世代の活躍と、思いを伝えるデザイン力が目立った。



中高生の夢、〝第三の居場所〟で若者が応援

大賞 第12回

河原部社（山梨県韮崎市）

家庭でも学校でもない中高生の〝第三の居場所〟を若者たちが韮崎の市街地で運営。イベントなど自発的な取り組みを通じてそれぞれの夢の実現を応援し、地域への愛着を育んでいる。

イヌやネコが分化する前に生息していた古代生物にちなんで名づけられた活動拠点「ミアキス」の壁には「あなたは何に進化する？」の文字。着なくなった思い入れのある服を譲り受けてコーディネートを楽しんだり、卓球のラケットを作ったり…。中高生が思い思いの時間を過ごし、多彩なイベントが繰り広げられる。

運営しているのは起業家やデザイナー、桃農家など、いずれも平成生まれの若いスタッフだ。中高生に、何かを押し付けるのではなく、相談に乗りながら夢の実現を応援し、多様な選択肢を示す。韮崎にゆかりがある社会人との対話や、職場体験などを通じて、地元への愛着を育んでもらう。



開設から5年。年間の登録者は約１７００人となった。高校生の頃に通った人は、海外留学を経てスタッフに加わった。東京の大学に進学後、地元の活性化に取り組む団体を立ち上げた人もいて、種は確実に芽吹き始めている。

市外に出た人に韮崎の魅力を発信するウェブマガジンも続ける。今後、コワーキングスペース整備など街づくりの新事業に取り組んでいく。

大賞受賞にあたって、西田遙理事長(30)は「これまで本当に手探り、手作りだったが、青少年の未来への取り組みが高く評価されてうれしい。行政も思い切って若者に任せてくれた。他の自治体ともノウハウを共有していきたい。受賞を励みにし、副賞賞金も活用して新しいことを始めたい」と話した。

準大賞 第12回

こまちぷらす（横浜市）



子育てから出発、人々をつなぐ

「子育てがまちの力で豊かになる社会へ」を合言葉に、居場所となるカフェを運営する。子どもの発達への不安や介護との両立など悩みを抱え、孤立しがちな人々が心を開いて語り合える。6人のママ友が立ち上げ、スタッフ約50人、登録ボランティア約200人に発展した。

手作り雑貨の委託販売や各種イベントを通じて、社会との「つながり直し」を目指す。住民や企業と連携し、900の家庭に出産祝いを贈り、外出時に便利なおむつの自動販売機を各地に設置させた。

選考委員からは「人と人とを結ぶファシリテーター人材の育成プログラムを構築、丁寧に人を育てている」「ママと社会とのつながりを持つ場として地域にほしい」など高い評価の声が上がった。

準大賞 第12回

石徹白洋品店（岐阜県郡上市）



伝統着の魅力発見、現代ファッションに

福井県に近い白山連峰の麓にある240人の集落に伝わる野良着のズボン「たつけ」は、伝統の技の結晶だ。その斬新さに衝撃を受けた移住者が、デザイン性の高いファッションによみがえらせた。藍や草木染も取り入れる。安価ではないが、オンラインや都会での展示会でつながった多くの人々から支持されて年400着を全国に出荷している。平野馨生里代表取締役は、お年寄りから民話の聞き書きなどをする中でたつけの技を身に付けた。

ITを活用して発信する伝統着の魅力は、地域に働く機会をもたらすとともに、都会の若い人々を呼び、店はインターンの若者らの活気であふれる。ほとんど端切れが出ない環境へのやさしさも特徴だ。

ブロック賞 第12回

地球の未来賞 兼 東海・北陸ブロック賞

アノミアーナ「ギザギザ湾・美化美化計画」

（福井県嶺南地方）

プラスチックなどのごみが大量に漂着し、処分に苦労する若狭湾沿岸地域で地元の女性らが動いた。実態調査や回収、分別に取り組み、カラフルなアクセサリーやサングラスに再生。体験学習受け入れにも力を入れる。



北海道・東北ブロック賞

にかほ出前商店街振興会

（秋田県にかほ市）

過疎が進み買い物が難しい高齢者のため、地元商工業者が出向く。生鮮品や日用品の販売に美容のサービスも。井戸端会議も楽しめる地域に不可欠な存在に。店側にとっても新たなビジネスの可能性が生まれる。



関東・甲信越ブロック賞

産科婦人科舘出張佐藤病院

（群馬県高崎市）

江戸中期から地域医療を担う女性専門病院が、全世代の女性の健康を見守り続ける。NPO法人を立ち上げ、子宮頸がん予防啓発のマラソン大会を開催し、LINE（ライン）を通じて思春期の心身の相談にも応じている。



近畿ブロック賞

ヴィダ・リブレ

（和歌山県美浜町）

引きこもりの人が集い、共感し合える場を提供、医療専門家や同じ経験を持つスタッフが回復を支援する。企業に若者らの採用を働き掛け、50人以上が社会参加。臨床心理士の資格を取った人、新聞記者になった人も。



中国・四国ブロック賞

元気むらさくぎ

（広島県三次市）

わかた（自分たち）のことは、わかたで―。合併で身近な村役場がなくなった旧村で、観光施設やグループホームの指定管理、学校給食調理業務を担う。自家用有償運送で高齢者の足を確保。廃園の危機にあったナシ農園を継承した。



九州・沖縄ブロック賞

でんでん虫の会

（熊本市）

元ホームレスの男性の孤独死をきっかけに、1人暮らしを支え合うために発足。通院や行政手続きの同行、みとりまで行政がカバーできない部分を担う。「おしゃべり会」も開催し、これまでにつながった人は約550人。



第12回

SDGs企業賞

SDGs賞

九州教具グループ

（長崎県大村市）



終戦後、点字図書館づくりを支援する運動のために設立された文具会社が母体。事務機器分野で成長、ホテル経営などにも取り組む傍ら社会貢献事業を展開する。地元の陶磁器の再興や、田畑を荒らすイノシシ肉の高級食材化に尽力。原爆資料館などに寄せられた折り鶴の灰を生かした磁器製SDGsバッジで世界平和を訴える。

第12回

共創アート賞

共創アート賞

ヘラルボニー

（盛岡市）



自閉症の兄を持つ双子の兄弟が、障害者によるアート作品を、ネクタイやバッグ、傘などファッションブランドとしての発信に取り組む。各地で展示会を開催し、大手企業と相次いで提携するなどプロデュース力を発揮。世界のブランドに引けを取らないまでにクオリティーを高め、収益を作家へ還元するサイクルづくりを目指す。

第12回

選考委員長賞

選考委員長賞

ハーモニーネット未来

（岡山県笠岡市）



全ての人が安心して暮らせる地域に向け活動を30年以上続ける。買い物の代行や病院への付き添いなどを有償ボランティアで住民同士が支え合う仕組みは年間8千件近くの利用がある。子ども食堂や学習支援、多世代の居場所や障害児の活動の場づくり、ドメスティックバイオレンス（DV）被害者らの共同住宅など事業は多岐にわたる。

第12回

優秀賞

関東・甲信越ブロック

結いプロジェクト
（茨城県結城市）

結城紬で知られる歴史ある街並みにクリエーターが集結、マルシェや音楽フェスを開催。



芝園団地自治会
（埼玉県川口市）

中国人など外国人住民が多いマンモス団地で共生の取り組み。多文化理解のイベントに学生が協力。



自立生活サポートセンター・もやい
（東京都新宿区）

大都会で困窮者の生活基盤を回復、ばらばらに苦しむ人たちのつながり生む。コロナ禍で食料配布。



ソマミチ
（長野県松本市）

森の恵みをさまざまに享受できる共同参画コミュニティーをつくり、地域経済の発展と自立を目指す。



三乗堂
（栃木県鹿沼市）

世界遺産・日光山輪王寺の大修理に携わった県外出身の女性３人が、仏像修理やレプリカ制作。文化財を後世に伝える。



WOULD（ウッド）
（千葉県南房総市）

廃校が「住む・泊まる・学ぶ・食べる・働く」拠点に。２拠点生活やワーケーションで人気。



阿賀まちづくり
（新潟県阿賀町）

厄介者のカメムシやヤマビル、外来種のザリガニを資源にユニークなイベント。古民家の活用も。



北海道・東北ブロック

カラカネイトトンボを守る会
（札幌市）

希少なトンボが生息し、失われゆく湿原を保全。ナショナルトラスト運動やビオトープ造成も。



だて噴火湾縄文まつり実行委員会
（北海道伊達市）

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する史跡でイベント。地域づくりのエネルギーに。



階上売り込み隊
（青森県階上町）

樹齢推定千年のイチョウをはじめとする古木や巨木を郷土の宝としてツアー開催。町内の児童も案内。



公益のふるさと創り鶴岡
（山形県鶴岡市）

城下町を流れる川で藻刈りやごみの回収、生物調査。桜祭りや舟下りで江戸時代からの親水空間を再生。



劇団 120 ○EN（福島市）

地元の民話や歴史に根差した作品を住民と協働して制作。希薄になる人々の関係性を再び強める。



巻組
（宮城県石巻市）

古い建物をシェアハウスに再生する。津波被災地に若者を呼び、人を育て、地域に新しい循環を生む。



とみおかワインドメーヌ
（福島県富岡町）

避難先から通い苗木を植えて４年後にワインが完成。ブドウの成長と復興を重ね、海の見えるワイナリーへ。



東海・北陸ブロック

小菅沼・ヤギの杜
（富山県魚津市）

鳥獣害対策でヤギを放牧して荒れた棚田を復元、収穫体験や稲作アートでにぎわい。都会の人も参加。



木場潟再生プロジェクト
（石川県小松市）

絶滅した水草を復活させた。水質が改善したカヌー競技場は東京五輪の各国合宿チームが評価。



丸子まちづくり協議会
（静岡市）

旧東海道の宿場町で小学校区の各組織や企業が参加し、お年寄りの外出支援や防災、防犯活動。



デンソー
（愛知県刈谷市）

津市の農園と連携、自動車分野で培った技術を駆使して AI ロボが収穫。働きやすい次世代農業を模索。



グリーンクリエイティブ いなべ
（三重県いなべ市）

間伐材や桑の実などの地域資源を活用、「カジュアル、オシャレ、カワイイ」SDGs を推進。



第12回

優秀賞

近畿ブロック

安念寺いも観音保存会
（滋賀県長浜市）

戦国の兵火をくぐり、高齢集落に伝わる仏像の保護に若者が協力。ネットを通じて多くの寄付が集まった。



㊐れい仙の郷
（京都府亀岡市）

かつての特産タマネギの復活を目指す。ブランド化に向け、企業や福祉施設と連携し、商品開発やイベントに力を入れる。



ネクストエージ
（大阪市）

節電すると割引になる企画、少年野球でヒットを打つとスポンサー企業が途上国に寄付する仕組みを推進。



クリーンアップ関西事務局
（神戸市）

海水浴場で若者や家族連れが参加してごみを回収。分類したデータを国内外で共有し、業界団体などに提言。



奈良地域デザイン研究所
（奈良市）

地域課題の解決に向け、市民や研究者、行政、企業をつなぎ「奈良をデザインできる」リーダーを育成。



九州・沖縄ブロック

うきはの宝
（福岡県うきは市）

75歳以上が取り仕切り、地産地消にこだわる「ばあちゃん食堂」 を営業。加工食品販売にも力を入れる。



おもやい
（佐賀県武雄市）

2019年豪雨で民間ボランティアセンターを立ち上げ、被災者に寄り添う。21年の大雨で支援を強化。



別府八湯温泉道実行委員会
（大分県別府市）

88カ所の多種多様な湯を巡るスタンプラリーは、地元住民が多く参加。開始から20年に。



焼畑蕎麦苦楽部
（宮崎県椎葉村）

世界農業遺産の認定地域で循環型自然農法を継承。地元の食材も生かし、移住者や観光客を呼ぶ。



奄美イノベーション
（鹿児島県奄美市）

島の伝統建築を宿泊施設に再生する。観光客と住民が集う場も整備。伝統的建築や集落文化を伝える。



1万人井戸端会議
（那覇市）

自治会と連携し、昔ながらの豆腐作りや伝統芸能の継承などに取り組む。エジプトに公民館活動を根付かせる。



おきなわこども未来ランチサポートコンソーシアム（那覇市）

子どもの貧困率が高い沖縄をコロナ禍が直撃。子ども食堂と支援企業・団体をつなぎ、善意の輪を広げた。



中国・四国ブロック

里山生物多様性プロジェクト
（鳥取県南部町）

オオサンショウウオの町で、荒れ地となった水田や農地を体験活動の場に。観光と結び付いた環境保全を提案。



島根半島四十二浦巡り 再発見研究会
（島根県出雲市）

祭礼や民謡、国引き神話が伝わり、東西に長い半島で江戸時代から伝わる信仰習俗の価値を現代に紹介。



うべナチュラルガーデナーズクラブ
（山口県宇部市）

ボランティアが四季折々の7千本の植物を管理する。ガーデンは無料公開され、市民の癒やしの空間に。



Creer（クレエール）
（徳島市）

障害者が生き生きと働くレストランを運営。子ども食堂も常設し交流の場となった。コロナ禍で宅食も開始。



どっかーん‼と観音寺を盛り上げ隊
（香川県観音寺市）

地元信用金庫が地域と一体となり、海産物や野菜など地域食材をブランド化、隠れた名所を発信。



三崎高校「せんたん部」
（愛媛県伊方町）

生徒有志が住民と連携、地域を盛り上げるワークショップやアートイベント、マルシェ、加工品開発。



とさちょうものがたり
（高知県土佐町）

地域おこし協力隊員として訪れた写真家らが地域の魅力をウェブで発信。障害者と協働して商品開発。



SDGsの視点から見た地域再生

共同通信社編集局企画委員（地方再生大賞運営委員）橋田　欣典

コロナ禍が長引く中、準備が始まった第12回地域再生大賞は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を念頭に置き「未来へつなぐ、みんなで」とする副題を設けた。受賞団体の活動のデータベースを構築する中で「持続可能で誰も取り残さない」地域づくりがほとんどの団体、そして各地の新聞社、さらに地域再生大賞を応援する企業にとっても共通のテーマになっており、SDGsとの共通性を強く感じたことが動機となった。「外見」ではなく「内側」から地域を変えている各団体の取り組みを、組織の仕組みやSDGsアンケートへの回答から見てみたい。

受賞団体の構成

第12回までの受賞団体は全都道府県の延べ600に上る。主な推薦主体は各地の新聞社で毎年、各社1団体。北海道、福島県、沖縄県は2社2団体の計50団体がノミネートされる。第11回からは過去の受賞団体の再推薦を一部で認め、2団体が該当した。2022年2月段階で活動を休止した団体は25、全体の4％程度で活動の持続性が高いことも特徴だ。

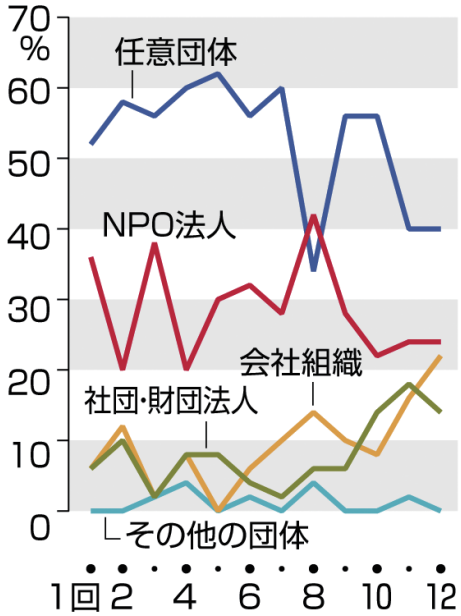
団体の推薦に当たっては地域づくりへの貢献以外には、特に条件を設けておらず、各年に「どのような活動が、まちづくりとして注目され実践されたか」という機運を反映している。

600団体の組織形態は①任意団体52・3％②NPO法人28・7％③株式会社など会社組織9・5％④社団・財団法人6・8％――の順。

なお特別賞以上の148団体を見ると、NPO法人が37・2％で、任意団体の36・5％を上回る。活動の規模や年数が選考時に反映された結果と思われる。

回ごとに全体の傾向を見ると「会社組織」が増加している。当初は〝奉仕活動〟が主だった取り組みが、地域のニーズに対応して収益ももたらす事業に発展、さらに成果を地域に還元するサイクルが生まれていると考えることもできる。また「社団・財団法人」も増加傾向にある。「任意団体」が「NPO法人」に、そして「会社組織」「社団・財団法人」に変わる例も多い。地

各回の組織形態の比率



域活動主体の多様化、そして成長が組織形態からもうかがえる。

活動の分類

２０１９年度からの受賞団体データベース構築で、活動の分類を図った。地域再生大賞事務局ではＮＰＯ活動促進法の活動例示や、ＳＤＧｓが定める17目標、１６９のターゲットを参考に議論を続け、９項目を設定した。実際には、複数の活動に当てはまるケースが多く、１団体について最大３項目を当てはめている。活動内容による分析は、日本経済研究所・池原沙都実研究員に依頼、別項に収録した。多様性があると同時に、地域性、時の流れによる変化があることがうかがえる。

地域再生大賞事務局による分類

①共生・福祉・医療
②過疎・高齢化・若者誘致
③子ども・親・教育
④商工業・経済
⑤農・漁・食
⑥文化・スポーツ
⑦まちづくり・環境
⑧防災・復興
⑨連携・交流

ＳＤＧｓアンケート

コロナ禍を経て持続可能で誰も取り残さない社会づくりの機運が急速に高まっていることから、事務局では第11回までに受賞した団体を対象にＳＤＧｓの意識調査を実施した。

質問項目

①ＳＤＧｓとは何かをご存じでしたか？
②あなたの団体はＳＤＧｓに関する取り組みを実践していると思いますか？
③あなたの団体の活動について地域再生大賞事務局で分析したところ、別紙のようにＳＤＧｓが掲げる17目標、１６９ターゲットに関連づけられると考えました。どうお感じになりますか？
④ＳＤＧｓを知ったきっかけ、地域からのＳＤＧｓの可能性、発展させる手だてなどについて自由にお書きください。

アンケートからは、約８割の団体がＳＤＧｓを認識、実践している自覚を持っていることが明らかになった。詳細は池原研究員の別項にまとめている。ここでは各団体の記述回答を基に、ＳＤＧｓに対する現場の声を伝えたい。

テキストマイニング

記述回答全体のイメージをつ



かむため、池原研究員の協力を得て、アンケートの記述回答に出てくる単語の頻度、関連性を図示する「テキストマイニング」という手法を試した。「ＳＤＧｓ」を囲むように、「取り組む」「活動」「事業」「掲げる」「つながる」など、実践的でポジティブな言葉が大きなスペースを占めることが特徴だ。具体的な回答を見てみたい。

団体の回答から

（　）は団体の所在都道府県

ＳＤＧｓを評価する声

●人口が減る地域で「持続可能」というテーマは大きな関心事であると思っている。ひとつひとつの事業にＳＤＧｓのゴール番号を付与し、ゴールを意識した事業展開を図ることが今後の発展につながっていくと考える（岩手）

●ＳＤＧｓは全方位的で、ひとりひとりが自分の関心のある分野において考えることができるため、取り組みやすい仕組みになっている（宮城）

●身近な地域で防災に取り組む活動や、食料支援活動は地域課題や環境問題などを考えるきっかけとなり、自分事としてＳＤＧｓに取り組むきっかけ、参加の入り口になっている（大阪）

●ＳＤＧｓについて地方だからこそできる先進的な取り組みを模索しつつ実践し、他地域でも活用できるモデルケースを作り出したい（大分）

●カーボンニュートラル（地球温暖化からの脱却）の中で、自分たちの活動を位置づけることは意義深く、大きな励みになる（千葉）

ＳＤＧｓの17目標にはさまざまな方向性が含まれており、それぞれの地域の活動を世界的な動きの中で評価できることを指摘している。また他地域との共通性を考える際にも有用と考えている。

地域がＳＤＧｓを先行

●古来、営んできた「里地里山里海文化」の中にはＳＤＧｓの達成目標となる課題解決の糸口が多く含まれている（福井）

●地方ならではの地域資源を生かした事業を行い、地域の課題解決や雇用を創出していくことがＳＤＧｓにつながっていく（富山）

●地域にはＳＤＧｓに即した内容の活動が既にたくさんある。ＳＤＧｓという視点で点検することで既存の事業の価値を再認識できるとともに、足りない要素を自覚でき、活動の質や包括性の向上につながると感じる（兵庫）

●町家・町並み保存の再生・利活用を進めている団体の多くが循環型地域経済・環境・社会を持続もしくは回復しようと活動している（岡山）

受賞団体の大半が、自らの活動とＳＤＧｓとの関連をしっかりと認識している。ただ大企業の取り組みが華々しく伝えられる一方で、地域の地道な活動に光が当たっていないという違和感も感じられる。

ＳＤＧｓへの注文

●ＮＰＯの新規設立などの際に、ＳＤＧｓの目標につながる活動を具体的に示させて、意識的に取り組む姿勢を促すことも必要ではないか（北海道）

●「社会受けがいいので、目立つ行動をしていればよい」というのではなく、現在よりも持続可能性を高める結果を導き出せるのか、途中の結果についても自らを厳しくチェックしなければいけない（長野）

●ＳＤＧｓを何かしらの派閥のようにとらえて反射的にネガティブなイメージを持つ人々もまだまだ多い。声高にＳＤＧｓをうたう人が増えるほどその対立の溝は深くなるのではないか。達成への貢献度や進捗など数字を含めて出していくことでより肯定的に受け止められ、浸透につながるのではないか（岩手）

●ＳＤＧｓは活動の成果を対外的にアピールするための指標程度に考え、取り組んでいる地域の課題の本質を見失うことがないようにすることが大切だ（静岡）

●ＳＤＧｓのために無理をして何かを起こすのは政治の仕事、市井として出来ることをむりなくことをやる気持ち。草の根も必要と考えている。いま行っている活動の中にもテーマは入り込んでいる。それをサスティナブルにしていきたい（沖縄）

地域の団体からは、取り組んでいる活動とＳＤＧｓを関連づける際の戸惑いの声が少なくなかった。具体的な成果や途中経過を示し、客観的に評価してもらうようにしなければという意見も。

ＳＤＧｓへの疑問・批判

●理念には賛同するが、地方に暮らす者にとっては「かけ声や理念の先行」「ＰＲばかり」の感が強い（徳島）

●目的を分類することの意義がよく分からない（兵庫）

●声高になればなるほど懐疑的。ＳＤＧｓに疲れて持続可能な取り組みではなくなり、コンサルだけが跋扈するのではないかと懸念している（山梨）

●心ある地域活動は美辞麗句でくくられるものではなく、もっと泥くさく地道なもの（愛知）

実質を伴わない「うわべだけのＳＤＧｓ」には厳しい批判があった。背景には企業や国が取り組むＳＤＧｓが、現場で地域づくりを実践する団体の活動とうまくかみ合っていない、あるいは互いの情報が伝わっていないケースもあるとみられる。意思の疎通と、さまざまなレベルでの具体的な連携が地域からのＳＤＧｓには重要と考えられる。

教育

●ＳＤＧｓを学び、具体的な取り組みを提案することは学校の教育活動で取り上げやすい。実践のため児童・生徒と地域が連携することは地域からのＳＤＧｓの可能性発展につながる（静岡）

●ＳＤＧｓの研修ができるスタッフが小学校、高校、市民大学でＳＤＧｓを学ぶ機会をつくっている。知る機会をもたらし、そこからやってみたいプロジェクトを伴走支援する体制が整ういい（島根）

ＳＤＧｓが学校教育に取り入れられたことで、地域活動と子どもたちを結びつける機運が高まったとする評価は多い。団体が学校に出向いて授業をする例も。「ＮＩＥ（教育に新聞を）」といった活動にも可能性が広がっている。

地域からのＳＤＧｓの進め方

●地域が抱える課題を、地域の人は何とかしなくてはと言う思いは持っているが、労力や経済的なことなどで踏み出すきっかけがなかなか見いだせない。そんな時に、自分の身の回りの課題はＳＤＧｓの掲げる目標に繋がっている事を理解してもらう事で、「できる人ができる事で、できる時に」行動を始めるきっかけにしていきたい（福岡）

●地方の中で積極的にできること

がたくさんある。啓蒙活動と同時にイベントなど活動に直接向き合うプログラムと連携して、楽しくSDGsと向き合う必要がある（山梨）

●SDGsの17目標は世界的目標だが、「地域的目標」をそれぞれ設けて優先順位を付け、取り組んでいければと思う（青森）

●地域金融機関としてまちづくり支援や障がい者支援、地場産業の支援などに取り組み、その結果がSDGsの取り組みに該当すればよい（奈良）

●「小水力発電」「耕作放棄地の再生」などはSDGs的な取り組みとして〝見える化〟しやすいので情報発信に努めたい（和歌山）

●SDGsのひとつひとつの目標について、当事者性を育むこと、暮らしに身近なところで多様な活動（受け皿）をつくっていくこと、日常生活で受け入れられる具体的なアクションを提示していくことが必要（愛媛）

●「自分たちの半径5メートルの暮らしをよりよくする」「SDGsが掲げる目標と反対の行為を見つけてやめていく」の両方で実現されていくと思う（大阪）

●空き家や空き店舗の活用などスクラップ&ビルドではなく、今あるものを最大限生かしながら経済を回し、人流を生むことを心がけており、そういった観点からSDGsに少しでも貢献したい（新潟）

地域からのSDGsの進め方について、多くの意見が寄せられた。「できることを」「楽しく」「分かりやすく」がキーワードとなっている。またSDGsに逆行する行為を「なくす」、そして現在ある資源を活用して地域を変えていこうという声が多かった。

連携

●NPOの経験や知見、取り組みを活かして、SDGsによって同じ目標を掲げる社会の他のプレイヤーである行政・企業との出会いや協働がより進むことで、社会全体で目標達成への加速がつくのではないか（兵庫）

●地域からのSDGsの可能性は、社会活動団体や教育機関、行政などとの連携によってこそ追求できる。一般の地域住民や企業、個人経営者などにも協働・連帯のメッセージを伝えたい（大阪）

●企業などとの協働により地域、社会への影響を大きくしていく上で自団体の取り組みのカテゴリーを整理し、関連を明らかにして発信していくことはパートナーや信頼関係を構築するのに有用と思う（宮城）

SDGsの推進に向けて他の組織、そして企業や行政との連携の必要性を訴える声も目立った。取り組みの整理、メッセージの発信、そして実際に協働することで社会への影響を大きくしていく。組織の枠に閉じこもらない開かれた活動への意欲が感じられた。

SDGsに関連する具体的な行動例

●スギ、ヒノキの人工林に作り替えられる前のその地域の植生を調べ、国内外来種にならないように地域のブナやカエデなどの落葉樹を中心に種を集め育て、植林活動をしている。多種多様な樹木が育つ森は、蝶や蜂などの虫や鳥が増える。水中に沈んだ落ち葉を餌とする水生昆虫が増え、イワナやヤマメも増えていく（埼玉県秩父市・秩父百年の森）

●NPO、企業、個人などからなる「SDGsネットワークおかやま」に世話人として関わって

おり、ネットワークが主催する「ＳＤＧｓ出前授業」では授業提案団体に登録、市立中で授業をした。岡山市が策定を進めている「岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」について、環境に関する専門家・活動家として事前ワークショップに参加、指針について意見を出した（岡山市・タブララサ）

- 彩りの町として杉の山を彩（いろどり）、葉っぱビジネス）の山へ変えていく彩山事業を行っている。事業を進める際に出た杉の間伐材を使用した糸や布でＫＩＮＯＦというファブリックブランドを立ち上げ、タオルなど日用品の企画・販売を進めている（徳島県上勝町・いろどり）
- 食のイベントで持続的な地域社会づくりを実践できている。出場店の電源にはガソリン型の発電機は一切、使用せず、公園内の配電盤から仮設電気工事をして確保している。実行委員会の通常の会議でも紙資料は極力使用せず、電子資料を共有している（群馬県高崎市・キングオブパスタ実行委員会）
- 要介護高齢者が一人暮らしであっても最後まで島で暮らし続けられる仕組みを運営、24時間365日暮らしを支え、看取りを実践している（沖縄県宮古島市・いけま福祉支援センター）

ここで取り上げたのは、多くの取り組みの中のほんの一部に過ぎない。実践の中で生まれるアイデア、そして連帯が「持続可能で」「誰も取り残さない」地域をつくっていく。アンケートの回答から、各地の歩みの力強さを感じている。



地域再生大賞の記念品は、山梨県北杜市で「デザイン工房 昴（すばる）」を開いている松田広昭さんに作ってもらっています。9年目になる第12回は「ＳＤＧｓの盾」というタイトルです。松田さんは通常の作品を作る際に出る端材を捨てずに保管しており、今回はそれを集積して、額の形に再生しました。そしてＳＤＧｓの17のテーマカラーは再生インクを使用しています。

「制作は予想以上に手間がかかりましたが、持続可能な小さな取り組みです。材料の中には、あえて外国材も含めています。いろいろな色・木目の違いは、活動している皆さんの個性（外国の方を含めて）であり、集まってこそ活動が成り立っていることを表現してみました。その変化に『美』を感じていただければうれしいです」――松田さんはこう語っています。

「まちづくりチャレンジ600」

地域再生大賞の12年を振り返る

～600事例の分析を通じて～

株式会社日本経済研究所 地域本部 地域産業部 副主任研究員
池原 沙都実



Profile
いけはら・さとみ
株式会社日本経済研究所　副主任研究員。
1977年大阪府生まれ。株式会社日本政策投資銀行 東北支店 企画調査課を経て、現職

はじめに

この度、地方新聞46紙と共同通信社が2010年度から実施している「地域再生大賞」において、12回にわたって表彰してきた全600団体による活動事例が取りまとめられ、「まちづくりチャレンジ600」が発刊された。

「地域再生大賞」創設の狙いは、地域に活気を与え魅力を高める活動に取り組み、成果を挙げた団体を表彰することで、人口減少・高齢化・格差・災害などといった地域課題の解決に挑む団体を応援することにある。各年度における「地域再生大賞」の選定は、47都道府県から1団体ずつに加え、北海道・沖縄県・福島県からは更に1団体ずつを選定し、計50団体としている。

本稿では、当該「地域再生大賞」創設の狙いに鑑み、これらの団体により取り組まれた600事例を、共同通信社が独自に付与した指標から分析し、地域に活気を与え魅力を高める活動に関する考察を行った。その際、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）による影響を色濃く受けた観光に関する指標にも着目し、観光が、地域の持続可能性に寄与する可能性を検討した。

1 分析に用いた指標

これまでに表彰された全600事例に対しては、共同通信社が独自に、以下の指標を付与している。本稿では、各取り組みに付与された以下の指標を分析に用いることとした。

(1) 共同通信社独自カテゴリ
（1事例当たり3つまで）

- 共生・福祉・医療
- 過疎・高齢化・若者誘致
- 子ども・親・教育
- 商工業・経済
- 農・漁・食
- 文化・スポーツ
- まちづくり・環境
- 防災・復興
- 連携・交流

(2) SDGsに係る指標
（1事例当たりそれぞれ3つまで）

- 17の目標
- 169のターゲット

2 分析結果

(1) 共同通信社独自カテゴリによる分析

共同通信社独自カテゴリ（以下「カテゴリ」）による分析結果を図表1に示す。これによると、全国で最も取り組まれているカテゴリは「文化・スポーツ」、次いで「まちづくり・環境」、「商工業・経済」、「連携・交流」の順に多かった。

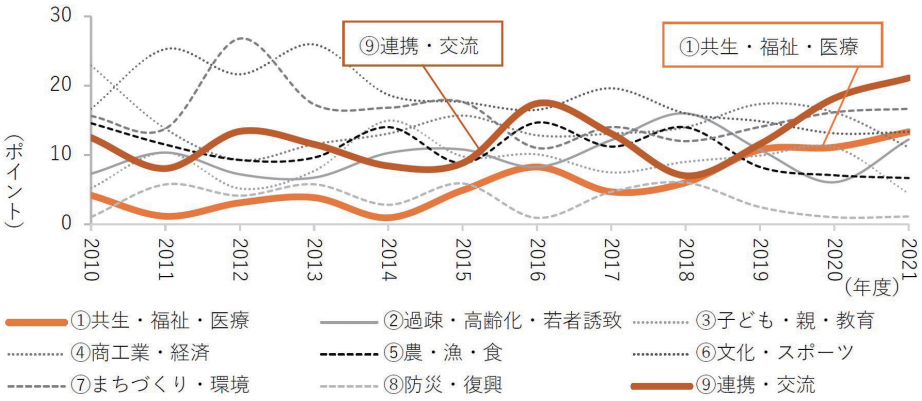
各年度に表彰された全50事例に対して付与されたカテゴリ（1事例当たり3つまで）の総数を100とした各カテゴリの構成比（ポイント）の推移を図表2に示

図表1　各年度における各カテゴリの付与率

表彰年度	共生・福祉・医療	過疎・高齢化・若者誘致	子ども・親・教育	商工業・経済	農・漁・食	文化・スポーツ	まちづくり・環境	防災・復興	連携・交流
2010	4.2	7.3	5.2	22.9	14.6	16.7	15.6	1.0	12.5
2011	1.1	10.3	10.3	13.8	11.5	25.3	13.8	5.7	8.0
2012	3.1	7.2	5.2	9.3	9.3	21.6	26.8	4.1	13.4
2013	3.8	6.7	7.7	11.5	9.6	26.0	17.3	5.8	11.5
2014	0.9	10.3	15.0	13.1	14.0	18.7	16.8	2.8	8.4
2015	4.9	10.8	9.8	15.7	8.8	17.6	17.6	5.9	8.8
2016	8.3	8.3	10.1	12.8	14.7	16.5	11.0	0.9	17.4
2017	4.7	12.1	7.5	13.1	11.2	19.6	14.0	4.7	13.1
2018	6.0	16.0	9.0	14.0	14.0	16.0	12.0	6.0	7.0
2019	10.7	10.7	9.9	17.4	8.3	14.9	14.0	2.5	11.6
2020	11.1	6.1	11.1	16.2	7.1	13.1	16.2	1.0	18.2
2021	13.3	12.2	4.4	11.1	6.7	13.3	16.7	1.1	21.1
平均	6.1	9.8	8.9	**14.3**	10.8	**18.2**	**15.9**	3.4	**12.6**

出所：地域再生大賞事務局（共同通信社に所在）提供資料により日本経済研究所作成

図表2　カテゴリ別構成比の推移



出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

した。結果、特に「共生・福祉・医療」、「連携・交流」が増加傾向にあった。

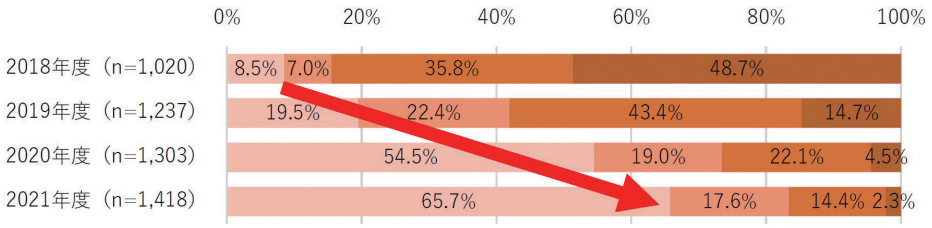
その要因の一つには、行政改革の結果として自治体が単独で対応できる事柄が減少し、「共生・福祉・医療」に係る活動を地域住民が自ら担う機会が増え、それらを維持するために「連携・交流」が不可欠となっている可能性が考えられる。

(2) SDGsへの取り組み状況

事例の分析に進む前に、自治体によるSDGsへの取り組み状況を確認したい。

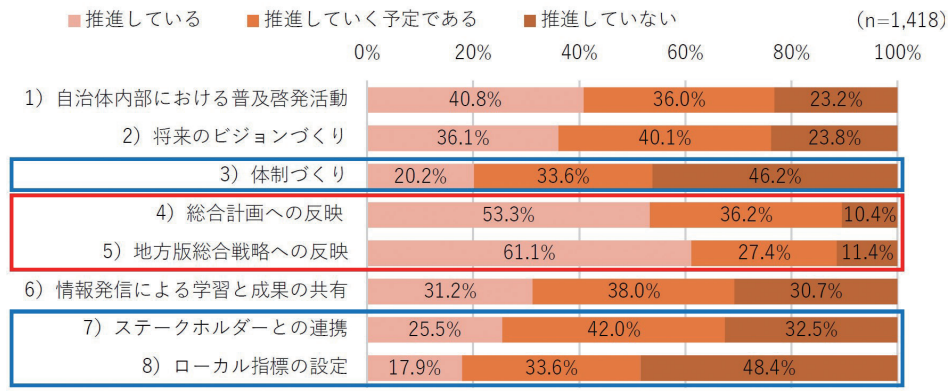
自治体SDGs推進評価・調査検討会が公表した「SDGsに関する全国アンケート調査」の結果によると、図表3に示した通り、SDGsを推進している自治体（都道府県及び市区町村）は2020年度に大きく増え、2021年度には900を超える自治体が推進していると回答した。一方、図表4に示した202

図表３　SDGs への取り組み状況（４年度比較）



出所：自治体SDGs推進評価・調査検討会「SDGsに関する全国アンケート調査」4年度比較

図表４　SDGs 達成に向けた取り組み推進状況



出所：自治体SDGs推進評価・調査検討会「令和3年度SDGsに関する全国アンケート」調査結果

1年度における取り組み推進状況によると、地方版総合戦略への反映（61・1％）や総合計画への反映（53・3％）が進んでいる反面、ローカル指標の設定（17・9％）や体制づくり（20・2％）、ステークホルダーとの連携（25・5％）は推進していないとする割合が高い。

❶ SDGs 17の目標に関する分析

では、地域では、SDGsに関してどのような取り組みが進められているであろうか。

ここで、図表5より、「まちづくりチャレンジ600」に採択された事例に付与されたSDGs17の目標を見てみると、全国で最も多かったのは「はたらきがいも経済成長も」で、全体の4割弱が該当した。次いで「住み続けられるまちづくりを」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の順に多い結果となった。

次に、各年度に表彰された全50事例に対して付与されたSDGs17の目標（1事例当たり3つまで）の総数を100とした各目標の構成比（ポイント）の推移を図表6に示した。これによると、2020年度から2021年度にかけて特徴的なのが、「8働きがいも経済成長も」及び「9産業と技術革新の基盤を作ろう」が大きく減少していることに加え、「17パートナーシップで目標を達成しよう」が大きく増加していることであろう。

時期に鑑み、コロナの影響下（以下「コロナ禍」）における特異な動向かと推測される。

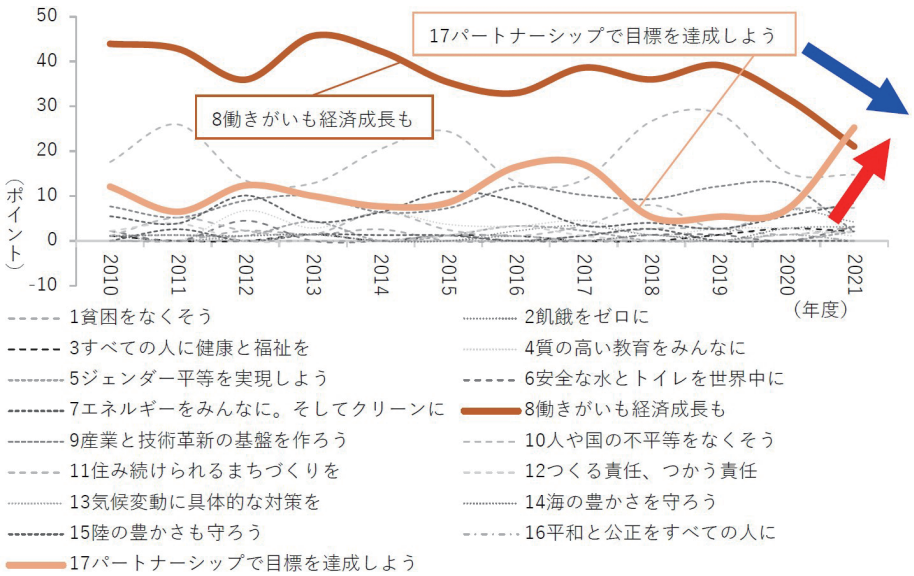
なお、本稿ではコロナ禍の影響を色濃く受けた観光にも着目するため、次項では、「8働きがいも経済成長も」の下位概念の一つである、地域のための観光振興を掲げるSDGsターゲット8・9「2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につ

図表５ SDGs17 の目標付与率

表彰年度	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤を作ろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任、つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
2010	0.0	1.1	1.1	2.2	1.1	2.2	0.0	44.0	7.7	1.1	17.6	2.2	1.1	1.1	5.5	0.0	12.1
2011	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	2.6	42.9	5.2	5.2	26.0	3.9	1.3	1.3	3.9	0.0	6.5
2012	2.2	1.1	0.0	6.7	1.1	4.5	0.0	36.0	9.0	2.2	13.5	0.0	0.0	1.1	10.1	0.0	12.4
2013	1.4	1.4	1.4	2.9	4.3	0.0	1.4	45.7	10.0	1.4	12.9	0.0	1.4	1.4	4.3	0.0	10.0
2014	2.6	0.0	0.0	6.4	0.0	0.0	1.3	42.3	6.4	6.4	20.5	0.0	0.0	0.0	6.4	0.0	7.7
2015	0.0	0.0	1.2	3.7	1.2	1.2	1.2	35.4	7.3	2.4	24.4	1.2	0.0	0.0	11.0	1.2	8.5
2016	0.0	2.2	1.1	3.3	3.3	0.0	0.0	33.0	12.1	1.1	13.2	3.3	0.0	1.1	8.8	1.1	16.5
2017	1.1	3.4	0.0	4.5	2.3	0.0	1.1	38.6	10.2	3.4	13.6	1.1	0.0	0.0	3.4	0.0	17.0
2018	2.7	1.3	0.0	1.3	0.0	1.3	2.7	36.0	9.3	8.0	26.7	0.0	0.0	1.3	4.0	0.0	5.3
2019	2.7	1.4	1.4	2.7	0.0	1.4	0.0	39.2	12.2	2.7	28.4	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	5.4
2020	1.4	6.9	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	31.9	12.5	6.9	15.3	1.4	1.4	2.8	5.6	1.4	6.9
2021	3.2	4.2	2.1	1.1	2.1	3.2	0.0	21.1	2.1	7.4	14.7	2.1	0.0	3.2	8.4	0.0	25.3
平均	1.4	1.9	0.9	3.2	1.4	1.2	0.8	**36.9**	8.6	4.0	**18.6**	1.3	0.4	1.1	6.3	0.3	**11.6**

出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

図表６ SDGs の 17 の目標別構成比の推移



出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

ながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。」を対象に分析を行う。

❷ SDGsターゲット8・9に関する分析

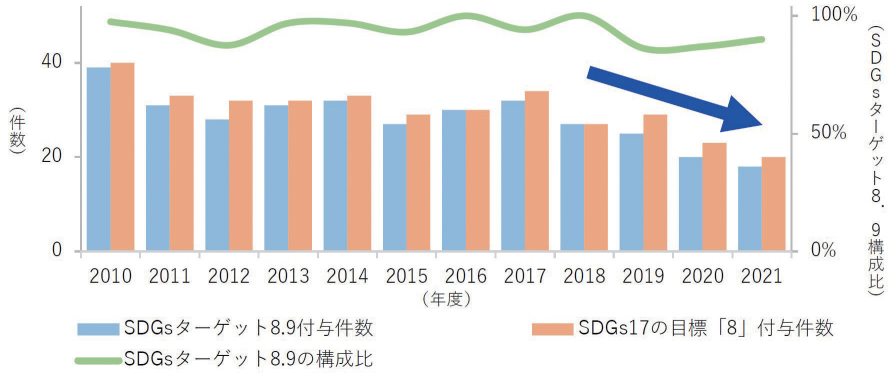
最初に、SDGs17の目標のうち「8働きがいも経済成長も」が付与された件数に占める、地域のための観光振興を掲げるSDGsターゲット8・9の構成比（ポイント）の推移を、図表7に示した。これによると、「8働きがいも経済成長も」への取り組みのうち9割前後がSDGsターゲット8・9に該当する事例であることに加え、その傾向はコロナ禍でも変わっていないことが分かる。

したがって、「8働きがいも経済成長も」に係る取り組みを再び押し上げるためには、観光の視点を採り入れた活動の再開及び拡大に可能性があると考えられる。

次に、地域のための観光振興を掲げるSDGsターゲット8・9と各カテゴリの関連性を見るため、双方が同時に付与されている事例の割合（同時付与率）を図表8に整理した。

結果、SDGsターゲット8・9と「文化・スポーツ」・「商工業・経済」・「農・漁・食」との同時

図表7「働きがいも経済成長も」に占めるSDGsターゲット8.9構成比の推移



出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

図表8 SDGsターゲット8.9と各カテゴリの同時付与率

	共生・福祉・医療	過疎・高齢化・若者誘致	子ども・親・教育	商工業・経済	農・漁・食	文化・スポーツ	まちづくり・環境	防災・復興	連携・交流
（A）：600事例に対する総付与数（事例）	74	120	108	174	132	222	194	42	153
（B）：（A）のうちSDGs8.9付与数（事例）	10	50	45	117	84	194	94	10	63
（C）＝（B）÷（A）：同時付与率（%）	13.5	41.7	41.7	67.2	63.6	87.4	48.5	23.8	41.2

出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

付与率が高い結果となった。

一方で、全事例へのカテゴリ付与ポイントが上昇傾向にある「共生・福祉・医療」との同時付与率は最も低く1割強、同じく「連携・交流」は半数以下であった。

このことから、観光の視点を採り入れた活動が、福祉・医療などの地域課題の解決につながる連携・交流、そして共生に、より強く結びつくことに期待したいと思われた。

3 分析結果からの考察

ここまで、「まちづくりチャレンジ600」に採択された全事例を対象に、共同通信社が独自に付与したカテゴリ、並びに、SDGs17の目標及び地域のための観光振興を掲げるSDGsターゲット8・9に着目し、分析を行ってきた。

結果、カテゴリ分析では「共生・福祉・医療」や「連携・交流」に分類される取り組みの構成比が、SDGs17の目標では「17パートナーシップで目標を達成しよう」に分類される取り組みの構成比が、近年上昇傾向にあることが分かった。

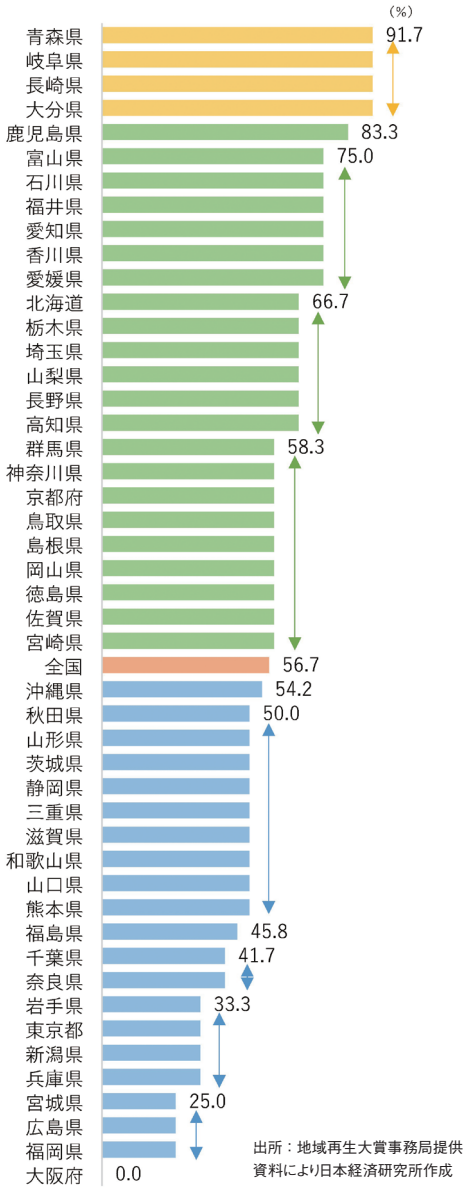
一方、「8働きがいも経済成長も」に該当する取り組みは2019年度を境に大きく減少し、その9割前後が地域のための観光振興を掲げるSDGsターゲット8・9に該当するとされていることが分かった。したがって、「働きがいも経済成長も」に係る取り組みを再び押し上げるためには、観光の視点を採り入れた活動の再開及び拡大に可能性があると考えられる。

そして、観光の視点を採り入れた活動を行うに際しては、SDGsターゲット8・9に定義されているように、地域における雇用創出や文化振興・産品販促につなげることで、「8働きがいも経済成長も」実現しようという原点に立ち返る必要があろう。

ただ、コロナ禍においては移動制限等の影響を受け、観光に関連の深い産業や事業者ほど大きな打撃を受けている。加えて、観光を望む人々の意識や行動にも変容が見られており、訪れる地域での安心安全の確保等がより重視されるようになっている。

だからこそ、観光の視点を採り入れた活動には、近年付与率が上昇している連携・交流につながる取り組みとの結びつきにより、福祉・医療などの地域課題を解決に近づけ、共生に導くと

図表9 都道府県別 SDGs ターゲット 8.9 付与率



出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

いった拡がりが求められるのではないだろうか。

そのような視座に立ち、観光が地域にとってどのような機能を発揮することができるのか、また、地域の将来像の実現にどのように貢献していくことができるのか、今こそ再考すべき時機であろう。

なお図表9は、各都道府県において表彰された全事例を100として、SDGsターゲット8・9の付与率を見たものである。これによると、都道府県間に開きがあり、地域からのSDGsに係る取り組みには、それぞれの地域特性が滲み出ている可能性がうかがえた。

今後は、他の切り口による分析にも取り組まれ、地域特性を活かした地域課題の解決に資する研究が進むことを望みたい。

おわりに

「まちづくりチャレンジ600」に採択された団体を対象としたアンケート結果の紹介

この度、地域再生大賞事務局（共同通信社に所在）では、「まちづくりチャレンジ600」に採択された団体を対象としてアンケートを実施した。その実施概要は図表10に示す通りである。

図表11は、2021年12月末までに受領した回答を対象とした、設問①～③の集計結果である。

大きな傾向としては、①SDGsの内容を知っていると回答した団体は全体の約85％、②SDGsに関する取り組みを実践していると思うと回答した団体が約80％、③受賞事例に対して共同通信社が評価したSDGsと受賞事例に関連ありと判断した団体が約75％であり、それ以外のSDGsに該当すると判断した団体約15％と合わせると、受賞団体のうち約90％は自身の取り組みが何らかのSDGsに関連ありと判断した。

これらの結果から、各団体にとっては、本アンケートへの回答が自身の取り組みをSDGsに照らして振り返る契機となり、実は自身の取り組みがSDGsに関連ありとの「気づき」を得た可能性もうかがえる。即ち、各団体がSDGsのために行った取り組みが狙った通りのSDGsに該当すると評価されたものばかりではなく、必要性から取り組まれた結果を評価してみるとSDGsに該当したという因果関係もあり得ることになろう。

したがって、SDGsへの取り組みは、外発的な動機付けに因らずとも、内発的な動機付けにより創出され得るものであることが推察され、それこそがSDGsの本来の姿ではなかろうかもと考えられる。しかしながら、各団体によるこれまでの活動を維持・継続、深化・発展させるためには、新たな「交流・連携」も必要となろう。

図表10　アンケート実施概要

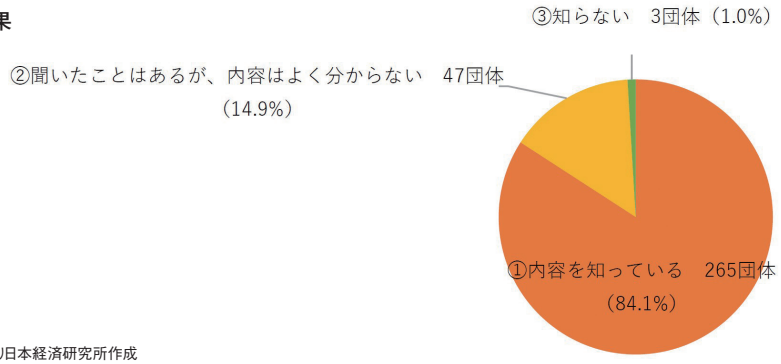
実施期間	2021年9月～12月		
実施方法	電子メールによるアンケート用紙（Excelファイル）の送付及び回収		
配布団体数	525団体 （550団体中、重複：2団体、休止：23団体を除く）	回収団体数	325団体
		回収率	61.9％ （休止団体等を除く）
設問	各団体における、①SDGsに対する認知、②SDGsに関する取り組み状況、③SDGsと受賞事例との関連性、並びに、④SDGsに係る自由記載		

ここで改めて、自治体ＳＤＧｓ推進評価・調査検討会が公表した「ＳＤＧｓに関する全国アンケート調査」の結果に立ち返ると、各団体におかれては、ＳＤＧｓへの取り組みを加速している自治体（都道府県及び市区町村）との、より良い連携のあり方を考えてみてはいかがかと思う。他方、自治体には、ステークホルダーとなる地域の団体等と連携を進める過程で部局横断的な体制づくりが求められ、さらには、地域での取り組みを的確に測定できるローカル指標への落とし込みなどが、期待されているのではないだろうか。

以上、本稿での分析及び考察を踏まえ、ＳＤＧｓを共通言語とした対話が契機となり、立場を超えた協働へと発展することで、持続可能な地域が実現されることに期待したい。

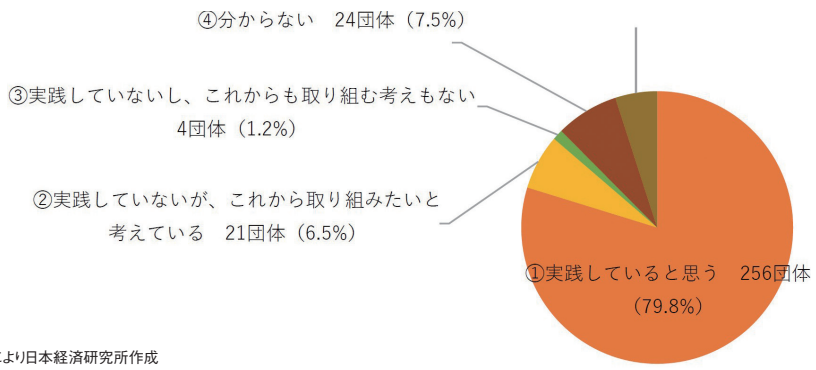
図表 11　アンケート集計結果

SDGs に対する認知



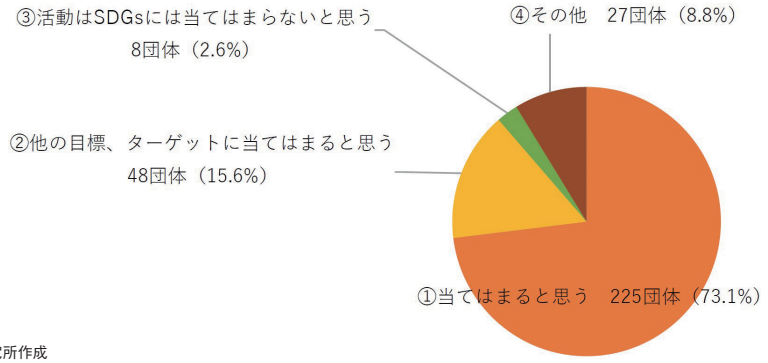
出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

SDGs に関する取り組み実践状況



出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

SDGs と受賞事例との関連性



出所：地域再生大賞事務局提供資料により日本経済研究所作成

Interview



神奈川県理事（いのち・ＳＤＧｓ担当）

山口健太郎さん

Profile

やまぐち・けんたろう

1983年、神奈川県入庁。米国ロサンゼルス駐在員などを経て、電気自動車（EV）、太陽光発電、「未病の改善」と「最先端医療・技術」を結びつけるヘルスケア・ニューフロンティアを担当。18年4月から現職。

＊＊＊

地域づくりは、自治体との連携も重要だ。神奈川県でＳＤＧｓを担当してきた山口健太郎理事に聞いた。

＊＊＊

ＳＤＧｓへの道のり

２０１１年の東日本大震災直後、黒岩祐治知事が再生可能エネルギーへのシフトや、エネルギー地産地消を提唱して就任した。国連のＳＤＧｓ決議は15年だったが、神奈川県のターニングポイントは18年。知事年頭あいさつにＳＤＧｓが入り、６月にはＳＤＧｓ未来都市の自治体モデル事業に都道府県で唯一、選ばれた。

ＳＤＧｓは大きい目標のため、自治体や中小企業、一人一人の県民にそれが「自分ごと」として伝わりにくい。どう具体的な行動を後押しするかがポイントになった。「ＳＤＧｓは遠い話ではなくて、いまやっていることがつながっている」ことに気付いてもらい、取り組みを応援、参加する動きにつなげたい。そこで地域の具体的な事例をまとめ「ＳＤＧｓアクションブック」をつくった。

上からのお仕着せではＳＤＧｓは続かない。みなさんが自発的、主体的に動くことが大事だ。企業、大学、ＮＰＯといった多くのステークホルダーで課題を共有、ソリューションを導き出し社会に実証、実装していくつなぎ役が県としての立ち位置だ。

浸透に取り組む

18～19年ごろには、まだＳＤＧｓは地域に浸透していなかった。そこで雲の上の話ではなく「なんだ、あそこもＳＤＧｓやっているんだ」といった事例をガイドブックで取り上げた。ゼロから始めることも大事だが、いまやっていることがＳＤＧｓにつながっているとの認識が大切だ。事業がどう社会に貢献しているのか若い人は敏感だ。中小企業にはＳＤＧｓはビジネスチャンスだし、会社選びのアピールにもなる。

18年から鎌倉、小田原、相模原、川崎とＳＤＧｓの地域フォーラムを開いた。各地で活躍している人をピックアップ、活動がＳＤＧｓにつながっていることを認識してもらうことをポイントにした。それを契機に地域が横につながり、ＳＤＧｓ未来都市が増えた。

苦労したのは「ＳＤＧｓって何？」という入り口だ。「大企業の話」「行政、政府がやる仕事じゃないか」という意見はあった。それに対し「こんなメリットがあった」と具体例を示すのが一番の説得材料だ。がんばっているところをピックアップ、スポットライトを当て、自分に何ができるかを考えてもらうきっかけづくりを目指した。

未来都市のモデル事業として選ばれたわれわれの取り組みはSDGsの社会的インパクト評価だった。企業でいえば財務諸表が出てこない非財務情報だ。事業がSDGsに与えたインパクトを可視化する実証事業を通じ、ノウハウを蓄積してきた。研究会を立ち上げ銀行、信用金庫の方々にも入ってもらい、取り組みを検討した。

今まで企業評価は財務諸表での売り上げ、収益がメインだったが、それだけではなく社会、世の中に対する貢献度を測定し、企業の評価につなげ金融面でも後押しする流れをつくりたい。ここ1~2年でいろんな動きが出ている。特に中小企業はもともと地域貢献をやってきた。SDGsの視点から見直して新しい評価軸からPRしてもらいたい。それがSDGsへの貢献につながる。そして同じゴールに向かう横のつながりを後押ししたい。

未来への課題

「もうSDGsのゴールに関連していることをやっているから、それでよし」とされることを恐れている。今の延長線上ではなくトランスフォーメーション、変革を起こしていかないと本当のSDGsじゃない。認知度が広がりいろんな取り組みがあるのはいいのだが、それが本当にSDGsの17目標、169のターゲットの達成につながっているのか再確認する必要がある。届かないのであれば何を変えていく必要があるのか。単なる現状の分析評価にとどまってはだめだ。

いまやらないと手遅れになってしまう可能性がある。中でも気候変動の問題は前に出て取り組まないといけない共通の課題だ。日本も世界も気候変動への対応は先送りできない。

SDGsで一番大事なのは〝自分ごと〟だと思う。それぞれのアクター、セクター、地域がSDGsを〝自分ごと〟ととらえ、実現のために行動を起こすことを期待したい。

地域主体のSDGs

現状への課題意識は地域の方が強い。各地に点在するグッドプラクティス、良好な取組事例を面にすることがSDGs達成の大きな方法論と思っている。事例をつなぎ、横展開することが重要だ。そのためには地域の取り組みを学び合うこと。いろんな課題、解決策を共有する機会を多くつくりたい。

地域再生大賞はグッドエグザンプル（よい実例）、プラクティスの塊だ。私たちの大きな柱の一つはSDGsのローカライゼーション。欧米では企業ベース、しかも大企業がやっていることが前面に出るが、地域で何をやっているのか逆に分からない。日本の場合は未来都市を含めて地域にいろんな取り組みがあり、SDGsを意識している。それは日本の特徴でもあり、強みになるかもしれない。グッドプラクティスを面的に広げるには自治体の連携、そしてメディアが地域をまたいで連携、発信していくことが大切だ。金融も重要だ。地域で培ったノウハウを共有しながら、新しい物差しで優良な投融資案件を発掘し育てる。リターンもちゃんと返るメソッドを共有すれば、SDGsの土台になる。

日本のやり方がグローバルスタンダードになる流れにすれば、SDGsの目標達成に向けて一歩進むことができる。人口減少、超高齢社会に対してどう持続可能な社会をつくっていくのか。自治体が中心となって企業や団体、学校、住民と連携する、さらに、地域を越えて自治体同士が連携し「グッドプラクティス」がヨコ展開される大きなプラットフォームができることが鍵となると考えている。

受賞団体データ集

第１～12回の受賞団体一覧 …… P.30

都道府県別・団体データ集 …… P.37

【受賞団体一覧の見方】
※団体名は受賞当時のものです。その後、名称が変更された場合は、現在の団体名を（　）で示しました。
※青色の数字は、団体データの掲載ページを示しています。

【団体データ集の見方】
賞 受賞内容、HP ホームページあり、f フェイスブックページあり　を表します。
※法人格をもつ団体は、受賞内容の横に種別を示しました。
※現在の団体名が受賞当時と異なる場合は、受賞当時の団体名を（　）で示しました。

※第１～11回の受賞550団体すべての現在の状況を、2020年夏から21年初めにかけ、取材しました。25団体については解散、休止などのため現状を掲載していません。
※地域再生大賞事務局では各団体の最新の活動状況、これまでの資料、連絡先などを、データベース化しています。今後の地域づくりに役立てます。活動の変更点、新たな情報がありましたら、事務局までご連絡ください。

優　秀　賞	鷲宮商工会（現久喜市商工会鷲宮支所）（埼玉）P.74
	小野川と佐原の町並みを考える会（千葉）P.77
	喜多見ボンボコ会議（東京）P.80
	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会（神奈川）P.83
	復興支援ネットワーク・フェニックス（現ネットワーク・フェニックス）（新潟）P.86
	妻籠を愛する会（長野）P.92
	瑞龍寺ライトアップ実行委員会（富山）P.95
	かなざわ・まち博実行委員会（現開催委員会）（石川）P.98
	三国湊魅力づくりPJ（福井）P.101
	飛騨小坂200滝（岐阜）P.104
	表参道発展会（現豊川稲荷表参道発展会）（愛知）P.110
	遊悠舎　京すずめ（現京すずめ文化観光研究所）（京都）P.119
	にしよど　にこネット（大阪）P.122
	チャレンジ企業支援隊（奈良）P.128
	若桜鉄道　隼駅を守る会（鳥取）P.134
	萩の会（島根）P.137
	工房おのみち帆布（広島）P.143
	島スタイル（現ジブンノオト）（山口）P.146
	グリーンバレー（徳島）P.149
	能島の里を発展させる会（現能島の里）（愛媛）P.155
	四万十ドラマ（高知）P.158
	筑紫野市商工会（福岡）P.161
	蕨野棚田保存会（佐賀）P.164
	長崎コンプラドール（長崎）P.167
	まちづくりトロントロン（（現「定期朝市」トロントロン軽トラ市）（宮崎）P.176
	鳩間島音楽祭実行委員会（沖縄）P.182

第１～12回の受賞団体一覧

第1回（2010年度）

大　　賞	グラウンドワーク三島（静岡）P.107
準　大　賞	県立柏原病院の小児科を守る会（兵庫）
	倉敷町家トラスト（岡山）P.140
ブロック賞	たかはた共生塾（山形）P.56
	伊参スタジオ映画祭実行委員会（群馬）P.71
	三重県立相可高校調理クラブ（現まごの店）（三重）P.113
	碧いびわ湖（滋賀）P.116
	高松丸亀町商店街振興組合（香川）P.152
	安心院町グリーンツーリズム研究会（大分）P.173
特　別　賞	大内宿保存会、大内宿結の会（福島）P.59
	日本上流文化圏研究所（山梨）P.89
	色川地域振興推進委員会（和歌山）P.131
	阿蘇グリーンストック（熊本）P.170
	種子島アクションクラブ（鹿児島）P.179
	琉球在来豚アグー保存会（沖縄）P.182
優　秀　賞	羽幌みんなでつくる自然空間協議会（北海道）P.38
	てつのまちぷろじぇくと・ボルタ工房（現テツプロ）（北海道）P.38
	南郷ジャズフェスティバル実行委員会（青森）P.44
	体験村・たのはたネットワーク（岩手）P.47
	鳴子の米プロジェクト（宮城）P.50
	山内いぶりがっこ生産者の会（秋田）P.53
	ノルテ・ハポン（福島）P.59
	水戸藩開藩四百年記念「桜田門外ノ変」映画化支援の会（現いばらき映像文化振興協会）（茨城）
	奥の院通り研究会（栃木）

優　秀　賞	栄町市場商店街振興組合（沖縄）P.182
	なはまちづくりネット（沖縄）
※第2回（2011年度）中国・四国のブロック賞は見送られた	

第3回（2012年度）

大　　賞	島の風（沖縄）P.183
準　大　賞	山形国際ドキュメンタリー映画祭（山形）P.56
	京町家再生研究会（京都）P.119
ブロック賞	いわて子育てネット（岩手）P.47
	匠の町しもすわ・あきないプロジェクト（長野）P.92
	春蘭の里実行委員会（石川）P.98
	黒潮実感センター（高知）P.158
	さくらじま旬彩館（鹿児島）P.179
特　別　賞	仙台市福住町町内会（現仙台市宮城野区福住町町内会）（宮城）P.50
	MJCアンサンブル（南相馬ジュニアコーラスアンサンブル）（福島）P.60
	共和の郷・おだ（現自治組織「共和の郷・おだ」）（広島）P.143
優　秀　賞	アルテピアッツァびばい（北海道）P.39
	ふくろうの会（北海道）P.39
	Kyosokyodo（共創郷土）（青森）P.44
	秋田クレジット・サラ金・悪徳商法被害をなくす会（現秋田なまはげの会）（秋田）P.53
	会津エンジン（福島）P.60
	カミスガプロジェクト（茨城）P.65
	うずま川遊会（現蔵の街遊覧船）（栃木）P.68
	本一・本二まちづくりの会（群馬）P.71
	縁結びの街めぬま連絡協議会（埼玉）P.74
	熱血！！勝浦タンタンメン船団（現ONE勝浦企業組合）（千葉）P.77
	谷根千・駒込・光源寺隊（東京）P.80
	河内川あじさいの会（神奈川）P.83
	トキどき応援団（新潟）P.86
	山梨ガバメント協会（山梨）P.89
	福岡町つくりもんまつり実行委員会（富山）P.95
	若狭熊川宿まちづくり特別委員会（福井）P.101
	恵那市地域自治区地域協議会連絡会議（現地域自治区会長会議）（岐阜）P.104
	山の手未来の会（現焼津市山の手未来の会）（静岡）P.107
	矢勝川の環境を守る会（現矢勝川の彼岸花を守る会）（愛知）P.110
	きほく里山体験笑楽校（現下河内の里山を守る会）（三重）P.113
	冨田人形共遊団（滋賀）P.116
	Homedoor（大阪）P.122
	コウノトリ湿地ネット(現日本コウノトリの会)（兵庫）P.125
	大和信用金庫（奈良）P.128
	日高川漁業協同組合日高川あゆ種苗センター（現日高川漁業協同組合）（和歌山）P.131
	智頭町森のようちえん まるたんぼう（現智頭の森こそだち舎）（鳥取）P.134
	斐伊川流域環境ネットワーク（島根）

第2回（2011年度）

大　　賞	ブルーリバー（広島）P.143
準　大　賞	定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会（現協会）（宮城）P.50
	大宮産業（高知）P.158
ブロック賞	千葉之家花駒座（福島）P.59
	那珂川町里山温泉トラフグ研究会（現夢創造）（栃木）
	夢未来くんま（静岡）P.107
	秋津野（和歌山）P.131
	まつうら党交流公社（長崎）P.167
特　別　賞	遠野まごころネット（岩手）P.47
	浪江焼麺太国（福島）
	富士山河口湖音楽祭実行委員会（山梨）P.89
	水辺と生き物を守る農家と市民の会（福井）P.101
	きびっとの杜（佐賀）P.164
優　秀　賞	江差塗工房（北海道）P.38
	室蘭ルネッサンス（北海道）P.39
	八戸せんべい汁研究所（青森）P.44
	おおだて映像計画（秋田）P.53
	レインボープラン推進協議会（山形）P.56
	波崎未来エネルギー（茨城）P.65
	安政遠足保存会（群馬）P.71
	秩父アニメツーリズム実行委員会（埼玉）P.74
	金谷ストーンコミュニティー（千葉）P.77
	奥浅草観光まちづくり協会（現奥浅草観光協会）（東京）P.80
	女性防災クラブ平塚パワーズ（神奈川）P.83
	山古志アルパカ村（新潟）P.86
	大鹿歌舞伎保存会（長野）P.92
	スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会（富山）P.95
	JAPAN TENT 開催委員会（石川）P.98
	ひとひとの会（岐阜）P.104
	一宮市萩原商店街振興組合（現萩原チンドンまつり実行委員会）（愛知）P.110
	兵吉屋（現海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋）（三重）P.113
	大津の町家を考える会（滋賀）P.116
	遊プロジェクト京都（京都）P.119
	介護・住まい・防災ネットワーク（大阪）
	KOBE鉄人 PROJECT（兵庫）P.125
	奈良中央信用金庫（奈良）P.128
	二部地区活性化推進機構（鳥取）P.134
	谷自治振興会（島根）P.137
	勝山のお雛まつり実行委員会（岡山）P.140
	麦川安全・安心みまもり隊（山口）P.146
	徳島共生塾一歩会（徳島）P.149
	丸亀市川西地区自主防災会（香川）P.152
	俳句甲子園実行委員会（愛媛）P.155
	あーすくらぶ（福岡）
	水俣市久木野ふるさとセンター愛林館（熊本）P.170
	ハットウ・オンパク（大分）P.173
	のべおか天下一市民交流機構（宮崎）P.176
	大隅横川駅保存活用実行委員会（鹿児島）P.179

優　秀　賞	大阪を変える100人会議（大阪）P.122
	竹茗堂　左文（奈良）P.129
	黒江の町並みを活かした景観づくり協定（黒江ジャパン）（和歌山）P.132
	鳴り石の浜プロジェクト（鳥取）P.135
	油木高校ナマズプロジェクト（現広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム）（広島）P.144
	防府商工会議所（山口）P.146
	アニメまつり実行委員会（徳島）P.150
	直島女文楽（香川）P.153
	坊っちゃん劇場（愛媛）P.156
	中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会（高知）P.159
	フォーラム鹿島（佐賀）
	平戸国際交流ＨＩＲＡの会（長崎）P.168
	芦北伽哩街道実行委員会（熊本）P.171
	BEPPU PROJECT（大分）P.174
	染ケ岡地区環境保全協議会（宮崎）P.177
	エコ・リンク・アソシエーション（鹿児島）
	嘉手納町商工会女性部（沖縄）P.183
	津嘉山酒屋保存の会（沖縄）

第5回（2014年度）

大　　賞	てごねっと石見（島根）P.138
準　大　賞	ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会（福島）P.61
	酒谷地区むらおこし推進協議会（宮崎）P.177
第5回記念賞	農音（愛媛）P.156
ブロック賞	小泉自然楽校（現三陸復興観光コンシェルジェセンター）（宮城）P.51
	高齢化社会をよくする虹の仲間（神奈川）P.84
	でんき宇奈月プロジェクト（現でんき宇奈月）（富山）P.96
	神戸農村歌舞伎保存会（兵庫）P.126
	伊座利の未来を考える推進協議会（徳島）P.150
	網田教育の里づくり隊（熊本）P.171
特　別　賞	太鼓集団「響」HIBIKI Cafe（現 Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe）（埼玉）P.75
	十日町市地域おこし実行委員会（現地域おこし）（新潟）P.87
	大杉谷自然学校（三重）P.114
優　秀　賞	これぞ小清水！実行委員会（北海道）P.40
	室蘭文学館の会（北海道）P.40
	十和田バラ焼きゼミナール（青森）P.45
	ふるさと体験学習協会（現久慈市ふるさと体験学習協会）（岩手）P.48
	増田まちなみ保存会（秋田）P.54
	村山そばの会（山形）P.57
	よつくらぶ（福島）P.61
	里山を守る会（茨城）P.66
	太平山南山麓友の会（栃木）P.68
	富岡製糸場を愛する会（群馬）P.72
	手づくり公園まさごの会（千葉）P.78
	旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会（東京）P.81
	身延町商工会（山梨）P.90
	諏訪サイクルプロジェクト（長野）
優　秀　賞	吉備野工房ちみち（現かんなぎ）（岡山）P.140
	みすゞ燦参ＳＵＮ実行委員会（山口）
	新町川を守る会（徳島）P.149
	瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」（現瀬戸内こえびネットワーク）（香川）P.152
	今治焼豚玉子飯世界普及委員会（愛媛）P.155
	つづら棚田保全協議会（福岡）P.161
	嬉野市地域力開発プロジェクト会議・新ツーリズムチーム（佐賀）P.164
	あづち大島たからもんの会（長崎）P.167
	二見わっしょいファーム（熊本）P.170
	豊後森機関庫保存委員会（大分）P.173
	小川作小屋村運営協議会（宮崎）P.176
	船浮音祭り実行委員会（沖縄）P.183

※第3回（2012年度）近畿のブロック賞は見送られた

第4回（2013年度）

大　　賞	はやめ南人情ネットワーク（現はやめ人情ネットワーク）（福岡）P.161
準　大　賞	大戸診療所（現坂上健友会 大戸診療所）（群馬）P.72
	西粟倉・森の学校（岡山）P.141
ブロック賞	果夢林ショップ運営協議会（現おんねゆ温泉「山の水族館」）（北海道）P.39
	くらし協同館なかよし（茨城）P.65
	丸岡文化財団（福井）P.102
	山王自治会（兵庫）P.125
	プロジェクトゆうあい（島根）P.137
特　別　賞	ISHINOMAKI 2.0（宮城）P.51
	郡山ベップ子育てネットワーク（福島）P.60
	かみえちご山里ファン倶楽部（新潟）P.87
優　秀　賞	室蘭港立市民大学（北海道）P.40
	八戸ハマリレーションプロジェクト（青森）P.45
	釜石プラットフォーム（岩手）
	大曲花火倶楽部（秋田）P.54
	鶴岡織物工業協同組合（山形）P.57
	山木屋太鼓（福島）P.60
	那須苗取り田植唄保存会（栃木）P.68
	まち遺し深谷（埼玉）P.75
	ちば地域再生リサーチ（千葉）P.78
	淡路エリアマネジメント（東京）P.81
	日本ナポリタン学会（神奈川）P.84
	ＮＡＰ（山梨）
	庄内ほたると水辺の会（長野）P.93
	福野夜高祭連絡協議会（富山）P.96
	神子の里（石川）P.99
	ジオ・スペース・アドベンチャー実行委員会（岐阜）P.105
	駿府ウエイブ（現静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ）（静岡）P.108
	とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会（愛知）P.111
	伊賀忍者特殊軍団 阿修羅（三重）P.114
	美しいマキノ・桜守りの会（滋賀）P.117
	先斗町まちづくり協議会（京都）P.120

優秀賞	秩父百年の森（埼玉）P.75
	大多喜みらい塾（千葉）
	目黒区民まつり実行委員会（東京）P.81
	サポーターみうら（神奈川）P.84
	かつぬま朝市会（山梨）P.90
	よっしゃ来い！！CHOUROKUまつり実行委員会（現魚津祭組　よっしゃ来い‼CHOUROKUまつり）（富山）P.96
	西保希望の住処協議会（石川）
	谷汲ゆり園（岐阜）
	富士山御殿場かやの里企業組合（静岡）P.108
	丸山千枚田保存会（三重）P.114
	白王町集落営農組合（滋賀）P.117
	葵プロジェクト（京都）P.120
	鳴く虫と郷町実行委員会（兵庫）P.126
	わかやまフレンZOOガイド（和歌山）
	松江ツーリズム研究会（島根）P.138
	新建自治会（広島）P.144
	青海島共和国（山口）P.147
	街角に音楽を@香川（香川）P.153
	長浜高校水族館部(現愛媛県立長浜高校水族館部)（愛媛）P.156
	室戸市木炭振興会（高知）P.159
	藍の家保存会（福岡）P.162
	鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会（佐賀）P.165
	大地といのちの会（長崎）P.168
	豊の国宇佐市塾（大分）P.174
	Ｌａｂ蒲生郷（鹿児島）P.180
	平久保サガリバナ保存会（沖縄）P.184
	久米島ホタルの会（沖縄）P.184

第7回（2016年度）

大賞	都岐沙羅パートナーズセンター（新潟）P.87
準大賞	東北開墾（現ポケットマルシェ）（岩手）P.48
	パーソナルアシスタント青空（愛媛）P.156
選考委員長賞兼中国・四国ブロック賞	
	アーキペラゴ（香川）P.153
奨励賞	ＡＩＰ（福岡）P.162
ブロック賞	横手市共助組織連合会（秋田）P.54
	ひばりが丘高校うどん部（山梨）P.90
	小原ＥＣＯプロジェクト（福井）P.102
	しが農業女子100人プロジェクト（滋賀）P.117
	五ケ村村おこしグループ（宮崎）P.177
特別賞	ハッピーロードネット（福島）P62
	船橋市時活村（千葉）P.78
	浦添小学校ＰＴＡ（現てぃーだこども食堂）（沖縄）P.185
優秀賞	いわみざわ駅まるプロジェクト（北海道）
	キウシト湿原・登別（北海道）P.41
	八戸前沖さばブランド推進協議会（青森）P.45
	仙台秋保醸造所（宮城）P.51
	かほくイタリア野菜研究会（山形）P.57
	ふくしま飛行協会（福島）P.62
	コロッケクラブ龍ケ崎（茨城）P.66
優秀賞	大野こまちなみ研究所（石川）P.99
	武生国際音楽祭推進会議（福井）P.102
	鶏ちゃん合衆国（岐阜）P.105
	静岡県立伊豆総合高校自然科学部（静岡）P.108
	愛岐トンネル群保存再生委員会（愛知）P.111
	江北図書館（滋賀）P.117
	姉小路界隈を考える会（京都）P.120
	D×P（ディーピー）（大阪）P.123
	奈良無双窯（現奈良無想窯）（奈良）P.129
	岩倉流泳法保存会（和歌山）P.132
	伯耆国たたら顕彰会（鳥取）P.135
	矢掛ハッカ普及会（岡山）P.141
	芸北せどやま再生会議（現西中国山地自然史研究会）（広島）P.144
	浜崎しっちょる会（山口）P.147
	四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会（香川）P.153
	久礼大正町市場（現久礼大正町市場協同組合）（高知）P.159
	抱樸（福岡）P.162
	黒川町家読連絡会（佐賀）P.165
	南島原市冬のお祭り実行委員会（長崎）P.168
	くにさき七島藺振興会（大分）P.174
	伊佐みりょく研究所（鹿児島）P.180
	ハマスーキ（沖縄）P.183
	大城花咲爺会（沖縄）P.184

第6回（2015年度）

大賞	かさおか島づくり海社（岡山）P.141
準大賞	沼垂テラス商店街（テラスオフィス）（新潟）P.87
	岡崎まちゼミの会（愛知）P.111
選考委員長賞	いろどり（徳島）P.150
奨励賞	Minamiこども教室（大阪）P.123
ブロック賞	とびしま（山形）P.57
	いいだ人形劇フェスタ実行委員会（長野）P.93
	うるしの里活性化推進事業実行委員会（現学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」）（福井）P.102
	きみかげの森（奈良）P.129
	鳥の劇場（鳥取）P.135
	どんぐり1000年の森をつくる会（宮崎）P.177
特別賞	森の生活（北海道）P.40
	天草市大浦地区振興会（熊本）P.171
優秀賞	室蘭港を愛する会（北海道）P.41
	山の楽校運営協議会（青森）P.45
	のんのりのだ物語（岩手）
	亘理いちごっこ（宮城）P.51
	小坂鉄道保存会（秋田）P.54
	ふるさとの川・荒川づくり協議会（福島）P.62
	ベテランママの会（福島）P.62
	はらんきょうの会（現ヒューマンライツネット　はらんきょうの会）（茨城）P.66
	オオタカ保護基金（栃木）P.69
	自然塾寺子屋（群馬）P.72

優　秀　賞	山本有三記念会（栃木）P.69
	ながめ黒子の会（群馬）P.73
	川口自主夜間中学（埼玉）P.76
	報徳の会（現報徳の会・内田未来楽校）（千葉）P.78
	「燕三条　工場の祭典」実行委員会（新潟）P.88
	WAKUWAKU やまのうち（長野）P.93
	TOGA天空トレイル大会実行委員会（富山）P.97
	鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会（福井）P.103
	美濃歌舞伎保存会（岐阜）P.105
	花男子プロジェクト（愛知）P.112
	大内山動物園（三重）P.115
	エナジーフィールド（滋賀）P.118
	こえとことばとこころの部屋（ココルーム）（大阪）P.123
	フードバンク関西（兵庫）P.127
	南都銀行（奈良）P.130
	串本町トルコ文化協会（和歌山）P.132
	元気みなと（鳥取）P.136
	タブララサ（岡山）P.142
	創生工房　仁保ヴィレッジ（山口）P.147
	鳴門「第九」を歌う会（徳島）P.151
	観音寺まちなか活性化プロジェクト Re:born.K（現まちづくりネットワーク Re:born.K）（香川）P.154
	和田重次郎顕彰会（愛媛）P.157
	十和おかみさん市（高知）P.160
	がんばりよるよ星野村（福岡）P.162
	栄町地域づくり会（佐賀）P.165
	神代小路まちなみ保存会（長崎）P.169
	小岱山薬草の会（熊本）P.172
	はなどう（宮崎）P.178
	にじの森文庫（現にじのはしファンド）（沖縄）P.185
	首里まちづくり研究会（沖縄）P.185

第9回（2018 年度）

大　　賞	多言語センターFACIL（兵庫）P.127
準　大　賞	きらりよしじまネットワーク（山形）P.58
	いけま福祉支援センター（沖縄）P.186
選考委員長賞	えがおつなげて（山梨）P.91
奨　励　賞	ディーグリーン（三重）P.115
	えひめ心のつばさ（現翼学園）（愛媛）P.157
ブロック賞	八戸中心街市民集団「まちぐみ」（青森）P.46
	那須まちづくり株式会社（栃木）P.69
	志民連いちのみや（愛知）P.112
	大野木長寿村まちづくり会（滋賀）P.118
	UNOICHI実行委員会（岡山）P.142
	下郷村（大分）P.175
特　別　賞	札幌大学ウレシパクラブ（北海道）P.42
	川西郷の駅（広島）P.145
優　秀　賞	むろらん 100 年建造物保存活用会（北海道）P.42
	たきざわグリーンワークス（岩手）P.48
	日本カーシェアリング協会（宮城）P.52
	浅見内活性化委員会（秋田）P.55
	TATAKIAGE Japan（福島）P.63
優　秀　賞	足利クリーンハイキングクラブ山和会（栃木）P.69
	桐生再生（群馬）P.72
	高麗 1300（埼玉）P.75
	千住文化普及会（東京）P.81
	小田原柑橘倶楽部（神奈川）P.84
	信州富士見高原ファーム（長野）P.93
	こば（富山）P.96
	湯涌ぼんぼり祭り実行委員会（石川）P.99
	国田家の芝桜を愛する会（岐阜）P.105
	戸田塩の会（静岡）P.108
	亀崎まちおこしの会（愛知）P.111
	みやがわ森選組（三重）P.114
	クロスオーバーネットワーク（京都）P.120
	わが町にしなり子育てネット（大阪）P.123
	ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会（兵庫）P.126
	奈良まほろばソムリエの会（奈良）P.129
	紀州農レンジャー（和歌山）P.132
	白鳳の郷地域活性化協議会（鳥取）P.135
	神門通り甦りの会（島根）P.138
	てっちりこ（岡山）P.141
	寺領味野里（広島）P.144
	大道理百笑倶楽部（山口）P.147
	とくし丸（徳島）P.150
	砂浜美術館（高知）P.159
	在宅ネット・さが（佐賀）
	松原宿活性化協議会（長崎）P.168
	開懐世利六菓匠（熊本）P.171
	別府八湯ウォーク連絡協議会（大分）P.174
	着物で出水武家屋敷を歩こう会（鹿児島）P.180
	フーカキサバニ（沖縄）P.184

第8回（2017 年度）

大　　賞	陽気な母さんの店（秋田）P.55
準　大　賞	豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク（東京）P.82
	おっちラボ（島根）P.138
奨　励　賞	フィッシャーマン・ジャパン（宮城）P.52
ブロック賞	小高ワーカーズベース（福島）P.63
	ふらっとステーション・ドリーム（神奈川）P.85
	シラミネ大学（石川）P.100
	気張る！ふるさと丹後町（京都）P.121
	尾道空き家再生プロジェクト（広島）P.145
	湯布院映画祭実行委員会（大分）P.175
特　別　賞	ワインツーリズム（山梨）P.90
	里山くらしLABO（静岡）P.109
	がんばろう高山（鹿児島）P.180
優　秀　賞	天売島おらが島活性化会議（北海道）P.42
	有珠山周辺地域ジオパーク友の会（北海道）P.42
	湊日曜朝市会（青森）P.46
	いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会（岩手）P.48
	スバイクファミリー（山形）P.58
	会津電力（福島）P.63
	茨城NPOセンター・コモンズ（茨城）P.66

優　秀　賞	葛力創造舎（福島）P.64
	はじまりの美術館（福島）P.64
	サクラサク里プロジェクト（茨城）P.67
	We are with you（群馬）P.73
	版画フォーラム実行委員会（埼玉）P.76
	松戸市に夜間中学校をつくる市民の会（千葉）P.79
	美しが丘「100 段階段」プロジェクト（神奈川）P.85
	ソーシャルファームさんじょう（新潟）P.88
	グレイス・ロード（山梨）P.91
	長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合（長野）P.94
	金屋町元気プロジェクト（富山）P.97
	七尾市たかしな地区活性化協議会（石川）P.100
	かさまつMIRAI塾（岐阜）P.106
	愛知県立安城農林高校（愛知）P.112
	天満浦百人会（三重）P.115
	びわこジャズ東近江実行委員会（滋賀）P.118
	SEIN（サイン）（大阪）P.124
	くさかんむり（兵庫）P.127
	ゼロ・キャンペーン事務局（奈良）P.130
	紀州藤白　鈴木屋敷復元の会（和歌山）P.133
	川辺復興プロジェクトあるく（岡山）P.142
	敷信村農吉（広島）P.145
	福川こどもクラブ（山口）P.148
	大歩危・祖谷いってみる会（徳島）P.151
	肥土山農村歌舞伎保存会（香川）P.154
	シクロツーリズムしまなみ（愛媛）P.157
	のこのしまアイランドパーク（久保田観光）（福岡）P.163
	雪浦あんばんね（長崎）P.169
	くまもと☆農家ハンター（熊本）P.172
	庄内神楽座長会（大分）P.175
	川坂川を守る会（宮崎）P.178
	金吾様踊り活性化実行委員会（鹿児島）P.181
	バリアフリーネットワーク会議（沖縄）P.186
	与那原大綱曳実行委員会支度係（沖縄）P.186

第 11 回（2020 年度）

大　　賞	佐賀未来創造基金（佐賀）P.166
準 大 賞	つばめいと（新潟）P.88
	志摩市民病院（三重）P.115
地域の未来賞兼九州・沖縄ブロック賞	
	東彼杵ひとこともの公社（長崎）P.169
ブロック賞	BOOT（ブット）（福島）P.64
	小さな村総合研究所（山梨）P.91
	RENEW実行委員会（福井）P.103
	三方よし研究会（滋賀）P.118
	おかやま親子応援プロジェクト（現 KOTOMO 基金）（岡山）P.142
優　秀　賞	箱バル不動産（北海道）P.43
	オコンシベの会（北海道）P.43
	田子町新田自治会（青森）P.46
	釜石電機製作所（岩手）P.49
	まるオフィス（宮城）P.52
優　秀　賞	元気アップつちゆ（福島）P.63
	おらが湊鐵道応援団（茨城）P.67
	キングオブパスタ実行委員会（群馬）P.73
	みぬま福祉会工房集（埼玉）P.76
	行徳まちづくり協議会（千葉）P.79
	柴又まちなみ協議会（東京）P.82
	鴨居駅周辺まちづくり研究会（神奈川）P.85
	越前浜自治会（新潟）P.88
	小滝プラス（長野）P.94
	ふるさと体験ｉｎみやざき実行委員会（富山）P.97
	能登島観光協会青年部（現のとじま島おこし団）（石川）P.100
	たがらす我袖倶楽部（福井）P.103
	いき粋墨俣創生プロジェクト（岐阜）P.106
	がんばらまいか佐久間（静岡）P.109
	毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト（京都）P.121
	Happy mam（ハッピーマム）（大阪）P.124
	奈良の食文化研究会（奈良）P.130
	玉津島保存会（和歌山）P.133
	三朝温泉かじか蛙保存研究会（鳥取）P.136
	サウンドファイブ夢の音会（島根）P.139
	山口狛犬楽会（山口）P.148
	阿波農村舞台の会（徳島）P.151
	サンポート高松トライアスロン大会実行委員会（香川）P.154
	むろと廃校水族館（高知）P.160
	遠賀川源流サケの会（福岡）P.163
	牛津赤れんが会（佐賀）P.165
	平戸観光ウェルカムガイド（長崎）
	阿蘇門前町商店街振興協会（熊本）P.172
	ままのて（宮崎）P.178
	阿室校区活性化対策委員会（鹿児島）P.181
	地域サポートわかさ（沖縄）P.185

第 10 回（2019 年度）

大　　賞	ふるさと福井サポートセンター（福井）P.103
準 大 賞	あらかわ子ども応援ネットワーク（東京）P.82
	日高わのわ会（高知）P.160
選考委員長賞兼東海・北陸ブロック賞	
	machimori（マチモリ）（静岡）P.109
第 10 回記念賞	地域・教育魅力化プラットフォーム（島根）P.139
ブロック賞	恵み野商店会（北海道）P.43
	えんがお（栃木）P.70
	アクトスター（京都）P.121
	シーセブンハヤブサ（鳥取）P.136
	さがクリークネット（佐賀）P.166
奨 励 賞	新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会（山形）P.58
優　秀　賞	知里森舎（北海道）P.43
	十和田きみがらスリッパ生産組合（青森）P.46
	しずくいし軽トラ市実行委員会（岩手）P.49
	ほやほや学会（宮城）P.52
	秋田人変身力会議（秋田）P.55

共創アート賞	ヘラルボニー（盛岡市）P.11
選考委員長賞	ハーモニーネット未来（岡山県笠岡市）P.11
優　秀　賞	カラカネイトトンボを守る会（札幌市）P.12
	だて噴火湾縄文まつり実行委員会（北海道伊達市）P.12
	階上売り込み隊（青森県階上町）P.12
	巻組（宮城県石巻市）P.12
	公益のふるさと創り鶴岡（山形県鶴岡市）P.12
	とみおかワインドメーヌ（福島県富岡町）P.12
	劇団 120 ○ EN（ひゃくにじゅうえん）（福島市）P.12
	結いプロジェクト（茨城県結城市）P.12
	三乗堂（栃木県鹿沼市）P.12
	芝園団地自治会（埼玉県川口市）P.12
	WOULD（ウッド）（千葉県南房総市）P.12
	自立生活サポートセンター・もやい（東京都新宿区）P.12
	阿賀まちづくり（新潟県阿賀町）P.12
	ソマミチ（長野県松本市）P.12
	小菅沼・ヤギの杜（富山県魚津市）P.12
	木場潟再生プロジェクト（石川県小松市）P.12
	丸子まちづくり協議会（静岡市）P.12
	デンソー（愛知県刈谷市）P.12
	グリーンクリエイティブいなべ（三重県いなべ市）P.12
	安念寺いも観音保存会（滋賀県長浜市）P.13
	○曽れい仙の郷（京都府亀岡市）P.13
	ネクストエージ（大阪市）P.13
	クリーンアップ関西事務局（神戸市）P.13
	奈良地域デザイン研究所（奈良市）P.13
	里山生物多様性プロジェクト（鳥取県南部町）P.13
	島根半島四十二浦巡り再発見研究会（島根県出雲市）P.13
	うべナチュラルガーデナーズクラブ（山口県宇部市）P.13
	Ｃｒｅｅｒ（クレエール）（徳島市）P.13
	どっかーん！！と観音寺を盛り上げ隊（香川県観音寺市）P.13
	三崎高校「せんたん部」（愛媛県伊方町）P.13
	とさちょうものがたり（高知県土佐町）P.13
	うきはの宝（福岡県うきは市）P.13
	おもやい（佐賀県武雄市）P.13
	別府八湯温泉道実行委員会（大分県別府市）P.13
	焼畑蕎麦苦楽部（宮崎県椎葉村）P.13
	奄美イノベーション（鹿児島県奄美市）P.13
	1万人井戸端会議（那覇市）P.13
	おきなわこども未来ランチサポートコンソーシアム（那覇市）P.13
優　秀　賞	北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機構（秋田ほか広域）P.55
	やまがた福わたし（山形）P.58
	会津コンピュータサイエンス研究所（福島）P.64
	長久保赤水顕彰会（茨城）P.67
	益子ＷＥＢ陶器市実行委員会（現ましこラボ）（栃木）P.70
	たかさきコミュニティシネマ（群馬）P.73
	鳩山町コミュニティ・マルシェ（アール・エフ・エー）（埼玉）P.76
	おもちゃ図書館 Cafe Santa（千葉）P.79
	デリバリー三鷹（東京）P.82
	逗子フェアトレードタウンの会（神奈川）P.85
	Hakuba SDGs Lab（白馬ＳＤＧｓラボ）（長野）P.94
	テイクアウトマルシェTOYAMA実行委員会（富山）P.97
	ＮＰＯみんなの畑の会（石川）P.100
	ＯＲＧＡＮ（岐阜）P.106
	ママバトン（静岡）P.109
	まちのエキスパネット（現まちスウィング）（愛知）P.112
	ＫＯＫＩＮ（京都）P.121
	子どもアドボカシーセンターＯＳＡＫＡ（大阪）P.124
	多文化共生センターひょうご（兵庫）P.127
	大和信用金庫（奈良）P.130
	白浜レスキューネットワーク（和歌山）P.133
	鳥の劇場（鳥取）P.136
	石見銀山ガイドの会（島根）P.139
	上下まちづくり協議会（広島）P.145
	学食ダイニング　グランマ（山口）P.148
	とくしまコウノトリ基金（徳島）P.151
	ちちぶの会（香川）P.154
	シアターねこ（愛媛）P.157
	食材応援隊（高知）P.160
	ｕｍａｕ.（ウマウ）（福岡）P.163
	みさと（熊本）P.172
	水辺に遊ぶ会（大分）P.175
	宮崎がん共同勉強会（宮崎）P.178
	鶏の生食加工業者協議会（現とりさし協会）（鹿児島）P.181
	出前市場（沖縄）
	国頭村安田区（沖縄）P.186

第 12 回（2021 年度）

大　　賞	河原部社（山梨県韮崎市）P.8
準　大　賞	こまちぶらす（横浜市）P.9
	石徹白洋品店（岐阜県郡上市）P.9
地球の未来賞兼東海・北陸ブロック賞	
	アノミアーナ「ギザギザ湾・美化美化計画」（福井県嶺南地方）P.10
ブロック賞	にかほ出前商店街振興会（秋田県にかほ市）P.10
	産科婦人科舘出張佐藤病院（群馬県高崎市）P.10
	ヴィダ・リブレ（和歌山県美浜町）P.10
	元気むらさくぎ（広島県三次市）P.10
	でんでん虫の会（熊本市）P.10
ＳＤＧｓ企業賞	九州教具グループ（長崎県大村市）P.11

都道府県別・団体データ



北海道

- 羽幌みんなでつくる自然空間協議会
- テツプロ
- 江差塗工房
- 室蘭ルネッサンス
- アルテピアッツァびばい
- ふくろうの会
- おんねゆ温泉「山の水族館」
- 室蘭港立市民大学
- これぞ小清水！実行委員会
- 室蘭文学館の会
- 森の生活
- 室蘭港を愛する会
- キウシト湿原・登別
- 天売島おらが島活性化会議
- 有珠山周辺地域ジオパーク友の会
- 札幌大学ウレシパクラブ
- むろらん100年建造物保存活用会
- 恵み野商店会
- 知里森舎
- 箱バル不動産
- オコンシベの会

テツプロ

（受賞当時：てつのまちぶろじぇくと・ボルタ工房）

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒050-0085 北海道室蘭市輪西町１丁目32番６号

HP

ボルトやナットで人形製作、鉄をテーマにまちづくり



鉄のまち室蘭の輪西町地区で工場合理化による人口減少に危機感を抱いた地元商店主らが鉄をテーマにまちづくり。ボルトやナットをはんだ付けしたボルト人形「ボルタ」を製作している。サッカーをしたり、バイオリンを弾いたりと約130種類あり、工房や北海道内の土産店などで年間3万個が販売される。工房では人形の製作や鉄の鍛造などが体験できる。子どもたちを対象に、地域の産業への関心とまちへの愛着を育む「てついく（鉄育）」を産官学民で進める。

江差塗工房

賞 第２回優秀賞

〒043-0051 北海道江差町津花町42 ㈲室谷塗料店内

古材を使い漆塗りの家具を製作。漆の木の植樹も



北海道で漆文化の普及に取り組む。江差は江戸時代から明治時代まで、北前船によるニシンやヒノキ材の交易で栄え、石川県・輪島の漆器も取り扱っていた。塗装職人が輪島で技術を学んだ。

家屋の解体現場にあった材木を使って漆塗りの家具や小物などを生産し、住宅内部の壁や柱、梁の塗装も行う。漆の木の植樹も続けている。町内に常設販売所があり、年に1回程度は函館市などで展示販売をしている。

羽幌みんなでつくる自然空間協議会

賞 第１回優秀賞

〒078-4116 北海道羽幌町北6-1 北海道海鳥センター内

HP

多様な生物が生息する昔の空間づくりを目指す



羽幌町で生き物と共生する空間「ビオトープ」づくりに取り組む。旧羽幌川河川敷に野鳥が生息する森や人口の池、川を備える。生き物を捕って遊んでいた昔の空間を再現しようと、60～70代の地元の住民を中心に協議会を結成。確認された野鳥は80種類に及び、ガンやハクチョウが飛来する。北海道で初めて見られたものもあるという。トンボも数多く飛び回る。これまでミズナラやエゾマツなどを9600本植樹した。地元の高校生らと森づくりや生物の観察会も行っている。

ふくろうの会

賞 第３回優秀賞

〒051-0015 北海道室蘭市本町２丁目２番５号 市立室蘭図書館

HP

市民の寄付で美術書中心に収集。展示、講座も



市民がつくる市民文庫をつくろうと、寄付を呼びかけて絵巻物、掛け軸、版画などの複製、美術書を中心に収集、市立室蘭図書館に寄贈し「ふくろう文庫」として管理している。5000万円を超える寄付で購入した7000冊近い蔵書は珍しいものが多く、北海道外からも研究者らが訪れる。一般公開やボランティアによる蔵書案内のほか、企画展も開催。会費500円で会の中心メンバーである元市立図書館長から専門的な話を聞く「ワンコイン美術講座」もある。

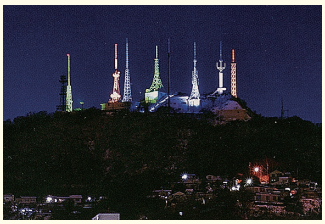
室蘭ルネッサンス

賞 第２回優秀賞　　一般財団法人

〒051-0011 北海道室蘭市中央町 2-8-10

HP

鉄塔ライトアップを柱に、市民の手で地域活性化



製鉄会社の高炉の廃止をきっかけに、まちの再生活動に取り組んでいる。

自動車産業の企業城下町だった米ピッツバーグの活動をお手本に始めた。１９８８年から山の頂に立つ鉄塔のライトアップを続ける。光源はLEDに進化、周辺の工場の夜景と併せ、観光スポットとなっている。町内会ごとに数多くあった祭りを一本化した「室蘭ねりこみ」の開催も呼び掛けた。室蘭市内の風景写真を載せたカレンダーを毎年発行する。

おんねゆ温泉「山の水族館」

（受賞当時：果夢林ショップ運営協議会）

賞 第４回ブロック賞（北海道・東北）

〒091-0153 北海道北見市留辺蘂町松山 1-4

HP

道の駅で「山の水族館」を運営、イトウなど展示



道の駅で淡水魚を展示する「山の水族館」の運営に当たる。幻の魚といわれるイトウの数は国内有数、「四季の水槽」では、夏には上流へ向かって元気に泳ぎ、冬は厚い氷の下で静かに過ごす魚たちの姿が来場者を楽しませる。管理者をしている道の駅では土産物の売り上げが上昇、隣接する温泉地を訪ねる客も増えている。コロナ禍では水族館の様子を「北の大地の水族館」と題した動画チャンネルで配信、オンラインで飼育員が魚の知識を紹介した。

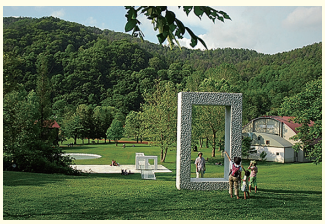
アルテピアッツァびばい

賞 第３回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒072-0831 北海道美唄市落合町栄町

HP

彫刻と自然が調和する「こころのふるさと」を次世代へ



美唄市出身でイタリア在住の彫刻家の作品を展示する「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」を管理・運営する。安田氏と市によって1992年に開設。今もなお創り続けられている。アルテピアッツァとはイタリア語で「芸術広場」。閉校した小学校の校舎を含む7ヘクタールの敷地に40点余りの作品が並ぶ。体験工房やカフェもある。美と自然が調和する空間に年間3万人が訪れ、心地よい時間の流れを楽しんでいる。

室蘭文学館の会

賞 第５回優秀賞

〒051-0022 北海道室蘭市海岸町1-1-9

室蘭ゆかりの文学館をボランティアが運営



公設・民営方式の「室蘭市港の文学館」をボランティアが運営している。地元の文学資料の展示会が開かれた際、貴重な資料を散逸させてはならないと有志が団体結成を呼び掛け、市が建物を提供した。現在のスタッフは20数人で、資料整理や来館者の案内、企画展の運営に当たる。展示している作家の説明会やライブ演奏、朗読会、地域の文学作品にまつわる名所の散歩などにも積極的に取り組んでいる。

室蘭港立市民大学

賞 第４回優秀賞

〒051-0011 北海道室蘭市中央町 2-8-10

学習会や施設見学などを通じ港町への愛着を育てる



「まちづくりは人づくり」という観点に立ち、室蘭全域をキャンパスに「室蘭大好き人間」の養成を目指して活動。年10回程度の講義や施設見学などの講座を通して室蘭の歴史や文化、産業について学び、多くの人に地元の魅力を伝える。石炭や製鉄の歴史を広く知るための市外へのバス研修や受講生有志で港周辺の美化活動も実施している。

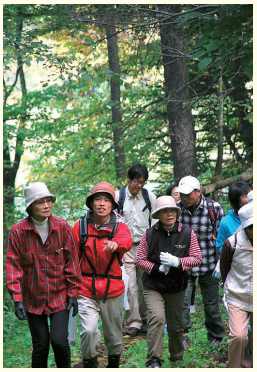
森の生活

賞 第６回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒098-1204 北海道下川町南町 477

HP

森を生かして環境教育など幅広い取り組み



循環型森林経営と先進的な木質バイオマスエネルギー利用で知られる「森林未来都市」北海道下川町で、森の生活は森林文化の創造を担う「森林交流のパイオニア」として活動している。林業体験などの森林ツーリズムには年間2000人近い利用があり、人と森との新たな出会いになっている。また、市街地の雑木林で住民参加の「みんなの森づくり」を進めるほか、森林教育活動、工芸用木材販売など幅広い活動を展開している。

これぞ小清水！実行委員会

賞 第５回優秀賞

〒099-3626 北海道小清水町小清水５区 ループドールカフェ内

特産のジャガイモでんぷんでまちおこし



特産のジャガイモでんぷんでまちおこしに取り組む。郷土料理の「でんぷん団子」を味わうイベントを毎年開催している。1000人が訪れた第1回では、巨大でんぷん団子作りに挑戦し、ギネス世界記録に認定された。実行委員会のゆるキャラ「でん坊」もPRに一役買っている。こうした取り組みが、せんべいの原料に使うでんぷん不足で困っていた福岡市の会社の目に留まり、同社は小清水町内の廃校を買い取って工場を稼働させた。雇用を生み、大きな経済効果も生まれている。

キウシト湿原・登別

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒059-0026 北海道登別市若山町２丁目 21 番地

貴重な動植物がすむ湿原を保全、管理



北海道登別市にある「キウシト湿原」には、レッドデータ種類（絶滅危惧種）の生物がすむ自然環境がある。2001 年に環境省の「日本の重要湿地 500」に選定された。「NPO法人キウシト湿原・登別」は湿原を保全、管理、市民や来訪者に学習の機会を提供している。ミズバショウなど多彩な植物の開花状況や、エゾサンショウウオ、エゾホトケドジョウといった希少動物の生息状況を調査している。植物の定植や外来種駆除も実施している。

室蘭港を愛する会

賞 第６回優秀賞

〒051-0002 北海道室蘭市御前水町 3-5-7

客船を信号旗で歓迎、まちの魅力もアピール



室蘭港に入港、出港する客船、練習船を、埠頭で国際信号旗を振って歓迎・見送りをしている市民グループ。子どもたちに信号旗を教え、名前やアルファベットを表現する体験会も開いている。また、埠頭に着物着付けや和小物作りなどの体験コーナーを設け、日本製鋼所室蘭製作所の瑞泉鍛刀所見学会を実施するなど、外国人や道外から来た乗客をさまざまな方法でもてなし、ものづくりのまち・室蘭の魅力を発信している。新たなフェリー航路の誘致についても側面から支援してきた。



子ぎつねとハマナス〈提供：㈱ AIRDO　撮影：Hiroki INOUE〉

札幌大学ウレシパクラブ

賞 第９回特別賞　　一般社団法人

〒062-8520　札幌市豊平区西岡３条７丁目3-1 札幌大学内 7513 号室

HP

アイヌ研究に取り組む。イベントなどで広く情報発信



札幌大学ウレシパクラブはアイヌ文化の担い手育成を目的に、2010年4月に発足した。ウレシパはアイヌ語で「育て合い」の意味で、学生１８人が所属。普段はアイヌ文化を学び、１７年の冬季アジア大会の採火式など各イベントで発信し続けている。毎年秋に学内で行う「ウレシパ･フェスタ」は、音楽家の坂本龍一さんを招いたり、人気漫画「ゴールデンカムイ」特集を行ったりと、多彩な内容で、市民から好評だ。

天売島おらが島活性化会議

賞 第８回優秀賞　　一般社団法人

〒078-3955 北海道羽幌町大字天売字弁天 40-1

体験型観光の提案や地元海産物を用いた商品づくりを展開



北海道の北西、羽幌町の沖合に浮かぶ人口約270人（2020年３月末時点）の天売島で、島おこしに取り組む。過疎化が進み、島の将来に不安を抱いた青年らが１１年に立ち上がった。ウニなどの地元海産物をPRする商品づくりやシーカヤック、星空観察といった離島ならではの体験型観光の提案、海鳥と共生する環境保全 ―。おらが島の自慢を次々に発信する。漁業者や運送業者、役場支所職員ら３０～５０代の9人がメンバーで、高校生も活動に加わる。

むろらん100年建造物保存活用会

賞 第９回優秀賞　　一般社団法人

〒051-0035 北海道室蘭市緑町 2-1

HP

石炭や製鉄産業の歴史伝える建物保存に取り組む



室蘭の歴史的価値の高い建造物などの保存活用、調査研究、情報収集および観光事業などを行っている。約１５０年前の石炭関連の商社である旧三菱合資会社が建造した木造洋館を、歴史的な保存空間として残そうという市民の機運で会を設立し、建物を買い取った。洋館は２０１９年「炭鉄港」の関連資産として日本遺産に認定された。円形のユニークな校舎で縄文遺跡の上にある旧絵鞆小学校もクラウドファンディングで買い取り、ランドマークとして活用する。

有珠山周辺地域ジオパーク友の会

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒052-0101 北海道壮瞥町滝之町 384-1 そうべつ情報館i 2F

HP

行政と連携し、過去に噴火した火山との共存活動に取り組む



北海道の南西部にある有珠山は2000年に噴火した。洞爺湖有珠山ジオパークは、温泉や美しいカルデラ湖が火山の恵みだと宣言し、火山との共存をうたう。有珠山周辺地域ジオパーク友の会は、行政のバックアップを受けつつ、広域の民間団体として活動している。立ち入りが禁止されている昭和新山の登山会、観光客が訪れる有珠山散策路の草刈りをはじめ、ジオパークに含まれている秘境駅、小幌駅の存続応援や遺跡の踏査などにも取り組んでいる。

箱バル不動産

賞 第 11 回優秀賞　　合同会社

〒040-0053　北海道函館市末広町18−25

HP

空き家活用、伝統的建造物改修に募金やボランティア



歴史的な街並みが残る函館市西部地区で空き家が増え、建物が消えつつある中、「空き家を使いたい人を見つけることで街並みを守りたい」と、地域の建築士、不動産業者、デザイナーら30代の4人が2015年に設立した合同会社。空き家を活用した移住体験イベントやリノベーションなどを通じて地域活性化に取り組んでいる。市指定伝統的建造物の改修ではクラウドファンディングの目標金額を大きく上回り、ボランティア約100人が協力。宿泊施設や飲食店などのテナント入居につなげた。

恵み野商店会

賞 第 10 回ブロック賞（北海道・東北）

北海道恵庭市

HP

商店街第2世代が花のまちづくり、イベント開催



約 40 年前にできた新興住宅地の商店活性化を 30 ～ 40 代前半の若い理事たちがけん引。母親の代から続く花のまちづくりを受け継ぎ、歩道に 700㍍にわたって個性豊かな 36 のミニ庭園を配置したガーデンギャラリーは、全国的に高い評価を受けている。さらに「子どもが楽しめる街」をコンセプトに、興味を引きそうな難易度が高い推理ゲームを夏祭りで開催。飲食店以外に理容店などが自慢の味を提供する屋台イベントも好評だ。

オコンシベの会

賞 第 11 回優秀賞

〒052-0024　北海道伊達市鹿島町20−1　伊達市役所教育委員会文化財係内

HP

子どもたちの縄文遺跡学習を住民ボランティアが支援



2021年7月に世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中のひとつ、北海道伊達市の国指定史跡北黄金貝塚公園で活動する団体。縄文遺跡は、特色ある石器や土器、骨角器はあるが地味な存在とみられがち。しかしながら自然との調和を図り長期間定住し、北海道では続縄文、アイヌ文化へと連なる基層文化と考えられる。遺跡の活用によるまちづくりを担う市民40人が、学習旅行で訪れる小学生に魅力を伝えている。

知里森舎

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒059-0465 北海道登別市登別本町 2-34-7

HP

「アイヌ神謡集」の著者、知里幸恵の記念館運営



アイヌ文化を継承させてきた先人の生涯と業績に学び、広く伝えている。アイヌ民族として初めてカムイユカラ（神謡）を文字化した「アイヌ神謡集」の著者、知里幸恵の業績を顕彰する「銀のしずく記念館」を生家近くに開いた。神謡集を読んだ海外の読者がそれぞれの母語に翻訳する動きが続いている。2019 年からは小学生向けのイベント「アイヌ文化たんてい団」を開催。今後、22年の幸恵没後100年、23年の生誕120年などを記念した企画展がめじろ押しだ。

青　森

- 南郷ジャズフェスティバル実行委員会
- 八戸せんべい汁研究所
- Kyosokyodo（共創郷土）
- 八戸ハマリレーションプロジェクト
- 十和田バラ焼きゼミナール
- 山の楽校運営協議会
- 八戸前沖さばブランド推進協議会
- 湊日曜朝市会
- 八戸市中心街市民集団「まちぐみ」
- 十和田きみがらスリッパ生産組合
- 田子町新田自治会



八戸せんべい汁研究所

賞 第２回優秀賞

〒039-1102 青森県八戸市一番町1−9−22

HP

地元独特の料理を名物に。ご当地グルメの先駆け



肉や野菜のだし汁に鍋用の南部せんべいを入れ煮込む郷土料理、八戸せんべい汁。地元独特の味を全国に発信し、まちおこしにつなげようと飲食店と関係のない市民ボランティア団体を結成。現在のメンバーは三十数人で、取扱店の紹介、ホームページ運営のほか、県内外のイベントなどで八戸をPRしている。市内の小中学生対象のまちおこし講座や、修学旅行にも対応する。ご当地グルメの祭典「B−1グランプリ」の設立に携わり、第1回大会を八戸市内で開催した。

Kyosokyodo（共創郷土）

賞 第３回優秀賞

〒034-0031 青森県十和田市東三番町 24-1 新渡戸記念館内

HP

新渡戸稲造の遺志継ごうとボランティアが記念館運営



世界に通ずるローカル記念館を目指す新渡戸記念館を、基本的な博物館機能の面でサポートしつつ、十和田市の礎である「三本木原開拓」の志を受け継ぐ地域づくり活動を行っている。ローカル面では、開拓の歴史と文化を後世に伝える活動（教育事業、地ブランドづくりなど）、グローバル面では稲造の精神を受け継ぐピースプロジェクト（アフガニスタン、エチオピア、ケニアなど）がある。

南郷ジャズフェスティバル実行委員会

賞 第１回優秀賞

〒031-0111 青森県八戸市南郷市野沢黒坂 11-10 南郷事務所内

HP

日本有数の野外ジャズイベントを実施



青森県南郷村（現在は八戸市と合併）のむらおこしの一環として、ジャズ好きだった元村長がフェスティバルの開催を呼び掛け、若い住民らが呼応して運営に当たる。毎年7月に野外ステージで開催し、有名なミュージシャンが演奏を披露する。2019年で30回目となった。毎年約2千人のファンが訪れ、全国的に知られるジャズフェスティバルに成長した。アーティストのジャンルを広げ、多くの人が聴きやすいイベントを目指している。

山の楽校運営協議会

賞 第６回優秀賞

〒031-0202 青森県八戸市南郷島守北ノ畑 6-2

HP

そば打ちや工芸品の講座で伝統文化を継承



青森県八戸市南郷地区で、地域に建設されたダムにより水没した地域の住民たちが、閉校された小学校の校舎を利用して、自分たちの歴史と自然を後世に伝え、地域の活性化につなげようと奮闘している。スローガンは「やっぱり田舎って良いなあ」。徹底的に田舎文化にこだわり、お年寄りが講師となって、そば打ち体験、豆腐やみそづくり、民芸品づくりなど、地域の伝統・文化・自然をありのままの姿で伝えている。

八戸ハマリレーションプロジェクト（HHRP）

賞 第４回優秀賞

〒031-0822 青森県八戸市白銀町三島下 92 八戸缶詰株式会社内

HP

ブイヤベースなどイベント仕掛け水産品アピール



東日本大震災で被災した青森県八戸港で若手の水産業界有志が結成した。八戸港ではイカやサバをはじめとして、多くの種類の魚の水揚げがあり、価値向上と消費拡大を目指す。市内の料理店の協力を得て、魚介類を使ったオリジナルのスープ料理を提供する「八戸ブイヤベースフェスタ」を２０１２年から開催、特に若い女性からの支持が集まり例年１万食以上が売れる。テーブルマナーを学ぶ親子教室、教育委員会と連携した食育にも取り組む。

八戸前沖さばブランド推進協議会

賞 第７回優秀賞

〒031-8511 青森県八戸市堀端町 2-3

HP

サバのブランド化を目指し関係団体が協力



八戸前沖で漁獲されるサバの価値と認知度の向上、地域ブランドの形成を目指し、地元の水産、観光、飲食、行政など５０を超える団体が集まり、２００８年７月に発足した。ブランドとして認定する漁獲期間は水揚げ状況、脂肪分、重量等を参考に協議会が毎年判断し決定している。今後は首都圏向けにもＰＲ事業を展開する予定だ。

十和田バラ焼きゼミナール

賞 第５回優秀賞

〒034-0082 青森県十和田市西二番町 7-4

HP

名物料理を軸に「住んでみたい」まちづくり



牛バラ肉とタマネギを甘辛く味付けた名物料理を通じて十和田をＰＲする。メンバーは会社員や団体職員ら十数人で、県外に実演販売などにも出掛ける。ご当地グルメでまちおこしの祭典「Ｂ−１グランプリ」に出場し、第9回でゴールドグランプリに輝いた。２０１５年の第１０回は十和田市で開催し、５５００人のボランティアが３０万人以上の来客をもてなした。「食べてみたい」「訪れてみたい」に続く目標として「住んでみたい」をテーマに、高校生を巻き込んでまちづくりに取り組む。

十和田きみがらスリッパ生産組合

賞 第 10 回優秀賞

〒034-0051 青森県十和田市伝法寺字平窪 37-2

トウモロコシからスリッパ、デザイン向上、後継育成



馬の街・十和田市で育てられた飼料用トウモロコシのデントコーンの大量廃棄された皮を再利用し、加工して作った「きみがらスリッパ」。農閑期の収入源として、農家の女性たちが生産に励み約 50 年前に組合が発足した。一つ一つ手作りで受け継いできたが、そうした伝統や形式にこだわらずデザイン性などを向上させながら、商品の付加価値を高めている。最近は地元高校生とも交流を図りながら後継者育成や地域貢献につなげている。

湊日曜朝市会

賞 第８回優秀賞　　協同組合

〒031-0072 青森県八戸市城下４丁目１加山珈琲内

HP

八戸港岸壁で朝市運営、地元の商業発展目指す



2004 年3月から八戸市の八戸港館鼻岸壁での朝市を運営。組合設立は 10 年３月 26 日。出店者の親睦と融和、総合的朝市会の市としての繁栄に向けた事業を展開し、商業上の発展を目的に掲げる。会員数は約 360 店。館鼻岸壁朝市は現在、毎年3月中旬から 12 月下旬まで毎週日曜開催（お盆、年末には臨時開催も）。営業時間は日の出から午前9時ごろまで。出店数は約 300 に上る。

田子町新田自治会

賞 第 11 回優秀賞

〒039-0314　青森県田子町遠瀬新田 5-2

HP

特産のそばと水車を活用し、過疎の集落を活性化



少子高齢化に悩む過疎の集落が、農業振興と四季を通じたイベント開催で地域おこしを展開している。転作作物として栽培したソバと、江戸時代から残る水車を活用した「新田そばまつり」を20年以上続けている。自治会と地元農家が連携して販売体制も確立。住民が一致団結して取り組み、世帯数40弱という小さな集落の交流人口は増加、地域は活力を取り戻す。研修会実施や施設整備などで、担い手の育成にも力を注ぐ。

八戸市中心街市民集団「まちぐみ」

賞 第９回ブロック賞（北海道・東北）

〒031-0075 青森県八戸市内丸 1-3-16

HP

市内外の多彩な人が参加、店の改装や新名物に挑戦



中心街を「まちぐるみ」で元気にする市民集団。小学生から高齢者まで市内外の約 500 人が、空き店舗を拠点に商店会との連携や、地元の伝統･文化に光をあてる企画「入りづらい店」徹底調査、「開運手袋」の考案などを展開している。各自の興味や都合に合わせて自由に参加する「なんか楽しそう」な場を目指す。コロナ禍では手づくりの旗を店頭に掲げ、医療従事者への感謝を表す「ブルーフラッグプロジェクト」を展開した。

岩　手

- 体験村・たのはたネットワーク
- 遠野まごころネット
- いわて子育てネット
- 久慈市ふるさと体験学習協会
- ポケットマルシェ
- いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会
- たきざわグリーンワークス
- しずくいし軽トラ市実行委員会
- 釜石電機製作所



遠野まごころネット

賞 第２回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒028-0521 岩手県遠野市材木町 2-21

HP

ボランティアや団体を束ね、沿岸部の被災者支援



岩手県内陸部の遠野市は東日本大震災で被災した陸前高田市、大槌町、大船渡市など海沿いのまちに向かう交通の拠点。復興、復旧のために全国から駆け付けたボランティアの受け入れ拠点となり、１０万人以上を現場に送った。地元有志の呼び掛けで遠野市民らを中心に結成し、活動を支援、バジル、ラベンダーの栽培や、祭りやイベントの手伝いも。障がい者のための「まごころ就労支援センター」を釜石市と大槌町に開設。工芸や農業、ワイナリーの苗木の手入れなどの仕事に就いてもらっている。

いわて子育てネット

賞 第３回ブロック賞（北海道・東北）　認定ＮＰＯ法人

〒020-0022 盛岡市大通1丁目 9-12 第８大通ビル３階

HP

祖父母まで３世代、地域ぐるみの子育てサポート



盛岡市を拠点に、4カ所の施設で子育て支援に取り組む。子育てサークルの連絡協議会が前身で、東日本大震災後には被害が大きかった沿岸部に遊び場を提供する事業に取り組んだ。現在は、自然遊びの場づくり、祖父母を含む3世代や地域ぐるみで子育てを支援する講座・フォーラムの開催、女性医師の育児支援などに取り組み、年間5万６０００人が利用している。新型コロナウイルスの流行では、家の中でできる親子遊びなどの情報をSNSで発信している。

体験村・たのはたネットワーク

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒028-8402 岩手県田野畑村北山口 129-10

HP

三陸海岸の立地生かし、海と山の体験型観光推進



漁師が寝泊まりする「番屋」が並ぶ海岸沿いの立地を利用して観光客や教育旅行の受け入れによるエコツーリズムに取り組む。地元漁師が小型漁船「サッパ船」を操り、三陸海岸の景観やふれあいを楽しむクルーズが人気。灯台や展望台を巡るトレッキング、貝殻を使った工作体験など多くの体験メニューを備える。来訪者は年間約7千人。教育旅行の民泊の窓口にもなっている。近くの酪農農家などと連携し、海と山とが一体となった観光による地域振興を探る。

いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会

賞 第８回優秀賞

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通 2-12-14

HP

野外音楽イベントで中心市街地を活性化



野外音楽イベント「いしがきミュージックフェスティバル」を旧盛岡城址「岩手公園」を主会場に年1回開いている。

若手・中堅世代の市民が運営、資金は市内の民間企業の協賛金がメイン。市や県からの補助金も得て入場無料を貫く。人気バンドなどゲスト出演は約30組。地元からロックバンド、民謡歌手、高校生バンド、障害者団体など約70組が出演する。盛岡駅から公園までの約1㌔に10ステージを設け、街中に音楽があふれる。

久慈市ふるさと体験学習協会

賞 第５回優秀賞　一般社団法人

〒028-0051 岩手県久慈市川崎町 1-1 久慈市商工観光課内

HP

体験型教育旅行の受け入れ



地元と首都圏の小中学生の交流を目的とした自然体験キャンプの開催をきっかけに、中高生らの体験型教育旅行を受け入れる専門組織を結成した。会員は約50名8団体。小型漁船「サッパ船」に乗船しての漁業体験、郷土食の「まめぶ」や豆腐を作る郷土料理づくり体験、沢登り、カヌー・カヤック体験など体験メニューは豊富だ。一般客も体験に参加できる。白樺林をトレッキングし、昼食には栄養バランスのとれた「白樺べっぴん弁当」、最後は白樺樹液のジェルでハンドマッサージを受けることができる「ヘルスツーリズム」にも力を入れている。

たきざわグリーンワークス

賞 第９回優秀賞

〒020-0664 岩手県滝沢市鵜飼笹森 140

若手農家が力を合わせ、販路拡大や就農支援継続



岩手県滝沢市で40歳以下の若手農業者が組織する「たきざわグリーンワークス」は農業の担い手不足が深刻化する中、新規就農者定着、生産加工販売、食育などでチャレンジ精神旺盛な農業を展開している。「滝沢スイカ」と岩手の文化「チャグチャグ馬コ」を守るため馬ふん堆肥でスイカを栽培し、販売益金を馬の飼育費に役立てる活動にも乗り出し、地域ブランドと歴史伝統の両立を図るユニークな取り組みとして注目を集める。

ポケットマルシェ

（受賞当時：東北開墾）

賞 第７回準大賞　株式会社

〒025-0096 岩手県花巻市藤沢町 446-2

HP

全国の食材「つくる人」「食べる人」をつなげる



2013年に設立された「東北開墾」が、「つくる人」と「食べる人」をつなげる食材付き情報誌「東北食べる通信」を発刊したことがスタート。各地で同趣旨の雑誌が創刊され統括･運営体として「日本食べる通信リーグ」が発足した。16年にはスマホのアプリを使った産直プラットフォーム「ポケットマルシェ」の事業が始まる。生産者と消費者が顔の見える関係になることを目指す軸はぶれない。20年5月にこれらの事業は「ポケットマルシェ」に統合、新たな生産・流通の実現を図る。

釜石電機製作所

賞 第 11 回優秀賞　　株式会社

〒026-0055　岩手県釜石市甲子町 9-171-4

HP

独自の光触媒技術でウイルス不活化の機器開発を推進



鉄の街、釜石で、主にモーター・ポンプの整備・修理に携わり、機械器具設置工事、受託溶射加工などに取り組んできた。そこから空気環境事業として独自の光触媒技術を搭載した空気抗菌装置の製造・販売を展開。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、衛生、ウイルス対策が注目される中、同社独自の高効率光触媒技術を用いてウイルスを不活化する機器の開発を進めている。これまで畜舎などの業務用の開発に力を入れてきたが、今後は医療機関や福祉施設、学校の教室などもターゲットにしている。

しずくいし軽トラ市実行委員会

賞 第 10 回優秀賞

〒020-0527 岩手県雫石町中町 7-4 雫石商工会内

HP

軽トラックを使った「軽トラ市」を全国に先駆けて開催



5～11 月の毎月1回、雫石町中心商店街「よしゃれ通り」で開催するしずくいし軽トラ市は、2005 年に始まり、100 回を超えた。軽トラックの荷台に農林水産物などを陳列し販売するスタイルを全国に先駆けて確立。参加者にとって移動や出店、退店の負担が軽いのが特長だ。同様の手法は広がり、今では全国に 100 を超す軽トラ市が生まれた。14 年には軽トラ市の発祥地として全国軽トラ市を開催、空洞化が進む中心市街地の地域再生モデルになっている。



岩手の海岸を走る三陸鉄道〈= 同社提供〉

宮　城

- 鳴子の米プロジェクト
- 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会
- 仙台市宮城野区福住町町内会
- ISHINOMAKI 2.0
- 三陸復興観光コンシェルジェセンター
- 亘理いちごっこ
- 仙台秋保醸造所
- フィッシャーマン・ジャパン
- 日本カーシェアリング協会
- ほやほや学会
- まるオフィス



定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会

（受賞当時：定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会）

賞 第２回準大賞　　公益社団法人

〒980-0803 仙台市青葉区国分町 3-8-3 新産業ビル 304

HP

ボランティアで誰もが参加できる音楽祭を開催



仙台市定禅寺通りを中心に市中心部各所の屋外ステージで催される無料の音楽祭で地元の音楽家や商店街の人たちが始めた。毎年9月に開かれる。2日間で70万人以上を動員。開催が危ぶまれた東日本大震災の年も盛況だった。ジャズのほか、ロック、ゴスペル、和楽器演奏などさまざまなミュージシャンが参加する。参加バンド数は国内最大級だ。市民らから広くカンパを募り、運営費に充てている。定禅寺通りの一部を歩行者天国にして客は思い思いに音楽を楽しむ。

仙台市宮城野区福住町町内会

賞 第３回特別賞

〒983-0033 仙台市宮城野区福住町 2-14 菅原動物病院

災害対策進め食料・器具を準備、他地域も支援



東日本大震災の発生後、町内の400世帯のほか、岩手県大船渡市や気仙沼市など240カ所以上に支援物資を手渡した。まちは自分たちで守るという発想の下、炊き出し用の調理器具や備蓄米などを豊富に保管していた。防災マニュアルや緊急名簿を備え、山形県尾花沢市などと災害時の相互協力協定も結んでいた。取り組みは「仙台福住町方式」と呼ばれ、全国で講演に招かれる。自分や地域の人命を守る「自助」「共助」に加え、他の地域を支援する「他助」の概念を広めている。

鳴子の米プロジェクト

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒989-6832 宮城県大崎市鳴子温泉字星沼 77-84

HP

山間地の農家と消費者が交流、米作りに取り組む



鳴子温泉地域の鬼首地区は山間地で農業の疲弊が進み、遊休地や耕作放棄地が目立っていた。昔ながらの景観を守るためにも地域の産業を支えようと、農家や旅館経営者らで団体を立ち上げた。寒さに強い品種を「ゆきむすび」と名付け、シンボル米とした。作り手を応援しようと、比較的高い価格に設定している。もちもち感があり、冷めてもおいしいと評判で例年予約段階で完売する。鳴子で生まれたコメが人と人を結んでほしいと、食に関する講演会も定期的に開いている。

亘理いちごっこ

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒989-2351 宮城県亘理町南町東 10-1

HP

交流イベント通じ被災地支援、学習支援や音楽家育成も



東日本大震災の直後に設立。町内外の「仮設・みなし仮設住宅」に暮らす人々を支援する交流イベントや、コミュニティレストランの運営、子どもたちの学習サポートなどに取り組んできた。2018年には家庭的保育事業所を設置。同年、地域に音楽を根付かせようと「陽だまり弦楽アカデミー」を立ち上げ、プロ・アマによる「陽だまりコンサート」を並行して実施。幅広い世代・地域で技術向上及び音楽交流を図る。全国各地で起きる地震や台風などの被災地でも支援活動を展開、他の NPO や公益法人等との連携を強めている。

ISHINOMAKI 2.0

賞 第４回特別賞　　一般社団法人

〒986-0822 宮城県石巻市中央２丁目 10-2

HP

イベント、学び、移住で被災地バージョンアップ



東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市で「世界で一番面白い街づくり」を掲げ「震災前の状況に戻すのではなく、新しいまちへバージョンアップする」との思いから「2.0」とした。市街地活性化のため、野外映画上映などの公共空間の活用を行う。高校生に地域の魅力を知ってもらう教育プロジェクト「いしのまき学校」では次世代の教育にも力を入れている。また石巻市とともに移住促進事業を行い、県外での移住フェアへの参加や相談窓口を設置。これまで 80 名ほどが相談窓口を経て石巻市へ移住している。

仙台秋保醸造所

賞 第７回優秀賞

〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元枇杷原西６

HP

宮城県産ワインの先駆け、ブドウの自社栽培も



仙台市の奥座敷、秋保温泉郷で創業し、2015年にワインの製造、販売を開始。東日本大震災で宮城県唯一のワイナリーが流されて以来、最初のワイン生産施設となった。ブドウの自社栽培にも取り組む。代表の毛利親房さんは脱サラして起業。大学生と連携し、オリジナルシードルの販売も開始した。秋保地区では16年のG7財務相・中央銀行総裁会議が開催されたのを契機に地域振興の動きが加速。秋保ワイナリーでは担い手の育成を行っており、県内はワイナリーが増えている。食材とのマリアージュを楽しむ動きが広がっている。

三陸復興観光コンシェルジェセンター

（受賞当時：小泉自然楽校）

賞 第５回ブロック賞（北海道・東北）

〒986-0766 宮城県南三陸町黒崎 99-17 南三陸ホテル観洋気付

HP

コンシェルジェとして三陸復興観光国立公園紹介



「東日本大震災沿岸部被災地にボランティアとあわせて地元の語り部ガイドから学びたい」人々を受け入れている。「被災地を見て学んで次の災害に備えたい」「東北の海の幸、おいしいものを食べてゆっくり温泉に入りたい」「東北の四季折々の景観や観光を楽しみたい」。すべての想い、その時にしかできない想い出。全国からのボランティアと地元の想いをつなぐ〝志縁〟を現地コンシェルジェが調整、訪れる人々と地元の人々との笑顔を育み、元気に触れ合える復興観光を推進する。

ほやほや学会

賞 第 10 回優秀賞　　一般社団法人

〒986-0822 宮城県石巻市中央 2-5-7

HP

ホヤ消費拡大を目指し漁師や消費者らが魅力発信



全国有数のホヤ生産地、宮城県で、消費拡大を目指し漁師や水産加工会社、県内外の消費者らが連携した。東日本大震災で輸出が打撃を受けたことに発奮、首都圏の消費者と漁師をつなぐツアーやイベント、調理法などを学ぶワークショップを開催し、ホヤの魅力を国内に発信してきた。コロナ禍ではオンラインショップを開設し、漁師のさばき方講座や、料理人の楽しみ方講座を開催。遠隔地により新鮮なホヤを届ける手段も研究している。

フィッシャーマン・ジャパン

賞 第８回奨励賞　　一般社団法人

〒986-0827 宮城県石巻市千石町 8-20

HP

震災で被害受けた水産業の再生と未来へのバトン



東日本大震災で被害を受けた宮城県沿岸を拠点に、漁師・魚屋が地域や業種を超えてチームを組み、漁業のイメージをカッコ良くて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案している。2024 年までに多様な能力をもつ新しい職種「フィッシャーマン」を 1000 人増やすというビジョンを掲げ、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指す。担い手育成事業と水産物販売事業に取り組み、日本各地、海外へと活動範囲を広げている。

まるオフィス

賞 第 11 回優秀賞　　一般社団法人

〒988-0534　宮城県気仙沼市唐桑町宿浦232−2

HP

津波被災地で地域内外の若者が中高生の探究をサポート



東日本大震災の発生から間もなく10年になる。壊滅的な津波被害を受けた宮城県気仙沼市。全国から集まった若者たちは、がれきの残るまちに移り住み、一般社団法人まるオフィスに立ち上げ、住民と共に復興を進めてきた。多くの被災地は今、人口が急減する。恵みの海と生きる地域を存続させるには。若者たちはその突破口を地元の子供達に見出した。地域を知り、探究することで、自分と地域双方の可能性を広げる力を育てる挑戦が始まっている。

日本カーシェアリング協会

賞 第９回優秀賞

〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り１丁目 5-23

HP

大震災の経験から自動車共同利用の仕組み構築



東日本大震災直後の 2011 年５月、車1台の提供を受けて石巻市で活動を始めた。仮設住宅の入居者有志が車を管理し、共同利用する仕組みを構築。現在は寄付された約250 台を預かり、地域コミュニティーの再生・発展を支援するためのカーシェアリングを展開している。活動は岡山、鳥取などにも拡大。熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨など各地で相次ぐ大規模災害でも車を貸し出した。コロナ禍では収入が減少し車検ができない人や、マイカーを手放した人に車を無料で貸す取り組みを行った。

秋　田

- 山内いぶりがっこ生産者の会
- おおだて映像計画
- 秋田なまはげの会
- 大曲花火倶楽部
- 増田まちなみ保存会
- 小坂鉄道保存会
- 横手市共助組織連合会
- 陽気な母さんの店
- 浅見内活性化委員会
- 秋田人変身力会議
- 北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機



おおだて映像計画

賞 第２回優秀賞

〒017-0044 秋田県大館市御成町 2-15-22

HP

地元舞台に住民参加で映画製作、廃線活用に波及



大館市や北秋田市を舞台にした映画「ハナばあちゃん!!~わたしのヤマのカミサマ~」を製作した。地元の若手経営者らが出資して有限責任事業組合を設立。地元企業の寄付もあった。２０１１年2月に公開し、県内外で数多く上映。版権を団体が保有しているのが特徴で、独自の商品開発も。映画に出る廃線を使ったレールバイクを実験的に始めたところ人気を呼び、設備を運営するNPO法人が結成されて１９年には８５００人が利用、外国人の姿も多く見られた。

秋田なまはげの会

（受賞当時：秋田クレジット・サラ金・悪徳商法被害をなくす会）

賞 第３回優秀賞

〒010-0951 秋田市山王 6-22-6 ラポール山王郷A -1

HP

多重債務の相談受け付け、反貧困に国際連帯も



貸金業法改正により「多重債務」の相談は減少したが、失業や収入の減少、パチンコなどの依存症が原因で、１社だけでも返せない、住宅ローンが支払えないという相談は後を絶たない。週3回の事務所での相談のほか、県内各地で出張相談を行っている。２０１９年に第１０回東アジア金融被害者交流集会が秋田市で開催され（全国クレサラ・生活再建問題被害者連絡協議会主催）、日本・韓国・台湾から１４０人が参加した。共催団体として現地実行委員会を組織、運営をサポートした。

山内いぶりがっこ生産者の会

賞 第１回優秀賞

〒019-1108 秋田県横手市山内土渕字二瀬８番地４
横手市山内庁舎　山内地域課産業建設係

いぶした大根で作る特産漬物のブランド商品開発



ダイコンをいぶし、こうじや玄米、砂糖などを使った調味料に漬け込んだ秋田の味、いぶりがっこ。もともとは自分たちで食べる分しか作っていなかったが、近くに直売所ができたことをきっかけに地元の生産者が団体を結成。ブランド商品「金樽」を売り出し、品質の維持に努めている。会員は１６人。首都圏を中心に人気を呼び、年間1万５０００～1万６０００本を出荷している。売り上げに加え、出来栄えを競う「いぶりんピック」を毎年開催し、生産者の意欲向上につなげている。

小坂鉄道保存会

賞 第６回優秀賞

〒017-0202 秋田県小坂町小坂鉱山字古川 20-9 小坂鉄道レールパーク気付

HP

鉄道テーマパークをサポート、交流を進める



「明治百年通り」の一角にある旧小坂鉄道の駅舎や線路を利用した体験型テーマパーク「小坂鉄道レールパーク」の運営をボランティアがサポートしている。2009年に廃線となった鉄道を産業遺産として伝えようと、ディーゼル機関車の運転体験などの際に鉄道員姿で運行支援や座学の講師役を務める。来園者の案内、車両・鉄道機器類の解説も。寝台特急「あけぼの」の車両を利用した列車ホテルもオープン。「次は終着、上野、上野～」といった車内アナウンスなどを担っている。

大曲花火倶楽部

賞 第４回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒014-0073 秋田県大仙市内小友字山根 89-31

HP

花火に詳しい「鑑賞士」制度を創設、地域活性化



毎年夏に70万人を超す観客を集める大曲の花火大会。一時的な盛り上がりで終わらせるのではなく、花火のまちとして年間を通じた集客を目指し、大仙市民や全国の花火ファンが1991年に組織した。これまで若手花火師が技術を競う大会づくりなどに取り組んできた。2003年度からは花火の歴史や工程に詳しい「花火鑑賞士」の認定資格試験を創設、これまで約1300人が取得した。今後、さらに上級の「マイスター」試験も検討している。

横手市共助組織連合会

賞 第７回ブロック賞（北海道・東北）

〒013-0046 秋田県横手市神明町 1-9

豪雪地帯の共助組織が高齢者の暮らしを支援



全国でも有数の豪雪地帯で2012年に誕生した共助組織が、地域の高齢者の暮らしを支えている。屋根の雪下ろし支援を皮切りに、買い物支援、野菜生産の後押しと、活動内容は年々、拡大した。同様の共助組織は県内各地に広がりつつある。21年の横手は観測史上最大の積雪となったが各組織の支え合いの積み重ねがあらためて評価される年となった。人口減少、少子高齢化が進む過疎地域で、住民が生き生きと暮らし続けるため、行政だけに頼らない「共助」という活路を開いた。

増田まちなみ保存会

賞 第５回優秀賞

秋田県横手市増田町

建物内に蔵を構えた雪国の商家の伝統的建造物群を保存



秋田県南部に位置する横手市増田は、雪から守るため家の中に「内蔵」を構える独自の文化がある。増田まちなみ保存会は地域の86世帯で発足し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された一帯で、歴史的町並みの景観を保存し、まちづくりを進めている。毎年10月に内蔵を一斉に公開する「蔵の日」を実施しており、マンガの原画を集めた「横手市増田まんが美術館」が2019年にリニューアルオープンした効果と相まって、年間数万人がやって来る観光スポットに成長した。町並みを守る防災訓練も欠かさない。

秋田人変身力会議

賞 第 10 回優秀賞

〒010-0851 秋田市手形字山崎 16-4 永井健宅

"粘り強いが口べた"から変身するリーダー応援



秋田県民は真面目、粘り強いと評される一方で、「しょしがり（恥ずかしがり）」ともいわれる。自己主張せず、考えがあっても言わない内気、口べたな〝県民性〟が外への販路拡大の支障になってきたともされる。秋田人変身力会議は、さまざまな「変身」を成し遂げ、地域や組織を元気にしてきた人たちにエールを送ってきた。会議に参加した主婦から、地元の菓子を改良する食品コンサルタントや、古着販売のリサイクル事業といった起業家も出てきている。

陽気な母さんの店

賞 第８回大賞　　株式会社

〒018-5603 秋田県大館市曲田字家ノ後 97-1

HP

農産物直売所を拠点に収穫体験や宅配



生産者と消費者の気持ちが分かる「農家の母さん」の視点で弁当宅配や民泊などを事業化、体験交流型直売所に育った。加工品づくりや郷土料理、収穫体験、農産物宅配と幅広い活動に取り組んでいる。「嫁だからと遠慮せず、胸を張って農業を発信したい」と女性農業者が出資して、2001 年から営業。減農薬栽培に取り組み、個人別に生産量や収穫時期をデータ化し、緻密な販売計画を立てて業績を伸ばしている。

北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機構

賞 第 11 回優秀賞 北前船交流拡大機構は一般社団法人

〒105-0021 東京都港区東新橋1−5−2　汐留シティセンター（北前船交流拡大機構）

HP

秋田など北前船の寄港地結んで歴史と観光掘り起こす



北前船寄港地フォーラムは15年にわたり、秋田県など14道府県で開催されており、地方の観光活性化と地域間交流の拡大を図っている。北前船ゆかりの土地と人をつなげ、観光資源や歴史を掘り起こし、地方に目を向けさせており、人と情報を行き来させる現代版「北前船」の役割を果たす。今後はコロナ禍での新たな観光の姿を探り、観光関連業者が一体となって知恵を出し合い、苦難を乗り越える場として期待される。

浅見内活性化委員会

賞 第９回優秀賞

〒018-1851 秋田県五城目町内川浅見内字後田 86-1

住民がスーパー運営、生活を支え合い交流の場に



高齢化と過疎化が深刻な五城目町の浅見内集落に日々、笑い声があふれる場所がある。買い物弱者支援を目的に2016年に開店したスーパー「みせっこあさみない」。住民でつくる共助組織「浅見内活性化委員会」がボランティアで運営する。暮らしに欠かせない食品や日用品をそろえた地域のよろず屋であり、食事や喫茶を楽しめる憩いの場、交流の場ともなっている。住民たちはこの店を拠点に地域を元気にしようと奮闘している。

山 形

- たかはた共生塾
- レインボープラン推進協議会
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭
- 鶴岡織物工業協同組合
- 村山そばの会
- とびしま
- かほくイタリア野菜研究会
- スパイクファミリー
- きらりよしじまネットワーク
- 新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会
- やまがた福わたし



レインボープラン推進協議会

賞 第２回優秀賞

〒993-0002 山形県長井市屋城町 1-40

HP

生ごみの堆肥化などを通じ消費者と農業をつなぐ



レインボープランとは「台所と農業をつなぐ・ながい計画」で、食と農の安心をテーマに住民が支え合う取り組みを進める。市内中心部の約5000 世帯から出た生ごみを分別回収し、堆肥化して農地に投入。生産されるコメや野菜などを市民が消費する仕組みを構築した。若者が自分たちが住む市のグランドデザインをする事業として考案された。「大規模で珍しい取り組み」「循環型社会のモデル」などと国内外での評価が高い。

山形国際ドキュメンタリー映画祭

賞 第３回準大賞　　認定ＮＰＯ法人

〒990-0044 山形市木の実町 9-52-201

HP

世界の優れたドキュメンタリーをコンペ形式で上映・表彰



アジア初の国際ドキュメンタリー映画祭が山形で誕生してから30年を超えた。隔年で10月に開催している。世界から作品が集まるインターナショナル・コンペティションでは、大賞に賞金200万円、最優秀賞には100万円を授与する。期間中の入場者は2万人余りに達する。政治的な圧力などにより、自国で上映が難しい作品の、世界に向けた発表の場としての役割も果たす。近年では通年で若年層に対する映像教育を積極的に進める。また東日本大震災に関する記録映画を保存し、作品情報を世界に発信するアーカイブも設置している。

たかはた共生塾

賞 第１回ブロック賞（北海道・東北）

〒999-2179 山形県高畠町蛇口 314

有機農業運動を情報発信、公開講座で自立目指す



食の安全や農村社会崩壊の危機が叫ばれる中、地域の農業者が手を取り合い、有機農業の実践と、自給ができる地域づくりに取り組んでいこうと1990年に設立した。これまで農業体験を通じて生き方を学ぶ「まほろばの里農学校」などを開き、地域に人々が移住するきっかけをつくってきた。現在は公開講座を中心に活動している。講座では、協同組合、信用組合などの組織の在り方や、地域の発電会社づくりなどを学び、地域の自立を目指す。

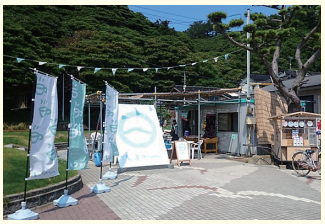
とびしま

賞 第６回ブロック賞（北海道・東北）　　合同会社

〒998-0281 山形県酒田市飛島勝浦乙 132-19

HP

若者が魚の加工品などを手掛けて島おこし



山形県唯一の離島・飛島で6次産業化に取り組み、雇用創造につなげている。定期船発着所近くで運営するカフェスペースは、島の食材を利用したメニューやお土産品を販売し、島民と観光客をつなぐ拠点。島内に整備した加工所ではお土産となる商品を製造している。岸を歩いたり、シュノーケリングをしたりするツアーも。島の伝統文化継承に取り組み、映画作りにも力を貸した。島の人口は175人、高齢化率約8割に達するが、島に戻ったり、渡ったりした若い力が社員となって島を活気づけている。

鶴岡織物工業協同組合

賞 第４回優秀賞

〒997-0017 山形県鶴岡市大宝寺字日本国 223-5

HP

地域で一貫生産できる絹織物をブランド化



鶴岡市周辺は養蚕、製糸、織物作りなどが盛んだった。明治時代から続く絹産業の再生と活性化を目指し、地元の関連会社で組織。組合が協力する市の「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」では地元高校生「シルクガールズ」が自作ドレスのファッションショーを開き、小学生は蚕の飼育を体験している。蚕が繭を作る際に最初に出す糸「キビソ」は、均一な糸ではないため織物には使用されてこなかったが、希少性などが見直され kibiso ブランドとしてストールやバッグに使用されている。

かほくイタリア野菜研究会

賞 第７回優秀賞

〒999-3511 山形県河北町谷地月山堂 654-1

HP

行政などと連携し、野菜の共同生産・販売に取り組む



農家、商工業者、行政、金融機関、商工会が連携し、トレヴィーゾをはじめとするイタリア野菜の共同生産・販売、加工品開発などを通じた地域活性化に取り組んでいる。生産者18人が、国内では先行事例のない各種イタリア野菜の栽培方法を研究。著名なイタリア料理のシェフらに品質を高く評価され、ブランド化が進んでいる。マルシェや料理教室、産地訪問ツアーなどイタリア野菜を通じて地域に人を呼び込む事業にも力を注いでいる。また山形県版GAPの認定を受け、東京五輪の食材調達基準も満たした。

村山そばの会

賞 第５回優秀賞

〒995-0041 山形県村山市大字河島元杉島 1315-1

HP

郷土料理と食文化の保存、伝承に取り組む



そばを食文化として伝承し、村山市を「板そばの里」として広くPRしようと地元の有志で発足した。市内で開かれる祭りに合わせて長さ60㍍、幅90㌢の長い板に盛り付けて振る舞う「日本一の長板そば二十間堂」は評判で、700人分が出る。そば打ちの技術を審査し、「そば匠」の称号を与える制度を設定。そば打ちを体験できる施設もある。NPO法人「村山蕎麦の会」と連携し、そばの食文化に興味のある高校生らを対象に「そば甲子園」も開催した。

新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会

賞 第 10 回奨励賞

〒996-8501 山形県新庄市沖の町 10-37

HP

広大な旧蚕糸試験場を活用、マルシェや芸術祭



国の蚕糸試験場だった緑豊かな広大な敷地と歴史的建物群を活用して、農産物や手作り品を販売する「キトキトマルシェ」を地域の団体やデザイナーが協力して実施している。5月から11月まで毎月40ほどの店舗が出展し、年間1万数千人が来場する。コミュニティーカフェ、ゲストハウスもオープンし、農村と都市の交流人口を増やしている。

スパイクファミリー

賞 第８回優秀賞

〒993-0084 山形県長井市栄町 3-5 けん玉ひろばスパイク内

HP

「けん玉のまち」アピール、ギネス記録挑戦も



競技用けん玉生産量日本一を誇る長井市で、子どもからお年寄りまで幅広く参加し、ギネス世界記録に挑戦する催しなど「けん玉のまち」をアピールしている。学童・児童センター、公民館などで教室を開催、コロナの前は観光や交流事業でのパフォーマンスなど年間イベント出演は100回を超えた。商店街と連携、けん玉の技に挑戦して成功すると、お店ごとのサービスを受けられる企画も。コロナ禍では「オンラインけん玉検定」を開催。動画投稿で技を披露するキャンペーンも実施した。

やまがた福わたし

賞 第 11 回優秀賞　一般社団法人

〒990-0022 山形市東山形２丁目 2-11

コロナ禍で苦しむひとり親家庭、学生を食で支援



新型コロナウイルスの影響で生活に困っている世帯に食品を無償提供する「笑顔を増やそう！やまがた“お福わけ”プロジェクト」を展開している。食品は企業や農家、家庭で不要になったものを譲り受けて確保。2020年7月に実施した第1弾は主にひとり親家庭計65世帯に届けた。第2弾ではアルバイト先を見つけられなかったり、親の収入減で仕送りがなくなったりした学生を対象に加え、米やレトルト食品などを9～10月に送った。21年もネットワークを広げ、活発に食糧支援を続けている。

きらりよしじまネットワーク

賞 第９回準大賞　ＮＰＯ法人

〒999-0214 山形県川西町大字吉田 5886-1

HP

全世帯が加入して防災や教育などで幅広く活動を展開



川西町吉島地区の約720の全世帯が加入、高齢化が進む地域の課題解決に取り組む。スマートスピーカーのようなITを活用した高齢者の見守りや買い物支援、農産物直売所のネットショップ化、世代を超えた交流ができる食堂、居酒屋開店など事業は多彩だ。若手農家グループを組織、都市との交流ビジネスも展開し、アイデアを形にする。高齢者向け体操教室や、那覇市の公民館との文化交流も続ける。独自に構築した合意形成や人材育成プロセスは地域再生のモデルとなっている。

福　島

- ノルテ・ハポン
- 大内宿保存会、大内宿結の会
- 千葉之家花駒座
- ＭＪＣアンサンブル
- 会津エンジン
- 山木屋太鼓
- 郡山ペップ子育てネットワーク
- ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
- よつくらぶ
- ふるさとの川・荒川づくり協議会
- ベテランママの会
- ふくしま飛行協会
- ハッピーロードネット
- 小高ワーカーズベース
- 会津電力
- TATAKIAGE Japan
- 元気アップつちゆ
- 葛力創造舎
- はじまりの美術館
- BOOT（ブット）
- 会津コンピュータサイエンス研究所



大内宿保存会、大内宿結の会

賞 第１回特別賞

〒969-5345 福島県下郷町塩生大石 1000 下郷町役場教育委員会

江戸時代から残るかやぶき屋根の家並みを守る



江戸時代からのかやぶき屋根の家並みを守り続けてきた。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定、47戸が一定間隔で整然と立ち並ぶ。東日本大震災で大きな被害はなく、保存物件の建築技術の高さを証明。建物保存や景観維持管理等のハード面は保存会が、地域の環境整備、イベントなどのソフト面を結の会と担当を分けて活動してきた。震災で落ち込んだ観光客は２０１９年には年間約80万人に回復。そばや餅など地場産品を使ったもてなしをさらに充実させ、20年からは新たに組織された大内宿保存整備財団と連携し活動に取り組んでいる。

千葉之家花駒座

賞 第２回ブロック賞（北海道・東北）

福島県檜枝岐村

270年の歴史ある村の伝統歌舞伎を住民が守る



人口約550人の檜枝岐村で、270年余りにわたって守られてきた伝統芸能、檜枝岐歌舞伎に取り組む。職業や年齢もさまざまな約30人の座員が伝統を守ってきた。冬場に練習を重ね、公演には村の人口を上回る千人余りが詰め掛ける。村外でも招かれて上演しており、村を代表する「顔」となっている。かやぶき屋根の趣ある舞台も雰囲気を盛り上げる。過疎化や高齢化は進むが、地域を挙げて次代に手渡そうと地道な活動が続いている。

ノルテ・ハポン

賞 第１回優秀賞

〒960-1426 福島県川俣町字日和田 17-4

HP

日本最大級の中南米音楽祭に国内外から多数出演



南米アンデス山脈の先住民を中心に伝わる民俗音楽「フォルクローレ」を愛する人々が縦笛、ケーナの生演奏に感動し、1975年から音楽祭「コスキン・エン・ハポン」をはじめ、国内最大級の中南米音楽祭になった。3日間の日程で、初日は演奏者や住民が町内でパレードを繰り広げる。南米の食べ物を提供する店も出る。すべてをボランティアが運営する。北海道から沖縄まで、さらにチリ、アルゼンチンなど海外からも含めて毎年約200チームが出演している。

山木屋太鼓

賞 第４回優秀賞

〒960-1501 福島県川俣町山木屋川芎10-1

HP

原発事故乗り越え、故郷への思いを和太鼓に



2001年に結成、和太鼓の演奏を通じて故郷への思いを伝え続けている。拠点の川俣町山木屋は原発事故で15年まで住民避難を余儀なくされたが活動を続け、絆を守った。今は川俣町内のほか福島市からも新しく子どもたちが加わり、世代を超えた仲間と共に練習、演奏している。伝統的な演奏のほか、故郷の自然をテーマに作った曲を披露、祭りや各種イベントに出演。21年には20周年記念公演を予定している。

ＭＪＣアンサンブル
（南相馬ジュニアコーラスアンサンブル）

賞 第３回特別賞

〒975-0001 福島県南相馬市大町 2-13-3 MJCアンサンブル事務局

震災を乗り越えて歌い続ける力を結成、海外でも公演活動



東日本大震災から10年を経て活動の基本はこれまでと変わらず、国内外での演奏活動を継続、演奏回数は245回となる。小・中・高校の女子生徒が主力メンバーとなり年長児、育成メンバーも加わった。震災の記憶が薄れる中、子どもたちが「歌」により震災を地域と共に学び、音楽を通して先輩のお姉さんたちが生きてきた激動の体験を共有できればと精力的な活動を継続している。演奏活動を通して得られた心の絆を大切にしながら、地元で愛される合唱団を目指して歌い続ける。

郡山ペップ子育てネットワーク

賞 第４回特別賞　　認定ＮＰＯ法人

〒963-8803 福島県郡山市横塚 1-1-3 ペップキッズこおりやま内

HP

子どもに寄り添った成育環境の実現を目指して



子どもにとって遊びは生活のインフラだ。原発事故後の子育て応援・遊び場運営から始まった団体だが現在のコロナ禍においても子どもたちの遊びを保障すべくプレイリーダーやスタッフ一同、地域の子どもたちの笑顔を絶やさぬよう努力を重ねている。また、遊び場運営の他、市内の幼稚園児から中学生までを対象とした健康調査等研究事業や臨床心理士を招いての心のケア事業等も行っている。

会津エンジン

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒965-0042 福島県会津若松市大町 1-1-41

HP

本物の体験で子どもたちが育つ！



若者の文化度の向上と、将来の可能性を広げることを目的として、多くの文化人や地元の大人たちとの交流事業を開始している。若者がたくさんの機会に触れ、鼓動が高鳴り、感動を覚え、自ら心のエンジンを始動させ、また、そこに関わった全ての大人もエンジンをかけることができる。中学生向け「よしもと×自己実現＝漫才授業」、「感動プロジェクト高校生が結婚式を創る！」など、アウトプット重視のキャリア教育を行っている。

よつくらぶ

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒979-0201 福島県いわき市四倉町字５丁目218-1

HP

太平洋を一望する漁港内の道の駅を交流拠点に



いわき市の漁港内にあり、海水浴場も近い「道の駅よつくら港交流館」を運営する。東日本大震災の津波の影響で全壊したが、２０１２年に再オープンして復興のシンボルとなっている。直売所は地場の野菜、海産物などが人気で、フードコートも備える。月1回、生産者が対面販売する市を開催している。震災で親を亡くした子どもらのケアをサポートする「チャイルドハウスふくまる」をNPO法人「ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会」と共同で運営、心理療法士らが相談にあたる。

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

賞 第５回準大賞　　ＮＰＯ法人

〒964-0111 福島県二本松市太田字下田2-3

HP

農家が「道の駅」拠点に里山再生、移住を支援



養蚕が盛んだった阿武隈山系の中山間地域で里山再生に取り組む。人口減、高齢化、市町村合併による行政サービスの低下に危機感を抱いた農家ら約２５０人が会員となり発足、山林や農地を守る活動を始めた。さらに市から「道の駅ふくしま東和」の運営を受託し、活動拠点に。桑畑の荒廃が深刻だったが、桑の葉の茶を商品化するなど6次産業化を進める。技術指導や農地、空き家紹介といった支援を通じて、約３０人が移住した。震災後、農家民宿も推進し地域の特色をアピールしている。



三春滝桜

ふくしま飛行協会

賞 第７回優秀賞

〒960-8251 福島市北沢又日行壇７番地 48

HP

農道空港を航空公園とし、航空イベントを開催



福島市の山あいにある農道空港「ふくしまスカイパーク」。総事業費約30億円をかけて1998年に完成したが、利用は進まず〝赤字飛行〟が続いていた。NPO法人「ふくしま飛行協会」は2006年に指定管理者となり、農道空港を航空公園としてよみがえらせた。一般の空港では難しい各種航空イベントを次々に開催。副理事長の室屋義秀さんはここを拠点に「空のF1」ともいわれるエアレースで活躍し、子どもたちに夢を与えている。

ふるさとの川・荒川づくり協議会

賞 第６回優秀賞

〒960-2156 福島市荒井字地蔵原乙 1-21

市民が力を合わせ清流を取り戻し憩いの場に



福島市を東西に流れる荒川が、国土交通省の水質調査で11年連続日本一に輝いた。偉業達成の背景には、古里の川を愛する住民の力があった。1998年に設立された「ふるさとの川・荒川づくり協議会」は、毎回約600人が参加するクリーンアップ作戦をはじめ、自然と触れ合い、地域の歴史を紹介する事業などを展開している。ふるさとの清流は、東日本大震災に起因する福島第1原発事故後の負のイメージから転換に繋がり、野外活動、環境教育等に利用される、市民が誇れる場所（川）となっている。

ハッピーロードネット

賞 第７回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒979-0407 福島県広野町広洋台 2-1-5

HP

復興に若い世代が意見交わす場づくり、桜植樹も



原発事故で避難を強いられた福島県双葉郡を中心に相双地域、浜通り地域の子どもたちや若い世代に呼び掛け、国内外の同世代の若者と意見を交わす「ハイスクールサミット」「ハイスクール世界サミット」を開催してきた。さらにベラルーシや英国など海外に高校生を派遣し、放射線や廃炉について学ぶ「ハイスクールアカデミー」を実施、報告書を各地に配布している。幹線道路に桜を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」も展開、子どもたちが植えた1万3500本が育っている。

ベテランママの会

賞 第６回優秀賞

〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町 2-91-4

HP

医師との放射線教室や学習支援などを続ける



癒やしの空間づくりを目指そう、と活動をスタートした。2011年4月から医師とともに市民向けの「放射線教室」を開催し、英語版を含む冊子も発行してきた。このほか子どもたちの学習支援や、子育て相談会などにも取り組んできた。最近は高齢者の独り暮らしや、老夫婦で暮らす世帯が増えたことから、認知症予防講座として手仕事になるニットのサークルや、専門家を招いた嚥下障害予防講座などを開催している。

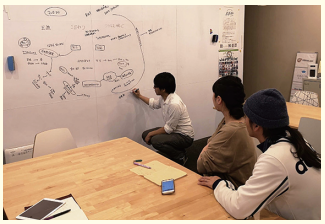
TATAKIAGE Japan

賞 第９回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒970-8026 福島県いわき市平字白銀町 2-10 夜明け市場２階

HP

地域プレイヤーの活動支援で、福島県浜通りに活気を



震災後、JRいわき駅前の復興飲食店街「夜明け市場」にコワーキングスペース「TATAKIAGEBASE」を開設。2015年から、浜通りの活性化に向けた市民参加型のプレゼン&ブレストイベント「浜魂（ハマコン）」を開催し、地域の課題解決に結び付けている。行政や他団体と連携し、若者を地域に呼び込む活動や都市部のプロ人材と地元企業とのマッチング事業、エリアイノベーションによるまちのプロデュース事業にも取り組み、地域プレイヤーと共にまちに賑わいを創出している。

小高ワーカーズベース

賞 第８回ブロック賞（北海道・東北）　　株式会社

〒979-2124 福島県南相馬市小高区本町 1-87 小高パイオニアヴィレッジ

HP

工房や共同オフィスを開設、帰還住民の生活再建



原発事故で避難指示が出ていた南相馬市小高区で、帰還した住民の暮らしを支える事業の創出を目指し2014年に設立した。スーパーが再開するまで日用品や食料品を提供する店舗を運営。現在はゲストハウス付きのコワーキングスペース「小高パイオニアヴィレッジ」や、起業型地域おこし協力隊事務局などの運営に当たっている。雇用創出に向けて開設した女性の職人が働くガラス工房では、ハンドメイドのブランド「iriser ーイリゼー」を立ち上げた。

元気アップつちゆ

賞 第９回優秀賞　　株式会社

〒960-2157 福島市土湯温泉町字下ノ町 17 番地

HP

地熱と小水力発電を柱に温泉街再興、エビも養殖



東日本大震災、原発事故による風評被害からの復興再生を目指し2012年に設立。「エコタウン」形成に向け、地域資源である温泉を生かした地熱発電所と、温泉街を流れる河川を活用した小水力発電所を建設、15年に運転を開始した。16年からは地熱発電で出る水を二次利用したエビ養殖を始め「つちゆ湯愛（ゆめ）エビ」として新たな名物に。その場で試食できるエビ釣り堀も開設している。20年度からはシードルやどぶろくづくりにも取り組む。

会津電力

賞 第８回優秀賞　　株式会社

〒966-0014 福島県喜多方市関柴町西勝字井戸尻 48-1 七福神ホール２Ｆ

HP

エネルギー自給による地域の経済活性化、雇用創出を実現



会津電力は、東京電力福島第1原子力発電所の事故を機に、安全で持続できる再生可能エネルギーの推進が地域課題になる中で、太陽光や水力、森林など地域資源を活用するため、市民有志が地域再生の運動を起こし、住民らに出資を求めて設立。エネルギー自給と売電による地域経済の活性化、雇用創出を実現するため、まず太陽光発電所を相次いで整備した。子どもたちへの再生可能エネルギーの普及啓発活動にも力を入れる。

BOOT（ブット）

賞 第 11 回ブロック賞（北海道・東北）一般社団法人

〒969-4622 福島県西会津町新郷笹川字上ノ原道上5752

国際芸術村で多様なイベント企画、関係人口増やす



西会津町の風土から生まれた文化DNAを継承することや人口減少社会における持続可能な風景の再構築を目指している。町の委託で運営している「西会津国際芸術村」では、多様な交流イベントを企画。アーティストをはじめとした多様な人材の「関係人口」を増やし、地域の課題を洗い出し、その解決策や、従来の価値観に縛られない新たな働き方・暮らし方を模索している。コロナ禍以降は西会津への移住希望者からの相談が増えている。

葛力創造舎

賞 第 10 回優秀賞　一般社団法人

〒979-1603 福島県葛尾村大字野川字十良内 118-2

HP

避難解除の村で米作、商品開発、移住者受け入れ



通常ならば持続不可能と思われる人口数百人単位の過疎の村でも、住民が幸せに暮らせる仕組みを考える。原発事故による全村避難が解除されたとはいえ帰村率は低い中、メンバーは米作りから地域づくりを始めた。甘酒「ノマッシェ」を開発、さらに日本酒「でれすけ」を発売した。空き家を利用したゲストハウス「ZICCA」を整備。移住者も受け入れ、村に連綿と続く助け合いの文化「結（ゆい）」に新たな息吹を吹き込む。県内外の高校生との商品開発やツアーも企画中だ。

会津コンピュータサイエンス研究所

賞 第 11 回優秀賞　株式会社

〒965-0872 福島県会津若松市東栄町1−77

HP

コロナ禍で「密」防ぐＡＩ技術を開発、旅館などで活用



温泉旅館などのロビーや大浴場に設置された3Dカメラの映像を人工知能（AI）が解析することで、混雑状況を自動で把握できるシステムを開発した。解析結果は専用のサイトで確認でき、利用客が客室にいながら館内施設の「密」の状況を把握できる。個人を特定できないようになっているのも特長の一つで、大浴場前の3Dカメラは映像を記録しない。ロビーなどの人の姿は骨格やキャラクターに置き換えて表示される。

はじまりの美術館

賞 第 10 回優秀賞

〒969-3122 福島県猪苗代町新町 4873

HP

障がいのある方を含む誰もが集える場づくり



障がいのある方や現代美術家らの表現を紹介する福島県内にある小さな美術館。築約140年の酒蔵を改修し、2014年、猪苗代町にオープンした。企画展をはじめ、マルシェなどのイベントも展開。地域住民らが集う「寄り合い」を定期的に開催するなど、地域コミュニティーの場にもなっている。福祉とアートが同居するこの場所が寛容で創造的な社会が開かれていくきっかけになることを目標としている。

茨城

- 波崎未来エネルギー
- カミスガプロジェクト
- くらし協同館なかよし
- 里山を守る会
- ヒューマンライツネット はらんきょうの会
- コロッケクラブ龍ケ崎
- 茨城ＮＰＯセンター・コモンズ
- おらが湊鐵道応援団
- サクラサク里プロジェクト
- 長久保赤水顕彰会



カミスガプロジェクト

賞 第３回優秀賞　　一般社団法人

〒319-2102 茨城県那珂市瓜連 1243

HP

駅前の活性化や沿線ＰＲ、映画発信に取り組む



那珂市のJR水郡線上菅谷駅を中心とした活性化を進める。駅前通りを歩行者天国にしテントによる商店街をつくるイベントを隔月で展開、2万人以上が訪れる。東日本大震災後、地域を元気づける取り組みとして始まった。本線と支線が分岐する上菅谷駅を「観光ハブ駅」と位置付けPR。沿線などを舞台に製作した映画は、これまで5作品。出演者は全て地元の人で、撮影も団体のスタッフが当たる。毎回黒字を達成し、東京都内でも上映された。2017年には客席31のミニ映画館「瓜連あまや座」開設にも参画した。

くらし協同館なかよし

賞 第４回ブロック賞（関東・甲信越）　ＮＰＯ法人

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡 2525-498

HP

買い物難民化を防ごうと主婦らが店舗や交流の場



生協の閉店をきっかけに、市民が中心となって買い物だけでなく、お茶を飲んだり交流したりする場をつくろうと、2005年に運営を始めた。専従職員を置かず市民が交代で働く。スタッフは約100人。得意分野に応じ惣菜などの10チームをつくり支え合う。レストランも併設、体操や手芸などの教室もあり、住民が気軽に集まる「たまり場」に。お弁当や食品の配達など高齢者を支えるサービスも実施。子どもの支援や子育て支援活動も力を入れ、子ども食堂ほか、交流や居場所づくりに取り組んでいる。

波崎未来エネルギー

賞 第２回優秀賞　　一般社団法人

〒314-0254 茨城県神栖市太田 705-11

HP

市民による風力・太陽光発電推進、被災地支援も



市民による風力・太陽光発電事業を進め、地球温暖化の防止や、安全なエネルギーの供給を目指す。市民ファンドで資金を集め、市民風車「なみまる」（1500キロワット）を設置。太陽光発電も800キロワットに及び、月額計800万円の売電収入がある。ボランティア活動やシンポジウム、映画会、東日本大震災の被災地支援などに資金提供もしている。清掃活動や青少年育成事業に取り組んでいた団体が発展した。別会社で電気の小売りにも取り組む。

コロッケクラブ龍ケ崎

賞 第７回優秀賞

〒301-0012 茨城県龍ケ崎市上町 4264-1

HP

全国フェス開催などコロッケで街を活性化



2000年に茨城県龍ケ崎市商工会女性部有志が子どもたちのために手作りコロッケを販売した。その後、評判となってコロッケクラブ龍ケ崎が03年に発足。精肉店やレストランなど18店が加盟する。同じくコロッケで街おこしをしている富山県高岡市や静岡県三島市と連携し、全国コロッケフェスティバルを開催。14年に「ご当地メシ決定戦」で龍ケ崎コロッケが日本一に。オリジナル品の開発にも余念がなく、コロッケで街を活性化させている。

里山を守る会

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒308-0122 茨城県筑西市関本上 619-6

HP

雑木林の自然体験で子どもの豊かな人間性を育む



下草刈りや間伐などで里山の雑木林を整備、子どもたちに自然体験、外遊びの場所を提供し、心豊かな若者を育てることを目指す。野外学習での動植物の観察や、落ち葉で焼き芋を作り、野草の天ぷらを味わうことも。学校行事と団体のイベントを合わせ、年間3千人以上の小中学生が訪れる。小学校高学年を対象とした自然塾では、ホタルを放ったり、流しそうめんを楽しむ。秋には里山フェスティバルで森の中のコンサートを開催。企業・行政と連携した落ち葉拾いの催しも開いている。

茨城ＮＰＯセンター・コモンズ

賞 第８回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒310-0031 水戸市大工町 1-2-3 トモスみとビル４Ｆ

HP

被災地復興に挑み、空き家活用、防災にも取り組む



2015年の関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊、水害に見舞われた茨城県常総市で、空き家を、外国人の子どもたちも集う「多文化保育園」に変えるなど被災したまちを復興させる事業に挑む。NPO法人の中間支援団体として発足し20年。東日本大震災の被災者支援にも取り組んできた経験や幅広いネットワークを生かし、空き家活用、移動支援、防災、多文化共生、障害者就労支援、コミュニティー再生などの要素を絡めた、多様な世帯が互いに支え合える地域づくりを目指す。

ヒューマンライツネット　はらんきょうの会

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒300-4517 茨城県筑西市海老ケ島 1468

HP

平和、男女共同参画への理解訴える



茨城県西・筑西市の農村地域で、朗読劇を通して平和を訴え、男女共同参画の理解を促す活動に取り組む。1998年から毎夏、ヒロシマ・ナガサキの被爆体験手記を読み継ぐ朗読劇を上演。男女共同参画では、日常生活の中の男女差別を井戸端会議仕立ての茨城弁寸劇にアレンジ。さらに発展途上国の児童労働や、女児が学校に通わせてもらえない実情を知らせる映画会も開く。夫の海外赴任先でDV被害に苦しむ女性がメールで相談できる窓口設置など、活動は国際化している。

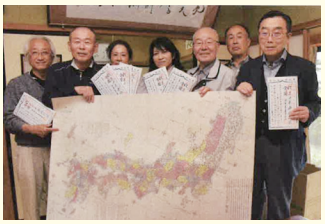
長久保赤水顕彰会

賞 第 11 回優秀賞

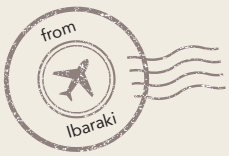
〒318-0103 茨城県高萩市大能341（会長自宅）

HP

江戸時代の日本地図製作者・長久保赤水の業績顕彰を国内外に伝える



茨城県高萩市出身の学者・長久保赤水は、伊能忠敬より42年早く、経緯線入り日本地図『改正日本輿地路程全図』を刊行、江戸時代に広く流通したが知名度は低い。赤水の業績顕彰を基に、後世遺産の地図資料や書簡集解読で一般に理解できるよう創意工夫し30年間活動。東日本大震災翌年建立の『赤水像』は街のシンボルとなり、2020年9月、赤水関係資料群693点が国の重要文化財に指定。2021年4月『赤水図』が中学校教科書に掲載。今後もHPや書籍・動画等で全国へ業績を発信、官民一体となり国の財産を後世に伝承する。





あんこう鍋

おらが湊鐵道応援団

賞 第９回優秀賞

〒311-1222 茨城県ひたちなか市海門町 2-8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所

HP

ローカル鉄道を守ろうと観光案内や情報発信



2006年に廃線の危機に直面した茨城交通湊線（勝田―阿字ヶ浦、全長14.3キロ）の存続を求め沿線住民を中心に立ち上がった。第3セクター方式の「ひたちなか海浜鉄道湊線」として再出発後は、週末に拠点駅で観光案内を行い、沿線商店街でサービスが受けられる「乗車証明書」の発行をはじめ、さまざまな利用促進策を提案。沿線風景や〝駅猫〟の様子をSNSで発信するなど「マイレール意識」醸成に取り組んでいる。

サクラサク里プロジェクト

賞 第 10 回優秀賞

〒309-1214 茨城県桜川市東桜川 1-21-1 桜川市商工会内

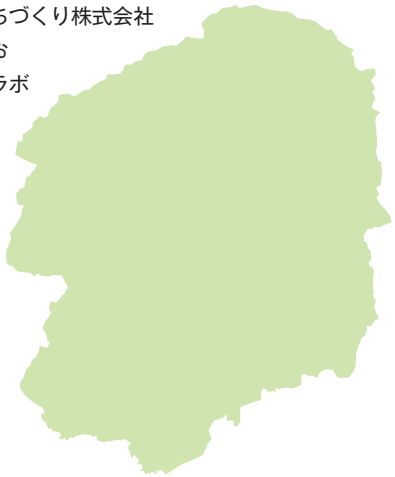
里山の桜を保全、展望台整備やガイド、出前授業



国の天然記念物「桜川のサクラ」を守る活動から始まり、かつて「西の吉野、東の桜川」と称された市の魅力として売り出そうと、地元商工会青年部の有志で結成した。苗木の育成・植樹、下草刈りや展望台の整備、ホームページによる開花状況の発表、観光客向けの現地ガイド、市内小学校での出前授業などを展開している。市役所にヤマザクラ課が設置されるなど行政にも影響が及んでいる。県の樹木医会と協力、さらに保全を進める。

栃　木

- 蔵の街遊覧船
- 那須苗取り田植唄保存会
- 太平山南山麓友の会
- オオタカ保護基金
- 足利クリーンハイキングクラブ山和会
- 山本有三記念会
- 那須まちづくり株式会社
- えんがお
- ましこラボ



那須苗取り田植唄保存会

賞 第４回優秀賞

〒329-2751 栃木県那須塩原市東三島 3-40

HP

伝統の唄とともに昔ながらの米作りを伝える



70年ほど前から地域で歌われていた「苗取り田植唄」の保存、伝承に努める。40代から90代までの地元の民謡好きが参加している。笠をかぶった昔の姿で小学生たちと田植えをして、歌声を披露。田んぼの周りには、かつて代かきで活躍していた馬をかたどった張りぼてが登場し、雰囲気を盛り上げる。子どもたちは、歌のほかにおはやしも習う。卒業後も保存会の活動に参加し続ける子どもたちも少なくない。

太平山南山麓友の会

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒329-4405 栃木県栃木市大平町西山田 1771 かかしの里

HP

山里でハイキングコース整備やトレッキング案内



太平山の南山麓地帯で里山を守り、地域活性化を進める。高齢化が進み、農業の後継者不足により耕作放棄地が増えたことに危機感を抱いて結成した。「おおひらぶどうまつり」を復活させ、地元の農産物を販売し、約3500人の来場者でにぎわう。春にはヤマザクラを観賞し、季節の野草などを食べるイベントも開く。富士山やスカイツリーを望む景観が自慢で、草刈りや倒木を撤去してハイキングコースを整備している。無料のトレッキングのガイドも務める。

蔵の街遊覧船

（受賞当時：うずま川遊会）

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒328-0037 栃木県栃木市倭町 2-6

HP

白壁土蔵の街で小舟運行、江戸時代の水運を再現



江戸時代、巴波川は利根川などと結ばれ、部賀舟で材木や麻などを運ぶ物流で栄えた。往来の様子を再現しようと、地元の会社経営者らが団体を発足した。巴波川で春に約1000匹の鯉のぼりを泳がせ、冬には竹あかりを並べ、光で彩るなど多くのイベントを開催。川沿いには数多くの白壁土蔵が残り、「蔵の街栃木」もPRする。船を操る際は船頭歌を披露しており、年間3万人が訪れる。2019年の台風、20年のコロナ禍で打撃を受けたが、再興に向けて取り組みを進める。

山本有三記念会

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒328-0015 栃木県栃木市万町 5-3

HP

読書感想文、俳句教室など文学コンクール開催



「真実一路」「路傍の石」で知られる作家、山本有三（1887～1974年）は栃木県栃木市出身。市内の「山本有三ふるさと記念館」を拠点として、有三が生涯にわたって情熱を傾けた人づくり、ことに青少年の育成を柱に据えた活動を展開する。読書感想文、読書感想画、俳句教室などをはじめとする各種文学コンクールや、文学散歩、文学講座などを開催し、地域文化の向上を目指している。

オオタカ保護基金

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒320-0027 宇都宮市塙田 2-5-1

HP

繁殖調査や環境保護を続けワシタカ類を守る



猛きん類の保全を通じて生態系を守り、生物の多様性が豊かな社会を目指す。繁殖状況のモニタリングや、生態研究などの調査活動、自然観察会、森や里山づくりなどの普及に取り組む。このほか、トラスト地の確保と管理、密猟防止などの保全活動、森林施業計画への提言、開発計画との調整といった政策提言もしている。2016年度からは市貝町の古民家を拠点に「サシバの里自然学校」を運営。米作りや里山での生き物観察や自然体験などを通じ、自然を学ぶ体験の場にしている。

那須まちづくり株式会社

賞 第９回ブロック賞（関東・甲信越）　　株式会社

〒329-3225 栃木県那須町豊原丙 1340

HP

廃校を拠点に過疎地に「コンパクトシティー」



2015年に廃校となった旧朝日小学校を「那須まちづくり広場」と名付け、「那須町を〝生涯活躍のまち〟にする」「小学校跡地を、少子高齢社会の新しい学びと実践のコミュニティーの場にする」という2つの目的を掲げる。コミュニティーカフェ、マルシェ、よろず相談室、地域づくりのセミナーやアート展示、料理、パソコン、介護の勉強会など幅広く活用。住居やデイサービス、宿泊施設、オフィスも設ける計画で、過疎地での新しいコンパクトシティー、統合医療社会モデルの構築を目指す。

足利クリーンハイキングクラブ山和会

賞 第７回優秀賞

栃木県足利市

HP

里山のクリーンハイキング（ごみ拾いハイク）を行う



栃木県足利市を中心に活動を展開している足利クリーンハイキングクラブ山和会は1995年に設立、「決して無理せず、安全で楽しいクリーンハイキング」「ごみのないきれいな足利」を合言葉に、年10回、足利市内山地のクリーンハイキング（ごみ拾いハイク）を行っている。その他、足利花火大会後の清掃作業、尾瀬でのごみ拾い作業にも参加している。クリーンハイキング以外でも、視覚障がい者の富士山登山の支援活動等を行っている。2022年で27年目だがマンネリ化せずに今後も続けたいという。

ましこラボ
（受賞当時：益子 WEB 陶器市実行委員会）

賞 第 11 回優秀賞　　一般社団法人

〒321-4217 栃木県益子町益子 799-2

HP

コロナ禍を機に、町を挙げてオンライン陶器市を開催



東日本を代表する「陶芸の里」益子町では例年春と秋、町中心部で陶器市を開催し、春は約40万人、秋も約20万人が訪れる栃木県内有数の一大イベントとして定着していた。ところが新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、春の陶器市中止を決定した。「ピンチをチャンスに変えよう」とWEB陶器市を初開催し成功。発送作業に地域住民が参加するなど町を挙げて取り組む。伝統産業とインターネットが結合した成功事例として注目されている。22年2月に第4回を開催した。

えんがお

賞 第 10 回ブロック賞（関東・甲信越）一般社団法人

〒324-0051 栃木県大田原市山の手 2-14-2（コミュニティハウスみんなの家）

HP

空き店舗を拠点化、高齢者・若者・学生が交流



「えんがお」の名は「笑顔」と「縁側」、「顔の見える円の関係」から。高齢者の孤立を防ぐため、買い物や掃除など日常生活の困り事を解決していく中で若者との交流を促す。クラウドファンディングを活用、空き店舗を再生した拠点「みんなの家」では高齢者が茶飲み話をし、2階の自習スペースには地元の中高大学生が集う。空き家を活用した学生向けシェアハウスの運営や、空き店舗を活用し「地域食堂」「地域居酒屋」の営業、貸店舗として挑戦しやすい環境づくりも行う。



大谷寺・大谷観音〈提供：ＡＮＡ　撮影：ハリー中西〉

群　馬

- 伊参スタジオ映画祭実行委員会
- 安政遠足保存会
- 本一・本二まちづくりの会
- 坂上健友会 大戸診療所
- 富岡製糸場を愛する会
- 自然塾寺子屋
- 桐生再生
- ながめ黒子の会
- キングオブパスタ実行委員会
- We are with you
- たかさきコミュニティシネマ



安政遠足保存会

賞 第２回優秀賞

〒379-0116 群馬県安中市安中1531−1 安中市教委スポーツ課内

HP

江戸時代の史実を基に藩士の長距離走イベント化



「安政遠足」は1855年に安中藩主、板倉勝明公が藩士の心身鍛練に始めたとされる。団体は市民や学識経験者、行政関係者らで結成され、1975年に遠足を復活させ、2019年に45回を迎えた。安中城址から旧中山道を経て熊野神社までの29㌔のコースを侍衣装などのランナーが疾走する。出場するのは1800人で県外からの参加者も多い。安中の季節の風物詩となっている。同じコースを逆に歩く「峠下り」も行っており、多くの市民らが参加する。

本一・本二まちづくりの会

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒376-0031 群馬県桐生市本町 1-3-10

HP

織物産地のまちなみを守り、市街地の再生に挑む



織物が盛んだった桐生市を元気にしようと本町1、2丁目の住民が結成。江戸時代末期からの建物を活用したまちづくりを目指す。月1回青空マーケット「買場紗綾市」を開催し、織物や日用雑貨などを販売。県外からも含め1000人ほどが訪れる。酒類卸業を営んでいた商店の倉庫群や神社などを回るまち歩きも人気だ。電気自動車を導入して観光客を無料で乗せ、環境保全もPR。焼失した明治初期の長屋を拠点とする若い世代のまちづくりも応援している。

伊参スタジオ映画祭実行委員会

賞 第１回ブロック賞（関東・甲信越）

〒377-0494 群馬県中之条町中之条町 1091

HP

山の中の木造校舎で映画祭、映画制作も支援



人口およそ1万5000人の山あいの町で、撮影に使われる廃校の木造校舎を軸に地域発の映画文化を発信しようと、2001年から始まった。年１回の映画祭は、地元で撮影された映画を中心に上映、監督や俳優らもゲスト登場する。全国から多くの作品が寄せられるシナリオコンテストには、中編と短編の2部門があり、大賞には賞金を贈り映画化を支援する。作家横山秀夫さん、歌手山崎まさよしさん、映画監督篠原哲雄さんが映画祭で対談したことをきっかけに映画化、公開された「影踏み」（2019年）では当映画祭実行委員会が企画協力として携わる。

自然塾寺子屋

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒370-2202 群馬県甘楽町小幡７番地

HP

青年海外協力隊の研修や海外の技術者支援



青年海外協力隊員の研修を受け入れる傍ら、地元住民や行政などと国際交流や農村振興、定住・交流人口増に取り組む。「資源は人」と農村の人々の純朴な魅力を引き出し、都市住民や学生、外国人を積極的に招いて交流。地域をＰＲする活動を通じて、町を気に入りＩターンする人も。国際協力活動を経験した人の思いを市民に広める窓口にもなっている。また来日技術者の言葉の援助や、病気の際などに支援する「グローバル人材生活安心パック」サービスをＮＰＯ、企業と連携して実施している。

坂上健友会 大戸診療所

賞 第４回準大賞　　医療法人

〒377-0931 群馬県東吾妻町大戸 13-1

HP

医師や住民が出資・運営し、過疎地域の医療守る



地元の医療拠点の廃止に直面した住民が医療法人を設立、1994年以来、診療所の運営を続けてきた。2000年から介護事業、04年から訪問介護ステーション、05年から居宅介護支援事業所も開設。11年にはデイサービスセンターを開いた。事業所には地元出身の看護師や介護士が働き、雇用の場にもなっている。町全体が通路で結ばれた病棟で、中心の診察室の役割をこの診療所が担うポリシーの下、現在も変わらず高齢者を無料で送迎するサービスを続けている。

桐生再生

賞 第７回優秀賞　　株式会社

〒376-0053 群馬県桐生市東久方町２丁目１番45号

HP

電動バスを用い歴史的建物が集積する市街地案内



織物業の街に観光産業を創出した。群馬大などが開発した環境配慮の低速電動バスを用い、観光客を動物園や遊園地、歴史的な建物が集積する市街地に案内するのが主要事業の一つ。低速走行で景色をゆっくり楽しむ。平日は買い物弱者のお年寄りを乗せて走り、コロナ禍でも継続した。工場を案内する「産業観光」にも先駆的に取り組む。所有する古民家をレンタルスペースとして開放、喫茶コーナーも併設し、観光客や市民の憩いの場として活用している。

富岡製糸場を愛する会

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

群馬県富岡市富岡1406-4 ㈱まちづくり富岡内

HP

講演やイベントで世界遺産への住民意識を高める



富岡製糸場の価値を認識し、共有するための学習会が発端。世界遺産登録に向けて価値を伝える活動に多くの人が加わって発展し、会員は1300人ほどになった。製糸場の清掃や、場内で講演会やシャンソンなどのコンサート、観桜会などを開催した。近くのイベント会場などでは製糸場の歴史をまとめた紙芝居「赤煉瓦ものがたり」を披露。はかま姿の約200人の女性がまちを練り歩くイベントも好評だった。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は世界遺産に登録された。

We are with you

賞 第 10 回優秀賞

〒370-0532 群馬県大泉町古氷 21 ジェンテ・ミウダ

日系ブラジル人らが道路、川の清掃、児童生徒健診



外国人住民の割合が 18％超の群馬県大泉町で、日系ブラジル人らが立ち上げたボランティア団体。道や河川の清掃のほか、ブラジル人学校の児童生徒の健康診断事業などを展開している。15 人いる会員は日系ブラジル人社会のキーパーソンで、外国人住民と行政、地域社会をつなぐ役割も果たしている。入管難民法改正により国内各地で外国人住民の増加が見込まれる中、共生を円滑に進める取り組みが注目されそうだ。

ながめ黒子の会

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々 2373 番地 3 シイナ内

大衆演芸場を保存、落語会など通じ歴史文化伝える



戦前に建てられた大衆演芸場「ながめ余興場」の保存と利活用を目的に 1993 年に発足した。当時、ながめ余興場を取り壊す声も上がったが、会員は余興場の価値と存続を訴え、伝統を守った。2016 年のみどり市市制 10 周年に合わせ、世話人たちが中心となり、地域の偉人を取り上げた「みどり市創生落語」も制作。市内小学校で勉強会と落語会を行うなど、次世代に地域の歴史文化を伝える活動にも積極的に取り組んでいる。

たかさきコミュニティシネマ

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒370-0831 群馬県高崎市あら町202

HP

映画の撮影（入口）から上映（出口）まで、「映画のまち」を支える



1987 年から続く高崎映画祭のメンバーが地域での映画文化発展、継続のために立ち上げた。群馬県初のミニシアター「シネマテークたかさき」、高崎市内でのロケを誘致する「高崎フィルム・コミッション」活動、高崎最古の映画館「高崎電気館」の維持運営を行い、映画の入口から出口までを担い「映画のまち高崎」の中心的存在となっている。

キングオブパスタ実行委員会

賞 第９回優秀賞

〒370-0849 群馬県高崎市八島町 265 番地

HP

県産食材パスタを競うイベントで地元の味をPR



独自のパスタ文化を育んできた高崎市でパスタを愛する地元の中小企業経営者らが集まり結成。市内飲食店が自慢の味を競い合うイベント「キングオブパスタ」を開催し、〝パスタのまち高崎〟の発信に大きな役割を果たしてきた。出場店は県産食材を使い工夫を凝らしたメニューを提供、来場者の投票でナンバーワンを決める。埋もれかけていた食文化に再び光を当て、地域のにぎわいやブランド力を向上。コロナ禍の2020、21年は一カ所に集まらず店ごとに開催した。

埼　玉

- 久喜市商工会鷲宮支所
- 秩父アニメツーリズム実行委員会
- 縁結びの街めぬま連絡協議会
- まち遺し深谷
- Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe
- 秩父百年の森
- 高麗1300
- 川口自主夜間中学
- みぬま福祉会工房集
- 版画フォーラム実行委員会
- 鳩山町コミュニティ・マルシェ（アール・エフ・エー）



秩父アニメツーリズム実行委員会

賞 第２回優秀賞

〒368-8686 埼玉県秩父市熊木町 8-15

HP

地元が舞台の人気アニメでPR、観光客呼び込む



アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」「心が叫びたがってるんだ。」「空の青さを知る人よ」の三部作の舞台となった秩父。行政と、アニメ製作者とファン、住民が力を合わせ、地域活性化を実現してきた。観光客は大幅に増加、春や秋の祭りでは作品のキャラクターのポスターで盛り上げ、スタンプラリーなども開催している。独自につくったグッズも人気だ。コスプレイベントも開催し、数多くの若者が訪れる。

縁結びの街めぬま連絡協議会

賞 第３回優秀賞

〒360-0201 埼玉県熊谷市妻沼 1982-3

寺本堂の国宝指定を機にまちおこし活動が結集



国宝に指定された妻沼聖天山本堂は縁結びのご利益があるとされる。本堂の「平成の大修理」が完了したのを機に、まちおこしを進めようと、ボランティア観光ガイドや市民グループ、文化、商工団体など地元の団体で結成した。聖天山周辺を門前町風にしようと、景観美化に取り組み２０２０年に整備が完了した。空き家を探して入居者を募集。まちなかに四季の写真を飾り、まち歩きのガイドも務める。お見合いパーティーのサポートも。

久喜市商工会鷲宮支所

（受賞当時：鷲宮商工会）

賞 第１回優秀賞

〒340-0217 埼玉県久喜市鷲宮 4-8-8

HP

人気アニメで始まったまちおこしが広域に展開



人気アニメ「らき☆すた」の登場キャラクターが鷲宮在住という設定がきっかけで、全国から訪れるようになった多くのファンをもてなそうと、アニメによるまちおこしを始めた。地元の祭りにはキャラクターが描かれた「らき☆すた御輿」が登場。鷲宮神社の初詣客は数十万人規模となり、アニメの舞台となった神社脇の大酉茶屋に立ち寄ったり、まち歩きを楽しんだりする人も多い。久喜市全体でアニメの街として取り組み、スリッパ産地である行田市の商工会と連携してグッズをつくるなど広域連携を進めている。

秩父百年の森

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒368-0035 埼玉県秩父市上町 3-6-6

HP

山・里・街が連携して取り組む、未来へつなぐ森づくり



市域の８７％が森林の埼玉県秩父市。地元の緑豊かな森を受け継いでいこうと、2000年から活動を開始。森林整備活動や森とまちをつなぐ交流活動、森に学ぶことを主題とした環境教育支援活動、森を活用した地域活性化事業に取り組む。森林再生は時間がかかるため、１００年先を見通して活動し、未来を担う子どもたちに森林の大切さを伝え、成長しても森林と関わり続けられる環境づくりに力を入れる。中国からの輸入が多かった薬用樹木（薬木）について、日本薬科大の教授や学生と共に育成の研究会を開いている。

まち遺し深谷

賞 第４回優秀賞　　一般社団法人

〒366-0825 埼玉県深谷市深谷町 9-12

HP

廃業した酒蔵にシアターや店舗開設、地域拠点に



深谷の持つ歴史資源、景観、産業資源などを生かした地域づくりを市民が中心になって進める。十数年前に廃業し、土塀や屋根瓦が特徴的な酒蔵を再利用している。ミニシアターや古書店、アニメ工房、カフェ、居酒屋など15店舗が入り、年3万人以上が訪れる。キャッチフレーズの「まち遺し」は、ミニシアター名誉館長を務める映画監督の大林宣彦さん（故人）が「あるものを生かしていこう」という考えから使っている言葉だ。まち歩きのガイドも務める。

高麗1300

賞 第７回優秀賞

〒350-1243 埼玉県日高市新堀 855-3

HP

朝鮮半島からの渡来人が旧高麗郡を築いた記念事業



朝鮮半島の高句麗からの渡来人が現在の埼玉県に旧高麗郡を築いてから、2016年で1300年。建郡1300年を地域活性化の契機と捉え、記念事業を打ち出した。活動は旧高麗郡地域から、関東、全国へと拡大している。「地域」「渡来文化」をキーワードに講演会やシンポジウム、歴史ウオークに加え、古代渡来文化研究の高揚を目的に「渡来文化大賞」を設け、さらに歴史を掘り起こす活動を続けている。

Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe

賞 第５回特別賞　　一般社団法人

〒363-0015 埼玉県桶川市南 2-4-13

HP

カフェ、太鼓通じ不登校の若者に居場所づくり



埼玉県立浦和商業高定時制の卒業生や教師が、不登校の経験を分かち合い、学校に行きづらい子どもたちの居場所をつくってきた。2014年に桶川市に開いた拠点のカフェと、本庄市を稽古場とする太鼓の演奏活動の2本立てだ。カフェでは子どもたちが宿題や身近なイベント企画に取り組む。太鼓は英国での公演を実現した。これらの活動成果を土台に今後、不登校や経済的な悩みを持つ子どもたちのため通信制の「新しい学校」づくりを目指す。

版画フォーラム実行委員会

賞 第 10 回優秀賞

〒355-0374 埼玉県東秩父村安戸 87

無形文化遺産の和紙広めようと小さな村で全国展



埼玉県唯一の村、東秩父村を中心に活動。版画にも用いられる地元の和紙は1300年の歴史を持ち、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。そんな特産の和紙をもっと知ってもらおうと、村民の呼び掛けで2004年に設立され、小さな村で全国公募展を開催している。会派やジャンルを超えて誰もが参加できるのが特徴。海外とも交流し、村内とギリシャでそれぞれ作品展を開催した。

川口自主夜間中学

賞 第8回優秀賞

〒355-0008 埼玉県東松山市大谷 3209-31

誰でも無料で授業受けられる夜間中学を運営



公立夜間中学がなかった埼玉県で市民グループが1985年から自主夜間中学を運営している。川口市で週2回、公民館などで教室を開く。学びに来るのは不登校の子や十分に勉強できないまま学校を卒業してしまった人、日本語が不得意な在日外国人ら。誰でも無料で、いつでも通い始めることができる。ボランティアで教えているのは元教諭や社会人、学生ら。教室で大切にしていることは「互いに学び合うこと」。教える側も教えられる側も真剣なまなざしだ。

鳩山町コミュニティ・マルシェ（アール・エフ・エー）

賞 第 11 回優秀賞　　株式会社アール・エフ・エー

〒350-0313 埼玉県鳩山町松ケ丘 1-2-4　アール・エフ・エー鳩山事業所

HP

高齢化したニュータウンの空き家でマルシェやカフェ



都心から60キロ、いわゆる「トカイナカ」エリア。自然豊かでありながら、都心にすぐ出ていける。かつて人口が急増したベッドタウンが今、消滅可能性タウンに変貌。高齢化率50%を超えたニュータウンの再生を図るため、建築や芸術の専門家らが乗り出した。空き家を活用したマルシェやカフェ。創作場所を求め、子育て世代のアーティストらの移住が相次ぐ。地元住民を巻き込み、活動の輪も拡大。コロナ禍の中、かえって注目が集まっている。

みぬま福祉会工房集

賞 第9回優秀賞

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂 1445

HP

障害者の創作を社会へ、地域の発信拠点



社会福祉法人みぬま福祉会は、1948年に「どんな障害があっても受け入れる」を理念に設立した。法人の組織の一つ、アトリエ「工房集」はこれまで積極的に施設を開き、所属する作家のようすや彼らの創り出す作品を公開し、現在では地域の中で人と人がつながるための発信拠点となっている。自由な発想に基づく絵画やステンドグラス、書などの作品は国内外に展示。またファッションブランドとコラボするど、高い評価を受ける。施設内でのギャラリーでは展覧会も開かれ、多くの人が訪れる。

千 葉

- 小野川と佐原の町並みを考える会
- 金谷ストーンコミュニティー
- ＯＮＥ勝浦企業組合
- ちば地域再生リサーチ
- 手づくり公園まさごの会
- 船橋市時活村
- 報徳の会・内田未来楽校
- 行徳まちづくり協議会
- 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会
- おもちゃ図書館Ｃａｆｅ　Ｓａｎｔａ



金谷ストーンコミュニティー

賞 第２回優秀賞

〒299-1861 千葉県富津市金谷 2288

HP

2019年台風15号による被災から立ち上がる



２０１９年９月に房総半島を襲った台風１５号により地域のシンボル鋸山は甚大な被害を被った。このピンチの中、復興に協力してくれるボランティアとの出会いがあり鋸山復興プロジェクトを立ち上げ、登山道や石切場遺構の復興、クラウドファンディングによる募金の働きかけを行い、被災後わずか4ケ月で2本の登山道を復旧。現在は山の整備保護活動と進化し、山の掃除や岩肌のつた剥がしなど年間7~8回行われる。シンポジウムも今年で第１３回を迎える。これらの活動が礎となり２０２１年7月に鋸山が日本遺産候補地として文化庁より認定を受けた。

ＯＮＥ勝浦企業組合

（受賞当時：熱血！！勝浦タンタンメン船団）

賞 第３回優秀賞　　企業組合

〒299-5225 千葉県勝浦市墨名 657-2 勝浦市商工会館内

HP

漁師ゆかりの〝勝浦タンタンメン〟を全国発信



勝浦市は観光と漁業のまちで、半世紀以上前から独特のタンタンメンが食べられてきた。漁師や海女さんが海仕事で冷えた体を温めるため、しょうゆベースのスープに真っ赤なラー油、具材にタマネギを使うのが特徴で、辛さの中に甘みも感じられる。このソウルフードをブランド化し全国に発信しようと、まちおこし団体「熱血!! 勝浦タンタンメン船団」を結成。全国各地でのイベント出展などで食を通した地域PR活動を実施。食品や菓子など監修商品の開発も積極的に行う。

小野川と佐原の町並みを考える会

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒287-0003 千葉県香取市佐原イ 1903-1 佐原町並み交流館

HP

利根川物流拠点の歴史的建造物保存、街を活性化



江戸時代に利根川の物流拠点として舟が行き来し、中心部を流れる小野川沿いは醸造業や問屋街で栄えた。昭和３０年代以降、自動車物流に押され衰退。メンバーは数多くの歴史的建物に着目し、町並みを保存してPR、活性化を進めている。川の清掃や除草作業を続け水質が浄化、サケが遡上するまでになった。ボランティアガイドも務める。骨董市なども開催。東日本大震災で建物は大きな被害を受けたが、全国そして世界からの支援で復旧した。旧川崎銀行佐原支店（三菱館）赤れんがの建物を保存修理中。電線無柱化も進む。

船橋市時活村

賞 第７回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒274-0063 千葉県船橋市習志野台 1-11-1 八田ビル２Ｆ

HP

退職後の生き方を考え、実践する仲間・場づくり



65 歳から85歳までの20年間に、睡眠などを除き自分で過ごし方を選べる〝自遊時間〟10万時間を「どうはずんで生きていくか」を考え、実践する仲間と場づくりを進めている。発足から26年、会員は男女約300人に上り、花見、料理、遠足などの主催イベント、会員が自発的に始めた行事は合わせて約40に達した。年間延べ参加者は約1万人。活動を通じて退職者が地域社会にソフトランディングすることを目指す。

ちば地域再生リサーチ

賞 第４回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒261-0004 千葉市美浜区高洲 2-3-14

HP

高齢化が進むニュータウン再生に大学・住民挑む



高度成長期に東京湾を埋め立て誕生した千葉市の海浜ニュータウン。入居が始まってから50年近くが経過し、高齢化や建物老朽化が深刻だ。地元大学の教官や学生が核となり、団体を結成。住民の力で団地を再生させようと、リフォームや買い物代行、文化講座の運営など幅広く活動する。世代間の交流を図る憩いの居場所にはキッズスペースを備え、学童保育事業も。一日店長によるショップなどを開く。アトリエやギャラリーを立ち上げ、イベントを開催している。

報徳の会・内田未来楽校

（受賞当時：報徳の会）

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒290-0503 千葉県市原市宿 174 番地８

HP

卒業生を中心に廃校した小学校を地域の交流の場に



廃校の利活用が各地で進む中、報徳の会は卒業生らが主体となり、旧内田小学校を「内田未来楽校」に再生。朝市や作品展の開催などで地域住民の交流を促し、人口減少や少子高齢化・過疎化が進む市原市の南部地域に活力を与えている。地域の魅力を引き出し、人のつながりを強める仕掛けづくりを目指し、常に新たな試みに挑戦。母校を地域の宝として後世に伝えようとする卒業生らの活動は、廃校の利活用の新たな形として注目される。

手づくり公園まさごの会

賞 第５回優秀賞

〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-12-1

HP

住民が提案、自分たちの力で公園手作り、管理



市の財政難で30数年間放置されていた4000平方㍍の公園用地を自分たちの手で整備、管理しようと市に提案して1年余りでオープンした。真砂地区の自治会連絡協議会のメンバーら約30人で構成。週2回、自発的に花の植栽、草刈りなどを続ける。ベンチや椅子は手づくりだ。人間と生き物が共生するビオトープづくりを目指し、池を作ったり、井戸を掘ったりした。高齢者が活動できる〝居場所〟の役割も果たしている。2019年には市内の別の地区にも、住民による手づくり公園が誕生した。

おもちゃ図書館Ｃａｆｅ　Ｓａｎｔａ

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人みんなのサンタ

〒272-0034 千葉県市川市市川3- 27- 23

HP

障害児、高齢者、シングルマザーの居場所を提供



自身も障害児の母親であるオーナーが、古民家を借りて駄菓子屋とカフェ、おもちゃ図書館を2017年に併設。障害児をはじめ、高齢者やシングルマザーなど幅広い世代の「居場所」を提供する。毎月子ども食堂も開催し、コロナ禍では持ち帰りや宅配形式に切り替えるなど工夫して活動を続けている。おもちゃ図書館を参考に、地域の別の場所でもおもちゃ図書館が開かれるなど、住民や子どもたちに欠かせない存在と育った。

行徳まちづくり協議会

賞 第９回優秀賞

〒272-0104 千葉県市川市本塩 21-3 中台製作所内

HP

みこし作りなど産物や歴史を生かし地域づくり



地域の産業である、みこしを切り口として景観・地域づくりにつなげようと、２０１７年5月、地域の自治会長をはじめ、まちづくり団体、市川市などが参加して設立。０７年に廃業したみこし店の店舗兼住宅を市川市が改装し１８年7月にオープンした「行徳ふれあい伝承館」で展示と管理・運営業務を担っている。会長の中台洋さんが経営するみこし店がみこしの製作過程等を紹介する「行徳神輿ミュージアム」との2施設を活用しながら活動を展開する。



佐原の大祭秋祭り〈提供：(公社)千葉県観光物産協会〉

松戸市に夜間中学校をつくる市民の会

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1879-24 ほくとビル５階

学ぶ機会を失った約 2000 人に学習の場を提供



貧困や不登校、障害などの理由で学ぶ機会を失った人たちに学習の場を提供する夜間中学校。松戸市内に公立夜間中学校の開設を目指す人たちが１９８３年、「市民の会」を結成し「松戸自主夜間中学校」を開講した。それ以来、学んだ人は約2000人に上る。授業料は無料。退職した教員らがボランティアの講師として活動を支える。現在は外国人の子どもも多い。学びたい人が１人でもいる限り活動を続ける考えだ。

東京

- 喜多見ボンポコ会議
- 奥浅草観光協会
- 谷根千・駒込・光源寺隊
- 淡路エリアマネジメント
- 旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
- 目黒区民まつり実行委員会
- 千住文化普及会
- 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
- 柴又まちなみ協議会
- あらかわ子ども応援ネットワーク
- デリバリー三鷹

奥浅草観光協会

（受賞当時：奥浅草観光まちづくり協会）

賞 第２回優秀賞　　一般社団法人

〒111-0031 東京都台東区千束 3-19-3 グリーンビル 2F

HP

江戸時代からの地域資源を発信、オンラインツアーも



浅草寺観音様の裏側、言問通り以北の一帯にあたる「奥浅草」には、江戸の頃より芝居や遊郭が栄え庶民文化の発信地となる一方、歴史ある寺社、名所、旧跡を多数有する。商店街や町会、産業界が連携し、観光資源を活かした地域活性化と情報発信、観光振興を目的とする。また、本地区には浅草見番もあり、浅草花柳界の伝統の振興･継承を支える取り組みも行う。恒例の写真展・写真コンテスト開催のほか、コロナ禍においてはオンラインツアーを開催し、浅草の魅力を広く発信する。

谷根千・駒込・光源寺隊

賞 第３回優秀賞

〒113-0023 東京都文京区向丘 2-38-22 光源寺

地域の若者らがほおずき市を開催、被災者支援も



文京区にある光源寺境内で夏に開かれる「ほおずき市」を通じて地域の交流を深め、地域の若者らが手弁当でテント張りや食事の提供に汗を流す。東日本大震災の発生直後から地域の店主や主婦、縁日の参加者が自発的に寺に集まり、食料や鍋や道具を被災地に届けた。被災者との縁は続き、復興のためのパン工房づくり応援、ペットの支援などに取り組む。ほおずき市には約５０店が並ぶが、うち5店ほどは震災関連だ。

喜多見ボンポコ会議

賞 第１回優秀賞

東京都世田谷区

HP

地域活性化から分野横断的な提案まで



東京都世田谷区喜多見はかつて自然豊かで地域の中で人も自然も上手に循環していた。地域の歴史や文化、人や店、環境資源を掘り起こし、地域活性化を目指す。発足当時、野川でタヌキを見たとよく聞いたことからポンポコと名付けた。その野川にどんな生きものがどのくらいいるのかを季節ごとに調べている。外環道計画の研究から、行政の中に眠るデータを引き出して一般提供し、また現場やデータを見てきた経験から分野横断的な提案も行っている。

目黒区民まつり実行委員会

賞 第６回優秀賞

〒153-8573 東京都目黒区上目黒 2-19-15 目黒区役所 文化・スポーツ部 文化・交流課

HP

落語にちなみサンマを振る舞い、被災地も支援



今や東京の秋を代表する人気催事「目黒のさんま祭」を、目黒区民まつりの中のメインイベントとして実施し、地域活性化、都市間交流に多大な実績を上げている。古典落語「目黒のさんま」にちなみ、1996年に開始。毎年9月、宮城県気仙沼市から届く5千匹の新鮮なサンマを、目黒区内の公園で炭火焼きにして、無料で振る舞う。会場の温かな雰囲気もあって、長蛇の列がおなじみの光景に。震災復興にも尽力している。

淡路エリアマネジメント

賞 第４回優秀賞　一般社団法人

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-105 ワテラスアネックス 1311

HP

再開発地域で学生や企業と住民交流を進める



神田淡路町の再開発で小学校跡地にオフィスやマンションなどを備える複合施設「ワテラス」ができたのをきっかけに神田の文化を残しながら新旧住民、就労者、学生の交流を進めようと、デベロッパーの安田不動産などで団体を設立した。無料の屋外ジャズや冬季イルミネーション、マルシェなどの定期イベントを開催し地域を盛り上げ、コミュニティーの形成・活性化を図る。有名な神田祭にもワテラスに居住する学生会員と参加。フェイスブックやインスタグラムに加え、地域情報誌を年3回発行して情報発信にも努めている。

千住文化普及会

賞 第７回優秀賞　ＮＰＯ法人

〒120-0037 東京都足立区千住河原町 21 番 8 号 702

HP

千住宿の豊かな歴史と文化を子どもたちに伝承



日本橋から日光街道の最初の宿場町であり、「江戸四宿」の一つが置かれた千住は、松尾芭蕉「奥の細道」の旅立ちの地でもある。都市部にあって少子化、世代間隔絶が進む中、郷土の豊かな歴史と文化を子どもたちに伝承、地域に誇りを持ってもらおうと2006年に発足した。小学校での出前授業、奥の細道を追体験するクルージング、街歩きなどの催し、地元伝承の物語の絵本化などに積極的に取り組む。お気に入りの風景の写真展や街歩きガイドブックも実現した。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

賞 第５回優秀賞

〒140-0001 東京都品川区北品川 2-28-19

HP

旧東海道の土地柄や特有の「細い道幅」を守る



旧東海道宿場町の歴史と文化を受け継ぎ、人情の厚い「品川宿」を守ろうと、旧東海道沿いの8商店街で設立した。宿場町の雰囲気を残す景観づくりに取り組む。運営する品川宿交流館では散策する人や観光客、地元の人たちとの交流、地元の人同士の情報交換の場を提供している。古い建物を品川区の協力の下、リノベーションして、観光やまちをPRする施設として運営もしている。かつて道しるべだった街道松を植え、次の世代に継承する活動も続けている。

あらかわ子ども応援ネットワーク

賞 第 10 回準大賞

〒116-0003 東京都荒川区南千住 1-13-20 荒川区社会福祉協議会ボランティアセンター内

HP

市民団体と行政が連携、子どもの情報共有し支援



「子どもを真ん中にみんなで手をつなごう」。区の社会福祉協議会を事務局に多くの支援団体のネットワーク化と区、教育委員会との緊密な連携で、きめ細かい活動を展開している。3か月に1度、30を超える組織や子ども食堂など市民団体と、行政の担当者が一堂に会して活動の在り方を議論し、全国でもまれな大きい支援の輪を構築。窓口の一本化で啓発・広報が効率化、寄付を受けやすくなったことも支援を活性化させている。

豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

賞 第8回準大賞　　NPO法人

〒171-0014 東京都豊島区池袋３丁目 52 番 21 号

HP

地域を変える、子どもが変わる、未来を変える



2012年設立。「子どもの貧困」をテーマに、地域の子どもを地域で見守り育てることをコンセプトとして活動している。

遊びサポート、学びサポート、暮らしサポートの3本柱で有機的なネットワークをつくり、貧困の連鎖を断つことを目指す。13年に始めた「要町あさやけ子ども食堂」は全国で反響を呼び、普及を後押しするための講演会やシンポジウムなども各地で開催している。コロナ禍の中では食材配布に力を入れた。

デリバリー三鷹

賞 第 11 回優秀賞　　株式会社まちづくり三鷹

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀３－38－４三鷹産業プラザ内

HP

市内の飲食店の弁当を大学生が自転車で無料配達



三鷹市の第三セクター「㈱まちづくり三鷹」が運営する。電話などで注文を受け、三鷹市内の飲食店約50店舗の弁当などを大学生を中心とした配達員が自転車で届けている。2020年7月に本格スタートし、60人前後の配達員と労務管理などを担うまちづくり三鷹のスタッフで運営。配達件数は一日最大100件。消費者や飲食店から配達料や手数料を一切取らない「ゼロ円」がコロナ禍で苦境にあえぐ飲食店に好評だ。

柴又まちなみ協議会

賞 第９回優秀賞　　NPO法人

〒125-0052 東京都葛飾区柴又 6-22-19

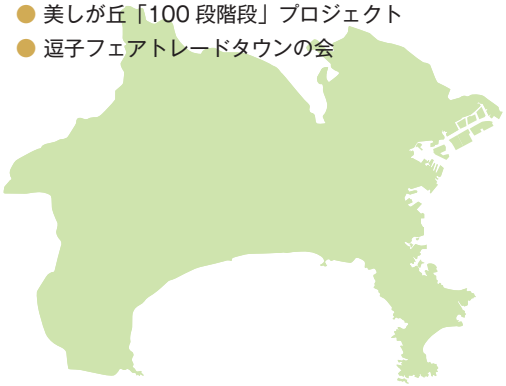
〝寅さん〟の街並み守るガイドライン、魅力発信



映画「男はつらいよ」の舞台、葛飾柴又地区の景観を守る「街並み景観ガイドライン」を策定、「変えない開発」「一店一品主義」「おもてなし」を掲げ、下町情緒豊かな帝釈天の門前町のイメージを保っている。変わらない昭和の街並みは、若者や外国人観光客にいまだに人気。取り組みが功を奏し、国の文化審議会は2018年2月、地区を東京都内で初めて「重要文化的景観」に選定、保護の対象。国、都、区、地元の4者が新たな取り組みを話し合っている。

神奈川

- 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
- 女性防災クラブ平塚パワーズ
- 河内川あじさいの会
- 日本ナポリタン学会
- 高齢化社会をよくする虹の仲間
- サポーターみうら
- 小田原柑橘倶楽部
- ふらっとステーション・ドリーム
- 鴨居駅周辺まちづくり研究会
- 美しが丘「100 段階段」プロジェクト
- 逗子フェアトレードタウンの会



女性防災クラブ平塚パワーズ

賞 第２回優秀賞

神奈川県平塚市

HP

主婦らを中心に防災訓練や出張講座、ノウハウ集も



防災活動に取り組む女性グループ。「自分の命は自分で守り、地域を守ろう」を合言葉に阪神大震災翌年の１９９６年にスタートした。段ボールを使った簡易トイレの作り方の出張講座は、材料集めから保管の仕方までをレクチャーしている。応急手当てや災害時の食べ物の作り方などの講座を開くほか、ポリ袋を使用した簡易防護服作りも行っている。ノウハウをまとめた冊子「防災減災パワーズブック」を作成し、視覚障害者たちにも分かるように点字版、音訳版も発行した。

河内川あじさいの会

賞 第３回優秀賞

〒254-0901 神奈川県平塚市纏 313-28

HP

よみがえった川にアジサイ、環境保全に取り組む



メンバー約６０人で、平塚市を流れる河内川の清掃や草刈りを行っている。川沿いの1.4㌔にわたってアジサイを植えた。川はかつてごみの不法投棄などで悪臭を放っていたが、県や市に働き掛け近隣の川からの年間取水が可能になったことで水質が大幅に改善、アユが泳ぎ、カワトンボやカワセミも見られるようになった。6月には「あじさい祭り」を開催し、約3000人が来場していたが、今年はコロナウィルスの影響で中止している。7月には小学生とアジサイを剪定し、花びらを使った万華鏡づくりにも取り組んでいる。

初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

賞 第１回優秀賞

〒231-0054 横浜市中区黄金町 1-4 先 高架下スタジオサイトB

HP

生活環境を改善、安心して暮らせるまちづくり



三つの町内と小学校 PTA などで結成。性風俗の違法営業で悪影響を受けた生活環境を改善するため、警察、行政、周辺地域や大学、企業、アーティストと連携し、「安全・安心のまちづくり」に取り組む。毎月 27 日にはパトロールを行いながら歩道を清掃する「防犯パトロール」を実施。また、国内外のアーティストを招聘し、まちに滞在しながら作品を制作・発表するアートフェスティバル「黄金町バザール」を毎年開催。「防犯」「防災」「賑わい」の三つを柱とした活動を継続している。

サポーターみうら

賞 第６回優秀賞

〒238-0243 神奈川県三浦市三崎 2-11-3

HP

空き店舗の改装施設を拠点に地元情報を発信



かつて遠洋漁業の基地として栄え、今も「マグロのまち」として観光客を魅了する神奈川県三浦市。その下町「三崎」のにぎわいを取り戻そうと、往事の生活ぶりを伝える資料館「チャッキラコ・三崎昭和館」が２０１０年に開館。チャッキラコは三崎に伝わる伝統芸能で、ユネスコ無形文化遺産にも登録された。サポーターみうらは、同館の運営に携わる傍ら、地域の文化や歴史を独自に資料収集して分かりやすく展示し、市内外に向け発信している。

日本ナポリタン学会

賞 第４回優秀賞

〒224-0001 横浜市都筑区中川1丁目 17-22 ガーデンプラザ宮台 402

HP

横浜伝統のスパゲティナポリタンで地域活性化



日本独自の味「スパゲティナポリタン」。戦後、全国に広まっていく発信地となったのが横浜とされ、ＳＮＳを通じて知り合った市民有志が横浜開港１５０周年に合わせて結成した。各地の祭りでナポリタンを提供するほか、ソースの味やパッケージデザインなどで新商品開発に協力している。会員は約３０人。麺工場の見学に行くなど研究を重ねている。横浜周辺のおいしいナポリタン、約３０店を「認定店」として紹介している。

小田原柑橘倶楽部

賞 第７回優秀賞　　株式会社

〒250-0014 神奈川県小田原市城内 8-10

HP

かんきつ類栽培の農家を応援し、農商工連携で活性化



小田原市片浦地区の柑橘農家を応援する活動をしている。「人・もの・金を地域に循環させる」を合言葉に、地元の偉人、二宮尊徳が提唱した「報徳思想」を運営理念に据える。企業や行政など約２０社・団体の協力を得ながら、農商工連携で地域活性化を実践、耕作放棄地でのレモン栽培にも取り組む。特産物を生かした片浦レモンサイダー、ジェラート、はちみつなどを開発・販売。地元和菓子店とつくった「片浦レモンの生ようかん」は２０２０年に神奈川県の指定銘菓になった。

高齢化社会をよくする虹の仲間

賞 第５回ブロック賞（関東・甲信越）

〒225-0023 横浜市青葉区大場町 930-66

HP

新興住宅地の高齢化に向け住民が支え合いネット



地域・血縁の薄い横浜市の振興住宅地で支え合う仲間を作ろうと、１９８３年から住民ネットワークづくりを進めてきた。会員約100名。毎月、虹のたよりを発行し、虹のセミナー、サークル活動、手作り工房等を通し「視野は社会に活動は足元から」を目指している。終活のための「老い支度覚書」「私のノート」を自費出版。緑の地球を次の世代に残したいと、北海道大野町（当時、現在北斗市）に2000年から8回植樹や見守りのため毎回約20名で出かけ「横浜市虹の仲間の森」と名付けられている。現在「お元気ですかコール」を実施中。

美しが丘「100 段階段」プロジェクト

賞 第 10 回優秀賞

〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘 1-23-8 美しが丘中部自治会内

HP

殺風景な階段カラフルに。遊歩道ネットワーク化



50 年前に造られた殺風景な「100 段階段」を多世代の住民が参加してカラフルに塗り替え、愛着の持てるランドマークによみがえらせた。まちのとっておきの場所に「たまプラ遺産」タイルを設置し、同じ標高の階段のプレートとひも付けることで丘のまちの高低差を実感。地区内の遊歩道ネットワーク活性化の一環として住民参加の「まち歩き」にも取り組む。マップの作成配布、大学との環境調査、ランニングコースの紹介などを通じ、持続可能な郊外住宅地を目指す。

ふらっとステーション・ドリーム

賞 第８回ブロック賞（関東・甲信越）　ＮＰＯ法人

〒245-0067 横浜市戸塚区深谷町 1411-5

HP

郊外団地の空き店舗を借り住民がカフェ運営



都市郊外団地「ドリームハイツ」で、空き店舗を借りて住民が主体的にコミュニティーカフェを運営している。主婦スタッフが調理室で手作りする日替わりランチが人気で、独り暮らしの高齢者らの健康管理を支えている。学び、作品発表や、3カ月に1度配信する「ふらっと通信」など地域情報の収集・発信機能も果たしている。住民らがサービスの担い手にも受け手にもなる交流拠点として、高齢化が加速する地域の課題を共有し、解決に取り組む。

逗子フェアトレードタウンの会

賞 第 11 回優秀賞

〒249-0007 神奈川県逗子市新宿 1-4-17-407

HP

途上国との公正な取引普及へ消費者啓発のイベント開催



買い物という身近な消費行動を見直すことは、途上国との取引が公平でないために生じた貧困や格差をなくす事につながるー。その思いがフェアトレード（FT）普及活動の原動力だ。FT 食材を使った商品を開発し、地域マルシェに出店するほか、フォーラムや展示会、貧困地域の女性の手仕事を紹介するファッションショーなどのイベントも実施する。目指すのは「世界とつながり平和に貢献するまち」。地域を挙げフェアなまちづくりに挑戦する。

鴨居駅周辺まちづくり研究会

賞 第９回優秀賞

〒226-0003 横浜市緑区鴨居 2-19-3

HP

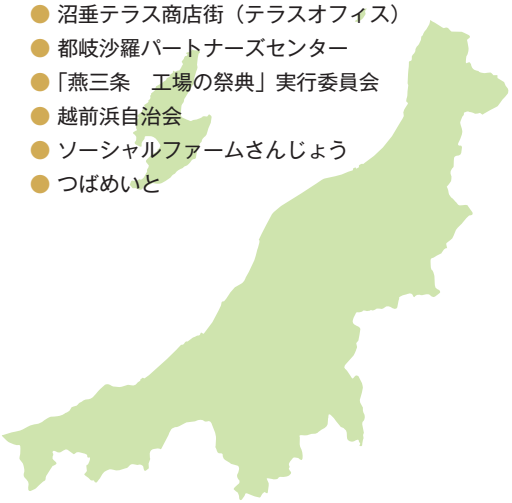
駅の清掃やコンサート開催で交流の場づくり



1962 年に請願駅として開設されたJR横浜線の鴨居駅周辺に住む 78 人が会員。毎週日曜日の駅の清掃や、自由通路を使ったミニコンサートの開催を主体に、行政や自治会など地元の 45 団体と協働し、年 100 回もの活動を続ける。女性が多くなりがちな地域活動団体で、会員の8割が男性で 20 年を迎える団体はかなり珍しい。息の長い活動に表彰状・感謝状の数も2桁になった。後継者育成も着実に続けている。

新　潟

- ネットワーク・フェニックス
- 山古志アルパカ村
- トキどき応援団
- かみえちご山里ファン倶楽部
- 地域おこし
- 沼垂テラス商店街（テラスオフィス）
- 都岐沙羅パートナーズセンター
- 「燕三条　工場の祭典」実行委員会
- 越前浜自治会
- ソーシャルファームさんじょう
- つばめいと



山古志アルパカ村

賞 第２回優秀賞　　株式会社

〒947-0204 新潟県長岡市山古志竹沢乙 169

アンデス原産のアルパカを育て多角的ビジネスに



中越地震の後、米コロラド州から寄贈されたことをきっかけに、アンデス原産のアルパカの飼育が始まった。2011 年 に株式会社を設立し、血統書をつくりながら増やした約 60 頭を飼育。牧場での展示や、毛糸の供給、全国の動物園などへの販売、リースといった多角的なビジネスに成長させた。住民が運営する直売所では野菜なども販売している。小学校にアルパカを長期間貸し出し、子どもたちから「人なつっこい」と親しまれている。

トキどき応援団

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒952-0103 新潟県佐渡市新穂潟上 1101-1 トキ交流会館内

HP

ビオトープでトキと共生、採鳥会や勉強会も開催



トキと共生できるビオトープを実現する活動に市民ら約 130 人が取り組む。トキや佐渡島に関するテーマで勉強会やバードウオッチングを開いている。餌場となるビオトープづくりは企業や大学と連携して取り組んでいる。次世代への普及啓発活動として島内外の子どもたちを対象にした自然学校も運営。島では 430 羽を超える野生のトキが確認され、事務所近くでヒナが誕生するほどに。生息環境整備に取り組む団体でつくる「トキの水辺づくり協議会」のメンバーにもなっている。

ネットワーク・フェニックス

（受賞当時：復興支援ネットワーク・フェニックス）

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 1-5-9

HP

フェニックス花火で中越地震からの復興を推進



2004 年、 長岡市などを襲った新潟県中越地震からの復興を祈願し、毎年8月に開かれる長岡まつり大花火大会のプログラムの一環として、フェニックス花火を打ち上げる。歌手平原綾香さんの曲「Jupiter」に合わせて約3分間、ワイドスターマインなど華やかな光の演出が来場者を魅了する。活動は市民を中心に集められた協賛金などによって支えられている。震災の記憶がない子どもたちへの出前事業を実施。19 年には花火の打ち上げ開始 15 年を記念してシンポジウムを開催した。

沼垂テラス商店街（テラスオフィス）

賞 第６回準大賞　株式会社

〒950-0075 新潟市中央区沼垂東 3-5-22

HP

古い建物を買い取り新たな商店街として再生



昭和の雰囲気を色濃く残す沼垂市場通りに活気を取り戻そうと地元住民が設立。老朽化が著しいシャッター店舗の長屋と土地を買い取り、２０１５年、レトロ調漂う「沼垂テラス商店街」として再生した。街の古さを生かして魅力的な交流の場に変える考え方に多くの若手起業家が共鳴。カフェ、陶芸・ガラス工房、総菜店、雑貨店、古本屋などの個性的な店が並び、ノスタルジックな雰囲気の中で買い物や体験が楽しめる。周辺地区にサテライト店も。１６年には人気のご当地菓子「沼ネコ焼」が誕生した。

都岐沙羅パートナーズセンター

賞 第７回大賞　ＮＰＯ法人

〒958-0261 新潟県村上市猿沢 1238

HP

住民、企業、資源を結び付け地域づくり



豊かな自然や伝統資源に恵まれる新潟県の村上・岩船地域で、住民、企業、行政をつなぎ、得意分野を組み合わせたまちづくりを進める。地域から募った事業を公開審査して資金支援をする試みなどを通じ、縄づくりや、まゆ玉の工芸品をビジネス化するなど地元の資源を生かしたユニークなビジネスが生まれた。若者がアイデアを持ち寄る場となるカフェづくりも。少子高齢化が進む地域でまちづくり協議会などを支援、交通の確保など課題の解決を目指す。

かみえちご山里ファン倶楽部

賞 第４回特別賞　ＮＰＯ法人

〒949-1734 新潟県上越市増沢 962-1

HP

住民と県外出身者が協力、地域づくり戦略を練る



上越市で、山あいの集落の伝統と暮らしを守ろうと奮闘を続けている。水車づくりなど地域に残る技術をリストアップし映像などで記録。途絶えがちになった行事の復活も進めてきた。中心は県内外からやって来たスタッフ。高齢者の多い住民と協力して地域の元気を高める。廃校を拠点に環境教育の学校も運営。稲作を学ぶ〝棚田学校〟や古民家を改装したレストランも開き、活動は広がる。交流人口は年間約1万人に及んでいる。

地域おこし

（受賞当時：十日町市地域おこし実行委員会）

賞 第５回特別賞　ＮＰＯ法人

〒949-8613 新潟県十日町市中条庚 939-2 やまのまなびや

HP

地震で危機迎えた集落を活性化、若い世代に継承



中越地震で被災した十日町市の池谷集落で、ボランティアの支援を受けて活動に取り組む。コメの販売や研修生の受け入れなどを進めており、家族で移住する人も現れた。農作業体験交流イベントなどで訪れる人は1000人を超える年もあり、後継者向け住宅やライスセンター（米の乾燥施設）も建設した。一時は１３人にまで減った集落だが、農業の組織化で、高齢者から若い世代への農地の引き継ぎが徐々に進んでいる。

ソーシャルファームさんじょう

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒955-0141 新潟県三条市荒沢 1198-3

HP

「半農半バスケット」で子ども指導、プロ競技も



三条市の緑濃い下田地域で、農業を営みバスケットもプレーする「半農半バスケ」に各地の若者が集い、３人制プロリーグにチームを送る。農業・スポーツ・交流を柱とした「人づくり」の郷づくりを進め、あらゆるスポーツの選手がここで子どもたちを指導、セカンドキャリアを送る構想を描く。目標はスポーツ合宿の聖地。小中学校での地域活性化や新しい球技の授業、コロナ禍で自炊が増えた人向けのレシピ紹介、ペットと楽しむドッグラン開設など前向きに取り組む。

「燕三条 工場の祭典」実行委員会

賞 第８回優秀賞

〒955-0092 新潟県三条市須頃 1-17（公財）燕三条地場産業振興センター企画推進課

HP

中小企業が集まる工場を開放し、見学できるイベントを開催



ⓒ「燕三条 工場の祭典」実行委員会

新潟県の燕三条地域は中小企業が集まる日本有数のものづくりのまちだ。打刃物や洋食器などの企業が工場（こうば）を開放し、見学できるイベント「燕三条 工場の祭典」を開く。祭典は産業観光の目玉であるだけでなく、企業間の取引につながっている。地域課題の人材、後継者不足に対し、地元企業の就職に結びつく一定の効果も挙げている。参加企業は年々増え、対象地域も拡大、農業や、購入できる場にも焦点を当てるなど取り組みは広がっている。

つばめいと

賞 第 11 回準大賞　　公益社団法人

〒959-1257 新潟県燕市宮町5番8号

HP

金属加工産地で中小企業と全国の大学生つなぎ交流



国内有数の金属加工産地である新潟県燕市で、「インターンシップ」を通じて地元の中小企業と全国の大学生をつなぐコーディネーターとして活動する。独自のプログラムや、駅近の商店街に遠方の学生がホテル代などを気にせずに宿泊でき、交流の場にもなる施設を設けている。新型コロナウイルス感染拡大に伴う春の緊急事態宣言発令後、古里を離れ、帰省を自粛する首都圏などの学生を地元産品で応援する取り組みをいち早く始めた。

越前浜自治会

賞 第９回優秀賞

〒953-0012 新潟市西蒲区越前浜 5367

HP

共有地や空き地に宅地を整備、移住者受け入れ



新潟市郊外の農村で、2009 年から県内外の移住者を増やそうと息の長い自治会活動を続けている。大きなきっかけは地元小学校が統廃合の危機にあったこと。移住者受け入れのため、空き家を活用したり、子育て世代向けの宅地分譲を行ったりした。この 10 年で約 75 世帯が移住。子どもの数も 20 人ほど増え、学校は守られた。保育園も増えている。取り組みが評価され、16 年に市の「移住モデル地区」の第1号に指定された。

山　梨

- 日本上流文化圏研究所
- 富士山河口湖音楽祭実行委員会
- 山梨ガバメント協会
- 身延町商工会
- かつぬま朝市会
- ひばりが丘高校うどん部
- ワインツーリズム
- えがおつなげて
- グレイス・ロード
- 小さな村総合研究所



富士山河口湖音楽祭実行委員会

賞 第２回特別賞

〒401-0301 山梨県富士河口湖町船津 5577

HP

野外ホールで音楽祭、一流の演奏、子どもも参加



旧河口湖町が建設した3000人収容の野外音楽ホールを活用しようと2002年から始まった。世界的指揮者、佐渡裕さんが協力、一流アーティストが出演し、ボランティアの住民が運営に携わっている。ホール以外にも美術館や電車内、富士山5合目などでも演奏会を開き、期間中の観客は2万人を超えることも。中学校の吹奏楽部員によるバンド演奏など「地域発」プログラムがそろっているのが特色だ。指揮を学ぶ教室、小学生の音楽授業、地元のショッピングセンターからホールまでのパレード演奏会など、街全体が音楽であふれる。

山梨ガバメント協会

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒405-0018 山梨市上神内川 1259-2

都市住民を招いて山梨アピール、２地域居住へ



秩父多摩甲斐国立公園もある山梨県で2地域居住による田舎暮らしやU、Iターンの促進に取り組む。メンバーは観光ブドウ園経営者や果樹の専業農家、学生ら約30人。都会の人たちが参加する「田舎暮らしちょこっと体験ツアー」では農作業の手伝いのほか、地元の人や移住者から話を聞く場も設けている。農業に関わる女性のコンテストなども開催。シェアオフィスの運営も行っている。最近はキャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」のブームに合わせた企画、イベントにも力を入れる。

日本上流文化圏研究所

賞 第１回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒409-2727 山梨県早川町薬袋430

HP

南アルプスの小さな町を住民、移住者が活性化



小さな町で、明日を探る試みが続く。町役場の一部署として始まり、任意団体を経て、2006年にNPO法人となった。住民と協力し、早川町への暮らしはじめから、集落の維持、さらに山の暮らしの担い手育成まで、包括的にサポートすべく多彩な取り組みが広がる。地域や文化を学ぶ講座やワークショップなども開催している。

ひばりが丘高校うどん部

賞 第７回ブロック賞（関東・甲信越）

〒403-0032 山梨県富士吉田市上吉田東 4-3-1

HP

「吉田のうどん」の食文化情報を発信



機織りを担う女性に代わり、力の強い男性が打ったため硬い麺になったとされる山梨県富士吉田市の「吉田のうどん」。市内に５０店以上ある食文化をフリーペーパーやホームページを通じて発信。県内外のイベントに出店し、自分たちが商品化した麺を販売、振る舞うなどしている。地域の店舗を借りてうどんを提供することも。人材を育むため、うどん打ち体験講座も開く。そんな「うどん部の野望」は知名度で讃岐うどんを追い抜くこと。月額制のサブスクリプションサービスや、子ども食堂運営にも取り組んでいる。

身延町商工会

賞 第５回優秀賞

〒409-2531 山梨県身延町梅平 2483-36

HP

名所ぞろいの地の食材使い「身延どんぶり街道」



日蓮宗総本山の身延山久遠寺や下部温泉、世界文化遺産富士山の構成資産の本栖湖など、名所が多い地域で、特産品を使い「身延どんぶり街道」を展開する。当地は、キャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」の〝聖地巡礼〟でも人気だ。湯葉、シイタケ、大豆、ワカサギなど地元にちなんだ丼、さらに定番の丼ものを和洋中の十数点が提供、食を通じた活性化を図る。

ワインツーリズム

賞 第８回特別賞　　一般社団法人

〒400-0031 甲府市丸の内 1-16-13 ヤマサビル１Ｆ

HP

地場産業を地域体験コンテンツに「ワインツーリズム®」



紅葉したブドウ畑が広がる風景に点在するワイナリーを巡り、育んだ風土に触れながら食と文化を丸ごと味わう「ワインツーリズム」。勝沼をはじめワイナリーのある地域を回るバスを走らせ、参加者が作り手との交流を楽しむイベントの定着は、地元では当たり前だと思っていた環境を貴重な地域資源として見直すことにつながり、ワイナリー側の意識も変え、産地全体でもてなす機運を醸成した。活動範囲は山形、岩手にも拡大。コロナ禍ではネット動画サイトも使い、ツーリズムの魅力を伝えた。

かつぬま朝市会

賞 第６回優秀賞

〒409-1315 山梨県甲州市勝沼町等々力 2328-8

HP

毎月の朝市を１９年余り続け地域に活気呼ぶ



毎月最初の日曜日、山梨県甲州市塩山の公園は、お祭りのようなにぎわいを見せる。「かつぬま朝市」は１０年以上前、地元の男性らが3店舗だけの小さな市を開いたのが始まりだ。市町村合併や人口減少、高齢化が進む中、「顔が見える」地域の関係がなくなる前に、人々が集う場所づくりを目指す。野菜や花、クッキーにおもちゃ、包丁研ぎに楽器演奏―。敷居が低く「何でもあり」の空間は、単なるモノのやりとりに終わらず、弾む会話が人と人をつなぎ、地域に元気を与えている。

小さな村総合研究所

賞 第 11 回ブロック賞（関東・甲信越）　ＮＰＯ法人

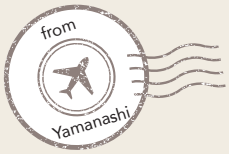
〒409-0300 山梨県丹波山村966番地

HP

村民わずか 536 人!関東で一番小さな村からの小さな試み



山梨県丹波山村にあるNPO 法人のモットーは「小さな村だからこそできること」。自家用車を利用した有償運送「村タク」は、高齢者だけでなく観光客の移動をサポートしミニ観光案内所の役割も果たす。ドライバー登録は 50 名以上。村民自らが地域づくりにも加わるコミュニティーとなっている。2016 年 5 月、全国7地域で最も人口の少ない7つの村の連携にも取り組み「小さな村ｇ7サミット」を開催。2020 年 4 月、JR 蒲田駅ビルに首都圏拠点オフィスと特産品ショップ「小さな村ｇ7 TOKYO SHOP」をオープンした。





武田信玄ゆかりの甲斐善光寺　〈提供：ＡＮＡ　撮影：ハリー中西〉

えがおつなげて

賞 第９回選考委員長賞　　ＮＰＯ法人

〒408-0313 山梨県北杜市白州町横手 2910-2

HP

企業と連携し耕作放棄地を農地再生、人材も育成



2001 年に設立、不動産や食品などの大企業と連携して農地を開墾、再生し、農作物を栽培して収穫する「企業ファーム」に取り組む。企業は社員研修や社内食堂の食材としての活用、顧客の体験ツアー、商品開発などの場として活用している。地元の蔵元で日本酒を醸造する取り組みも。都市と農村を結ぶ事業モデルを全国へ広げるため、交流をコーディネートできる人材を育成する研修会を各地で開いている。

グレイス・ロード

賞 第 10 回優秀賞　　一般社団法人

〒400-0857 甲府市幸町 9-23 山梨回復支援センタービル２階

HP

ギャンブル依存回復を目指す人々が地域活動参加



ギャンブル依存回復支援施設の入所者が、回復プログラムに取り組む傍ら、自治会の祭りや運動会、清掃など地域活動に参加している。高齢化で人口減が進む地域にとって、入所者は活力をもたらす存在になっている。国内でのカジノ解禁の動きの中、回復支援施設の必要性が高まっているが、こうした取り組みは「山梨モデル」として注目を集めている。2020 年7月からはネットゲーム依存症の支援を開始。働きながら参加できる夜間プログラムも始めた。

長　野

- 妻籠を愛する会
- 大鹿歌舞伎保存会
- 匠の町しもすわ・あきないプロジェクト
- 庄内ほたると水辺の会
- いいだ人形劇フェスタ実行委員会
- 信州富士見高原ファーム
- WAKUWAKU やまのうち
- 小滝プラス
- 長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合
- Hakuba SDGs Lab（白馬 SDGs ラボ）



大鹿歌舞伎保存会

賞 第２回優秀賞

〒399-3502 長野県大鹿村大河原 391-2 大鹿村教育委員会

HP

300 年の伝統ある地芝居で地域振興、映画にも



300 年の伝統と独特の演目があり、2017 年に国の重要無形民俗文化財に指定された「大鹿歌舞伎」の保存、継承を担う。活動の柱は子どもたちへの伝承と春と秋の定期公演だ。地元の中学校では授業の一環として取り組んでいる。1回の公演で千人以上が訪れる。俳優・原田芳雄さんの遺作映画「大鹿村騒動記」に全面協力、エキストラとして 850 人の住民が出演した。全国に村の魅力が発信された。

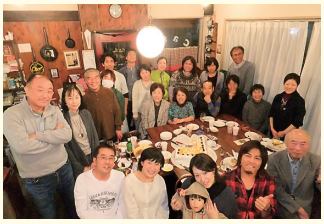
匠の町しもすわ・あきないプロジェクト

賞 第３回ブロック賞（関東・甲信越）　ＮＰＯ法人

〒393-0061 長野県下諏訪町御田町下 3209-1

HP

商店街空き店舗に職人の工房を誘致、起業も支援



約 30 店が並ぶ商店街で、ものづくりに携わる若者を呼び込み、空き店舗で起業してもらおうと取り組む。約 20 年間に延べ 30 店以上が開業、空き店舗はなくなった。商店のおかみさんらが、おかずを差し入れたり、おせっかいを焼く細かな配慮が魅力。こだわり素材の高級スピーカーや木製自転車などユニークな店が集まる。第2世代、第3世代、さらにそれ以上の 3.5 世代が登場。ゲストハウス、コミュニティースペース開設など新しい動きをするグループがフラットにつながる。

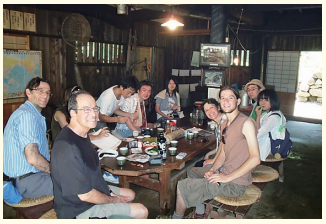
妻籠を愛する会

賞 第１回優秀賞　公益財団法人

〒399-5302 長野県南木曽町吾妻 2159-2

HP

住民主体で中山道宿場町の歴史的景観を保全



旧中山道の宿場、妻籠宿がある地区の住民でつくる財団法人。景観保全と地域振興に取り組もうと約 230 戸の全世帯が加入、2017 年に設立 50 年を祝った。地区内の財産を「売らない、貸さない、こわさない」の3原則を盛り込んだ住民憲章を制定。江戸時代を再現する行列のほか、冬には住民の勉強会を開催、有識者を呼び文化財や集落保存の在り方など幅広い分野を学ぶ。街道の植栽や花木の手入れ、説明板の設置にも取り組む。欧米の訪問客からは「タイムスリップしたようで、日本らしい日本を体験できる」と人気だ。

信州富士見高原ファーム

賞 第７回優秀賞

〒399-0101 長野県富士見町境 7823-3

HP

ニホンジカやイノシシを駆除し、ジビエとして販売



農作物を食べて農家に多額の被害をもたらす八ケ岳連峰のニホンジカやイノシシを駆除し、ジビエとして販売している。農林水産省の国産ジビエ認証を取得。料理講座や解体講習のほか、調理学校の生徒への講習も。小売店や都内の複数のフランス料理店にも卸し、ネット販売も手掛けている。ジビエを大切な資源と捉え、皮革も装飾品などに活用。肉の無駄を無くすため、山中で冷凍処理可能な車両の開発にも参画して普及を図る。ロッテリアなど外食チェーンへの供給も。こうした活動にひかれ、地元猟友会に入る若者も増えている。

庄内ほたると水辺の会

賞 第４回優秀賞

〒390-0311 長野県松本市水汲 25-6

HP

豊かな自然の蛍水路の管理と市民の輪



都市開発に伴い消失するはずのヘイケボタルを生息環境丸ごと、新たな水路予定地に移設保全させた。「ホタルもすめる良い自然」を目指し、豊かな自然が残るよう配慮した水路管理を実施。その後「松本市の生物多様性保全活動のモデル地区」に認定され、学習の場としても高く評価される。良い自然を残すため、蛍水路管理だけでなく、蛍の学習会や観察会の他、近隣河川や野山でも生き物観察会などを実施し、市民、特に未来を見据えて子どもたちへの教育活動にも力を入れている。SDGsの普及とともに期待が高まっており、活動に一層熱が入っている。

WAKUWAKU やまのうち

賞 第８回優秀賞　　株式会社

〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町平穏 2997-4

HP

温泉の空き店舗を再生しレストランやカフェ運営



信州・湯田中温泉の空き店舗を再生し、ビアバー・レストラン、カフェ、ホステルを運営するまちづくり会社。地方銀行である八十二銀行がリードし、地元住民を主体に設立。関連の不動産会社がファンドの投融資を受けて建物の所有・賃借、改修に取り組む。施設は他の企業にもサブリース（転貸）するビジネスモデルを確立。既存の観光資源を生かしつつ、外国人を含む誘客を見据え、温泉街に欠けていた魅力を創出。若者を積極的に取り込み、地域の担い手を育てている。

いいだ人形劇フェスタ実行委員会

賞 第６回ブロック賞（関東・甲信越）

〒395-0051 長野県飯田市高羽町 5-5-1 飯田文化会館内

HP

国内最大規模の人形劇の祭典を企画・運営



長野県飯田市を主会場に開く国内最大規模の人形劇の祭典。1979年に前身の「人形劇カーニバル飯田」がスタートし、99年に現在の形になった。海外からも劇人が集い、準備段階から開催期間中まで市民が運営に携わる。幼児によるウインドー人形劇や、中高生らのボランティア参加もある。人形劇のワークショップ、バックステージ見学を通じた演者と観客の交流や、障害者や高齢者が安心して観劇できるよう取り組みを広げる。リニア中央新幹線開業も見据え、飯田発の文化の核として期待が大きい。

Hakuba SDGs Lab（白馬SDGsラボ）

賞 第 11 回優秀賞

〒399-9211 長野県白馬村神城4525−1

HP

スキー観光地の高校生がSDGs活動、村ぐるみで展開



全国有数のスキー観光地、北安曇郡白馬村で2019年に設立。北アルプス山麓の豊かな自然環境を将来に引き継ぎ、持続可能な観光地として発展を続けていくために、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）に着目。メンバーの白馬高校生の活動を機に村は気候非常事態宣言を発令。村内のリフト運行業者などが相次いでSDGsへの取り組みを発表するなど、白馬村内では環境問題やSDGsに対する意識が高まっている。





戸隠そば 〈提供：(公財)ながの観光コンベンションビューロー〉

小滝プラス

賞 第９回優秀賞　　合同会社

〒389-2703 長野県栄村堺 6114-1

HP

特産米をボトルに詰めブランド化、被災集落を再建へ



2011 年、東日本大震災翌日に起きた長野県北部地震で、栄村は全半壊 202 棟の被害を受け、村の存続すら危ぶまれた。再生を目指し、千曲川沿いの小滝地区で集落の全戸が出資して立ち上げた合同会社だ。特産「小滝米」のブランド化を目指し、東京・銀座の高級子ども服店「ギンザのサヱグサ」と連携、ワインボトル入りの米を販売する。古民家で地区外の人々と交流したり、SNSで情報発信も。最近は林を整備しながらヤマツツジを植栽するなど「誰もがいいな、と思える里山づくり」に取り組んでいる。

長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合

賞 第 10 回優秀賞

〒391-0001 長野県茅野市ちの 7017

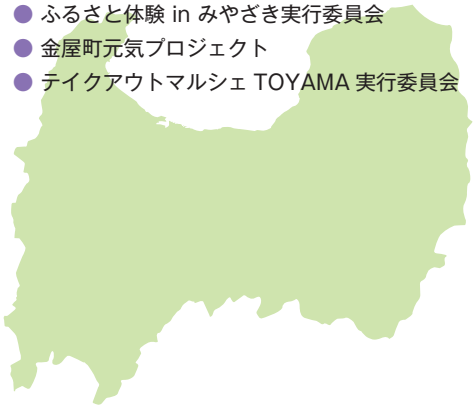
機械式時計技術者に独自資格、高級腕時計も発売



長野県の伝統、精密機械産業の象徴とも言える時計産業では、クオーツ式の普及に伴い機械式を修理できる技術者が減少した。これに危機感を持ち２００４年、独自資格「信州匠の時計修理士」を創設した。毎年、検定を行い、知識や技能の習得に役立つ講座も開設。全国の若手技術者が集まる場となっており、最近は移住外国人の姿も見られるようになった。オリジナルの高級腕時計を発売し、時計産業のPRやブランド力向上に寄与している。

富山

- 瑞龍寺ライトアップ実行委員会
- スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会
- 福岡町つくりもんまつり実行委員会
- 福野夜高祭連絡協議会
- でんき宇奈月
- 魚津祭組 よっしゃ来い!! CHOUROKU まつり
- こば
- ＴＯＧＡ天空トレイル大会実行委員会
- ふるさと体験 in みやざき実行委員会
- 金屋町元気プロジェクト
- テイクアウトマルシェ TOYAMA 実行委員会



スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会

賞 第２回優秀賞

〒939-1521 富山県南砺市苗島 4832 番地1

HP

地方から世界に発信する大規模音楽イベント開催



毎年8月、南砺市で開かれる日本最大規模のワールド・ミュージック・フェスティバル。3日間で1万人が来場する。坂本九さんが歌った「上を向いて歩こう」の英語タイトルにちなみ、新たな文化を世界に発信しようとの思いを込めた。ボランティアスタッフが企画、運営を担当、アーティストは子どもたちの指導にも当たる。市民参加のパレードも盛り上がる。東京、名古屋、沖縄でもイベントを開催してきた。2年ぶりの2021年は有観客のコンサートやワークショップ、12時間を超える無料生配信を行い、会場でも自宅でも楽しめるプログラムを提供した。

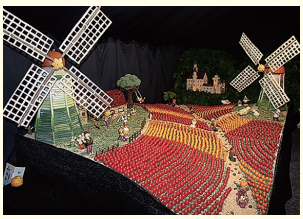
福岡町つくりもんまつり実行委員会

賞 第３回優秀賞

〒939-0116 富山県高岡市福岡町下蓑355番地2

HP

野菜で作った人形を飾る伝統の祭りを守る



毎年9月の2日間、秋の収穫を祝い、五穀豊穣に感謝する「福岡町つくりもんまつり」は300年余りの歴史を持つ。収穫したカボチャやウリなどの野菜や果物を使って「つくりもん」と呼ばれる人形を作り、各所に飾る。動物や人物、風景などだけでなく、その時代の出来事を反映した飾りがお目見えし、毎年10万人以上が訪れる。実行委員会は市や観光協会、地域の自治会などで組織され、つくりもんを審査するコンクールが毎年、開催されている。

瑞龍寺ライトアップ実行委員会

賞 第１回優秀賞

〒933-0806 富山県高岡市赤祖父 598 協和総商内

HP

国宝の寺院をライトアップ、観光イベントを開催



4月末に国宝瑞龍寺をライトアップし、地元産品を売り出す門前市を開く。3日間で1万5000人が訪れる。市内で5月1日に開かれ、多くの人でにぎわう高岡御車山祭との相乗効果も狙っている。地元の青年会議所と企業が企画したのが始まり。LED照明を用い、音楽に合わせて壁に動画を映し出すプロジェクションマッピングが人気で規模を拡大。写真展や絵画展も実施している。夏には別の団体によるライトアップもあり、観光客だけでなく、住民が地域の歴史や文化を再認識するきっかけになっている。

魚津祭組 よっしゃ来い !! CHOUROKUまつり
（受賞当時：よっしゃ来い !! CHOUROKU まつり実行委員会）

賞 第６回優秀賞

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂 1-12-18 魚津商工会議所内

HP

ダンスやグルメの祭りを開き活性化を目指す



魚津商工会議所青年部、新川青年会議所など魚津市内の青年有志でつくる団体で、毎年5月に「よっしゃ来い !! CHOUROKU まつり」を開催している。魚津駅前通りを会場に、地元伝統の踊りを現代風にアレンジしたダンスのコンテストを繰り広げる。活力がみなぎる新しいイベントを生み出し、地域活性化につなげようと２０１３年にスタートさせた。大勢の観客が訪れ、認知度は高まっている。

福野夜高祭連絡協議会

賞 第４回優秀賞

〒939-1507 富山県南砺市二日町 1545-13 福野中部交流センター内

HP

360 年続く祭りを守り、被災地や海外でも活動



毎年春、南砺市福野でまちの繁栄と安寧を祈って開催される神事、福野夜高祭を守る。1652 年に大火で市街が焼失し、伊勢神宮の御分霊を守り神にお迎えした際、多くの手持ち行燈や松明で出迎えたことが由来とされる。優雅な夜高行燈の練り回しは 360 年にわたって伝承され、県の無形民俗文化財になった。2011 年にはフランスに招かれ披露、東日本大震災後は福島県南相馬市で支援活動をした。日本ユネスコ協会の「プロジェクト未来遺産」に選ばれている。

こば

賞 第７回優秀賞　　NPO 法人

〒939-2232 富山市小羽 279

HP

閉校した小学校の空き校舎を住民主体で維持管理



児童数減少を理由に閉校した旧富山市小羽小学校の空き校舎を維持管理する住民主体の団体。趣ある木造校舎で自然体験イベントやカフェ、カルチャー教室など多彩な企画を繰り広げている。ノウハウを東日本大震災で被災し、人口減少のため閉校した宮城県気仙沼市にある旧小学校舎の活用を目指す住民グループにも提供。健康麻雀などによる高齢者の予防介護、不登校生との居場所や音楽スペースづくりなどの新たな取り組みにも関わっている。

でんき宇奈月
（受賞当時：でんき宇奈月プロジェクト）

賞 第５回ブロック賞（東海・北陸）　一般社団法人

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 633-1

HP

電気バス、小水力発電、バイオマスを観光に活用



北陸有数の温泉地、宇奈月温泉を、スイスの観光地ツェルマットをモデルとして環境に配慮したリゾートにしようと産学官が結成した。２０１３年から本格運行している１０人乗り電気バス「EMU」は定期的に温泉街を周回運転する。ルート内は乗り降り自由で無料。小水力発電を行い電気バスの充電に利用。山林の間伐材、黒部川の流木を木質バイオマスとして熱利用するなど、エネルギーの地産地消も目指す。

金屋町元気プロジェクト

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒933-0841 富山県高岡市金屋町 1-5　高岡市鋳物資料館

HP

石畳、町家の地区への定住支援、移住体験施設も



石畳の通りに千本格子の町家が並ぶ高岡市金屋町。2012年に国重要伝統的建造物群保存地区に選定されたが、近年は人口が減っている中、町に人を呼び戻すべく住民が主体となって設立した。定住希望者の情報を共有・支援するとともに、町の魅力や空き家情報をSNS等で発信している。18年5月には、空き家を移住体験施設に改装した。外国人を集めた意見交換会を企画するなど、インバウンド需要にも対応している。また今年度はSDGsの一端として、安心して暮らせる生活支援活動事業の立ち上げを検討している。

ＴＯＧＡ天空トレイル大会実行委員会

賞 第８回優秀賞

〒939-2507 富山県南砺市利賀村 178-1 ㈱野原組内

HP

廃止スキー場に代わる振興策に山野駆けるイベント



廃止されたスキー場に代わる過疎振興策として、山野を駆けるトレイルランを開いている。多くの住民が沿道で声援を送ったり、休憩場所で郷土料理を提供したりする地域ぐるみのもてなしが評判を呼んでいる。2017年に大規模な地滑りがあり、開催が危ぶまれたもののコースの安全性を高めるなどの工夫をして実施、過去最高の出場者を呼び込み、住民の励みとなった。以来、毎回850人以上が出走する国内有数の大会に育っている。

テイクアウトマルシェTOYAMA実行委員会

賞 第 11 回優秀賞

〒930-0083 富山市総曲輪 2-8-6　８番館ビル 1F（FUNKY's 内）

HP

コロナ禍にドライブスルー形式の屋外市を連日開催



コロナ禍で飲食店の多くが経営不振に見舞われる中、富山市内の経営者有志が結束。今年4月からほぼ毎日、屋外テントに弁当や惣菜を持ち寄り、ドライブスルー形式で販売する仕組みをつくった。「3密」を回避しつつプロの味を楽しめる試みは、自粛生活でふさぎがちな消費者にも歓迎された。活動は収益以上に、同業者の絆づくりという成果をもたらした。同様の取り組みは富山県内をはじめ、全国各地に広がった。

ふるさと体験 in みやざき実行委員会

賞 第９回優秀賞

〒939-0703 富山県朝日町宮崎 1234

小中学生の漁業などの体験旅行を柱に各地と交流



人口減少と高齢化が進む漁村で、ありのままの「暮らし」を県内外の子どもたちや観光客が体験する交流体験を受け入れている。初めはボランティアとしての活動だったが、体験メニューの企画を増やしながらツアー商品化も行い、リピーター増につなげている。体験交流を6次産業として楽しみながら、住民自身が「地域の宝」を見直し、ファンづくりにつなげる好循環が生まれた。コロナ禍では富山県内のホテルと協力、釣りや魚をさばく体験を企画している。

石川



- かなざわ・まち博開催委員会
- JAPAN TENT 開催委員会
- 春蘭の里実行委員会
- 神子の里
- 大野こまちなみ研究所
- 湯涌ぼんぼり祭り実行委員会
- シラミネ大学
- のとじま島おこし団
- 七尾市たかしな地区活性化協議会
- NPO みんなの畑の会

JAPAN TENT 開催委員会

賞 第２回優秀賞

〒920-0961 金沢市香林坊１丁目２番 24 号 香林坊プラザ６階

HP

留学生を受け入れ、伝統文化に触れる機会を提供



毎年8月、石川県内の全市町を会場に留学生を招いて「JAPAN TENT」を開催している。国内各地で留学生活を送る外国人学生約 300 人が集い、一般家庭にホームステイしながら輪島塗や九谷焼、茶道、座禅など地域に根付く文化を体験する。2019 年で 32 回となった。受け入れ留学生は世界 168 の国と地域から1万人を超えた。留学生によるトークフォーラムも開催され、一部の学生は「JAPAN TENT 大使」となり、交流を続けている。

春蘭の里実行委員会

賞 第３回ブロック賞（東海・北陸）

〒927-0322 石川県能登町宮地 16-9

HP

山村生活を体験する農家民宿運営、内外客に人気



若者が減る現状を打破しようと、７人のメンバーでスタート。民宿事業を柱に据え、輪島塗のお膳を使うことや、料理に化学調味料を使わず地元の食材を生かすことなどを申し合わせた。ゆったりとくつろげる雰囲気が、内外から人を引きつける。廃校を改装した宿泊施設もオープン、宿泊客は海外からも訪れるようになり年間で1万人を超えた。行政の諸制度も活用、事業を軌道に乗せて若者が働けるようにし「月収40万円。若者が戻ってきて赤ん坊の泣き声が聞こえる地域」にすることが目標。

かなざわ・まち博開催委員会

（受賞当時：かなざわ・まち博実行委員会）

賞 第１回優秀賞

〒920-0919 金沢市南町 2-1

HP

各地区を博覧会場に見立て、文化・歴史イベント



毎年夏、金沢の各地区を博覧会場に見立て、魅力を紹介するかなざわ・まち博を開催する。会場を巡る「金沢散歩学」では歴史や伝統文化などを体感できる。非公開の名所旧跡や歴史的建造物などを見ることができる「限定公開」は、尾山神社の神門や成巽閣のお茶席などが対象。大学研究者のほか、老舗の店主らが講師になる「屋台大学」も人気だ。講座など事前申し込みが必要なものもある。子ども向けの体験講座「こどもまち博」の充実を図る。コロナ禍ではオンライン講座も開催、自宅からも参加できるよう工夫した。

湯涌ぼんぼり祭り実行委員会

賞 第７回優秀賞

〒920-1123 金沢市湯涌町イ１番地

HP

地元の住民や行政、企業がアニメの聖地でイベント



「金沢の奥座敷」湯涌温泉がモデルのアニメの一場面を再現しようと、2011年に祭りを開催、全国のコアなファンを引き寄せた。「アニメの聖地」イベントは住民や行政、企業が一体となった地域の祭礼へと発展。アニメ放映終了後も参加数は増え続け、歴史ある温泉街に新風を吹き込む。イベントを手伝った若者が、その後も温泉街活性化の助っ人になるなど人の輪も広がっている。今後は環境の変化に対応しつつ、シンカ（進化、深化、真価）を目指す。



獅子吼高原パラグライダー〈写真提供：石川県観光連盟〉

神子の里

賞 第４回優秀賞　　株式会社

〒925-0608 石川県羽咋市神子原町は 190

HP

お米のブランディングから、地域の拠点づくり事業



ローマ教皇に献上された「神子原米」も販売開始から17年。順調に販売実績を重ね、年間600俵程がインターネットや年間予約、店頭販売で完売している。2019年からは地元酒蔵と共同で酒米の契約栽培や自社ブランド純米酒「神子 -Son of God-」や純米酢「神子酢（みこす）」なども開発し、農産物の付加価値を高めつつ『地域ブランド再開発』に取り掛かっている。担い手不足にあえぐ山間地域、耕作を維持し生活を豊かにする目的での「見守り・配達・配食」「観光商品開発」も並行課題とし、空き農家を活用したワーケーション向け「山村スティ整備」も始まっている。

大野こまちなみ研究所

賞 第５回優秀賞

〒920-0331 金沢市大野町 1-53 直源醤油株式会社

HP

しょうゆ蔵や町屋を生かしたイベントを企画



北前船としょうゆ醸造で栄えた歴史ある港町ににぎわいを取り戻そうと、20～50代の写真家、工芸家、デザイナー、農家らが集まり、築100年の町家を拠点に活動している。しょうゆ蔵や町家を生かした年2回のイベント「こまちなみなーと」では陶芸、ガラス工芸、木工などの体験ができる。まちぐるみで朝顔と絆を育てる「明後日朝顔プロジェクト」も実施。整備が進むレンタサイクルを利用したイベントづくりにも今後取り組む。地域資産の魅力再発見と担い手育成を目指す。

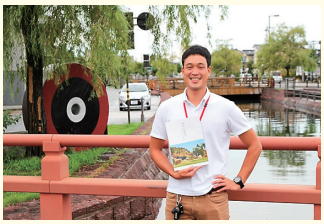
七尾市たかしな地区活性化協議会

賞 第 10 回優秀賞

〒926-0836 石川県七尾市町屋町ホ部 55 番地

HP

習わしをまとめた「集落の教科書」で移住促進



人口減少に歯止めをかけようと2014年から空き家のデータベース化や移住者受け入れ、郷土料理の普及、廃校舎を利用したイベントなどを行ってきた。地元行事や風習をまとめて心のハードルを下げる「集落の教科書」も作製、移住者が増え始めている。コロナ禍ではたかしな地区独自の「緊急事態宣言」を発表、予防対策を呼び掛けた。地区内の企業が提供したマスクも配布。中止となった祭りに代わり、ドライブインシアターを開催するなど自由な発想で地域を元気にしている。

シラミネ大学

賞 第8回ブロック賞（東海・北陸）

〒920-2501 石川県白山市白峰ロ 104

Uターンの若者が生活文化を学び催しを自主企画



霊峰・白山の山懐に抱かれる白山市白峰地区（重要伝統的建造物群保存地区）にUターンした20～30代の若者十数人が、古来の生活文化を学び、催しを自主企画、過疎の一途だった集落に活気をもたらしている。地区のPR動画作成や外国人モニターツアーなどを通して交流人口拡大に努め、2017年には白山開山1300年の節目に伝統の「かんこ踊り」を1300人で踊るイベントに尽力した。白峰林泊推進協議会の事務局も担い、民泊による旅行者誘致にも力を入れている。

NPO みんなの畑の会

賞 第 11 回優秀賞

〒921-8132 金沢市しじま台 1-10-7

HP

住民が里山保全と市民農園、伐採竹でビニールハウスも



金沢市南部に位置する四十万地区の住民有志が「みんなの畑の会」を設立し、里山保全に取り組んでいる。休耕田を活用した市民農園で市内外から参加者を呼び込んでいるほか、独自に考案した、伐採竹を使ったビニールハウスは、里山整備で大量発生する不要竹の有効活用方法として注目を集めている。会では豊かな自然環境を次世代に伝える取り組みに一段と力を入れていく考えだ。

のとじま島おこし団

（受賞当時：能登島観光協会青年部）

賞 第9回優秀賞

〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町 118-1-1 島宿せがわ内

HP

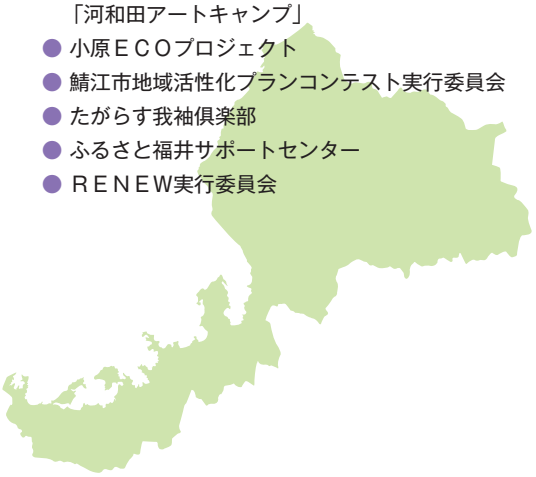
ユニークな体験旅行「島流し」で能登島ＰＲ



能登半島の東に浮かぶ能登島の青年らが結成。江戸時代の流刑地だった歴史を逆手に島の暮らしを都市の人々が体験する「島流しツアー」を四半期に1度実施したところ、大勢の人が訪れた。祭礼や農作業に加わり、新鮮な魚介を味わいながら能登の人情に触れるツアーはリピーターを生み、移住者を呼び込むなど成果を挙げている。コロナ禍の2020年には「オンライン島流し」としてサザエ、ネギ、みそなどの食材を発送し、オンラインで料理をレクチャーして楽しんだり、伝統の雨乞い太鼓のたたき方を教えたりする企画を開催。

福　井

- 三国湊魅力づくりＰＪ
- 水辺と生き物を守る農家と市民の会
- 若狭熊川宿まちづくり特別委員会
- 丸岡文化財団
- 武生国際音楽祭推進会議
- 学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」
- 小原ＥＣＯプロジェクト
- 鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会
- たがらす我袖倶楽部
- ふるさと福井サポートセンター
- ＲＥＮＥＷ実行委員会



水辺と生き物を守る農家と市民の会

賞 第２回特別賞

〒915-1204 福井県越前市都辺町 36-84 しらやまいこい館内

HP

アベサンショウウオやコウノトリがすむ生態系守る



豊かな里山に囲まれた越前市の白山・坂口地区で、アベサンショウウオなど希少生物が生息する環境を守ろうと、農家や住民、行政や企業関係者など約６０人が参加している。自然環境整備に加えて無農薬栽培や魚道の設置などの成果が表れ、複数年にわたりコウノトリが産卵、2020年には巣立ちを迎えた。地区外の住民と田んぼファンクラブを結成し、無農薬のコメづくり体験を通して環境保全の必要性を知ってもらい、農家と交流を深める機会もつくっている。

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

賞 第３回優秀賞

〒919-1532 福井県若狭町熊川 30-4-2 宿場館

HP

宿場町の景観を保全、イベントや空き家の有効活用も



1996年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「熊川宿」の景観保全をはじめとするまちづくりに取り組む地元住民の団体。江戸時代の面影を残す宿場の町並みを生かした「熊川いっぷく時代村」をはじめ、花いっぱい運動や七夕飾り、まちかど陶の灯り展、熊川宿のひな祭りなど多くのイベントとともに、町並み通信「鯖街道熊川宿」を定期発刊している。「空き家の活用ガイド」「暮らしと出店のガイド」も作成、空き家の有効活用に取り組んできた結果、古民家を活用したカフェやショップ、忍者道場などがオープン、にぎわいが創出されている。

三国湊魅力づくりＰＪ

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒913-0062 福井県坂井市三国町陣ケ岡 26-10-27

HP

北前船の里で食と環境を融合させた活動を展開



北前船の寄港地として繁栄した歴史、文化や東尋坊に代表される美しい海岸線、丘陵地での有機農業や海の恵みなど豊富な地域資源を生かす地域づくり活動の中で、特に森の環境保全、森の学習を通じて子どもたちを育成する分野を担っている。街中の活性化を担うため2012年に発足した一般社団法人「三國會所」と役割を分担しながら地域貢献に取り組む。

学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」（受賞当時：うるしの里活性化推進事業実行委員会）

賞 第６回ブロック賞（東海・北陸）

〒916-1222 福井県鯖江市河和田町 15-12-1 co-minka

HP

学生が滞在しアート制作、住民と長い交流



2004年の福井豪雨で被害を受けた鯖江市河和田地区の復興支援のため翌年から京都の学生らを中心に始まった。毎年100人以上が古民家に長期滞在し、廃材を利用したアートを制作展示。08年からは伝統産業、農業、林業など地区の課題を住民と考え作品に反映している。参加学生が地区に移住したり、町歩きイベントに深く関わったりするなど地区のにぎわい創出、活性化に貢献。20周年に向けてOB・OG主催の企画も立案中だ。

丸岡文化財団

賞 第４回ブロック賞（東海・北陸）　公益財団法人

〒910-0298 福井県坂井市丸岡町霞町３丁目 10-1

HP

一筆啓上賞を中心に手紙文化をまちづくりに活用



国の重要文化財・丸岡城を中心に歴史に育まれた福井県丸岡町（現坂井市）で、質の高い文化の創造とまちおこしを目的に、町文化振興事業団として発足した。日本一短い手紙コンクール「一筆啓上賞」を手掛ける。手紙は40字以内で「春夏秋冬」「先生」「母へ」などをテーマに国内外の幅広い年齢層から応募がある。世界で初という手紙だけを収集した「手紙の館」も建設し、手紙を通してまちの魅力を発信する。譲渡された大阪・道頓堀の劇場「中座」の破風などを活用し、児童による歌舞伎の上演も手掛ける。

小原ＥＣＯプロジェクト

賞 第７回ブロック賞（東海・北陸）

〒911-0031 福井県勝山市長山町 2-2-21

HP

集落維持を目指し、古民家修復やツアー企画を展開



福井県でも有数の豪雪地、勝山市北谷町。その中の集落の一つ、小原の人口はわずか1人。それでも都市部からの交流人口は、年間1300人に上る。集落維持を目指し、古民家の修復や豊かな自然を活用したエコツアーを企画し、にぎわいをつくり出している。修復された家屋を拠点に、建築を学ぶ学生や環境保全に取り組む人々、ボランティアの外国人らが集う。2020年秋には若手芸術家とコラボレーション、地元で展覧会を開いた。

武生国際音楽祭推進会議

賞 第５回優秀賞

〒915-0832 福井県越前市高瀬 2-3-3 越前市文化センター内

HP

ボランティアによる音楽祭を 30 年以上続ける



和紙、刃物、たんすなどの伝統工芸で知られる福井県越前市を舞台にボランティアの市民の手で毎年、音楽祭を開催している。2020年で32回となり、来場者は毎回6000人。1週間前後の期間中、主会場の同市文化センターだけでなく、学校や寺社、カフェなど至るところで演奏会が開かれ、まち全体が音楽に染まる。演奏家と作曲家が長期間滞在することで市民を交えての交流や刺激も多い。また同時開催される演奏の指導や作曲のワークショップは若手音楽家にとって貴重な機会となっている。

ふるさと福井サポートセンター

賞 第 10 回大賞　　ＮＰＯ法人

〒919-1131 福井県美浜町木野 21-4-17

HP

空き家活用に支援システム、希望者をマッチング



空き家対策に民間の視点でアプローチ。社会福祉協議会や学校などを巻き込んだ再生・マッチング戦略、活用の前提となる実態調査などの支援システムを開発した。タブレット端末で空き家の状況をデータベース化できる「ふるさぽマップ」を自治体向けにリリース。住む人が消えてからの〝川下〟対策を前倒しし、将来の空き家の発生を見越した所有者の早期決断による〝川上〟対策を目指す。コロナ禍では動画サイトで地元の風景を紹介、空き家問題を語るオンラインサロンを設けた。LINE（ライン）を使った相談窓口のオンライン化も進めている。

鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会

賞 第８回優秀賞

〒916-0025 福井県鯖江市旭町 1 丁目 6-6 Hana 道場内

HP

全国の大学生が鯖江の活性化策を提案



まちから活気が失われつつあった鯖江市。東京暮らしを経験し、課題はまちに対する若者の無関心にあると気付いた竹部美樹さんが、全国の大学生が鯖江のまちを歩いて活性化のアイデアを競うコンテストを２００８年から開催している。学生が本気でプランを作る様子に刺激を受け、地元の学生たちの意識は変化。行政、地域住民や高校生らを巻き込み、たくさんのプランを実現させている。１４回目を迎えた今も、オンラインも活用しながら、地元学生が主体的に運営している。

ＲＥＮＥＷ実行委員会

賞 第 11 回ブロック賞（東海・北陸）

〒916-1222 福井県鯖江市河和田町19-８

HP

伝統工芸、地場産業が集積する地域で工房開放イベント



伝統工芸や地場産業が集積する福井県丹南地域で、工房を開放して作り手と使い手が出会う民間主導の産業観光イベント「RENEW」を毎年開催。鯖江市河和田地区で2015年に始まり、現在は漆器、眼鏡、和紙、打刃物、箪笥、焼物、繊維と3市町にまたがる7産地を結び、90 社以上が参加する催しに成長した。産業観光にとどまらず、移住や新商品開発、産地間連携などを誘発し、持続可能な産地づくりに挑戦し続けている。

たがらす我袖倶楽部

賞 第９回優秀賞

〒917-0101 福井県小浜市田烏 90-3

HP

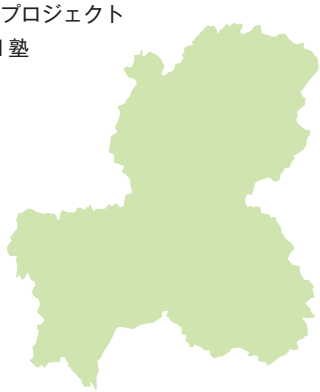
伝統のなれずし販売、棚田のイベントで魅力発信



若狭湾を望む小さな漁村。少子高齢化が進む集落に活気を取り戻そうと、住民有志が立ち上がった。海に面した美しい棚田にキャンドルを並べるイベントを展開するなど、手作りの多彩な企画を繰り広げている。また地域の伝統食材「サバのへしこなれずし」を伝えるとともに、まちづくりの活動費を捻出しようと、廃校校舎を活用した製造・販売事業に着手。全国発信とともに、自活した取り組みを実現している。

岐阜

- 飛騨小坂200滝
- ひとひとの会
- 恵那市地域自治区会長会議
- ジオスペースアドベンチャー実行委員会
- 鶏ちゃん合衆国
- 国田家の芝桜を愛する会
- 美濃歌舞伎保存会
- いき粋墨俣創生プロジェクト
- かさまつ MIRAI 塾
- ORGAN



ひとひとの会

賞 第２回優秀賞

〒500-8876 岐阜市日ノ出町 1-14-1

HP

イベント、ゆるキャラ、金の御朱印で繁華街再生



「柳ケ瀬ブルース」で歌われた繁華街の再生に取り組む。「人で人を呼ぶ」がモットーで商店主らがそれぞれのファンを増やす必要があると考える。若者が生み出したゆるキャラ「やなな」は話題を集め、２０１３年の引退式では１５万人が別れを惜しんだ。路上アーティストやご当地タレントが出演するイベントも開く。織田信長の岐阜入城４５０年を記念した「岐阜市信長公４５０プロジェクト」や、毎月最終金曜日に地元の寺社で「金の御朱印」を押してもらう企画など、多彩な発想と行動力が売り物だ。

恵那市地域自治区会長会議

（受賞当時：恵那市地域自治区地域協議会連絡会議）

賞 第３回優秀賞

〒509-7203 岐阜県恵那市長島町正家 1-1-1 恵那市役所地域振興課

課題解決目指し、まちづくり活動の調整役を担う



１３の地域自治区の会長が、人口減少対策や地域活性化に関する情報共有をする場。空き家対策や伝統文化の継承、地域のパトロール、人材育成、高齢者支援などテーマは多岐にわたる。祭りや棚田の保存、特産品の売り込みなど独自の取り組みによって成果を出しているところが多く、成功例として参考にする。市町村合併を契機に、行政に地域の声が届かなくなる恐れがあるとして始めた。毎年1回、市長が地域自治区に出向き、抱える課題について話し合いを行っている。

飛騨小坂200滝

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒509-3114 岐阜県下呂市小坂町赤沼田 811-1

HP

多数の滝を資源としてガイド、初級から上級まで



御嶽山麓の小坂町内にある多数の滝を観光資源とした「滝めぐり」を企画、運営している。１００人以上いる会員の約4分の1がガイドとなり、初級から上級までの１４のコースを案内して人気を集め、年間約4万人が訪れている。春から秋にかけ、沢登りや里山歩きを幅広い世代が楽しんでいる。近くに日本三名泉に挙げられる下呂温泉があり、相乗効果も出ている。

国田家の芝桜を愛する会

賞 第７回優秀賞

〒501-4304 岐阜県郡上市明宝奥住 2813

地元住民で花を守り、一大観光地に発展



国田家の芝桜は、毎年4月下旬から5月にかけて、ピンクの花が一面に咲き誇り、大勢の観光客の心を和ませている。もともとは1人のおばあちゃん、国田かなゑさんが60年前に自宅裏に花を植えたのがきっかけだった。かなゑさんが亡くなった後も、地元住民で花を守るため「国田家の芝桜を愛する会」を結成し、毎年草刈りや雑草取りをして景観整備に努めている。遊歩道や駐車場の確保、整備も実施、受け入れ態勢を整え、一大観光地に発展させた。温暖化でピークが早くなっているが、多くの人に見てもらえるよう努力している。

ジオスペースアドベンチャー実行委員会

賞 第４回優秀賞

〒506-1100 岐阜県飛騨市神岡町夕陽ケ丘６番地

HP

スーパーカミオデンテがある坑道をイベント活用



神岡鉱山茂住抗の地下1000㍍で「GSA（ジオスペースアドベンチャー）」を開催、素粒子「ニュートリノ」観測で知られる東大のスーパーカミオカンデを見ることができ、研究者の説明も受けられる。毎年7月開催で25回を超え、サイエンスファンら800人でにぎわう。採掘に使う大型重機も見学できる。住民もボランティアで手伝う。イベントにあわせ天文学や物理学のセミナーも開かれる。会場前の売店ではお土産に鉱石やグッズも売っている。

美濃歌舞伎保存会

賞 第８回優秀賞

〒509-6133 岐阜県瑞浪市明世町戸狩 331 ミュージアム中仙道内

HP

芝居小屋を移築・復元、歌舞伎を定期公演



美濃歌舞伎保存会は1972年に設立。県内2カ所の芝居小屋を移築・復元した「相生座」（瑞浪市日吉町）を中心に、地歌舞伎の定期公演を年2回開催。地歌舞伎衣装は約4000点所有し、保存管理を行いながら、県内外の他団体にも修理技術や保存方法を伝えている。後継者の育成を行う「子どものための美濃歌舞伎伝承教室」を2001年から開催。役者のしぐさや三味線、化粧法などを1年間通して伝え、役者から裏方までの人材育成に努めている。

鶏ちゃん合衆国

賞 第５回優秀賞

〒500-8361 岐阜市本荘西 3-180 酒井設計事務所内

HP

古くからの郷土料理を掘り起こし、普及図る



鶏ちゃんは岐阜県の南飛騨、奥美濃地方で古くから食べられてきた。みそやしょうゆなどのたれに漬け込んだ鶏肉をキャベツと炒めるシンプルな料理で、地域や店、家庭によって味が異なる。扱う店やメーカーは「州」とされ、90以上。サポーターの「国民」は約1000人だ。鶏ちゃんを楽しみながら、岐阜をPR。食べ比べや鶏ちゃんの歴史を学習する100人規模の交流会を年数回、開催している。鶏ちゃんがテレビや雑誌で紹介される機会が増加、東京などで料理講習会も開催している。

ORGAN

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

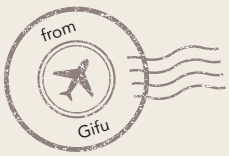
〒500-8009 岐阜市湊町45

HP

岐阜和傘の産業再生目指しブランド化、小売店開店



岐阜市を拠点に、清流長良川流域で観光とまちづくりに取り組んでいる。長良川は多くの流域文化を育んでおり、その一つ、岐阜和傘の産業再生を進める。岐阜和傘は多くの日本文化の現場に欠かせないが、日本の7割を生産する岐阜で、その存続が危ぶまれている。そのため、産地ブランドを高め、高付加価値化し利益率の高い産業に転換すること、小売店舗を開店し製造小売業（SPA）化を図ることで、市場を創り、後継者育成を目指す。





岐阜・下呂温泉合掌村

いき粋墨俣創生プロジェクト

賞 第９回優秀賞

〒503-0102 岐阜県大垣市墨俣町墨俣 271

HP

古い町並みに手作り「つりびな」飾って活性化



宿場町の面影を残す大垣市墨俣町で、つりびな約200飾りを約25カ所に飾るイベント「つりびな小町めぐり」を開く。期間中は県内外から多くの人が来場し、他団体の協力も得てさまざまな催しも開催。2008年に設立され、現在は40～80代の女性26人で活動。年間を通して、つりびな作りや町内の「おみやげ処」の運営などに取り組んでいる。コロナ禍でも状況に応じて活動しているが人との交流等をいかに行うか模索している。

かさまつ MIRAI 塾

賞 第 10 回優秀賞

〒501-6052 岐阜県笠松町下本町 87

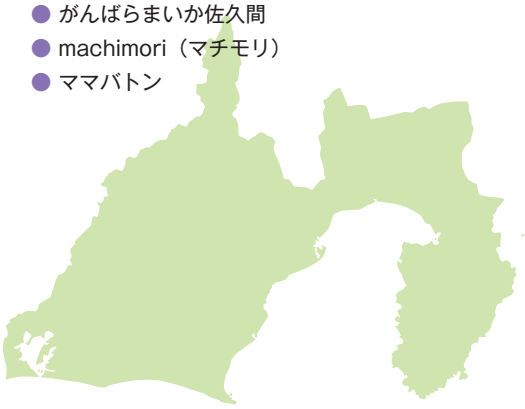
40~80代が仕事の知識を基に最先端技術を提供



「笠松の未来に光を　子どもたちに夢を」を理念に掲げ町民有志が2015年に結成、拠点となる町歴史未来館の活動を支援している。40～80代の会員約40人が所属し、仕事などで培った知識や技術を基に、最先端の科学技術について学び合い、同館などでの講座や体験教室を通して町民に学びの機会を提供している。同館の企画展にも協力するほか、町によるまちづくりの取り組みにも積極的に関わっている。

静　岡

- グラウンドワーク三島
- 夢未来くんま
- 焼津市山の手未来の会
- 静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ
- 静岡県立伊豆総合高校自然科学部
- 富士山御殿場かやの里企業組合
- 戸田塩の会
- 里山くらしＬＡＢＯ
- がんばらまいか佐久間
- machimori（マチモリ）
- ママバトン



夢未来くんま

賞 第２回ブロック賞（東海・北陸）　　ＮＰＯ法人

〒431-3641 浜松市天竜区熊 1976-1

HP

道の駅、弁当宅配など運営、500 人集落に活気



人口500人強。全住民が参加し高齢化が進む地区に元気を与えようと取り組みが続く。水車小屋がシンボルの道の駅を拠点とし、地元食材を使った農産加工品が好評だ。そばやみそなど商品の種類は５０を超えるまでになった。一人暮らしの高齢者に弁当を届けるサービスや、介護認定を受けていない元気なお年寄りと交流する「生きがいデイサロンどっこいしょ」、子ども向けの体験教室などにも力を入れる。地域づくりに関心を持つ大学生らとの交流も広がってきた。

焼津市山の手未来の会

（受賞当時：山の手未来の会）

賞 第３回優秀賞

〒425-0006 静岡県焼津市関方 118 山の手会館

「花と香りの郷づくり」で植栽、山里を活性化



海と港が有名な焼津で、内陸部の山の手地区で活性化の取り組みを続ける。「花と香りの郷づくり」を合言葉に、川沿いに2㌶にわたって早咲きのサクラ２００本やスイセンを植えた。サクラが満開となる2月下旬に桜祭りが開かれる。黄色い花が咲き、香りが良いロウバイを地区の家々に植え、花や香りを楽しむイベントも。地元の高草山の登山道に案内看板を設置し、散策用マップを作成した。戦国時代の城跡があることからのろしを再現するイベントも続けている。

グラウンドワーク三島

賞 第１回大賞　　ＮＰＯ法人

〒411-0857 静岡県三島市芝本町 6-2

HP

水辺自然環境の再生を目指し、市民団体が団結



市内を流れる川をきれいにしようと市民団体が合同で設立、行政との連絡・調整を進めるなどの役割を担い、活動を発展させた。参加は当初の8団体から約２０団体に。川の自然を守るため周辺の土地を買い取るトラストにも成功した。清流を取り戻した川を巡るコース開設など経済効果も。まちづくりリーダーや起業家育成、遊休農地を利用した耕作支援や農産加工品の製造・販売にも取り組む。さらにネパールへのバイオトイレ設置や英国との交流など活動は国境を越えている。

富士山御殿場かやの里企業組合

賞 第６回優秀賞

〒412-0048 静岡県御殿場市板妻 465 番地

HP

古民家に使うカヤの産地を育て新商品も開発



富士山麓に広がる東富士演習場一体に植生するカヤ「富士がや」は、世界遺産の白川郷などに古くから活用されている。全国でカヤ場が消える中、貴重な地域資源として生かすとともに、担い手不足の解消につなげるために地元カヤ業者を中心に２０１２年に設立した。カヤを使った新商品の開発などを通じて富士がやの価値の発信を図るほか、収穫期以外の仕事創出に向けた取り組みも進め、新規雇用を実現。カヤ採取の技術は２０年にユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」の一つに登録。後継者の育成も期待されている。

静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ

賞 第４回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒420-0034 静岡市葵区常磐町１丁目 8-6 常磐町アイワビル５Ｆ

HP

静岡市の歴史、文化、自然をガイド、魅力伝える



徳川家康が晩年暮らした歴史と文化にあふれる地の観光ボランティア団体で約９０名が在籍する。２０１８年に創立２０周年を迎え、活動は「静岡市ボランティア等善行功労賞」を受賞した。１９年度は駿府城公園、静岡浅間神社、久能山東照宮、駿府匠宿などの定点ガイドの他、一般ガイド、企画ガイド、学校ガイドなど年間計約6万4千人を案内した。「行ってみたい」「来てよかった」「また来たい」と思ってもらえるよう励んでいる。

戸田塩の会

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒410-3402 静岡県沼津市戸田 3705-4

HP

漁村シニア世代の女性らが伝統的な塩づくり



駿河湾に面した旧静岡県戸田村（現沼津市）で１９９５年に設立。２００１年に県からNPO法人の認定を受けた。漁村のシニア世代の女性を中心に、海水だけを使った伝統的製法で塩づくりを行う。約1キロ沖合の水深１５～２０メートルから取水した海水を平らな塩焚き釜で約１５時間煮詰め、約1週間熟成する。発足から２０年を超え、沼津市を代表する地域商品として認知されている。近年は塩あめや化粧水、麩菓子など関連商品の開発にも積極的に取り組む。

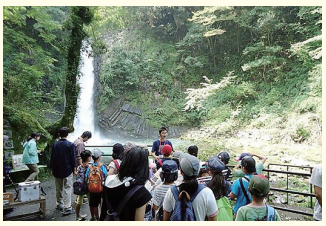
静岡県立伊豆総合高校自然科学部

賞 第５回優秀賞

〒410-2401 静岡県伊豆市牧之郷 892

HP

伊豆半島ジオパークの研究、ＰＲに取り組む



２０１０年の開校以来、「伊豆半島ジオパーク」づくりの先駆けとなる活動をしてきた。以前は地域の人を案内するジオガイドや、小学校に出向く活動などをやっていたが、地域のガイドが育ったことから、通常の部活動に立ち返った。ジオサイトのフィールドワークや、火山活動の実験、これまでにつくった「ジオかるた」「ジオすごろく」の手直しに取り組んでいる。

machimori（マチモリ）

賞 第 10 回選考委員長賞兼ブロック賞（東海・北陸）

株式会社

〒413-0013 静岡県熱海市銀座町 6-6 サトウ椿ビル２F

HP

空き店舗を再生しゲストハウスやシェアオフィス



©Hamatsu Waki

空洞化が目立っていた中心市街地の銀座通り商店街で古いビル・空き店舗を再生、おしゃれなカフェや小さなホテル、名産の干物を自分で焼いて食べられるゲストハウスやシェアオフィスなどを運営している。若者や訪日外国人など新しい客層を呼び込む。市と協働してリノベーションや創業支援の講座も展開。移住・起業希望者との勉強会や、家主との仲立ちも手掛ける。熱海の街歩きイベントなどに取り組むNPO法人と役割を相互補完している。

里山くらしＬＡＢＯ

賞 第８回特別賞

静岡市

市と連携し、山間地の町内会サポート



静岡市の山間部に位置する奥藁科地域で、空き家を使った子育て世帯の誘致や、母親グループ「奥わらママ」の結成、多過ぎる町内会行事の削減など、住民発の活動を支えてきた。現在は、市と連携し、山間地に限らず市内全域の町内会サポートに変化している。各町内会の情報を共有する「しずおか自治取組発表会」を年１回開催。また地域課題をデータで可視化して住民と共有する講座を開いている。

ママバトン

賞 第 11 回優秀賞　　株式会社

〒436-0227 静岡県掛川市家代の里3-11-13

子育てファミリー向け物々交換会を展開、育児情報共有



掛川市を拠点に子育てファミリー向けの物々交換会「ママバトン」を開催している。2013年に活動開始し、8年目。子供服や玩具のリユース、子育て情報の共有、子育て経験ある母親・父親から新米ママ・パパへのエールなど多様な役割を担う催しに成長した。エリアも県西部全域に広がった。行政、企業、団体、大学と連携した事業も積極的に取り組み、地域を挙げて子育てする機運の醸成と、子育て世代のまちづくりへ参画を促進する。

がんばらまいか佐久間

賞 第９回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒431-3901 浜松市天竜区佐久間町佐久間 429-1

HP

タクシー運行やアワビ養殖に挑み山間地活性化



浜松市北部の過疎地「佐久間町」の住民の約7割が加入し、地域おこしや福祉、世代間交流など町づくり全般に関する事業で行政の隙間を埋めている。交通インフラが脆弱な中山間地域のため、格安のNPOタクシーを運行。ソバの地産地消、アワビ陸上養殖事業などを通じて「佐久間を訪れなければ、味わえない」特産品づくりを目指す。廃校舎で木材を利用したバイオマス発電を計画、周辺に足湯やビニールハウスをつくる構想も。

愛　知

- 豊川稲荷表参道発展会
- 萩原チンドンまつり実行委員会
- 矢勝川の彼岸花を守る会
- とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会
- 愛岐トンネル群保存再生委員会
- 岡崎まちゼミの会
- 亀崎まちおこしの会
- 花男子プロジェクト
- 志民連いちのみや
- 愛知県立安城農林高校
- まちスウィング



萩原チンドンまつり実行委員会
（受賞当時：一宮市萩原商店街振興組合）

賞 第２回優秀賞

〒491-0353 愛知県一宮市萩原町萩原 22 番地

HP

全国規模のチンドンイベント開き商店街を活性化



一宮市萩原商店街振興組合のメンバーらが、地元を盛り上げようと、春と秋に「チンドン祭」を開催している。毎年5月の第4日曜日に開かれる春の祭りには、全国からプロのチンドン屋さんを迎え、商店街の特設ステージで芸を競い合い、その後、まちを練り歩く。来場者は2万人を超え、「チンドンの街」として定着しつつある。秋にはアマチュアを対象にした「素人チンドン大会」も開く。地元の中学生が会場の背景画を描くなど、子どもたちも巻き込み、地域密着を目指している。

矢勝川の彼岸花を守る会
（受賞当時：矢勝川の環境を守る会）

賞 第３回優秀賞

〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町１－10－１　新美南吉記念館内

HP

新美南吉「ごんぎつね」にちなみ童話の里づくり



半田市出身の童話作家、新美南吉の代表作「ごんぎつね」に登場する矢勝川沿いの景観美化に取り組む。地元有志らで「童話の里づくり」を合言葉に1995年に発足。雑草を刈り取り、作品の中にも描写されている彼岸花の球根を長年植え続け、秋には約300万本の花が咲き誇る。周辺では「ごんの秋まつり」が毎年開催され、彼岸花に加え、地元の物産品などを楽しみに、市内外から約13万人が訪れている。

豊川稲荷表参道発展会
（受賞当時：表参道発展会）

賞 第１回優秀賞

〒442-0034 愛知県豊川市西本町 22

レトロな商店街を景観整備、イベントで活性化



豊川稲荷門前のレトロな町並みを生かした景観整備に商店主らが取り組む。2003年から開いてきたチンドン屋、大道芸、きつねのお面などのイベント「いなり楽市」に加え、クラフトを販売する「豊川てしごと市」を実施、多くの出展者、来客を集めている。B級グルメ全国大会に名物のいなり寿司を出し、入賞したことも。商店街のにぎわい回復を目指し、若手の活動参加も進める。

岡崎まちゼミの会

賞 第６回準大賞

〒444-0045 愛知県岡崎市康生通東 1-21

HP

培った商品知識を伝え商店街への関心高める



年に2回、商店街の各店が、商品やサービスに関する知識や技を無料伝授する講座を催す「得する街のゼミナール（まちゼミ）」を開く。全国４００地域に広がった「まちゼミ」の元祖。個人商店それぞれのノウハウを生かした多彩な講座により、地元の消費者の関心を集めている。また3年ごとに全国の事業者が岡崎に集い、互いのノウハウを発表する場を設けている。さらに小学校と連携、子どもたちの商店街に対する理解を深める取り組みもしている。

とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会

賞 第４回優秀賞

〒440-0075 愛知県豊橋市花田町石塚 42-1 豊橋商工会議所内

HP

中心市街地の活性化目指し1カ月かけて映画祭



空洞化が進む中心市街地を活性化しようと、閉館した映画館を豊橋青年会議所が活用、２００２年に映画祭を始めた。03年には有志による実行委員会での運営に切り替えた。現在はホールなどを会場に、毎年1～2月の1カ月間の土日に１０～２０本を上映している。俳優のゲスト招待や、音楽ライブ、屋外上映会など関連イベントも開き来場者は６０００人を超える。自治体の補助金を一切受けず、地元企業からの協賛金などで運営費を賄う。

亀崎まちおこしの会

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒475-0023 愛知県半田市亀崎町 4-141

HP

伝統行事を保存、拠点施設で高齢者と子どもの交流を図る



地元の伝統行事の保存・復活や、拠点施設で高齢者と子どもの交流を図るなど旧市街地のにぎわい創出に大きく貢献。とりわけ空き家対策では、既に古い料亭を改装して複数のショップの入居にこぎ着けた。大学生や若手建築家、デザイナーらを巻き込んで空き家再生などに知恵を結集している。市の期待も大きく、モデル事業として助成を受け、数軒の空き家所有者の了解を取り付けて店舗に生まれ変わった。若者や子どもを主軸として活性化を図っている。

愛岐トンネル群保存再生委員会

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒463-0032 名古屋市守山区白山 1-708 村上方

HP

忘れられたトンネル買い取り、地域の名所に



岐阜県多治見市と名古屋市を結ぶ旧国鉄の廃線で山中に忘れ去られた、明治時代のれんが造りのトンネル群保全に取り組む。お年寄りの記憶を基に再発見した。観光資源につなげようと周辺の民有地を買い取るため募金活動を展開。全国約1万１０００人から１５００万円超が集まり、２０１４年にトンネル4基と土地１６万平方㍍を買い取った。春秋の年2回、見学会を実施。全国から年間3万人、延べ３０万人が訪れている。夏には涼しいトンネル内でビアホールも開く。

愛知県立安城農林高校

賞 第 10 回優秀賞

〒446-0066 愛知県安城市池浦町茶笈木 1

独自手法で卵の質向上、ミツバチや地場野菜育成



高校生のアイデアでさまざまな事業を生み出し、地元を盛り上げる原動力になっている。「Anno 健 幸 卵」プロジェクトは、独自の方法で卵の質を向上させている。さらに特産の鶏「岡崎おうはん」の普及を岡崎市と提携して推進する。貴重なニホンミツバチを守るプロジェクトも実施。愛知県の野菜「金俵マクワウリ」の復活を目指すチームも活動中だ。「あま酒つくりプロジェクト」は地元メーカーと甘酒をつくって販売に取り組む。

花男子プロジェクト

賞 第８回優秀賞

〒441-8077 愛知県豊橋市神野新田町ワノ割 93-3

HP

地場産の花を贈る文化広めるパフォーマンス



日本一の花生産地である愛知県東三河地方から「花を贈る」文化を日本中に広めようとパフォーマンスを続ける。花の仲卸をしていた近藤祐司さんが代表となって仲間と始めたプロジェクト。合言葉は「花贈る！男アガルッ！」。音楽にのってブーケを作り、カップルに花を贈り合ってもらったり、男性は1人で花屋に入りにくいのではとLINE（ライン）で注文を取ったりとアイデアを実現する。コロナ禍では医療関係者に花を贈り、売り上げの一部を寄付する活動に取り組んだ。

まちスウィング

（受賞当時：まちのエキスパネット）

賞 第 11 回優秀賞　　社会福祉法人

〒487-0035 愛知県春日井市藤山台1−1　高蔵寺まなびと交流センター3階

HP

廃校拠点にまちづくりと福祉のコミュニティービジネス



愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンで、廃校となった小学校を再利用した「グルッポふじとう」を拠点に、まちづくり・障害福祉・広報事業のコミュニティービジネスを展開し、地域の活性化に取り組んでいる。「高蔵寺きてみん祭」「歌う!高蔵寺マーケット」などさまざまなイベントを企画し、まちのにぎわいを創出する一方、子どもから高齢者までが集うコミュニティーカフェを運営し、住民同士の横のつながりを広げている。

志民連いちのみや

賞 第９回ブロック賞（東海・北陸）　　ＮＰＯ法人

〒491-0859 愛知県一宮市本町 4-12-7

HP

クラフト作家市、地ビール製造など幅広く活動



愛知県一宮市で東海圏のクラフト作家などが集う「杜の宮市」やまちなかアート展を企画・運営し、中心市街地の活性化に取り組む。地ビールを再興した「一宮ブルワリー」、空き店舗を利用したコミュニティーカフェ「三八屋」の開設などまちづくり事業も展開する。「一宮市市民活動支援センター」を受託運営し、市民活動講座も多数開催する。コロナ禍で杜の宮市は中止となったが、疫病よけの「アマビエ」の旗１２０本を掲げ、再開を目指している。

三　重

- 相可高校調理クラブ　まごの店
- 海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋
- 下河内の里山を守る会
- 伊賀忍者特殊軍団阿修羅
- 大杉谷自然学校
- 丸山千枚田保存会
- みやがわ森選組
- 大内山動物園
- ディーグリーン
- 天満浦百人会
- 志摩市民病院



海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋
（受賞当時：兵吉屋）

賞 第２回優秀賞　　有限会社

〒517-0032 三重県鳥羽市相差町 1094

HP

海女と交流、魚介味わうツアーで海外客にも人気



地元の海女さんが集う「海女小屋」で、素潜り漁の話を聞きながらアワビやサザエなど新鮮な魚介類を味わうツアーで、年間2万人超が訪れる。日本の伝統文化に触れられると外国人にも人気。2016年の伊勢志摩サミットを通じて知名度が上昇、伊勢・志摩の名所に育った。出入口の段差をなくし福祉車両で送迎するなどバリアフリー化を進める。ムスリムのため敷地内に男女別礼拝室を設けるなど国際化にも対応。コロナ禍には海女料理の通販や、海女の写真集頒布で立ち向かった。

下河内の里山を守る会
（受賞当時：きほく里山体験笑楽校）

賞 第３回優秀賞

〒519-3201 三重県紀北町十須 829

古い旅籠を改装した拠点で里山暮らし体験、交流



三重県南部に位置する紀北町下河内地域で、景観にほれ込んだ町内外の会員が築120年の旧旅籠「旭屋」を自分たちの手で改装、地域を紹介する拠点として活動している。毎月第2土曜日は「下河内の日」として農家レストランを開き、打ちたてのそばや山菜の天ぷらなど地元食材の料理が人気だ。また「きほく里山体験笑学校」として、そば打ちやこんにゃく作りなどが体験できるプログラムを提供、里山の魅力を伝えている。

相可高校調理クラブ　まごの店
（受賞当時：三重県立相可高校調理クラブ）

賞 第１回ブロック賞（東海・北陸）

〒519-2174 三重県多気町五桂 956 五桂池ふるさと村施設内

HP

食物調理科の高校生が人気レストランを運営



県立相可高校の食物調理科の生徒でつくる調理クラブが、土曜、日曜日や祝日のみ営業するレストランを運営している。多気町が設置した「五桂池ふるさと村」の一角にある。できる限り地元の食材を利用し、高い調理技術でつくられる定食などがおいしいと県内外から評判を集め、130～150食を完売する。伊勢志摩サミットの際には、首脳の配偶者を料理でもてなし大好評だった。ドレッシング、焼き肉のたれなどの商品開発にも取り組み、成果を上げている。

丸山千枚田保存会

賞 第６回優秀賞

〒519-5413 三重県熊野市紀和町板屋 78 熊野市ふるさと振興公社内

HP

住民挙げて伝統の棚田の保存・復活に挑む



丸山千枚田は、日本の棚田百選にも選ばれた紀和町丸山地区の山の斜面に幾重にも描かれた棚田。かつて2240枚あったと記されていたが、昭和50年代以降、過疎・高齢化の波を受けるなどして、平成初期には530枚に減少。自分達の世代で、この貴重な文化遺産を失うのは惜しいという地元の人々の強い思いがあり、1993年に丸山千枚田保存会を結成。保全活動が始まった。オーナー制度などを取り入れるなどして、2020年時点で1340枚まで復元されている。

伊賀忍者特殊軍団 阿修羅

賞 第４回優秀賞　　株式会社

〒512-1203 三重県四日市市下海老町 1776

HP

年間 1200 回の実演で伊賀流忍術の里を発信



伊賀流忍術の発祥の地、伊賀市の「忍者」文化を三重県と伊賀市の観光大使として国内外に発信している。伊賀流忍者博物館を拠点に本物の忍術を披露。実演では忍者が使用していた忍具について、使い方や効果などを分かりやすく解説し、忍者の魅力を伝えている。海外からの公演のオファーも多く、外務省日本ブランド事業では北米ツアーも行うなど、「NINJA」ブランドの普及を図る。世界で人気が高まっており、海外のツアー客に対して英語での説明も取り入れるなど国際化に対応している。

みやがわ森選組

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

三重県大台町

HP

山村に移住した林業従事者が森の担い手を育成



旧宮川村に移住、林業に従事するメンバーが都市農山村交流を通じ地域活性化、遊休農地回復、放棄山林活用、生態系保全への貢献を目指す。林業移住をバックアップする「もりびと養成講座・森つなぎプロジェクト」を大台町、イオンと実施。大学生向けの米作インターンや、子どもに生物の楽しさを知ってもらう「かえる道場」も開催している。環境整備で企業と連携する「安濃の森プロジェクト」（中日本高速道路）、「百五の森プロジェクト」（百五銀行）にも取り組む。

大杉谷自然学校

賞 第５回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒519-2633 三重県大台町久豆 199

HP

地域の自然、人、文化を生かした環境教育



廃校となった小学校を拠点として、地域を生かした環境教育を展開する。地域に残る生きる知恵や豊かな自然を体験する活動を町内外の人たちに提供している。特に力を入れるのが、故郷を愛する子どもたちの育成だ。アユの伝統漁法や地域の人と関わる機会など故郷を実感できる機会を学校教育に取り入れている。他にも「森のようちえん」、移住促進、環境に配慮した公共工事の促進など多岐にわたり地域をより良くする事業を展開する。

天満浦百人会

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒519-3602 三重県尾鷲市大字天満浦 161

元別荘を津波防災拠点に活用、交流・学習の場に



約 30 年前「天満浦を元気にしよらい!」を合言葉に主婦を中心に結成。1944 年の東南海地震で大きな被害を受けた天満浦は津波対策が課題だった。高台にあり地域のシンボル的存在だった別荘「天満荘」の取り壊しが浮上したが、南海トラフ地震の防災拠点として買い取った。その後カフェや文化講座、体験活動などの場としても活用。三重大学東紀州サテライトにも認定され、勉強会「よるしゃべ」などで老若男女が集まり、にぎわう。

大内山動物園

賞 第８回優秀賞

〒519-3111 三重県大紀町大内山 530-4

HP

殺処分から保護された動物が集まる動物園



全国でも珍しい個人経営の動物園。存続危機に陥った動物園を建設会社の経営者が引継ぎ、再建した。動物約 700 匹が飼育されており、その7割は閉園される動物園から引き取ったり、殺処分寸前で保護されたりした動物だ。〝新顔〟の動物が来るたびに土地を購入、飼育舎を増設するため、園は3倍の広さになった。自然に恵まれた地の利を生かし、保護された動物も、来園客も癒される動物園を目指している。

志摩市民病院

賞 第 11 回準大賞

〒517-0603 三重県志摩市大王町波切 1941-1

HP

赤字病院を若手医師が改革、収支改善、愛される施設に



患者数減少による経営難で診療所への規模縮小が検討され、医師3人が一斉退職。１人残された若き医師が2016年4月院長に就任し、さまざまな改革に着手。「絶対に断らない医療」を理念に掲げ、収支改善。研修生は専門外の大学生や中高生まで受け入れ。１人の入院患者の話相手に徹する研修は、患者にも生きがいを与える。地域の祭りにも積極的に参加し、地域住民との交流の場となる「病院まつり」を開催し、地域から愛される病院に変貌を遂げた。

ディーグリーン

賞 第９回奨励賞　　株式会社

〒519-3204 三重県紀北町東長島 2399-1

HP

新鮮・安全な地元の魚で作った離乳食を全国発信



紀伊半島の漁村にあるウェブ制作会社が、新鮮・安全な魚を子どもたちに食べてほしいと離乳食材の通販「mogcook（モグック）」に乗り出した。

地元の主婦らが小骨を抜き、丁寧に下処理した魚を調理、真空パックして全国に発送する。栄養豊富で食べやすく添加物不使用。月齢別に商品をそろえ、都市部でも評判を呼んでいる。I・Uターンの若者と住民が力を合わせ、新たな特産品に成長している。

滋賀

- 碧いびわ湖
- 大津の町家を考える会
- 冨田人形共遊団
- 美しいマキノ・桜守りの会
- 江北図書館
- 白王町集落営農組合
- しが農業女子100人プロジェクト
- エナジーフィールド
- 大野木長寿村まちづくり会
- びわこジャズ東近江実行委員会
- 三方よし研究会



大津の町家を考える会

賞 第２回優秀賞

〒520-0043 大津市中央 1-8-13

HP

町家の保存と活用で、まちの魅力を発信！！



大津に残る町家の保存と活用を通して、まちの魅力を発信している。商店街に残る町家を借りて「まちづくり大津百町館」として公開している。落語会、講演会などのイベントにも取り組んでいる。地域にも開放して活用してもらっているほか、昔の暮らしの様子を学ぶ小学校の社会科見学も数多く受け入れている。大津の歴史や町家を紹介した「大津百町物語」発刊から20年を機に、「大津の町家とまちを振り返る」を作成した。大津百町という名前も一般的に使われるようになり、町家ホテルも開業して、賑わいに寄与している。

冨田人形共遊団

賞 第３回優秀賞

〒526-0131 滋賀県長浜市冨田町 935

HP

人形浄瑠璃を守り海外公演、留学生や子ども指導



長浜市冨田町に江戸時代後期から伝わる人形浄瑠璃「冨田人形」（県選択無形民俗文化財）を、まちづくりに活用しようと、地元有志で結成された。年2回の定期公演に加え、海外を含めた出張公演も積極的に行う。海外からの留学生十数人を毎年受け入れ、地元で約2カ月間、ホームステイをしながら人形浄瑠璃の基礎と日本文化を学べるようにしている。住民との交流活動も盛んだ。地元の小中学生向けのジュニアクラスを開催、子どもにも人気だ。

碧いびわ湖

賞 第１回ブロック賞（近畿）　ＮＰＯ法人

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦３

HP

琵琶湖と流域で自治を育み、持続可能な暮らしをつくる



琵琶湖での赤潮発生をきっかけに、合成洗剤ではなくせっけんを使うことを広めた「せっけん運動」と生協運動を原点に、市民の協同自治を育み、持続可能な暮らしをつくることに取り組んでいる。これまで廃食油や牛乳パックのリサイクル、再生品等の共同購入、身近な自然とつながる住まいづくり、自然の中で子どもが遊び、学ぶ場づくりなどをしてきた。現在は琵琶湖のプラごみ問題や気候危機などの社会課題に向き合いながら「子どもと湖が笑ってる未来へ」とつながる暮らしとコミュニティーづくりを目指す。

白王町集落営農組合

賞 第６回優秀賞　　農事組合法人

〒523-0803 滋賀県近江八幡市白王町 1652-2

琵琶湖の内湖「西の湖」の湖中水田「権座」を守る



琵琶湖の最大の内湖「西の湖」にある島状の水田「権座」。船でしか渡ることができず「手間がかかる、やっかいな土地」と敬遠されていた。しかし一帯の水郷風景が全国第1号の重要文化的景観に選定されたことから「農業で景観を守ろう」と住民が奮起。共同作業で生産コストを下げ、幻の酒米や単価の高い大豆を作った。日本酒「権座」は多くの地酒ファンを獲得し、春には「新酒の集い」、秋には「水郷コンサート・収穫感謝祭」などのイベントを開催して観客を集める。風景を守る活動に「ロマンとそろばん」を地域住民の交流と楽しい農業振興が進む。

美しいマキノ・桜守りの会

賞 第４回優秀賞

〒520-1811 滋賀県高島市マキノ町海津 2275　江端英嗣方

寿命で枯れ始めたサクラを市民が復活、名所に



1936年に琵琶湖北部に位置する海津大崎のトンネルが完成したことを記念し、住民がサクラの植樹を始め「日本さくら名所100選」と評価されるまでになった。しかし、そのサクラが寿命で枯れ始めたことから景観を守ろうと住民が立ち上がり、会を設立し植栽・管理・周辺環境の整備などに積極的に取り組んだ。湖岸周辺などに約900本が植えられ、春になると見事なサクラ並木の花見に約10万人が訪れている。

しが農業女子100人プロジェクト

賞 第７回ブロック賞（近畿）

滋賀県

HP

滋賀の食と農をつなぐ新しいかたち



栽培、商品開発、マーケティングなど、あらゆる分野で協力する滋賀の女性農業者のネットワーク。2018年に会員制度を設けて団体をリスタートした。「農業を通じて『おいしい』『楽しい』を分かち合う社会をつくる」ことをミッションとし、滋賀での新しい食と農のプラットフォームづくりを目指している。

江北図書館

賞 第５回優秀賞　　公益財団法人

〒529-0425 滋賀県長浜市木之本町木本 1362

HP

貴重な和漢洋書備えた伝統ある私設図書館



長浜市出身で弁護士だった杉野文弥が1902年、私財を投じて設立した「杉野文庫」が前身。1907年に伊香郡役所の支援を得て法人化された（2011年から公益財団法人）。現存する滋賀県最古の図書館。現在は敷地内の駐車場収入、篤志家や市民からの寄付で運営。蔵書は約5万冊。中には極めて貴重な洋書や和･漢書、文書の他、旧伊香郡役所資料一式が残されており、研究者から高い評価を得ている。

びわこジャズ東近江実行委員会

賞 第 10 回優秀賞

〒527-0074 滋賀県東近江市市辺町 2886

HP

約３万人を集め原則無料、地元産品マーケットも



びわこジャズ東近江は、滋賀県東部の東近江市中心市街地を会場に2009年から毎年4月に開催している。19年はプロやアマチュアの約210組が出演、約3万人を集めた。入場は原則無料で、運営には広告収入を充てている。同時に地元産品のマーケットなどを開催して地域活性化に貢献している。21年はコロナ禍で中止となったが、夏・秋の小規模な音楽イベント、22年の開催を目指し会議を重ねている。

エナジーフィールド

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒523-0846 滋賀県近江八幡市博労町上 17

HP

現代アートの国際芸術祭。空き家に展示も



2001年から現代アートの国際芸術祭「BIWAKOビエンナーレ」を2~3年間隔で計8回開催している。20年10~11月には〝森羅万象~COSMIC DANCE〟をテーマに、これまで開催していた近江八幡市に加えて彦根市にも会場を設けた。市街地に点在する商家だった古い空き家などで展示し、会場空間も含めて作品を輝かせる点に特徴がある。京都のアートイベント「ニュイ・ブランシュ」との連携展示も実現した。

三方よし研究会

賞 第 11 回ブロック賞（近畿）　　ＮＰＯ法人

〒527-0045 滋賀県東近江市中小路町 483 番地

HP

医師、看護師、消防隊員らが車座で地域医療の意見交換



滋賀県東近江圏の地域医療を考えるために2007年発足した。医師や看護師、理学療法士、行政、消防隊員らが事例や課題を報告し、職種や立場を超えて車座で意見交換、顔の見える関係を築く。「患者よし、機関よし、地域よし」を掲げる。月1度の定例会は約150人が参加。コロナ禍の2020年6月に迎えた150回目はオンラインで全国に発信した。かかりつけ医やリハビリ施設も含めて切れ目なく患者に寄り添うネットワークづくりを目指す。

大野木長寿村まちづくり会

賞 第９回ブロック賞（近畿）　　一般社団法人

〒521-0244 滋賀県米原市大野木 1090 大野木たまり場「よりどころ」

HP

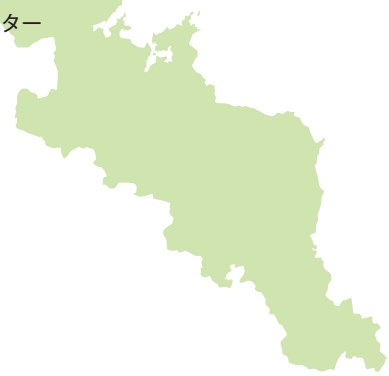
高齢者の会員たちが楽しみながら地域の課題に挑戦



インフォーマル（形式ばらずに）、有償、インクルーシブ（分け隔てなく）にこだわり、無理をせず、楽しみながら集落の課題に挑戦している。主たる活動は、高齢者の困りごと支援（小修理、草刈り、枝切り、畑の管理など）、荒地対策に「借り貸し農園」、付き添い移送サービス、たまり場「よりどころ」での交流ランチ・認知症予防教室・宅配弁当・子ども食堂など。元気な高齢者の会員たちは、趣味を兼ね特産物づくりにも精を出している。

京 都

- 京すずめ文化観光研究所
- 遊プロジェクト京都
- 京町家再生研究会
- 先斗町まちづくり協議会
- 姉小路界隈を考える会
- 葵プロジェクト
- クロスオーバーネットワーク
- 気張る！ふるさと丹後町
- 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト
- アクトスター
- KOKIN



遊プロジェクト京都

賞 第２回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒604-0022 京都市中京区室町通御池上ル御池之町305 遊子庵内

HP

中心街の町家を拠点として伝統の魅力をアピール



京都の中心街にある町家「遊子庵」を拠点に伝統の魅力を伝えるとともに、遊びを通して文化や暮らしの知恵を学び、その素晴らしさを紹介する事業を展開している。装束、風呂敷、京菓子などの老舗の人々を呼んで話を聞く勉強会や、京都のまちづくりに活躍する人を紹介する書籍の出版にも携わる。遊子庵では計１０の団体が活動しており、緩やかなつながりで運動を展開している。

京町家再生研究会

賞 第３回準大賞　　ＮＰＯ法人

〒604-8214 京都市中京区新町通錦小路上ル百足屋町384

HP

京町家の再生を通じて暮らしの文化と技術をつなげる



古都・京都のまちなかにある京町家を保全、健全に改修して未来につなげていく目的で、居住者や研究者、技術者らが立ち上がり、1992年から活動している。再生に携わった町家は200軒を超えた。改修技術を若手に継承する「京町家設計塾」、町家の暮らしを子どもたちや家族に楽しみながら知ってもらう「親子体験教室」などのプロジェクトも展開している。各地の団体との交流も重ね、まちなかにある木造建築の保全の考え方、現代の在り方を変化させ続けている。

京すずめ文化観光研究所

（受賞当時：遊悠舎　京すずめ）

賞 第１回優秀賞　　一般社団法人

〒600-8175 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町680-1 第八長谷ビル２階 231

HP

暮らしの視点から京都の心を継承し研究・発信



２００１年の創立から２１年を迎え、日々の暮らしに宿る京文化や京の心の文化を次世代へ継承する活動を続けてきた。公募事業「京都への恋文」や「おくどさんサミット」の開催など、コロナ禍でも取り組めることで発信している。研究会の冊子、絵本等も９冊発刊した。さらに今後、世界へアピールできる日本の心の文化を発掘・発信したい。

葵プロジェクト

賞 第６回優秀賞　　一般財団法人

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 339 上賀茂神社社務所内

HP

葵祭に使うフタバアオイ保護の輪を広げる



1400年の歴史を持つ京都三大祭りの一つ「葵祭」。毎年1万本以上の葵（フタバアオイ）が牛車や供奉者の衣冠を飾り、華麗な王朝文化を現代に伝える。祭りに不可欠な葵が激減していることに危機感を持ち、京都府内外の小学校や企業などに葵を育成してもらう活動を通じて伝統祭事への参加を促す。静岡の駿府城に葵を運ぶ「葵使」の再現行事も。「葵文化サロン」として文化講座やサミット、フォーラムを開催。伝統工芸展や緑日も開いている。令和元年には、和歌山市文化奨励賞を受賞した。

先斗町まちづくり協議会

賞 第４回優秀賞

〒604-8016 京都市中京区下樵木町207番地

HP

古都にふさわしい風情ある景観の復活に取り組む



「かつての伝統ある風情を取り戻したい」との思いから、自治会を母体にして設立。道幅2㍍前後、南北約450㍍の通りで、国内外から多くの観光客が訪れる。近年、お茶屋が減る一方、道をふさぐようにはみ出た看板やたばこのポイ捨てなどが横行していた。京都市とも連携しながら、違法看板の撤去を進めた。まちなみ保全を目的とした「界わい景観整備地区」の指定を実現した。無電柱化や、火災を教訓にした防災活動にも積極的に取り組んでいる。

クロスオーバーネットワーク

賞 第７回優秀賞

〒604-8151 京都府京都市中京区橘弁慶町 234 番地 MJP烏丸ビル６階（伊藤弥生公認会計士事務所内）

HP

働く女性が意見交換、よい仕事環境をつくる



「女性の社会進出の推進」が声高に唱えられているが、政府や行政に頼るばかりではなく、働く女性たちがそれぞれの場で感じている不満や課題を率直に意見交換し、より良い仕事環境を具体的につくり出してゆくことを目指している。職種の幅広さと柔軟な思考を標榜し、孤立しがちな女性たちを横に結び、助け合うことで輝こうという意欲に満ちている。女性の起業を専門家がサポートする「ブルームマネジメント」に力を入れる。定期的に持続可能な開発目標（SDGｓ）の勉強会も開いている。

姉小路界隈を考える会

賞 第５回優秀賞

〒604-8102 京都市中京区姉小路通柳小路西入菊屋町

HP

京都の歴史・文化を継承し、景観を守る



京都中心部の姉小路界隈は老舗、小さな商店、町家が建ち並ぶ職住共存の東西700㍍の街だ。1995年のマンション建設計画を機に住民が立ち上がった。歴史、文化の豊かさを再発見する「姉小路界隈町式目」を策定。行政と協働し建築協定、街なみ環境整備事業、地区計画、2015年に地域景観づくり協議会制度を活用。約100件の建築（営業）行為に関する事前意見交換会を実施した。幼稚園、中学校、博物館、地元企業とも協力し、自動車通行止めイベント等も開催。誰の目にも見える新旧同居のまちづくりを四半世紀以上継続中だ。

アクトスター

賞 第 10 回ブロック賞（近畿）

〒623-0007 京都府綾部市星原町堂前 6-4 岡田邦久方

西日本豪雨をきっかけに先進的な防災に取り組む



2018年7月の西日本豪雨被災をきっかけに、中山間地・綾部市星原町で自主防災組織として結成、先進的な防災に取り組む。集落を歩いて土砂災害の危険箇所を洗い出し、古道を「第2の避難路」として再生。住民が避難と避難所生活を体験する訓練も実施した。住民が避難のきっかけをあらかじめ決めておく「タイムライン」「スイッチ」の概念もいち早く導入。複数のメンバーが防災士資格を取得。高齢化を念頭に、災害弱者の視点で土砂災害に備える。

気張る！ふるさと丹後町

賞 第8回ブロック賞（近畿）　NPO法人

〒627-0201 京都府京丹後市丹後町間人 2026 番地

HP

住民マイカーをタクシー代わり、地域の足に



人口減少、過疎・高齢化が進む地域では、住民の足の確保が大きな課題。「気張る！ふるさと丹後町」はマイカーをタクシーに見立てて、住民や観光客を有償運送する取り組み「ささえ合い交通」を2016年に始めた。ボランティアの住民14人がドライバーとなり、年中無休で走らせる。利用希望者はスマートフォンなどで即時配車できる。公共交通空白地の新たな移動手段として、他自治体などからも注目を集めている。

KOKIN

賞 第 11 回優秀賞　一般社団法人

〒624-0927 京都府舞鶴市平野屋69

HP

舞鶴の良さを多目的スペースやゲストハウスから発信



舞鶴が好きな20~50代の会社員、大工、主婦ら約10人が2011年に結成し、「町を楽しみ、発信する」をテーマに活動する。「まちなみは地域の文化を映し出す」と捉え、町屋や空き店舗を改装した多目的スペースやゲストハウスを運営。大正時代の面影が残る老舗銭湯が登録文化財に指定される支援をしたり、銭湯の良さを伝えるイベントも企画。地元企業との連携で地元産品の販路開拓を担う地域商社も設立するなど活動の場を広げている。

毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト

賞 第9回優秀賞

〒620-0322 京都府福知山市大江町毛原 288

HP

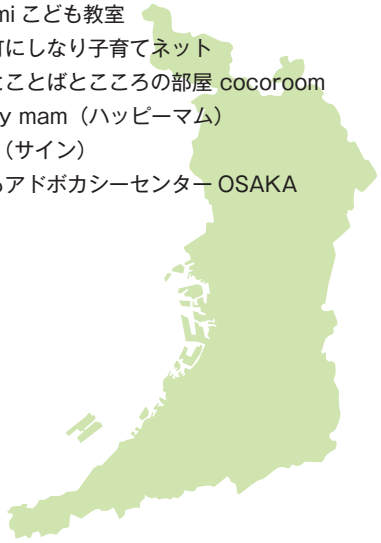
棚田オーナーや地域通貨を活用、都市住民と交流



「つなぐ棚田遺産」にも選ばれた地域で、住民らが棚田保全と移住促進を目指して設立した集落再生プロジェクト。「1000年つづく里」を住民憲章に掲げ、特産品加工所や、ピザ窯でのピザ作り体験など地域の魅力を発信する。住民と来訪者をつなげる地域通貨「けーら」を考案。民家が交代で客人をもてなす「縁側喫茶」や、動画チャンネル「毛原放送局」、地域の問題を共有するアプリ開発など多角的な取り組みを進める。

大阪

- にしよど　にこネット
- Homedoor
- 大阪を変える100人会議
- D×P（ディーピー）
- Minami こども教室
- わが町にしなり子育てネット
- こえとことばとこころの部屋 cocoroom
- Happy mam（ハッピーマム）
- SEIN（サイン）
- 子どもアドボカシーセンター OSAKA



Homedoor

賞 第３回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒531-0074 大阪市北区本庄東１丁目9-14

HP

自転車修理・貸出事業で就業支援、だんらんの場も



ホームレスの人や生活保護受給者の雇用創出を目的としたシェアサイクル事業「HUBchari（ハブチャリ）」を運営する。大阪市内の280カ所以上に自転車の貸し出し拠点を設け、ホームレスの人や生活保護受給者が自転車の管理や修理を担う。路上生活から抜け出すことにつながることを目指した施設「アンドセンター」もオープンし、ホームレスの人がだんらんスペースで談笑したり、昼寝ができる和室を用意したり、宿泊できたりと安心して過ごせる場の提供をしている。

大阪を変える100人会議

賞 第４回優秀賞

〒541-0045 大阪市中央区道修町３-４-11 新芝川ビル

HP

企業や大学、行政の多彩な人が大阪の課題を論議



大阪の多様な社会問題の解決を目指すＮＰＯ法人、行政の実務者、地元企業らで構成する。「ラウンドテーブル」と呼ばれる会議を定期的に開き、日ごろ出会う機会がない実務者同士を引き合わせている。通信制高校生のキャリア支援をするNPO法人と、ココナツのフェアトレード事業を通じフィリピンの貧困問題に取り組む会社が協力し、通信制高校生のフィリピン研修ツアーを実現するなどコラボ企画が次々と生まれている。

にしよど　にこネット

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田 6-3-29

HP

集いの広場、ネットワークづくりで子育て支援



地域の中で豊かな環境を整え、子育てを応援する。大阪市委託事業で主に3歳までの子どもと、保護者がゆったりと過ごせる無料の集いの広場や、西淀川区委託事業の区役所にある「に～よんステーション」を開設。子育て経験のあるスタッフとおしゃべりを楽しみ、保護者の子育て不安の解消などにつなげる。「大人も子どもも育ちあい、誰もが誰かのサポーターになれるまちに」のビジョン、「日々の子育てに寄りそい、わかちあえる関係をつくることを大切に」がミッションだ。

わが町にしなり子育てネット

賞 第７回優秀賞

〒557-0033 大阪市西成区梅南 1-2-6 西成区子ども・子育てプラザ

HP

「いつでも　どこでも　みんなで子育て」



わが町にしなり子育てネットは2000年に創立。「いつでも　どこでも　みんなで子育て」を合言葉に、すべての子どもたちが地域の中で自分らしく育つことと、安心して子育てをできる町づくりを目指す緩やかで温かなつながりを紡ぐ公私協働のネットワークだ。子育て中の保護者やサークルを中心に、保育所（園）、施設、行政、NPO、子ども食堂、地域のボランティアなど約70の団体・個人・行政が加盟。子育て・子育ち支援活動を通して子どもの権利擁護と自己実現に取り組み、虐待ゼロの町づくりや、子どもの最善の利益の実現を目指す。

D×P（ディーピー）

賞 第５回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 1-27 ファラン天満橋 33 号室

HP

通信制・定時制高校生たちの中退率改善や進路決定を目指す



不登校やいじめ・発達障害などさまざまな事情を抱えた高校生が通信制・定時制高校に集まっている。通信制高校卒業生の約半数が進学も就職もしないまま卒業しているとみられ、D×Pは高校生本人が納得のいく進路を選択できるようになるためのプログラムを提供している。社会人ボランティアが過去の経験や「なぜ今の仕事を選んだのか」を語り、生徒自身の進路に置き換え、考えてもらう授業を展開する。また教室の一角に安心してスタッフと話ができる場を設置。LINE（ライン）を使ったオンラインの相談「ユキサキチャット」も実施している。

こえとことばとこころの部屋 cocoroom

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒557-0002 大阪市西成区太子 2-3-3

HP

日雇い労働者らが参加できる学びの場開催



日雇い労働者の街として知られる大阪市西成区の釜ケ崎で、2012年から「学びたい人が集まれば、そこが大学」として「釜ケ崎芸術大学」を開催する。困窮者は無料。運営は寄付や助成金で賄う。炊き出し会場や施設の談話室などで年間100講座を開く。日雇い労働者の間で培われてきた互助精神や生き延びる知恵と技術も学び合う。元労働者を先生にスコップで井戸を掘ったり、外国人旅行客との交流も生まれたりした。コロナ禍ではオンラインを併用して開講を続ける。

Minami こども教室

賞 第６回奨励賞

〒544-0034 大阪市生野区桃谷３丁目 1-21 ３Ｆ

外国にルーツのある子どもたちの学習支援



大阪の繁華街・ミナミの一角で、毎週火曜の夜、さまざまな国から来日した子どもたちに無料の学習教室を開く。ひとり親や再婚家庭など環境はさまざまだが、通っているのは経済的に苦しい子どもたちがほとんど。教室は飲食店などで夜遅くまで働く親を待つ居場所、さらには地域の小学校と協力して家庭環境の相談に乗るなど、ソーシャルワークの場でもある。コロナ禍では、子どもたちへの食事配布や、受験生を中心にオンラインの学習指導も実施した。

子どもアドボカシーセンターOSAKA

賞 第 11 回優秀賞　　NPO法人

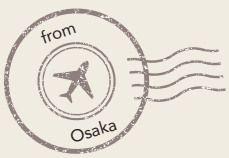
〒590-0079 堺市堺区新町2-４　小山電ビル2階

HP

施設などの子どもが言えない悩みや要望を聴き、代弁



2020年3月に任意団体として発足、６月にNPO法人格を取得。児童養護施設や障害児施設を訪問し、入所する子どもたちが言い出せない悩みや要望を施設側に代弁する活動をする。国は2022年度をめどにこうした取り組みの制度化を目指しており、モデルケースとして注目される。同様の活動は1970年代に英国で始まり、「子どもの権利条約」の趣旨を体現するものとして世界に広がりつつある。





たこ焼き

Happy mam（ハッピーマム）

賞 第９回優秀賞　　NPO法人

〒571-0055　大阪府門真市中町３-17

HP

ひとり親家庭に食材などを提供、悩み相談も



困窮するひとり親家庭に支援者から寄付された食材や洋服を送っている。６カ月に１度は必ず面談を実施し、子育てなどの悩み相談に乗る。支援している家庭は１２世帯で、重病を抱える親もいる。クラウドファンディングで出資を募り、団体を設立した。手作りクッキーを販売し売り上げの一部は支援金に。ユーチューブには「ハピマムチャンネル」を開設、活動内容や生活の知恵を動画で分かりやすく伝えている。

SEIN（サイン）

賞 第 10 回優秀賞　　NPO法人

〒590-0115 堺市南区茶山台 2-1-21-302

HP

高齢化のニュータウンに総菜店開設、交流の場に



高度経済成長期に整備されたニュータウンが高齢化で、空き部屋増加、買い物難民、独居者の孤立に直面している。課題を解決しようと、空き室を改装した総菜店「やまわけキッチン」をオープン、１人分程度に小分けしたおかずを組み合わせ、店内で仲間と食事ができる交流の場になっている。団地で生まれ育った湯川まゆみさんが代表理事を務めるNPOと府住宅供給公社が連携。コロナ禍で弁当の配達を開始、高齢者の見守り機能も果たしている。

兵庫

- KOBE 鉄人 PROJECT
- 日本コウノトリの会
- 山王自治会
- 神戸農村歌舞伎保存会
- 鳴く虫と郷町実行委員会
- ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会
- フードバンク関西
- 多言語センター FACIL（ファシル）
- くさかんむり
- 多文化共生センターひょうご



日本コウノトリの会

（受賞当時：コウノトリ湿地ネット）

賞 第３回優秀賞

〒669-6103 兵庫県豊岡市城崎町今津 1362

HP

コウノトリの餌場の湿地をつくり保全続ける



国の特別天然記念物コウノトリは1971年、野外で姿を見ることができなくなった。国内最後の生息地とされる豊岡市では2007年、人工増殖した個体の野生復帰事業に着手し、野外で初のひなが誕生した。「コウノトリ湿地ネット」として市民らがコウノトリの餌場となる湿地づくりとその保全に取り組んできた。耕作放棄地を湿地に変える事業のほか、湿地周辺のごみ拾いなど環境整備も。活動は全国的に広がり16年に「日本コウノトリの会」が結成された。20年に活動を一本化した。

山王自治会

賞 第４回ブロック賞（近畿）

〒669-4273 兵庫県丹波市春日町国領 2038

小集落が太陽光発電で運営費捻出、特産品販売も



兵庫県丹波市の山あいにある約10世帯でつくる自治会。高齢者世帯にとって負担になる自治会費を、共有地に設けた太陽光発電の売電収入で賄おうと発案、収入によって自治会費の負担はゼロになり、公民館にエアコンを付け、トイレの改装もできた。耕作放棄地を利用したサンショウや小豆栽培、和菓子やサバ寿司づくりにも挑む。人口減が進む状況は厳しいが、新たな挑戦への機運が生まれ、小さな自治会の空気は明るくなってきた。

KOBE 鉄人 PROJECT

賞 第２回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒653-0041 神戸市長田区久保町 6-1-1-401

HP

鉄人28号のモニュメントを核に復興に取り組む



阪神大震災で大きな被害を受けた神戸市のJR新長田駅南地区の活性化のため、地元商店主らが結成した。神戸市出身で漫画家・横山光輝氏の代表作「鉄人28号」の実物大モニュメント（高さ18㍍）を、復興とまちおこしのシンボルとして全国からの寄付を基に造った。また横山氏の歴史漫画「三国志」の資料を集めたギャラリーも開設した。年間約40のイベントを開催、にぎわいを見せている。

ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会

賞 第７回優秀賞

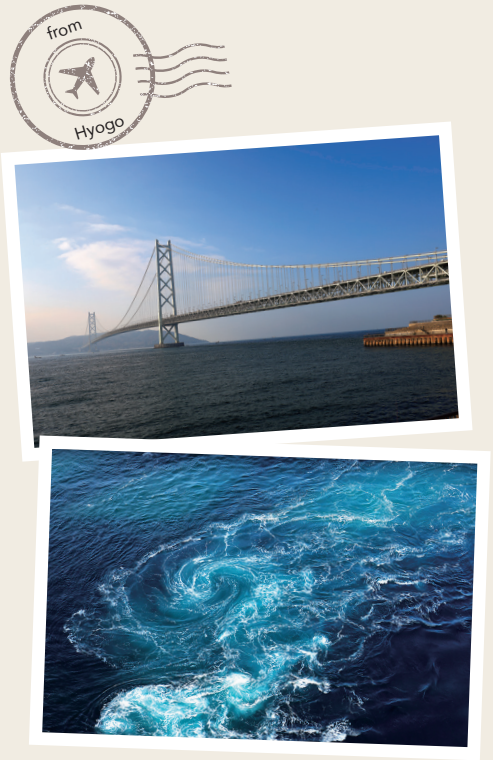
〒679-2111 兵庫県姫路市山田町多田 249

HP

ジャコウアゲハをまちづくりに活用



兵庫県姫路市の市蝶・ジャコウアゲハをまちづくりに活用するため2013年に開かれた「ジャコウアゲハサミット」を機に結成された。まちづくりグループ、民間企業など約30団体が加入。餌となるウマノスズクサを市内各地で増やす活動や写真展、観察会などに取り組み、姫路駅前や街中でチョウが確認されるまでに。小学生向けにジャコウアゲハの卵・餌の観察キットを配布、依頼があれば小学校で講義をすることも珍しくない。桜を植え、憩いの場をつくる計画もある。



淡路島　〈提供：ソラシドエア〉

神戸農村歌舞伎保存会

賞 第５回ブロック賞（近畿）

〒651-1221 神戸市北区緑町 3-2-42

HP

農村歌舞伎を復活、普及に取り組む



神戸市の有志が1990年ごろから、子どもたちに歌舞伎を教えた活動が出発点となった。阪神大震災で一時中断したが、神社の境内などに残る古い歌舞伎舞台を再評価し、保存や活用にも力を入れてきた。回り舞台や花道などを備えたものもある。活動に共感した住民が舞台を新築し、住民のダンスなどの活動発表も行われるようになったケースも。市内で開く子ども歌舞伎講座や、女性中心の歌舞伎集団「神戸はことら座」、幼稚園児の歌舞伎衣装での豆まきなど親しみやすい歌舞伎の普及を進め、各地で喝采を浴びている。

鳴く虫と郷町実行委員会

賞 第６回優秀賞

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前 1-1-3 伊丹市立文化会館内

HP

市街地で虫の音を楽しむユニークな行事開く



江戸時代から酒造業などで栄えてきた人口20万人の伊丹市で、秋の虫の音を楽しむイベント「鳴く虫と郷町」を毎年実施している。江戸時代の庶民の風習「虫聴き」をテーマに、伊丹市昆虫館で実施された展示を、市街地の国指定重要文化財旧岡田家住宅を中心とした伊丹郷町界隈に拡大。約15種、3000匹が展示され、関連イベントは60を超える。スズムシを越冬させる「里親制度」など、準備から市民が深く携わる。口コミで広がり、京阪神から2万人以上が訪れている。

くさかんむり

賞 第 10 回優秀賞

〒651-1603 神戸市北区淡河町淡河 1447

HP

かやぶき職人らがワークショップ、海外と交流も



全国でも屈指のかやぶき民家数を誇る神戸市北区を中心にカヤの葺き替え作業の傍ら、かやぶきの魅力を伝えるワークショップや海外の職人との交流も手掛ける。職人7人。1棟の葺き替えに1カ月～1カ月半かかるため、年間に作業できるのは8棟ほど。葺き替えは遠方から取り寄せる材料の調達費が課題で、神戸市も地元グループに数年がかりでススキを育成し、収穫する「茅場」を作ってもらい、その活動費を補助するなど支援に動く。2019年には同名の株式会社も設立した。

フードバンク関西

賞 第８回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒658-0021 神戸市東灘区深江本町 1 丁目 8-16 バレル芦屋 101

HP

企業、個人から食料譲り受け、世帯支援に無償提供



企業や個人から商品としては扱えないが食品として全く問題のないもの、使い切れなかった食品の寄贈を受け、食品を必要とする人をサポートする団体や個人に無償で提供している。福祉施設やこども食堂に定期的に食品を提供するほか、行政と連携して生活困窮に陥った世帯への緊急食支援「食のセーフティーネット」事業や、民間の支援団体と連携してひとり親世帯に毎月1年間、宅配で食品を送る「子ども元気ネットワーク」事業を実施。コロナ禍では、学校の長期休暇の際、生活困難な子育て世帯に食品パックを送る事業など個人世帯支援にも注力している。

多文化共生センターひょうご

賞 第 11 回優秀賞

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 4 丁目 12-20-201

HP

外国人に日本語教室や医療を仲介、コロナ禍で支援も



神戸市を中心に、2000年から在留外国人の支援活動を続けている。日本語教室の開催や、行政窓口への同行、確実に医療を受けられるように仲介するボランティアの養成などを手掛ける。新型コロナ禍の中、手洗いやうがいのやり方を分かりやすく教える絵本を制作したり、ネットアンケートを実施して差別に苦しむ現状への不満や悩みを聞き取ったりしてきた。住民団体との情報共有も進め、地域全体での課題解決に取り組んでいる。

多言語センター FACIL（ファシル）

賞 第９回大賞　　ＮＰＯ法人

〒653-0052 神戸市長田区海運町 3-3-8 たかとりコミュニティセンター内

HP

地域社会と外国人コミュニティーをつなぐ「コーディネーター」



阪神・淡路大震災を契機に、地域住民である外国人が必要とする情報の翻訳、生活現場で必要な通訳者の派遣など、地域の多言語環境を促進し、社会的課題の解決に向けた提言も行う。また、外国人を含む地域住民や行政、医療機関、地域企業などからの多言語・多文化ニーズにさまざまな形で応えるための企画を立案、実施する。登録通訳・翻訳者は約1500人で約70言語に対応する。

奈良

- チャレンジ企業支援隊
- 奈良中央信用金庫
- 大和信用金庫
- 竹茗堂　左文
- 奈良無想窯
- きみかげの森
- 奈良まほろばソムリエの会
- 南都銀行
- 奈良の食文化研究会
- ゼロ・キャンペーン事務局



奈良中央信用金庫

賞 第２回優秀賞

〒636-0398 奈良県磯城郡田原本町 132-10

HP

中小企業向け助成金で地域経済を活性化



県内の中小企業を支援することで、地域経済の活性化に貢献することを目的とした「ちゅうしん地域中小企業振興助成金制度」（愛称・グッドサポート）を2008年に創設。これまでの13年間で1493件の応募があり、130の企業などに総額10,390万円の助成を行った。今では、進取の取り組みに熱心な受賞企業同士が連携し、近畿経済産業局の仲介による開放特許制度を利用した商品開発を進める事例も出てきている。

大和信用金庫

賞 第３回優秀賞

〒633-0091 奈良県桜井市桜井 281-11

HP

金利上乗せの定期預金など通じ河川浄化を支援



奈良盆地を流れる大和川は、全国でもとりわけ深刻な水質汚濁の問題を抱える。水質悪化は家庭からの生活排水が主な原因で、排水量の削減が求められていた。このため、市民の意識向上につながれば、という思いから、水質の改善度合いに応じて金利を上乗せする「大和川定期預金」を創設。定期預金の預入総額の０.０１％相当と役職員の寄付で基金を設け、大和川の源流体験ツアーなども開催している。

チャレンジ企業支援隊

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒630-8037 奈良市中町 5142-10

HP

中小、ベンチャー企業のビジネスを専門家が支援



地元の中小企業やベンチャー企業などの支援を通じて、地域経済の活性化につなげようと、大手電機メーカーの退職者や、現役経営者らで立ち上げた。経営戦略、商品開発、IT技術などメンバーの実務経験に基づく専門性を生かし、きめ細かく相談に乗っている。奈良県からの業務委託で支援隊として複数の女性を雇用し、女性の就業率向上にも貢献したことも。企業の経営者を招いた講演会など、学びにも力を入れている。

きみかげの森

賞 第６回ブロック賞（近畿）　　ＮＰＯ法人

〒632-0113 奈良市都祁馬場町 566 番地

HP

山林に広場を整備、音楽会など交流を進める



奈良市の北東部大和高原、都祁地域を拠点に豊かな自然環境と地域の文化に触れながら農山村と都市との交流を図り、耕作放棄地や荒れた山林をよみがえらせ、その過程を通し、子どもや障がいのある人々に生きる力と希望を与えることを目指す。特産品をつくり販売、独自ブランドの開発に力を入れる。山林の谷間にステージを設けた「森のフェスタ」での会員らのコーラス披露、子ども向けの木工教室も。フェスタでの高校生の発表や、農業科で飼育している動物との触れ合いも予定している。

竹茗堂　左文

賞 第４回優秀賞

〒630-0101 奈良県生駒市高山町 6439-3

HP

茶道に欠かせない茶せんを伝統技法でつくる



茶道において抹茶をたてるのに使う茶道具の一つである、茶せんづくりの老舗。茶せんは湯を加えた抹茶を茶碗の中でかき回し、お茶を泡立てる道具で、繊維が細く、強くてよくしなる竹を用い作られている。比較的安価な中国製のものが大量輸入されていた時代もあったが、日本産の竹にこだわり、伝統的な工法を守ってきた。県内の奈良先端科学技術大学院大と竹の共同研究を行っている。

奈良まほろばソムリエの会

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒630-8217 奈良市橋本町 3-1 BONCHI 内

HP

奈良に精通し歴史・文化・観光の振興図る



奈良を愛する会員が歴史・文化・観光に関する知識・経験を生かし、ガイドや講演、文化財調査など、さまざまな社会貢献活動を行う団体。会員のほとんどが奈良のご当地検定「奈良まほろばソムリエ検定」（奈良商工会議所主催）の最上級資格「奈良まほろばソムリエ」の有資格者。2019 年には寺院の情報をコンパクトにまとめた「奈良百寺巡礼」を出版。21 年には奈良県内で詠まれた歌を紹介する「奈良万葉の旅百首」を出版した。（設立 10 周年記念出版）

奈良無想窯

（受賞当時：奈良無双窯）

賞 第５回優秀賞

〒633-0423 奈良県宇陀市室生田口元角川 394

地元の鉄分の多い土にほれ込み、窯を開く



室生寺などがある旧室生村（現宇陀市）に 1993 年に移住し、茶碗、花器といった焼き物の創作活動に取り組む。ここで採れる鉄分の多い土にほれ込んだことが移り住むきっかけとなった。作風は奇をてらうことなく日常使いにこだわり、使えば使うほど心地よい風合いが出るという。県内外のギャラリーや百貨店で展示会を開催し、人気を博している。地元の小中学生らを工房に招き、陶芸体験教室を開くなど、地域活動にも積極的に取り組む。宇陀市のふるさと納税に返礼品として参加している。

ゼロ・キャンペーン事務局

賞 第 10 回優秀賞　　一般社団法人

〒636-0246 奈良県田原本町千代 828

歯ブラシメーカー母体に、むし歯予防や出前指導



奈良県の中心に位置する田原本町で 40 年以上の歴史をもつ歯ブラシメーカーを母体とし、2019 年 に地域の子どもたちのむし歯ゼロを目指して誕生した。地域のイベントへ参加、むし歯予防、口腔衛生に関する啓発、啓蒙活動やスポーツ少年団への歯磨きの出前指導、高校や大学の学生らとの意見交換や共催イベントの開催など地元を中心に活動を続けている。

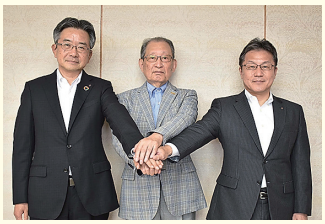
南都銀行

賞 第８回優秀賞　　株式会社

〒630-8677 奈良市橋本町 16

HP

地銀として観光業をはじめ地域産業活性化に努める



80年以上の歴史を持つ銀行で、奈良県に本店を構える唯一の地方銀行。　創業支援や企業誘致、観光業をはじめ地域産業の活性化に努めている。21 年4月には、地域活性化事業会社「奈良みらいデザイン株式会社」を設立し、銀行業務の枠に捉われない事業展開により、地域課題の事業化による解決に取り組んでいる。同社では、21 年7月に奈良専門オンラインショップ「ならわし」をオープンし、生産者の想いやモノづくりの背景にあるストーリーを全国の消費者に届けることで、奈良へ訪れたくなる仕組み作りに取り組んでいる。

大和信用金庫

賞 第 11 回優秀賞（第 3 回優秀賞）

〒633-0091 奈良県桜井市桜井 281-11

HP

観光活性化、巡礼誘致、地域見守りからコロナ禍対応も



地域金融機関として幅広い分野で地域活性化に貢献している。これまで地方自治体、大学、企業、NPO 団体とも連携して取り組んでおり、活動の輪が広がっている。桜井市におけるまちづくり、三郷町における観光活性化、奈良大和四寺の巡礼参拝客誘致協力、地域見守り活動などさまざまな取り組み実績がある。コロナ禍においては、県内金融機関の中でいち早く企業の支援をするとともに、医療関係団体へ計3万枚のマスク寄贈等も行っている。

奈良の食文化研究会

賞 第９回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒630-8115 奈良市大宮町６丁目 6-11

HP

奈良の郷土料理や地元食材を研究、県内外に発信



歴史文化が深く「和食の発祥の地」とも言える奈良の食文化を研究し、県内外に発信している。奈良の食は「奈良にうまいものなし」とまで言われ、本来のおいしさがまだまだ知られていない。郷土料理の発掘と研究、地域の料理講習、食文化に関する講演会、食育シンポジウム、食文化に関する催しや、PRイベントへの参加などに取り組んでいる。奈良新聞に月1回、地域の食文化について取り上げたコラムを掲載しており、それらをまとめた本をこれまでに2冊出版した。

和歌山

- 色川地域振興推進委員会
- 秋津野
- 日高川漁業協同組合
- 黒江の町並みを活かした景観づくり協定
- 岩倉流泳法保存会
- 紀州農レンジャー
- 串本町トルコ文化協会
- 玉津島保存会
- 紀州藤白　鈴木屋敷復元の会
- 白浜レスキューネットワーク



秋津野

賞 第２回ブロック賞（近畿）　　農業法人株式会社

〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津 4558-8

HP

かんきつのまちで廃校活用しグリーンツーリズム



農家や住民ら500人近くが出資して設立した。特産のかんきつ類を中心にソーシャルビジネスを進める。廃校を利用した体験型グリーンツーリズム施設は、独立した直売所と合わせ、年間計12万人を集める。農業体験などもでき県外から訪れる人も多く、地域経済を支える柱に育ってきた。大学や行政、さらには情報通信技術（ICT）企業と連携。人材育成や高齢化、交通インフラなど地域の問題を考える場づくりを進める。小水力発電、農業法人の確立など取り組みは幅広い。

日高川漁業協同組合

（受賞当時：日高川漁業協同組合日高川あゆ種苗センター）

賞 第３回優秀賞

〒649-1444 和歌山県日高川町松瀬 310

HP

アユやアマゴの種苗を供給し、和風おかず商品化



1951年設立の漁協が、県内全域にアユとアマゴの種苗を供給している。地元の特産品にしようと、アユとアマゴの一夜干しの生産を始めた。観光客らに支持され、売り上げが伸びてきたが、製造現場の通年での雇用は難しかった。このため、常温で長期保存できるレトルトパックの和風おかずの開発に乗り出し、甘露煮や塩焼きなどの商品化につなげた。地域の販売所や旅館などで販売し、地元の雇用拡大に貢献している。

色川地域振興推進委員会

賞 第１回特別賞

〒649-5461 和歌山県那智勝浦町大野 2228 番地１

HP

山村のありのまま伝え定住体験、移住者を迎える



住民らが移住者の受け入れ組織を立ち上げ、地道に活動を展開。移住者は約320人の住民の半数を超えた。早くから集落消滅の危機に向き合い、年1、2家族ずつ移住者を積み上げてきた。新しい住民は農林業に加え、民泊など起業に取り組む。路線バスは少なく小さな店しかない、空き家に住むには修理が必要などありのままを伝え、定住体験などを通じ、抱える課題を共に考える仲間として移住者を迎えてきた。〝移住2世〟が後を継ぎ、〝3世〟が生まれる家も出始めている。

紀州農レンジャー

賞 第７回優秀賞

〒649-6416 和歌山県紀の川市上野 92-14

無農薬・有機栽培の高付加価値農業に取り組む



レッドにピンク、深緑にブラウン…。それぞれが自分のカラーを持ち、未来の地球を守る正義の味方、それが紀州農レンジャーだ。無農薬・有機栽培の高付加価値の農業を行う。中には、蜂を使ってカメムシを駆除する天敵農法など先進的な農業に挑戦する人も。ブランド野菜に取り組み、「レンジャー野菜」と名付けて親しんでもらう。30代が中心となり、農業を襲う高齢化・過疎化とも戦っている。地域のイベントや、子どもたちへの食育にも積極的に取り組む。

黒江の町並みを活かした景観づくり協定（黒江ジャパン）

賞 第４回優秀賞

〒642-0001 和歌山県海南市船尾 222

町家を整備し漆器のまちらしい外観を次代へ



英語で「ジャパン」と呼ばれる漆器。黒江地区は日本の四大漆器産地の一つとされ、歴史的な町並みが残る。しかし空き家や空き地が増え始めたことで、危機感を持った地元住民が立ち上がり「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」を地区内で結んだ。略称は「黒江ジャパン」。地区外のサポーターも加わり、コンサートやクラシックスポーツカー関連などのイベント活動を展開。古民家を利用したレストハウスづくりの取り組みも始めた。

串本町トルコ文化協会

賞 第８回優秀賞

和歌山県串本町

トルコとの友好図り舞踊や料理などの文化伝える



串本町は1890年に沿岸で起きたトルコの軍艦エルトゥールル号の遭難事故で、地元住民の懸命の救助、介抱により多くの乗員が帰国できたのを機に、トルコとの友好が続く。協会は両国を結んだ真心を次世代につなぐことを目的に設立され、トルコの民族舞踊や料理、手芸、言葉を学んでいる。両国友好のテーマの下、イベント開催時はもちろん、日頃から協会を中心に町民一丸となって盛り上がり、地域の活性化に貢献している。

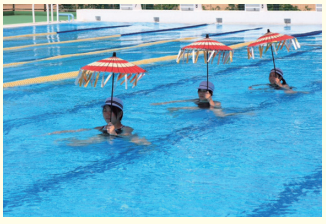
岩倉流泳法保存会

賞 第５回優秀賞

〒640-8343 和歌山市吉田 778

HP

武術が起源で、300年余り続く泳法を継承



江戸時代、紀州藩士の岩倉重昌が生み出した岩倉流泳法を継承する。日本水泳連盟が公認する日本泳法の一つだ。保存会のメンバーが伝統泳法の普及活動に取り組んでいる。さまざまな大会にも参加し、技術を磨いている。心身の鍛錬に加え、溺れないことを基本とし、海の波や川の水の流れに応じた泳法がそれぞれ楽しめる。幼稚園児からお年寄りまで計約100人が参加、遠泳や寒中水泳に取り組んでいる。傘下団体にNPO法人WISCがある。

白浜レスキューネットワーク

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒649-2211 和歌山県白浜町 3137-8

HP

自殺志願者に「いのちの電話」で対応、社会復帰を支援



観光名所として知られる一方、身を投げようと訪れる自殺志願者が後を絶たない和歌山県白浜町の断崖「三段壁」に「いのちの電話」を設置し、助けを求めてかけてくる電話に24時間対応している。また、断崖周辺でパトロールなども行って、自殺志願者を保護したうえで、その人たちが共同生活を送ったり、職業訓練も兼ねて働いたりする場所も提供し、社会復帰を支援する活動も行っている。





天神崎　〈写真提供：公益社団法人　和歌山県観光連盟〉

玉津島保存会

賞 第９回優秀賞

〒641-0035 和歌山市関戸 3-5-12

HP

イベントや講座、写真展重ね地元の名勝アピール



和歌山市の南部にある玉津島をはじめとする和歌の浦一帯は、京に住む貴族たちのあこがれの景勝地であり、歌枕ともなっている。伝統ある美しい景観を地元の人たちが誇りにし、いつまでも守っていこうと、清掃活動やイベントの開催など地道な取り組みを続けている。地域の文化財を守る3団体が協力して「NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構」を設立。2019年に和歌山市文化奨励賞を受賞。21年には清掃を担当する名勝和歌の浦クリーンアップ隊が国交省に表彰された。

紀州藤白　鈴木屋敷復元の会

賞 第 10 回優秀賞

〒642-0034 和歌山県海南市藤白 448 藤白神社内

HP

「鈴木」姓ルーツの史跡復元に神社、財界が奮闘



2015年に「鈴木屋敷」を含む藤白神社境内が国史跡に指定されたことをきっかけに、文化的にも、観光資源としても貴重な「鈴木屋敷」を守ろうと、同年、神社、地元経済界、商工会議所が協力して「鈴木屋敷復元の会」を設立した。「鈴木」の姓を持つ企業や個人を中心に、全国に復元への協力を呼び掛けている。22年には建物の建築に取りかかる予定で、準備を進めている。

鳥 取

- 若桜鉄道　隼駅を守る会
- 二部地区活性化推進機構
- 智頭の森こそだち舎
- 鳴り石の浜プロジェクト
- 伯耆国たたら顕彰会
- 鳥の劇場
- 白鳳の郷地域活性化協議会
- 元気みなと
- 三朝温泉かじか蛙保存研究会
- シーセブンハヤブサ

二部地区活性化推進機構

賞 第２回優秀賞

〒689-4233 鳥取県伯耆町二部 1562-1

HP

宿場町の歴史を案内、ハロウィーンイベントも



中山間地の二部地区はかつて、出雲街道の宿場町として栄えた歴史をもつ。しかし、高齢化や人口減が進み、住民はまちの活力を取り戻そうと立ち上がった。米子市の青果市場と連携した野菜の販売開拓を進めるほか、山菜や農産物などを味わう会を開催。街道の歴史ガイドも引き受ける。１０月のハロウィーンの時期には、子どもたちが地元産のカボチャをくり抜き、中にろうそくを入れ、路上に並べるイベントを開いている。

智頭の森こそだち舎

（受賞当時：智頭町森のようちえん まるたんぼう）

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒689-1442 鳥取県智頭町大屋 407

HP

自然の中で「見守る保育」発展、移住者呼び込む



「幼い頃から自然と触れ合う機会を与え、自然の中でのびのび遊ばせたい」という親の思いから創設。「まるたんぼう」「すぎぼっくり」の二つの森のようちえんを運営している。町内の森を遊び場とし、子どもが自然の中で主体的に過ごすことを尊重、「見守る保育」を積極的に進めている。卒園後の居場所および多様な学びの場として「新田サドベリースクール」を開校した。森の子育てにひかれて移住する人は200人を超え、暮らし始めるためのシェアハウスも開設。町内に発足した助産院との連携にも取り組む。

若桜鉄道　隼駅を守る会

賞 第１回優秀賞

〒680-0405 鳥取県八頭町隼郡家 268-2

大型バイクによるまちづくりで三セク存続目指す



第三セクター・若桜鉄道の存続と周辺地域の活性化を目的に地元住民らが結成した。隼駅と同名であるスズキの大型バイク「ハヤブサ」にちなんで「バイクのまちづくり」を掲げ、環境整備に取り組む。毎年8月、約２５００台のハヤブサライダーたちが全国から集結し、地元住民と交流する「隼駅まつり」を開催している。また若者たちがカフェレストランや、古民家を活用したゲストハウスをオープン、ライダー、鉄道ファン、住民の絆を強めている。

鳥の劇場

賞 第６回ブロック賞（中国・四国）　　ＮＰＯ法人

〒689-0405 鳥取市鹿野町鹿野 1812-1

HP

廃校の劇場で演劇を上演、文化拠点に成長



鳥の劇場は、2006年以来、鳥取市鹿野町で使われなくなった幼稚園と小学校を劇場に造り変え、演劇の拠点としている。毎年9月に実施する「鳥の演劇祭」、海外の劇団やアーティストとの共同作業、障害者芸術への支援など活動は幅広い。近隣の学校では演劇を通じたワークショップの授業を実施、子どもたちに表現力や多様な物の考え方を教えている。地域に根差しつつ、地域の枠を超えた活動を展開し、演劇でしかできない形で地域に貢献することを目指している。

鳴り石の浜プロジェクト

賞 第４回優秀賞

〒689-2501 鳥取県東伯郡琴浦町赤碕1927−1 赤碕ダイハツ有限会社内

HP

波で石が鳴る海岸を再発見、観光名所に育てる



高規格道路が開通して琴浦町の交通量が激減、「このままでは寂しい町になる」と危機感を持った地元有志が結成した。あまり知られていなかった「鳴り石の浜」と呼ばれる自然の海岸に着目。つるつるした丸い安山岩の石が積み重なった全国でも珍しい海岸で、打ち寄せる波で石が「カラコロカラコロ」と音を響かせる。いい音が「よく鳴る」ことから、物事が「良くなる」パワースポットとして発信したところ、全国から受験生や観光客が訪れるようになった。祭りを開催したり、海岸にひまわりを植えたりする活動にも取り組んでいる。

白鳳の郷地域活性化協議会

賞 第７回優秀賞

〒689-2305 鳥取県東伯郡琴浦町槻下 975

HP

歴史遺産を掘り起こし、住民の連帯感創出



鳥取県のほぼ真ん中、琴浦町で2009年、地域の有志が立ち上げた。国の特別史跡など地域内の歴史遺産の掘り起こしや、環境美化、地域住民の連帯感創出の場づくりに、精力的に活動を展開。耕作放棄地にモチ米やソバを栽培・販売する。地元特産の「鳥取県芝」発祥の地であることを知らせるため、芝生産をしている畑でプレーするグラウンド・ゴルフ大会を毎年実施。過度に補助金に頼らない財政モデルも確立、薄れていた地域の連帯感を取り戻した。

伯耆国たたら顕彰会

賞 第５回優秀賞

〒689-4503 鳥取県日野町根雨 616

HP

地元で栄えた「たたら製鉄」を継承、発信



日野町、日南町を中心に栄えた「たたら製鉄」の歴史が消えてゆくことに危機感を持った有志が集まり、立ち上げた。製鉄と当時の庶民の生活を分かりやすく伝えようと、鳥取県米子市在住の作家・松本薫さんが執筆した、小説「TATARA」を出版したほか、展示施設「たたらの楽校」を開設した。移動できる「ミニたたら」を使い砂鉄から鉄を生成する実演会や、関係地の専門家が集まる「たたらフォーラム」の開催を通じて、地域の歴史資源の文化的価値を積極的に発信している。

シーセブンハヤブサ

賞 第 10 回ブロック賞（中国・四国）　株式会社

〒680-0404 鳥取県八頭町見槻中 154-2

HP

廃校を改修した複合施設を運営、人材育成拠点に



無人駅近くの小学校だった建物を、シェアオフィス、カフェ、ショップが入った複合施設「隼Lab.（ラボ）」としてオープンした。起業を支援し、投資、IT企業、地域商社が拠点を構える。オープンエリアでは、若い母親や高齢者を巻き込んだイベントがめじろ押しだ。「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」を理念とし、起業家育成講座を通じて人材育成拠点を目指す。地域に根付いた活動を展開、過疎の町に年間4万人以上が訪れる拠点となった。

元気みなと

賞 第８回優秀賞　ＮＰＯ法人

〒684-0012　鳥取県境港市中町 26

魚のオブジェで海岸通りの景観形成、にぎわい創出



境港市のみなとさかい交流館から海とくらしの史料館までの全長 2.5 ㌔の海岸通り（旧元気みなと商店街を含む）を「おさかなロード」と命名、境漁港にゆかりのある「おさかなオブジェ」を複数体設置し、２０１７年「港湾協力団体」に指定された。ご当地グルメの開発や食のイベントに参加、実施している。また地元出身者の顕彰事業なども開催し、海岸通りの景観形成と、地元・境港のにぎわいの創出を図る。

鳥の劇場

賞 第 11 回優秀賞（第６回ブロック賞）　ＮＰＯ法人

〒689-0405 鳥取市鹿野町鹿野 1812-1

HP

小さなコミュニティーの可能性～出会いやつながりの場に



鳥の劇場は廃校になった幼稚園・小学校を劇場に変え、演劇を創作し上演する「劇団」としての活動と教育の場や上演の場を提供する「劇場」としての活動を２００６年から展開している。若手演劇人の育成、障がい者芸術への支援、地域での読み聞かせなど取り組みは幅広い。学校でのワークショップ「トリジュク」は演劇の力を使い子どもたちの学びと成長のサポートを行う。２０２１年秋に開催した「鳥の演劇祭１４」では障害や教育、建築など他分野との掛け算で出会いと思考の場をつくった。さまざまな活動を展開し、演劇文化による地域振興を図る。

三朝温泉かじか蛙保存研究会

賞 第９回優秀賞

〒682-0199 鳥取県三朝町大瀬 1203-1 三朝郵便局内

美声のカジカガエルを守ろうと川や森を整備



三朝温泉では初夏になると、川辺からカジカガエルの美しい鳴き声が響く。清流を守っているのが、かじか蛙保存研究会だ。約４０年前に「かじかの声を聞く会」として発足したが、カジカガエルが減り始め、鑑賞会から保護活動に力点を移した。清流の源流域に広葉樹を植樹して環境保全を図っている。豊かな自然の営みを循環させてカジカガエルの楽園を守り抜いた。毎年6月には川辺に席を設け、美声に耳を傾ける会を開いている。

島 根



- 萩の会
- 谷自治振興会
- プロジェクトゆうあい
- てごねっと石見
- 松江ツーリズム研究会
- 神門通り甦りの会
- おっちラボ
- サウンドファイブ夢の音会
- 地域・教育魅力化プラットフォーム
- 石見銀山ガイドの会

谷自治振興会

賞 第２回優秀賞

〒690-3514 島根県飯南町井戸谷 478-1 谷公民館

HP

予約制バスや雪かき活動展開、高齢化集落を維持



山々に囲まれ、高齢化の影響が深刻な地域で住民の互助機能の低下を補うため、全世帯をメンバーに組織した。有志が運転手を買って出て、高齢者らの買い物や医療機関への足となる送迎バス「せせらぎ号」を運行。雪に閉ざされる冬季には、高齢者世帯の雪かき代行も実施し、住民による互助の仕組みをつくっている。廃校となった小学校を改修し「谷笑楽校」をオープン。地域の交流拠点として神楽を舞うイベントを年2回開催したり、定期的にカフェを開いたりと、機能している。

プロジェクトゆうあい

賞 第４回ブロック賞（中国・四国）　ＮＰＯ法人

〒690-0888 松江市北堀町 35-14

HP

情報機器を駆使して障がい者らに優しいまちに



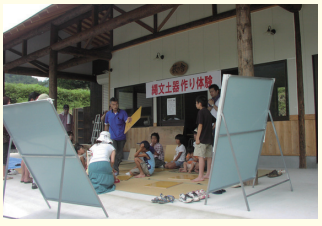
障がいの有無にかかわらず、誰もが自立して暮らせる地域づくりが目標。約 120 人のスタッフのうち半数近くが障がい者だ。視覚障がい者向けの音声案内装置や移動支援アプリの開発、車いす使用者向けに歩道の段差や多目的トイレなどを記したバリアフリーマップ作成などの事業を展開。就労訓練の一環として古本のネット販売や、パソコンのリサイクルにも取り組む。障がいがある子どもの放課後等デイサービスで学習や生活を指導。行政だけでなく民間も一緒に社会を変えていこうと、さまざまな団体と連携を進める。

萩の会

賞 第１回優秀賞　株式会社

〒698-1211 島根県益田市匹見町匹見イ 597-1

ブルーベリー軸に集落で会社、都市と交流楽しむ



高齢化が進み、農地の荒廃が目立ち始めた 1998 年、「空き家を出さないために何かできないか」と、ボランティア団体として立ち上げた。地区で栽培するブルーベリーを収穫、加工したジャムなどの販売が好調となり、繰越金が発生したことなどから 2006 年に株式会社に移行。「無理せず、楽しむこと」を社訓とする。子どもを対象に「縄文体験」や、ブルーベリーの収穫体験を企画し、都市部との交流も活発に進める。地域へのUターンも受け入れている。

神門通り甦りの会

賞 第７回優秀賞

〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町 1-42-202

出雲大社の門前町を復興



全国屈指の参拝者を誇る出雲大社。2013年の遷宮が終わり、より自立した街づくりを目指す。衰退していた門前町「神門通り」を復興するため、大社地区以外の「よそ者」が立ち上がり、神門通り甦りの会を結成。観光案内、空き店舗の活用促進を進め、新規出店を促した。「縁結び」をテーマに、歩ける門前町を行政や住民と一緒に取り戻した。出雲大社はうさぎと縁があり、神社とともに「うさぎプロジェクト」を企画、来客に通りを回遊してもらう企画に今後取り組む。

てごねっと石見

賞 第５回大賞　　ＮＰＯ法人

〒695-0011 島根県江津市江津町 1517-35

HP

江津市を拠点に創業を目指す人たちを支援



経営者、市職員、商店会マネジャーらが集まり、創業を目指す若者らを支援し定住につなげようと立ち上げた。てごねっとは地元の方言で「手伝い」を意味する「てご」とネットワークを合わせた造語。地域資源を活用した起業を後押ししようと江津市が始めた「ビジネスプランコンテスト」の企画、運営にあたる。また県内外で市民活動に参加している人や移住者らが学び合う「GO▶つくる大学」、駅前の交流施設「パレットごうつ」の運営、地域ぐるみで小中高校生のキャリア教育を進める事業などに幅広く取り組む。

おっちラボ

賞 第８回準大賞　　ＮＰＯ法人

〒699-1332 島根県雲南市木次町木次 29 三日市ラボ

HP

山あいの地で人材育成、ユニークなビジネス創造



人口減少や高齢化が進む山あいの地で、地域づくりの担い手育成を続ける。市が始めた人材育成塾の運営を受託、多彩な講師を招き開業も支援、県内外から集まった塾生のプラン実現を目指す。地元素材を生かしたカフェや、お年寄り向けに買い物と組み合わせた運動指導などユニークなビジネスも。Uターンした看護師らが始めた訪問看護ステーションは会社化し軌道に乗った。アイデアを形にする仕掛けづくりを広げる。

松江ツーリズム研究会

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒690-0887 松江市殿町 43 番地 カラコロ工房３階

HP

島根の魅力発信、観光振興につなげる



観光振興に的を絞った島根県内初のNPO法人として2005年に発足。小泉八雲の著作「怪談」ゆかりの地など、地域の観光資源を生かした着地型旅行を企画、実施する一方、松江城や小泉八雲記念館などの指定管理も担ってきた。18年からは日本銀行旧松江支店の建物「カラコロ工房」の指定管理者として同施設の運営に専念。18年末までの剰余金で、非営利型の一般財団法人松江ツーリズム研究会基金を設立し、島根の観光振興に貢献した人々を表彰する事業（松江ツーリズム研究会観光大賞、副賞金100万円）を展開している。

石見銀山ガイドの会

賞 第11回優秀賞

〒694-0035 島根県大田市大森町イ824−3

HP

世界遺産・石見銀山を案内、歴史や住民の姿を発信



江戸期に日本経済を支えた島根県大田市の世界遺産・石見銀山遺跡で観光ガイドに従事し20年の節目を迎えた。累計案内者数は63万人に達し、一見して往事の繁栄を伝える建造物がなく「価値が分かりにくい」とも評される鉱山の情報発信に努める。単なる「観光情報」にとどまらず、遺跡に溶け込むように生活する住民の暮らしぶりの紹介にも注力。環境と共生する地域の歴史、魅力を伝え、関係人口やリピーターの確保にも腐心する。





温泉津温泉石見神楽　〈龍御前神社〉

サウンドファイブ夢の音会

賞 第9回優秀賞

〒697-0303 島根県浜田市金城町久佐ハ295-13

HP

バンド活動が発展、拠点を整備し都市と交流



バンド活動などを通した地域づくりから取り組みを開始。結成50周年を超え、会員は20～60代の約40人。拠点として整備した「夢の音村」や「森の公民館」で都市部住民との交流を図っている。劇作家の生誕地であることを切り口に、森の公民館周辺から「島村抱月生誕地顕彰の杜」までの県道約11㌔の沿線で民泊受け入れ農家30軒を目指すなど、グリーンツーリズム推進に力を入れる。山菜やイノシシなど地域の食材を使った「ばあば級グルメ」レストランも企画している。

地域・教育魅力化プラットフォーム

賞 第10回記念賞　　一般財団法人

〒690-0886 松江市母衣町83-5 母衣町ビル3階

HP

島留学を拡大、都会の高校生を県全域で受け入れ



隠岐の高校に全国から生徒を呼び込む取り組みを「地域みらい留学」として島根県全域や全国に拡大するため、2017年に一般財団法人を設立した。地方と都市の生徒が刺激し合う濃密な3年間に生徒の意欲を育み、ひいては地域の活性化につなげることを目指す。若者流出が深刻なブータンでも活動する。コロナ禍ではオンラインを活用、週末にどこにいても参加できる地域留学説明会や、高校生らが社会人と語らいながら自分たちの未来を考える勉強会を開催している。

岡 山

- 倉敷町家トラスト
- 勝山のお雛まつり実行委員会
- かんなぎ
- 西粟倉・森の学校
- 矢掛ハッカ普及会
- かさおか島づくり海社
- てっちりこ
- タブララサ
- 川辺復興プロジェクトあるく
- KOTOMO 基金



勝山のお雛まつり実行委員会

賞 第２回優秀賞

〒717-0013 岡山県真庭市勝山 70-3 真庭商工会勝山支所

HP

城下町の軒先に江戸時代から現代までのひな人形



岡山県北部に位置する真庭市の中心地域・勝山地区は城下町として栄え、情緒ある民家や商家のまち並みが保存されている。この景観を生かして毎年3月の桃の節句に、それぞれの家が工夫を凝らし、おひなさまを飾るイベントを開催している。勝山は木材の町なので木びな（木で作る創作びな）を観光客に体験制作してもらうイベントなどをしている。家々の軒先には、江戸時代から現代までのさまざまなおひなさまが展示され、全国各地から観光客を集めている。

かんなぎ

（受賞当時：吉備野工房ちみち）

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒701-1342 岡山県岡山市北区加茂 611-1

HP

温故知新と刷新！地域に根差した幸せづくり



吉備の自然・歴史・文化が育んだ精神性を継承し、備中神楽をはじめ、現存する地域資源を共に創意工夫して魅力を高め、市民が地域に誇りや喜びを感じて暮らせるまちづくりの推進、文化・産業の振興に寄与することを目的とし、ゲストハウス総社かぐらやの運営、レンタルスペースやキッチンで野花や発酵、薬膳の知識などを楽しく学び共有できる場づくり、幸せの鍵である隣人とのつながり、コミュニティーづくりを行っている。

倉敷町家トラスト

賞 第１回準大賞　　ＮＰＯ法人

〒710-0053 岡山県倉敷市東町 1-21

HP

江戸～昭和の町家を生かし、ＳＤＧｓ達成目指す



江戸から昭和初期の古い町家が残る美しいまちなみを守ろうと、市民らが立ち上がった。古い空き家を町家生活が体験できる宿泊施設などに改装。かばん店や帽子店などの出店も仲介し、にぎわい創出につなげる。高校生と空き家再生も行う。周辺地域の団体とネットワークを構築して始めた「町家 de クラス」というイベントでは、お茶や日本画の教室やさまざまな暮らしの体験プログラムを実施し、保存の意義を理解してもらう運動を展開することで町家の良さを知ってもらい、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指す。

かさおか島づくり海社

賞 第６回大賞　　ＮＰＯ法人

〒714-0301 岡山県笠岡市北木島町 9768-29

HP

七つの島の住民生活を全面支援、特産品開発も



人口流出と高齢化に直面する岡山県笠岡市の七つの島で住民有志が立ち上がった。介護事業、買い物支援などを行政と連携し、全面的に展開する。住民のつながりを深めるため毎年９月、「島の大運動会」を開催、島外に住む出身者も集まる。瀬戸内の魚から三宅島の火山灰を使って余分な水分や臭みを除去した干物「魚々干（とっとぼし）」など特産品開発にも力を入れる。

西粟倉・森の学校

賞 第４回準大賞　　株式会社

〒707-0504 岡山県西粟倉村長尾 461-1

HP

95%が森林の村で地域資源にさらなる価値



面積の９５％が森林で「百年の森林事業」に取り組む岡山県西粟倉村に、2009年10月、設立された。自社工場で丸太を製材する工程から、一貫した生産体制でプロ向けの建材・DIYユーザー向けオリジナル商品などの生産・販売をしている。また周辺地域とのネットワークを生かした原木や製品の流通、大型建築物への木材供給など地域林業の発展・地域資源の価値を最大限に引き出すことを目的に事業を行っている。

てっちりこ

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒708-0431 岡山県鏡野町河内 60-8 みずの郷奥津湖内

HP

古くから栽培されるトウガラシ商品を開発



地元で古くから栽培されていたトウガラシを「姫とうがらし」と名付けてドレッシングやしょうゆなどの商品開発に取り組み、食を切り口にした地域おこしで注目されている。栽培のしやすさ、鳥獣害の少なさも特長。ホームページでの通信販売や、地元特産のゆずや山椒のコミュニティービジネスも展開している。6次産業化を通じて中山間地域でのビジネスの可能性を切り開くとともに、過疎･高齢化で衰退しつつある農業の活性化にも一役買っている。

矢掛ハッカ普及会

賞 第５回優秀賞

〒714-1201 岡山県矢掛町矢掛 3042 番地 1 矢掛放送内

HP

地元で栽培されていたニホンハッカが復活



矢掛町をはじめ、岡山県南部地域はかつてニホンハッカの一大産地だったが廃れてしまった。2010年に地元の河川敷に自生しているのを確認し、復活。「真美緑」「博美人」「秀美」として商標登録し、ハッカ油を抽出する蒸留所も開設した。ジェラート、あめ、お茶、焼酎などの商品化を進める。ハッカが利いたカクテル「モヒート」も人気を集め、県内や首都圏の飲食店などで楽しむことができる。日本のハッカ栽培の発祥地とされる岡山から再び、全国ブランドを目指す。

川辺復興プロジェクトあるく

賞 第 10 回優秀賞

〒710-1313 岡山県倉敷市真備町川辺

HP

豪雨被害を機に、母親らが生活支援や地域づくり



西日本豪雨で被災した倉敷市真備町東部の川辺地区で、子育て世代の母親らを中心に結成した。当初はプレハブの拠点を開設し、住民への支援物資配布や地域外のみなし仮設住宅に出た人たちとのつながりづくり、住民アンケートなどを実施。その後、各家庭が分散避難する「マイ避難先」の呼び掛けやスムーズな避難のためのツール「黄色いタスキ」導入など、安心して暮らすための防災の取り組みも始めた。豪雨災害の経験をもとに作成した「防災おやこ手帳」は1年間で約1万4000部をを全国に配布。生きがいづくりイベントなど地域を支える核になっている。

タブララサ

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒700-0927 岡山市北区西古松２丁目 4-7

電話番号 086-897-3095

HP

若者のエコの要素導入、岡山が“すき！”な気持ち高める



活動の原点は岡山市中心を流れる川沿いの西川緑道公園。こんなことがしたい！を大切にし、まちの人、地域の商店とのつながりを深めながら、リサイクルキャンドルを使った西川キャンドルナイトを毎年開催している。結婚式場で使ったキャンドルをリサイクルすることで環境配慮の気持ちとともに、幸せをシェアするHappy Share Candle事業、楽しい思い出の場であるイベントから出るごみの削減に取り組む〝エコスマ〟（エコをスマートに）など、中山間地域にも場を広げながら活動を続けている。

KOTOMO 基金

（受賞当時：おかやま親子応援プロジェクト）

賞 第 11 回ブロック賞（中国・四国）

〒700-0822 岡山市北区表町１丁目 4-64 上之町ビル３階 岡山 NPO センター内

HP

コロナ禍での子どもの孤立や学習遅れに連携して対応



コロナ禍で親子に起きた孤立や子どもの学習の遅れ、生活困窮、虐待、精神不安などの諸課題に対応しようと、岡山県内の子どもや親子に関わる32の民間団体・個人が結集した。「育ちを止めるな!」を合言葉に、オンラインでの各種体験プログラム配信や小中学生への学習支援、困窮家庭への日用品や学習用具の提供などの支援に連携して取り組んでいる。さらに自治体や社会福祉協議会と協働したメールによる生活情報提供などにも活動を広げている。2021年、活動を「KOTOMO 基金（こども基金）」へ発展。名称および運営方法を変更した。

UNOICHI 実行委員会

賞 第９回ブロック賞（中国・四国）

〒706-0001 岡山県玉野市

瀬戸内海の魅力発信、市民、移住者、学生ら参加



宇野港を拠点に瀬戸内海の魅力を発信しようと2014年から「UNOICHI 海が見える港のマルシェ」を開催してきた。玉野市民、移住者、大学生らが参加し、高校生もボランティアとして協力。18年には実行委員会の高校生がプラスチックごみの削減などによる海洋環境保全を目指す「SOS プロジェクト」を立ち上げた。コロナ禍でも清掃活動、エコクッズの企画・販売などできることに取り組む。20年秋には「瀬戸内海海ゴミフォーラム in おかやま」に代表が出席、思いを語った。

広島

- 工房おのみち帆布
- ブルーリバー
- 自治組織「共和の郷・おだ」
- 広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム
- 西中国山地自然史研究会
- 新建自治会
- 寺領味野里
- 尾道空き家再生プロジェクト
- 川西郷の駅
- 敷信村農吉
- 上下まちづくり協議会



ブルーリバー

賞 第２回大賞　　有限会社

〒728-0024 広島県三次市青河町 582-1

HP

住民が会社設立、割安の住宅提供し若者定住促す



廃止の危機に直面した地元の小学校を立て直そうと住民が出資して有限会社を設立、移住者を受け入れる住宅の建設を始めた。新築・改装を合わせて１３棟の住宅は満室状態が続き、小学校の児童も維持できる見通しが立った。経営を安定化させようと太陽光発電の売電事業も開始。地区内の荒れ地を購入、住民が出資して運営するレストランができ、都市と住民の交流の場になっている。単なる人口の取り合いにならないよう、周辺地域との広域連携を模索する。

自治組織「共和の郷・おだ」

（受賞当時：共和の郷・おだ）

賞 第３回特別賞

〒739-2207 広島県東広島市河内町小田 2182

HP

住民が「小さな役場」をつくり農業にも取り組む



住民で「小さな役場」をつくり分担して専門部会を組織、人口減や高齢化に挑む。農村振興部が中心となって調査し「10年後には農業をやめているかもしれない」と心配する声を受け、農事組合法人が設立され、大型機械を入れるなど効率化や品質向上に取り組んだ。また地域の基本目標を支える7本の柱と７７項目の地域ビジョンを設定し、ビジョンの具現化に向け取り組んでいる。一方で進む高齢化に対し、アンケートに基づいて部会や役員体制を再編、持続可能な在り方を探る。若い世代の呼び込みや空き家対策にも力を入れる考えだ。

工房おのみち帆布

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒722-0035 広島県尾道市土堂２丁目 1-16

HP

港町ゆかりの帆布で小物・バッグを製造・販売



港町の尾道はかつて、帆船用の布である帆布の製造が盛んだったが、化学繊維など新素材の台頭で廃れていった。市内に唯一残った帆布製造工場に着目し、服飾小物やバッグ作りに乗り出した。２００３年にNPO法人化した後、市内の商店街に店舗を構え、年間2万人が訪れる観光スポットに育った。帆布の原料の綿花栽培や、同じ地元の資源でもある柿渋で染めた帆布でバッグや小物を作り、尾道の伝統産品の魅力を発信する。

新建自治会

賞 第６回優秀賞

〒731-0222 広島市安佐北区可部東 6-7-39-6

HP

団地住民が防災にＩＣＴ導入、絆深める活動も



2014年の広島土砂災害で被害を受けた新建団地の自治会が、情報通信技術（ICT）を活用し「安心・安全な団地」を目指している。団地住民のほとんどにあたる184世帯、160人が大雨警報などのメール連絡網に登録。住民の安否を双方向で確認できるクラウドシステムを独自に構築し、16年から本格稼働している。さらに年2回の避難訓練や雨量の独自観測などを通じ防災力を高める。また主婦たちが「しんだて You & 友」として男女ともに参加できるサークル活動を開催、住民の絆を深めている。

広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム

賞 第４回優秀賞

〒720-1812 広島県神石高原町油木乙 1965

HP

放棄地活用、特産品目指し高校生がナマズ養殖



中山間地の神石高原町は、高齢化に伴い耕作放棄地が年々増加。放棄地の有効活用と特産品を作ろうと、比較的手間が掛からないナマズ養殖に目を付けた。生徒が代替わりしながら、養殖・加工技術を磨き、地域への普及を図る。全長30～50㌢に育ったナマズは、天丼や蒲焼きとして学園祭などで振る舞う。月に1回、学校近くの道の駅でナマズ料理を提供。ナマズの燻製加工や、冬の成長をよくするビニールハウスでの飼育、ふんを肥料として同時に水耕栽培するアクアポニックスへの取り組みも始めた。

寺領味野里

賞 第７回優秀賞

〒731-3824 広島県安芸太田町寺領 1668

地元特産の柿でスイーツ開発、世代交代に成功



平均年齢80歳を超すおばあちゃんを中心に運営してきた。2001年に地元特産の祇園坊柿を使ったスイーツ「チョコちゃん」を開発し、生産を続けている。12年、町観光協会と連携し、高付加価値化事業を展開。著名なパティシエの協力で製造工程を改革し、パッケージも刷新。15年には「おみやげグランプリ」で準グランプリを受賞した。世代交代が進み8人のメンバーのうち、以前からは1人だけ。平均年齢は70歳前後に若返り、期待を背負って生産に励んでいる。

西中国山地自然史研究会

（受賞当時：芸北せどやま再生会議）

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒731-2551 広島県北広島町東八幡原 10119-1

HP

山林所有者が伐採した木を買い取り、加工販売



林業の不振や後継者不足、商店街の不振などの課題を解決しようと住民が立ち上がった。地元の山林所有者が伐採して持ち込む木を買い取り、加工してまきストーブの利用者や、温浴施設に販売する独自の流通システム「せどやま市場」を開いた。エネルギーの地産地消と、荒廃が進む山林の手入れを両立させている。地元の商店だけで使える地域通貨「せどやま券」で木を買い取り、その利益を地域内で循環させることで、地元経済の活性化につなげている。

敷信村農吉

賞 第 10 回優秀賞　　株式会社

〒727-0014 広島県庄原市板橋町 1358-1

団地住民が防災にICT導入、絆深める活動も



人口３万5000人、広島県最北部の庄原市で地域住民の声から生まれた。出生数の減少で統廃合と民間委託の計画が進んでいた地域の保育所を、自分たちで運営するためだ。地域の農産物を給食に取り入れる中、販売にも事業を拡大。中国地方最大の都市、広島市内のデパートやレストランに無農薬、減農薬の農産物を届ける。ネット販売にも力を入れる。農村の特色を生かし、子育て可能な環境と雇用を確保するモデルとして注目されている。

尾道空き家再生プロジェクト

賞 第８回ブロック賞（中国・四国）　認定ＮＰＯ法人

〒722-0031 広島県尾道市三軒家町 3-23

HP

空き家を再生し、新たなまちの魅力を発信



坂と路地のまちに増える空き家。このままでは古い建物や特徴ある景観は失われてしまう。危機感をもった市民が立ち上がり、2008 年にNPO法人を設立した。再生を手掛けた空き家は 20 軒以上。カフェやギャラリーなど新たな観光資源になった。市から受託した空き家バンクでは、若者たちの移住を呼び込み、成約は 100 軒以上に。空き家を改修した宿泊施設を移住者の雇用の場とするなど工夫し、定住に成果を上げている。

上下まちづくり協議会

賞 第 11 回優秀賞

〒729-3431 広島県府中市上下町上下 1006

芝居小屋を保存・活用、白壁の町の魅力を動画で発信



広島県府中市上下町の住民有志たちが、町中心部に残る白壁の町並みを生かしたにぎわいづくりに取り組む。新型コロナウイルス感染拡大によって激減した観光客を取り戻そうと、収束後を見据えて町の観光地や名物を動画で撮影し発信するための準備を進める。中国地方唯一の本格的な芝居小屋「翁座」の保存と観光利用や、町中心部の空き家・空き店舗の活用にも取り組み、コロナ禍における「近場の観光地」として選ばれるまちを目指す。

川西郷の駅

賞 第９回特別賞　　株式会社

〒728-0621 広島県三次市三若町 2396 番地

HP

住民が株式会社を設立、産直農村コンビニを運営



近くに買い物ができる施設がなくなった三次市川西地区で 85％の住民が出資して株式会社を設立。

2017 年、ファミリーマートと提携し、地元農作物の産直市を兼ねた農村コンビニ「川西郷の駅　いつわの里」を開業した。主婦らが作る草餅や柏餅は売り切れてしまう人気商品に。うどんなどを食べられる軽食コーナーもあり、住民の交流の場となった。「住みたいと思える町」の拠点に育て、過疎の歯止めを目指している。

山口

- ジブンノオト
- 麦川安全・安心見守り隊
- 防府商工会議所
- 浜崎しっちょる会
- 青海島共和国
- 大道理百笑倶楽部
- 創生工房　仁保ヴィレッジ
- 山口狛犬楽会
- 福川こどもクラブ
- 学食ダイニング　グランマ



麦川安全・安心見守り隊

賞 第２回優秀賞

〒759-2214 山口県美祢市大嶺町奥分 188-2

児童の登下校を住民見守り、無事故記録を続ける



子どもの安全を守ろうと地元有志で結成した。隊員は子どもたちを集合場所から小学校まで毎日送り、通学路に3カ所ある信号のない交差点では横断を手助けする。児童らは学校前の交差点を渡り終えると、校門近くにある隊員手づくりの「交差点無事故記録」の掲示板の数字を新しくする。月１回の集団下校の際には、班員が児童を自宅まで送り届ける。メンバーは約20人で、散歩の途中に高齢者宅を訪問したり、下校時にも児童を見守ったりして、地域の安全に寄与している。2021年11月25日現在で10844日無事故。

防府商工会議所

賞 第４回優秀賞　　特定認可法人

〒747-0037 山口県防府市八王子 2-8-9

HP

「幸せます」を発信、世界記録の神輿パレードも



方言で「ありがたい」「助かります」を意味する地域ブランド「幸せます」のロゴを生み、商品開発を手掛ける。市とブランドをPRするため２０１８年4月２９日に「最大の連続した神輿パレード」のギネス世界記録を達成した。ゴールデンウイークの「春の幸せますフェスタ」で企業・団体・学校が計１００基の神輿をつくり、１７００人がパレードした。記録は性別不問だが、ご当地の天神おんな神輿が３０年続いていることもあり、女性だけの神輿で達成したことも話題となった。

ジブンノオト

（受賞当時：島スタイル）

賞 第１回優秀賞　　株式会社

〒742-2514 山口県周防大島町大字神浦 63

HP

100年続くふるさとをつくるキャリア教育



高齢化率日本一を記録していた山口県周防大島町に、2004年にUターンした若者が、島おこしの組織を立ち上げ起業支援を始めた。13年に「100年続くふるさとをつくる」を経営理念とした小中高・大学生を対象としたキャリア教育の株式会社を創設。周防大島町を拠点に、広島県教委「個別最適な学びに関する実証研究事業」や、岡山県教委「おかやま創生　小中学校パワーアップ事業」等を受託し、教育ビジネスを成長させている。20年には教育オンラインサロン「探究島」を開設し、教育を仕事にする人を育てている。

大道理百笑倶楽部

賞 第７回優秀賞

〒745-0242 山口県周南市大道理 1153

HP

棚田集落に芝桜、遊歩道や展望所を手作りし交流



人口400人、その半数以上が高齢者の集落に、棚田と10万本の芝桜を見ようと、毎春５万人が訪れる。作ったのは6戸の農家で始まった「百笑倶楽部」。農作業を軽減しようと畦に防草シートを張る際、芝桜を植えようと思い立った。デザインは専門学校の若者に依頼し、3年がかりで完成した。芝桜まつりは、手作りの遊歩道や展望所に加え住民との交流が魅力。活動の輪が広がり、元気な高齢者にひかれ移住する若者も出てきた。

浜崎しっちょる会

賞 第５回優秀賞

〒758-0022 山口県萩市浜崎町 77 番地

商家の家並み残る城下町をガイド、イベント開催



浜崎地区には、萩市の中でも江戸時代の商家の家並みが残る。景観を守り魅力を全国に発信しようと、地元有志が結成。メンバーが観光ボランティアガイドとして古地図などを手に地区を案内する。新鮮な魚の天ぷらや干物、和菓子の食べ歩きも。年1回のイベント「浜崎伝建おたから博物館」では、商家に伝わっている吉田松陰の書や、坂本龍馬の名前が入った萩焼など「お宝」を家の中などに展示。朝市開催や国史跡「旧萩藩御船倉」でのコンサートなどにも取り組む。伝統的建造物地区内に駐車場ができた。

創生工房　仁保ヴィレッジ

賞 第８回優秀賞

〒753-0302 山口市仁保中郷字中桑原 32

HP

農と食を基盤に地域のさまざまな人が交流





閉鎖されることになった山口県の環境緑化園（7.6㌶）を、残された500種類の樹木や花木を利用し地域の拠点として整備した。「歩く」「食べる」「育てる」をキーワードに、周辺農家や婦人団体、学校などのさまざまな人が参加、農と食を基盤とした情報交換や交流をしている。地域の大学と協力し、村内で育てているオリーブやドクダミ、ヨモギなどを活用した健康茶といった特産品開発にも取り組む。新規就農、さらには農業への理解を深める「きっかけ」の場として多岐にわたる活動にチャレンジする。

青海島共和国

賞 第６回優秀賞

〒759-4106 山口県長門市仙崎 2874

HP

廃校を活用し農業・漁業の体験観光を実施



日本海に浮かぶ青海島では、少子化と人口流出で閉校した小学校を拠点に、周辺を「共和国」に見立てて住民が地域おこしを仕掛けた。教室を迎賓館や〝国立〟博物館として活用、釣りや魚のさばき、キャンプを体験できる修学旅行が盛況。特産の仙崎かまぼこを、白身魚をおろすところから始め、バーベキューで食べるプランが人気だ。東京などから年間4000人が訪問。特産品の開発販売や耕作放棄地でのもち米栽培、民泊などに取り組み、元気な島づくりを進めている。

学食ダイニング　グランマ

賞 第 11 回優秀賞

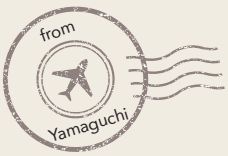
〒750-0005 山口県下関市唐戸町 5－50「唐戸市場」内　2F 魚食普及センター

HP

女性有志が地域の大学生に無料食堂開催、食料配布も



山口県下関市の唐戸市場で、2年前の春から月に1回、地域の大学生を対象に無料の食堂を開催。40~80代の女性有志15人ほどが食材や調味料などを持ち寄り、栄養・ボリュームたっぷりの食事をボランティアで調理・提供している。新型コロナ感染拡大後は、食堂を開く代わりに、手料理を詰めた弁当や缶詰・レトルト食品など2~3日分の食料を学生に配布。収入が乏しく食生活も貧しい学生の胃袋を“お袋の味”で満たしている。





下関のふぐ料理

山口狛犬楽会

賞 第９回優秀賞

山口県周南市

HP

個性豊かな狛犬を通して地元を愛する気持ちを醸成



神社などでよく目にするものの、地域ごとに特徴があることや由来など、知られていなかった狛犬に着目して、これまでに山口県内で１０００組余りの狛犬を調査してきた。春と秋には狛犬を巡りながら地域の文化や自然に親しむイベント「狛犬ウォーク」を開催する。地元ケーブルテレビ局の人気番組「狛さんぽ」や動画投稿サイトで狛犬の調査結果や地域の魅力を発信、海外にも伝えている。

福川こどもクラブ

賞 第 10 回優秀賞

〒746-0062 山口県周南市福川中市町 6-27

海や川、山の自然を生かした「こども探検隊」育成



身近にある海や川、山などの自然環境を生かした「こども探検隊」の活動に十数年にわたって取り組んでいる。毎年 30 人程度の小学生が参加。専門家の指導や、ボランティアサークルの大学生の協力の下で、沢登りや洞窟探検など、普段はできない「冒険」を体験することができる。活動に参加することで地域や自然への愛着が増し、定住する若者も出るなど、地域活性化や人材育成に貢献している。

徳 島

- グリーンバレー
- 徳島共生塾一歩会
- 新町川を守る会
- アニメまつり実行委員会
- 伊座利の未来を考える推進協議会
- いろどり
- とくし丸
- 鳴門「第九」を歌う会
- 阿波農村舞台の会
- 大歩危・祖谷いってみる会
- とくしまコウノトリ基金



徳島共生塾一歩会

賞 第２回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒779-1121 徳島県阿南市那賀川町黒地 158-4

HP

四国遍路の世界遺産化や地域の環境問題に取り組む



団体名には、地域の環境や文化を通して、「まちづくり」に「一歩一歩取り組む」という思いを込めている。コミュニティーの再生を目指し、「身近な環境や文化を守り、次世代につなげること」を合言葉に、現在「四国遍路の世界遺産化」とポケットパークの整備や自然公園のパトロールなどの「環境問題」を2本柱に活動を行っている。とりわけ、ハンディのある人たちや外国人のための「遍路ウオーク」、「お接待」「遍路道のクリーンアップ」などに力を入れている。

新町川を守る会

賞 第３回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒770-0832 徳島市寺島本町東 1-17

HP

浮遊ごみの清掃などで河川を整備、周遊船も運航



「市民の汚した川は市民の手できれいに再生しよう！」との思いから地元有志で結成。徳島市中心部の新町川や周辺の河川で、ボートに分乗して浮遊ごみを網で回収するなど清掃活動に取り組む。中心市街地を囲む河川の周遊船をほぼ毎日、無料運行（保険料は必要）し、市民や観光客に人気。不法係留されているボートや桟橋撤去も進める。国道沿いには年3回たくさんの花を植える。世界各国のボランティアが活動に参加、カップルも誕生した。「水都」にふさわしい世界に開かれたまちづくりを目指す。

グリーンバレー

賞 第１回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒771-3310 徳島県神山町神領字中津 132

HP

「人」コンテンツにクリエーティブな田舎づくり



「日本の田舎をステキに変える!」を掲げ、芸術や文化の力で地域の魅力を創出。国内外の芸術家を毎年秋、町に招き、創作活動を支援する「神山アーティスト・イン・レジデンス」を20年以上も毎年開催。アーティストをきっかけとして、多様な人材を受け入れてきたことで、さまざまな新規事業やプロジェクトが町に自生。今後もその流れを加速させるべく、新しいことに常にチャレンジを続けている。その取り組みは、地域活性化のモデルとして全国から注目を集め続けている。

いろどり

賞 第６回選考委員長賞　　株式会社

〒771-4501 徳島県上勝町福原字平間 71-5

HP

料理に添える葉を集め出荷、産業の柱に育成



人口約1500人、65歳以上の高齢化率は53％。典型的な山あいの過疎の町、徳島県上勝町で1986年、日本料理に添える「つまもの」を商品化した葉っぱビジネス「彩（いろどり）」がスタートした。約150軒の農家が携わり、年間売り上げは2億6000万円に上る。中には年収1000万円という人もいる。比較的作業が軽めのため多くの高齢者が携わることができ、一人一人の表情を輝かせた地域ビジネスとなっている。

アニメまつり実行委員会

賞 第４回優秀賞

徳島市

HP

市街地で春秋にアニメイベント「マチ★アソビ」



徳島を盛り上げようと、毎年春と秋の2回、アニメイベント「マチ★アソビ」を開催。期間中、徳島市中心市街地が〝アニメ一色〟に染まり、3日間で約8万人が集まる。アニメキャラクターの衣装で着飾ったコスプレイヤーが、レッドカーペットを敷いた商店街のアーケードを歩くファッションショーのほか、人気声優のライブ、トークイベントやアニメ原画展などが開催される。

とくし丸

賞 第７回優秀賞　　株式会社

〒770-0846 徳島市南内町 1-65-1 リバーフロント南内町３F

HP

高齢化社会を支える移動スーパー



地域の過疎化や核家族化によって日常の買い物に行けない方々を支援するために2012年に設立。地域のスーパーマーケットと提携し、およそ400品目1200点の生鮮食品やに日用品などの商品を冷蔵機能を備えた軽車両に積み込み、お客様の自宅前まで販売に伺う。週２回の頻度で同じドライバーが訪問し、顔見知りになることで買い物だけに止まらずお客様や地域の見守り役としての役目も果たす。全国で約950台が展開中。（2022年２月時点）

伊座利の未来を考える推進協議会

賞 第５回ブロック賞（中国・四国）

〒779-2107 徳島県美波町伊座利 伊座利漁業協同組合内

HP

漁村のよさ体験、留学・就業で人を呼び込む



人口約100人の漁師町で「なにもないけど、なにかある」をキャッチフレーズに結成。児童、生徒数の減少で地域の小中学校が廃校になる恐れが出て、住民が都市部から子どもを受け入れる漁村留学に乗り出した。受け入れた子どもは優に100人を超える。1日漁村体験イベントを開くほか、特産の伊勢エビを使った料理が味わえる「イザリ Cafe」を開設。店には県内外から年間約1万人が訪れる。

大歩危・祖谷いってみる会

賞 第 10 回優秀賞　　一般社団法人

〒778-0102 徳島県三好市西祖谷山村善徳 33-1

HP

宿泊施設が結束、外国人誘客に成果。波及効果も



大歩危・祖谷地区にある５つの主要宿泊施設が2000年に設立した。昔ながらの景観や歴史、暮らし、もてなしを大切に誘客に力を入れている。外国人宿泊者は12年には2000人余りだったが、19年には2万人を超えた。移住者の増加など波及効果も大きい。地域の認知度も高まり、米大手旅行雑誌が選ぶ「2018年に訪れるべき50の旅行地」に、祖谷渓が日本で唯一、入った。コロナ禍の間は地域清掃や新メニュー開発に力を入れた。

鳴門「第九」を歌う会

賞 第８回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒772-0017 徳島県鳴門市撫養町立岩五枚 244

HP

全国からの合唱仲間と「第九交響曲」演奏会



第1次世界大戦中に徳島県鳴門市にあった板東俘虜収容所では、人道的な収容所運営や地域住民との温かな交流を背景にドイツ兵捕虜によってベートーベンの「第九交響曲」がアジア初演された。1918年6月1日だった。この史実を後世に伝えていこうと、毎年6月、全国から集う合唱仲間と共に、鳴門市で第九演奏会を開いている。初演100周年の2018年には記念演奏会を開催。20年のコロナ禍では動画で合唱を公開、第九を通して平和と友愛のメッセージを発信している。

とくしまコウノトリ基金

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒771-0203 徳島県北島町中村字岸ノ上１－288

HP

コウノトリの野生復帰のために餌場作り、地域経済活性化も



徳島県鳴門市へのコウノトリの飛来と繁殖成功を契機として2019年9月に発足した。コウノトリ定着のために必要な餌場を確保するため休耕地にビオトープを整備し、餌となる水生生物が繁殖しやすい環境づくりを着実に進めている。会員を募ってビオトープの維持管理や生物観察会を開くなど、人材育成にも努めている。ビオトープで育てた米で日本酒を開発するなど、地域経済の活性化を目指す活動も進めている。

阿波農村舞台の会

賞 第９回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒770-8063 徳島市南二軒屋町２丁目３番３号 林建築事務所内

HP

人形浄瑠璃でまちが変わる



県内の神社境内に数多く残る芝居小屋「農村舞台」を調査、活用を図り、人形浄瑠璃の振興や地域の活性化につなげる。舞台の多くは過疎、高齢化が進む山間部にあるが、にぎわいを創り出し地域住民の自信と誇りを取り戻す。会が設立された2003年以降、6カ所の舞台で復活公演が実現した。14年から人形浄瑠璃の上演施設「徳島県立阿波十郎兵衛屋敷」を指定管理者として運営、人形浄瑠璃や農村舞台の動画配信、吉野川クルーズや藍染め施設との連携、3Dプリンターを使った木偶（でく）制作、特産品販売など活動の幅を広げる。

香川

- 高松丸亀町商店街振興組合
- 丸亀市川西地区自主防災会
- 瀬戸内こえびネットワーク
- 直島女文楽
- 四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会
- 街角に音楽を@香川
- アーキペラゴ
- まちづくりネットワーク Re:born.K
- サンポート高松トライアスロン大会実行委員会
- 肥土山農村歌舞伎保存会
- ちちぶの会



丸亀市川西地区自主防災会

賞 第２回優秀賞

〒763-0092 香川県丸亀市川西町南 428-1

HP

地震に備え住民が訓練、防災日本一のまち目指す



南海トラフ巨大地震に備え「わが街はわが手で守る」を掲げ、住民で結成した。防災には「人づくり」が重要と考え、地元の小中学校、高校の児童・生徒に定期的に訓練を実施。将来の減災・防災活動のリーダーに育ってほしいとの狙いからだ。災害時の情報を正確に早く収集し、伝達できるようにと、約30台の無線機を整備する。支援がなくても7日間の生活に耐えられるよう、食品、水、毛布の備蓄を拡大。月1回の情報伝達訓練を行い、地域を挙げて防災活動に取り組んでいる。

瀬戸内こえびネットワーク

（受賞当時：瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」）

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒760-0019 高松市サンポート１番１号

HP

継続した活動で、瀬戸内国際芸術祭と島を支える



瀬戸内海の島々で開催される3年に1度の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」。その間の取り組み「ART SETOUCHI」の運営を担い、島のサポーターとして運動会や祭りなど地域の手伝いを行うボランティア「こえび隊」の事務局となって国内外から多くのサポーターを受け入れている。島のレストランやカフェの運営、通年で行われるイベントやガイドツアーの企画なども行う。島民、アーティスト、行政・民間組織などを緩やかにつなぐ中間支援組織。

高松丸亀町商店街振興組合

賞 第１回ブロック賞（中国・四国）

〒760-0029 香川県高松市丸亀町 13-2 丸亀町ビル４階

HP

まちづくり会社が商店街丸ごと運営、医食住が柱



郊外店に押されていた歴史ある商店街の魅力を高めようと、地権者が定期借地権で貸し出した土地を、商店主らが設立したまちづくり会社が一括で管理・運営する仕組みで再開発に取り組む。「所有権と利用権の分離」は、商店街の新たなモデルとなった。再開発の3本柱は「医、食、住」で、医療施設や高齢者向け住居、病院が管理するレストランなどを整備。街の機能を高め、コンパクトシティーにつなげる。街はにぎわいを取り戻し、若い世代の居住者も増えてきた。

街角に音楽を@香川

賞 第６回優秀賞　　一般社団法人

〒760-0025 高松市古新町 1-4 WIND ビル 103

HP

アーティストを招き多彩な事業で新たな活気を



行政、民間と協働、ハイレベルのミュージシャンやアーティスト、パフォーマーらを招いている。活動は2007年、香川県高松市の中心部、高松丸亀町商店街の壱番街再開発事業完成を機にスタート。「MUSIC BLUE（瀬戸内の青に響く）」をコンセプトに、音楽を通じて人々が交流し、母性的な本質をもった風土の瀬戸内に、独自の地域文化が創造できるよう活動している。2018年には香川県文化芸術選奨も受賞した。

直島女文楽

賞 第４回優秀賞

〒761-3110 香川県直島町 1122-1 直島町教育委員会

HP

女性だけで人形浄瑠璃を演じ、伝統を守る



全国的にも珍しい、女性だけで構成される人形浄瑠璃の一座。江戸時代、幕府の直轄領であった直島は芸能が盛んに行われてきたが、明治時代の初期に下火となる。文楽も途絶えていたが、昭和23年に女性のみで再興された。地元の主婦ら約15人が町のイベントや高齢者施設の慰問などで公演している。漁船を人形遣いの足隠しに使い、細やかな動作と華やかな衣装が特徴だ。瀬戸内国際芸術祭でも公演し、地域の文化の伝承に力を入れている。

アーキペラゴ

賞 第７回選考委員長賞兼ブロック賞（中国・四国）

NPO法人

〒760-0062 高松市塩上町 1-2-7 ミユキビル 1・2 F

HP

芸術家の幼稚園派遣などアートを活用した街づくり



2002年にNPO法人「INS香川」として設立。09年1月、法人名を英語で多島海という意味を持つ「アーキペラゴ」に改め、アートを活用したまちづくり、地域おこしを行う。主な事業に、芸術士（アーティスト）を幼稚園、保育所などに派遣する事業と、県産品PRの「さぬきマルシェ」、環境啓発活動。瀬戸内海の島を舞台に10年から始まった瀬戸内国際芸術祭「漆の家プロジェクト」の運営も手掛けている。

四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会

賞 第５回優秀賞

〒766-8502 香川県琴平町榎井 817-10

HP

文化財の芝居小屋を公演を続けながら保存



国指定重要文化財、旧金毘羅大芝居（通称：金丸座）は、日本有数の歴史を誇る芝居小屋だ。毎年春、四国こんぴら歌舞伎大芝居公演が開催され、江戸時代末期そのままの風情を残す舞台で演目を披露する。年に１度の公演に、全国からファンが訪れ、まちは歌舞伎一色に染まる。公演前日には、町内を役者が人力車で回る「お練り」もある。町民の熱意で文化庁を動かし「重要文化財を活用しながら保存する」という国内では珍しいケース。運営の大半は、ボランティアが支え、町民の誇りとなっている。

肥土山農村歌舞伎保存会

賞 第 10 回優秀賞

〒761-4151 香川県土庄町肥土山甲 2037

HP

農村歌舞伎を若手住民が上演、子どもだけの演目も



小豆島に江戸時代から300年以上にわたり受け継がれてきた「農村歌舞伎」を若手住民らが毎年、上演している。肥土山離宮八幡神社の境内には木造の「肥土山の舞台」（国指定重要有形民俗文化財）があり、そこで毎年5月3日に保存会のメンバーが中心となって全4幕を演じている。中には子ども役者のみが出演する演目もあり、大人顔負けのせりふ回しと所作に桟敷を埋めた観客からは盛んな拍手とともにおひねりが飛ぶ。

まちづくりネットワーク Re:born.K

（受賞当時：観音寺まちなか活性化プロジェクト Re:born.K）

賞 第8回優秀賞

〒768-0067 香川県観音寺市観音寺町申1213番地2

HP

地域紹介番組のネット配信や若者が関わる事業展開



香川県西部の町・観音寺のまちなかを活性化しようと、商店主や市民らで組織した。まちの人・店・魅力などを紹介する番組「今宵もはじまりました」をネット配信するほか、Shop in Shop（店の中に店を）や、まちなかの交流人口の拡大を図っている。

ちちぶの会

賞 第 11 回優秀賞

〒769-1405 香川県三豊市仁尾町仁尾庚 564- 3

HP

夕日がインスタ映えする父母ケ浜で砂浜の景観守る



干潮時に鏡面のような写真が撮れる三豊市仁尾町の父母ケ浜で、砂浜の景観を守ろうと美化活動を続けている。活動を通じて夕日が美しく、インスタ映えがすると人気スポットになった。周囲には宿泊施設や駐車場などの施設もでき、整備が進む。当初、会は持ち上がった埋め立て計画に反対しようと、地元住民7人で1996年に立ち上げた。海岸清掃のほか、小学生を対象にした自然観察会も行い、環境保全の大切さを伝えている。若い世代の参加も増え、2022年3月現在会員数約180名。

サンポート高松トライアスロン大会実行委員会

賞 第9回優秀賞

〒760-0018 高松市天神前 1-28

HP

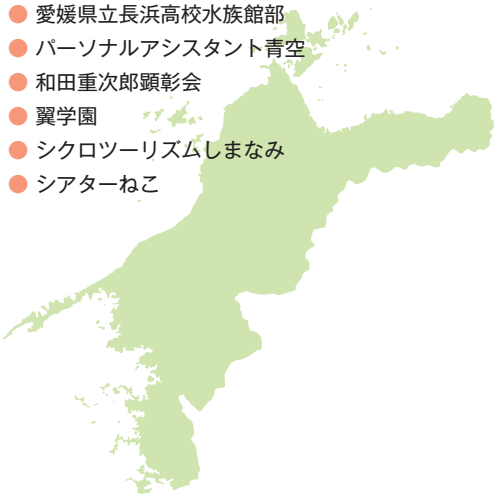
市民ボランティアを中心に運営、国際大会も招致



日本一の「まちなか大会」を目指し、民間主導で2010年にスタート。最初は沿岸の通りだけだったが、13年から目抜き通りもコースに。五輪代表選考につながるポイントを獲得できる「アジアカップ」も誘致、住民や企業、行政などを巻き込み発展した。20年はコロナ禍で中止となったが「リモート・トライアスロン」を開催。参加者は各自の練習コースで3種目をこなしタイムを掲げた写真をSNSに投稿、モチベーションを保つ。

愛媛

- 能島の里
- 俳句甲子園実行委員会
- 今治焼豚玉子飯世界普及委員会
- 坊っちゃん劇場
- 農音
- 愛媛県立長浜高校水族館部
- パーソナルアシスタント青空
- 和田重次郎顕彰会
- 翼学園
- シクロツーリズムしまなみ
- シアターねこ



俳句甲子園実行委員会

賞 第２回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒790-0014 松山市柳井町 2-21-3 グリーンフィールドヒラオカ

HP

高校生の俳句大会が全国規模に、商店街も活性化



1998年から毎年夏、松山市で全国の高校生を対象にした俳句コンクール「俳句甲子園」を主催する。5人一組のチームで参加し、予選リーグ、トーナメント、決勝リーグを経て決勝戦まで、質疑応答を交わしながら俳句の創作力や鑑賞力を競う。「試合」会場には市内中心街の通りを使うなど、商店街の活性化にも一役を買う。ボランティアを中心に運営。正岡子規を生んだ俳句のまちの魅力を全国へ伝えている。

今治焼豚玉子飯世界普及委員会

賞 第３回優秀賞

〒794-0024 愛媛県今治市共栄町 2-2-20

HP

B級グルメをてこに、地域の良さを各地にＰＲ



焼豚玉子飯は、今治市内の中華料理店のまかない料理として生まれ、厨房で人気があったことから、店のメニューとなった。丼にご飯をよそい、スライスした焼き豚をたっぷりのせる。その上に半熟の目玉焼きをさらにのせ、甘辛いたれをかける。焼き豚の厚さや部位、玉子の焼き方、たれは各店舗でそれぞれ特徴があり、違いを楽しむことができる。この丼を目当てに訪れる観光客も増え、ご当地グルメが地域経済の活性化につながっている。B-1グランプリにも入賞する人気者だ。

能島の里

（受賞当時：能島の里を発展させる会）

賞 第１回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒794-2203 愛媛県今治市宮窪町宮窪 4703

HP

海賊ゆかりの景勝地で潮流体験、特産品を発信



瀬戸内海でも屈指の景勝地である宮窪瀬戸を一望できるカレイ山を拠点に有志が活動する。「村上海賊」ゆかりの地だった歴史と、10ノットを超える速さの潮流を漁船に乗って実感する体験、非常に硬いことで知られる花崗岩「大島石」や地元で栽培しているイチジクなどの特産品を組み合わせ、県内外からの観光客を集める。一角をエコミュージアムとして整備、景観全体を「潮流美術館」と称し、地域の魅力発信に取り組む。6次産業化を進めるため店舗も運営する。

愛媛県立長浜高校水族館部

賞 第６回優秀賞

〒799-3401 愛媛県大洲市長浜甲 480-1

HP

校内水族館で地域に活力、研究成果も



存続が危ぶまれた県立高校が特色づくりの目玉として、かつて地元のシンボルで住民が再建を夢見る水族館 を 1999 年、校内に開設、活気をもたらしている。世界の高校生らが集う米国での国際学生科学技術フェアで「イソギンチャクはなぜカクレクマノミを刺さないか」という研究が上位入賞。応用したクラゲよけクリームは商品化された。水族館部の活躍は「赤い橋のある町で」として映画化、漫画「熱帯魚は雪に焦がれる」のモデルにもなっている。

坊っちゃん劇場

賞 第４回優秀賞

〒791-0211 愛媛県東温市見奈良 1125

HP

地域の歴史や偉人を題材にミュージカル上演



愛媛県内の食品加工会社経営者が、文化事業による地域貢献を目的に 2006 年、 自主制作の作品を年間通して上演するミュージカル常設施設を設立。四国や瀬戸内の歴史や文化、偉人をテーマにオリジナルミュージカルを作り、同一演目で 1 年間上演し、年間7~8万人の観客を集める。地元企業、教育機関と連携し、演劇講座やワークショップなども展開し、地域の文化向上に大きく貢献している。

パーソナルアシスタント青空

賞 第７回準大賞　株式会社

〒790-0942 松山市古川北 3 丁目 4-32

HP

障がい者とともに無農薬・無肥料の自然栽培



障がい者ともに農薬や化学肥料を一切使わない自然栽培農業を展開する。耕作放棄地を農地に戻し、ネットなど販路を独自に確立、米や野菜、果物は「青空ブランド」として販売している。障がい者には一人一人に合った働き方をしてもらう。2016 年には「一般社団法人農福連携自然栽培パーティー」を設立、全国の約 100 団体が加盟してノウハウを共有し、アフリカなど海外にも指導の輪を広げる。介護事業や放課後等デイサービスなどにも取り組む。

農音

賞 第５回記念賞　ＮＰＯ法人

〒791-4506 松山市宇和間 927

HP

移住者を受け入れ、ミカンブランドを再興



松山市沖の中島でバンドマンの若者らがミカン農家に転身。WebサイトやSNSなどで島暮らしの情報を発信して、共感した約80人が移住。 地方で若者が減り、都会には生活に疲れた若者がいる。疲れた若者が地方に移れば、双方にプラスになるのではという。住民と移住者の交流も深める。 農音が取り組む農地は約 2ヘクタールになった。空き家バンクやツーリズム、援農や農業の第三者継承にも取り組み、若者の移住を通して地域の新しいモデルづくりを目指す。

シクロツーリズムしまなみ

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒794-0026 愛媛県今治市別宮町 8-1-55

HP

自転車文化振興に休憩・宿泊施設、ツアー企画



瀬戸内しまなみ海道の自転車文化振興へ、開通 10 周年の 2009 年 4月、今治市に設立。自転車を乗せられる臨時列車の運行や観光ガイドツアー、サイクリングマップ作製、サイクリスト休憩所設置などに取り組んできた。14、18 年に市内にゲストハウスをオープンし、自転車健康づくり講座、幼児ランニングバイク大会も開催。来島海峡でのシーカヤックツアーなど活動の舞台を海にも広げる。

和田重次郎顕彰会

賞 第８回優秀賞

〒790-0823 松山市清水町 2-18-7

HP

アラスカで活躍した探検家をテーマに地域づくり



アラスカやカナダで活躍した、愛媛県出身の探検家和田重次郎は、アラスカ開拓で大きな足跡を残していたが、幼少期に過ごした母親の故郷・松山市日の出町では、その存在が埋もれていた。和田重次郎顕彰会は、地元の公園に顕彰碑を建立し、町内会と協力して地元のイメージアップを推進。地元の小中学校に講師を派遣し、生徒が公園の清掃活動に参加している。また、アラスカでミュージカル公演を行うほか、重次郎像が建立されるなど、海外にも広がりを見せている。

シアターねこ

賞 第 11 回優秀賞　　合同会社

〒790-0806 松山市緑町 1 丁目 2-1

HP

元幼稚園舎に100席の小劇場、地域交流や短編演劇祭



2012年、元幼稚園園舎を活用して松山市中心部に開館した約100席の小劇場。地域の芸術活動の振興を目指し、演劇の活性化と裾野拡大を図る一方、地域と劇場の共存・融合も目標に掲げ、周辺住民や子どもが楽しめる行事にも取り組む。地元劇団やパフォーマーだけでなく、県外からのツアー公演などでの利用も多い。四国の短編演劇祭「四国劇王」を毎年催し、劇作家育成や俳優のレベルアップを支えている。

翼学園

（受賞当時：えひめ心のつばさ）

賞 第９回奨励賞　　ＮＰＯ法人

〒790-0047 松山市余戸南 3 丁目 3-39

HP

長期欠席の子どもを支援し、学校復帰を実現



小学校でのいじめを解決するために 1985 年に活動を始め、大勢の子どもをいじめから救い、円満解決して学校へとつなげた。その後も変わらず、学校に行くことがつらいと感じる子どもの支援を続けている。さまざまな理由で学校に行けなくなってしまった子どもの問題を解決し、これまでに 700 人以上の子どもの学校復帰を実現。彼らは今も元気で、実社会で活躍している。

高 知

- 四万十ドラマ
- 大宮産業
- 黒潮実感センター
- 中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
- 久礼大正町市場協同組合
- 室戸市木炭振興会
- 砂浜美術館
- 十和おかみさん市
- むろと廃校水族館
- 日高わのわ会
- 食材応援隊



大宮産業

賞 第２回準大賞　　株式会社

〒787-1615 高知県四万十市西土佐大宮 1578

住民出資で株式会社、店舗を運営しインフラ守る



過疎化が進み、不採算だとして撤退した店舗を、住民が出資した会社が引き継いで運営している。役員は住民が務め、住民代表によるアドバイザリー会議も設け、地区を挙げて知恵を絞る。肥料や日用品に加え、地元産米の販売に力を入れ、酒類販売も始めた。ガソリンスタンドや現金自動預払機（ATM）も備えた暮らしのインフラを住民が守った人口減対応のモデルとして注目されている。

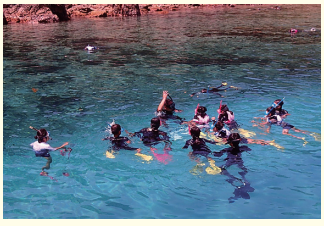
黒潮実感センター

賞 第３回ブロック賞（中国・四国）　　ＮＰＯ法人

〒788-0343 高知県大月町柏島 1

HP

海洋調査や体験学習を続け「里海」づくり目指す



高知県西南端の大月町・柏島で、海の調査研究活動や環境保全、さらに環境教育、地域の活性化に取り組む。子どもたちを受け入れてシュノーケリングや釣りを楽しみながら海の良さを発信。漁業者とダイビング業者の共存に力を尽くすなど、生活に密着した「里海」に目を向けた活動に力を入れる。アオリイカの〝里親制度〟も導入。産卵床を購入した里親にイカが贈られる仕組み。産卵床は森林組合の協力で間伐材を利用し、海と山の連携も進める。

四万十ドラマ

賞 第１回優秀賞　　株式会社

〒786-0504 高知県高岡郡四万十町十川 9-15

HP

生産者と連携し、地域資源を生かした商品開発



四万十川に負担をかけないものづくりをコンセプトに、地域資源を使いながら素材を生かした商品開発を行う地域商社。2021年5月に完成した「しまんと地栗工場」を新たな拠点とし、「しまんと地栗モンブラン」「いも焼き菓子ひがしやま。」など、四万十の栗・芋・茶などを使った菓子製造を行いながら、次世代につなぐ地域産業として活動している。

室戸市木炭振興会

賞 第６回優秀賞

〒781-6741 高知県室戸市羽根町甲 1966

製炭技術磨きや研究生受け入れ、後継も育成



土佐備長炭の生産者が2007年に設立、製炭技術の研究と伝承、後継者育成などに取り組んでいる。04年に中国が木炭の輸出を規制したことから、国産需要が拡大。振興会は市内外から研修生を受け入れ、技術を若手製炭者らに伝えてきた。備長炭の原木は「ウバメガシが一番」と言われるが、その数は限られていたため、市内に大量に自生するアラカシなどに原木を切り替えながらも上質な炭を製造。市場の評価を得て、増産体制を整えている。

中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会

賞 第４回優秀賞

〒781-6201 高知県馬路村馬路 3505-7

HP

旧魚梁瀬森林鉄道を核にした５町村によるエコミュージアム（野外博物館）づくり



高知県の東部に５町村にまたがる総延長320キロ（本線・支線）に及ぶ森林鉄道があった。この鉄道の遺構と歴史を活かした活動を昭和63年から続け、保存鉄道の開設、遺構の重要文化財指定、日本遺産への認定などを実現し、現在も遺構を活用したイベントや歴史の保存のための資料の収集調査、森林鉄道や地域の文化財などを活かした野外博物館構想を目指した活動を行う。2021年には森林鉄道が開通して110年になることから、記念事業として、杣鋸を使った伐木体験、林鉄跡でウオーキング、林鉄写真展、林鉄サミットなどを実施、計画している。

砂浜美術館

賞 第７回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒789-1911 高知県黒潮町浮鞭 3573-5

HP

自然の砂浜を美術館に見立ててユニークな展覧会



砂浜美術館が誕生したのは1989年。美術館といっても「建物」も「有名アーティスト」の作品もない。太平洋に面した約4㌔の自然の砂浜を美術館に見立てているのである。年に数回、企画展を開催。5月に開催する「Tシャツアート展」は、全国から集めたデザインをTシャツにプリントし、砂浜に洗濯物のように展示する。浜辺に流れ着いた漂流物も立派な展示物だ。「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」という設立当初のコンセプトは変わらない。

久礼大正町市場協同組合
（受賞当時：久礼大正町市場）

賞 第５回優秀賞

〒789-1301 高知県中土佐町久礼 6570-2

HP

明治時代からの商店街活用、観光客・住民が支持



土佐のカツオ漁師町として知られる中土佐町で、古くは庶民の台所として栄え、明治時代から続く長さ約50メートルの商店街が観光スポットとして注目を集める。カツオ好きの高知県民がわざわざカツオを食べに行く市場として、冷凍ではなく生ガツオにこだわり、鮮魚店店主が毎日ワラで手焼きするこだわりのカツオのたたきを味わえる。また漁師のおかみさんお手製の干物や総菜、地魚なども人気。SNSやHPを通じて市場の情報も発信している。

日高わのわ会

賞 第 10 回準大賞　　ＮＰＯ法人

〒781-2152 高知県日高村沖名 3-2

HP

トマトの村で住民が育児、商品開発、福祉に結束



人口 5000 人のトマト産地の村で、子育てを助け合おうと母親たちが結成。「できる人が、できる時間に、できることを」をモットーにNPO化した。規格外のトマトからソースやジャムを製造販売し、オムライスが自慢の食堂を開設。村の店を紹介する名物企画「オムライス街道」にも参加する。さらに高齢者支援、障害者就労に活動の幅を広げた。事業を支えるのは子育て中の母親ら約 50 人で年間1億円近くを売り上げる。地元大学生や高校生も助っ人に育った。

十和おかみさん市

賞 第８回優秀賞　　株式会社

〒786-0504 高知県四万十町十川 4-1

HP

古くから栽培されている野菜を主婦らが地産地消



四万十町十和地域の主婦らが 2001 年に結成し、11 年に株式会社化した。メンバーは約 140 人。地域で古くから栽培される大根やカブ、キビ、高菜、チシャなどを「昔野菜」と名付けて直販所「十和の台所」で販売している。また町内で特産品を使った商品を開発、販売する四万十ドラマ（第1回優秀賞）の直営店で郷土料理バイキングを開くほか、弁当を町内外で販売するなど地産地消を進める。学校給食のメニュー開発など食育にも積極的に取り組む。

食材応援隊

賞 第 11 回優秀賞

〒780-0972 高知市中万々 2-47、地域交流センター「城北」内

HP

子ども食堂代表者が連携、食材無料提供の仕組み構築



資金難に悩む県内の子ども食堂代表者らが連携し、2017年に立ち上げた任意グループ。子どもの貧困問題に理解を示す青果の卸・仲卸業者などの協力を得て、流通外となった大量の野菜や果物を毎週無料で提供してもらう仕組みを構築。食堂のメニューが格段に増えて利用者に喜ばれるとともに運営の安定化にもつながった。コロナ禍で食堂を休止していた期間は、生活困窮に陥った大学生らに寄付食材を直接配る取り組みも行い、温かい交流が生まれた。

むろと廃校水族館

賞 第９回優秀賞

〒781-7101 高知県室戸市室戸岬町 533-2

HP

廃校に水族館。展示を工夫し、人気施設に



室戸市室戸岬町の旧椎名小学校を市が改修し、2018 年４月に開館した。NPO 法人「日本ウミガメ協議会」（大阪府）が指定管理者として運営。屋内の水槽や屋外のプールに定置網で混獲されたウミガメや、近海のアジやブリなど 50 種類、1000 匹以上が泳ぐ。廃校舎のユニークな活用法が話題を呼び、予想をはるかに超える来館者が訪れた。多くは市外や県外の観光客で、リピーターも多い。コロナ禍では近隣の飲食店と協力してスタンプラリーを開催、賞品は人気グッズ「ブリのぬいぐるみ」だ。

福 岡

- 筑紫野市商工会
- つづら棚田保全協議会
- はやめ人情ネットワーク
- 抱樸
- 藍の家保存会
- ＡＩＰ
- がんばりよるよ星野村
- 遠賀川源流サケの会
- のこのしまアイランドパーク
- ｕｍａｕ.（ウマウ）



つづら棚田保全協議会

賞 第３回優秀賞

〒839-1401 福岡県うきは市浮羽町朝田 582-1

オーナー制度や都市の人々の交流通じ棚田を守る



日本の棚田百選に認定された「つづら棚田」は、約400年前に造られたと伝えられる。美しい景観を維持するため、地元農家がうきは市の支援を受けて発足。棚田を借り受け、農家と交流を深めながらコメ作りの体験ができる棚田オーナー制度を取り入れた。都市部などから多くの応募があり、季節ごとにオーナー限定のちまき作りや餅つき体験などのイベントを実施し、農業の素晴らしさを実感できるようさまざまに工夫している。

はやめ人情ネットワーク

（受賞当時：はやめ南人情ネットワーク）

賞 第４回大賞

〒836-0091 福岡県大牟田市沖田町 510

HP

認知症などの高齢者を地域ぐるみで声かけ見守り



大牟田市駅馬地区は「向こう三軒両隣」の意識が強く、高齢者の孤独死を出さないための声かけ・見守り活動が盛んに行われている。「大牟田方式」と呼ばれ、全国に広がった認知症のSOSネットワーク模擬訓練が生まれた地域だ。それを基盤として、町内の公民館や社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ、警察、消防、学校など地域のさまざまな人々が世代を超えてつながり、17年間継続。誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して活動している。

筑紫野市商工会

賞 第１回優秀賞

〒818-8577 福岡県筑紫野市湯町３丁目２番５号

HP

染料となるムラサキグサ商品を地元生産者と開発



二日市温泉を中心とした地域活性化のため、かつて朝廷に納める税として栽培され、染料などになったムラサキグサが自生していたことに着目し、紫色をテーマにした街づくり「紫プロジェクト」を始めた。苦労したのはムラサキグサの栽培だ。約半年かけて入手した種を試行錯誤して育てた。市内に誕生した西鉄大牟田線の新駅名が、商工会などの提言で「紫駅」になるなどのまちづくり事業を展開。生産部門は一般社団法人筑紫野むらさきまちづくり協会が担い、両輪体制で活動している。

ＡＩＰ

賞 第７回奨励賞　　ＮＰＯ法人

〒812-0044 福岡市博多区千代 1-20-31 福岡県千代合同庁舎６Ｆ

HP

「福岡をエンジニアの聖地に」とＩＴ人材育成



実践的なスキルを持ったIT人材を戦略的に育成、地域の活性化を促進するために設立した。ITをはじめ多業種の交流・学習スペース〝AIPカフェ〟の運営や、自由参加型の会合などを通じ、人々の「顔が見える」関係を重視する。さらにこれらの経験と実績により福岡市から、エンジニアが集まり、活躍し、成長できる場である〝エンジニアカフェ〟の運営を委託される。福岡市とエンジニアが一体になって、福岡を「エンジニアの聖地」とすべく、支援を行っている。

抱樸（ほうぼく）

賞 第５回優秀賞　　認定ＮＰＯ法人

〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田 2-1-32

HP

ホームレスの自立や就労、生活面を支援



路上生活者をはじめとする生活困窮者の支援活動に取り組む。住居や就労などの経済的な問題だけではなく、ホームレスを生む原因である社会的孤立の解消まで視野に入れた、一貫した支援体制が評価されている。元路上生活者らが体験を語る「生笑一座」を2013年に結成し、全国の小中学校などで「助け合って生きる」ことの重要さを子どもたちに伝える活動にも力を入れ始めホームレスを生まない社会づくりを目指す。

がんばりよるよ星野村

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒834-0201 福岡県八女市星野村 10951

豪雨被災地で農業復興支え、移住体験施設も運営



2012年の九州北部豪雨災害で被災した山間部で農業復興に取り組んだ。都市住民にも参加を呼び掛け、田畑から大量の泥をかきだし営農再開を支えた。人口減を食い止めようと、空き家の相談窓口を開設、移住体験施設も運営している。国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）を受け、30年に向け環境保全、空き家・耕作放棄地の利用計画をスタート。地域の小中学生に地元の星空の魅力を伝えるカリキュラムや、棚田の復旧、田植えに取り組む「星野未来塾」を開催している。

藍の家保存会

賞 第６回優秀賞

〒811-3304 福岡県福津市津屋崎 4-14-20

藍染めを営んでいた町家を保存し町おこし



江戸時代から明治時代にかけ、製塩と海上交易で栄えた津屋崎には白壁の商家や民家が建ち並び「津屋崎千軒」と呼ばれた。1993年、往時の面影を残す、元紺屋だった上妻邸の解体計画が持ち上がった時、「栄えた当時の町並みを残そう」と住民有志が保存活動を始めた。津屋崎人形の当主の故原田活男さんや元美術教師の故柴田治さんらが中心となり、上妻家の無償提供を受けたことによって町家を保存できた。建物を「藍の家」と名付け、展示やイベント、藍染め体験などの活動を行っている。

umau.（ウマウ）

賞 第 11 回優秀賞　　一般社団法人

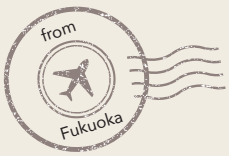
〒830-0048 福岡県久留米市梅満町32- 4

HP

ひとり親家庭の相互扶助で居場所づくりと食料提供



ひとり親家庭を孤立させまいと、福岡県久留米市の母子家庭の女性たちが中心となって設立した小さな会社。実家よりも実家らしい居場所を意味する「じじっか」を拠点に、毎週金曜と土曜に子ども食堂を開催。ひとり親の約20家庭を月1回訪問し、食料を無料提供する活動は、コロナ禍でも規模を縮小して継続している。母子家庭の発想から生まれた相互扶助事業で地域の子育て環境を改善し、100人を貧困家庭から脱出させるのが目標。





辛子明太子　〈写真提供：福岡市〉

遠賀川源流サケの会

賞 第９回優秀賞

〒820-0313 福岡県嘉麻市桑野 2254-1

HP

サケが帰る清流にしようと稚魚放流や環境整備



毎年3月、遠賀川流域の計 20 カ所でサケの稚魚計4万匹を地域の小中学生や住民団体などと放流している。旧産炭地を流れる遠賀川は、排水汚染からサケの遡上が一時途絶えた。放流や森づくり、河川清掃などの活動には「サケが帰る清流を」の思いがある。上流の歴史ある「鮭神社」では遡上サケの奉納も行われ、伝統継承にも役割を果たす。サケだけではなくヤマメの放流も始め、川に定着するようになった。小中学生と海・山の生物を観察する授業も年 10 回程度開いている。

のこのしまアイランドパーク

賞 第 10 回優秀賞　　株式会社（久保田観光）

〒819-0012 福岡市西区能古 1624

HP

農家が家族と四季の花の種をまき自然公園を開設



故久保田耕作さんは 1941 年から能古島を開墾。福岡市でも有数のサツマイモ生産者になったが、巨大な東京の市場を視察し、高度成長期には心を癒やす自然が必ず求められると感じて自然公園づくりに目を向けた。家族で四季の種をまき、花を育てた。「大地に汗した開拓の日々　一粒の種が今　緑となり花を開く　明日の為に　力強く鍬を握ろう」。公園内には耕作さんが刻んだ農魂碑が立つ。立地の良さを生かし、宿泊やワーケーションの場としても潜在力を生かす。

佐賀

- 蕨野棚田保存会
- きびっとの杜
- 嬉野市地域力開発プロジェクト・新ツーリズムチーム
- 黒川町家読連絡会
- 鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会
- 栄町地域づくり会
- 牛津赤れんが会
- さがクリークネット
- 佐賀未来創造基金



きびっとの杜

賞 第２回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒841-0204 佐賀県基山町宮浦 1605

荒れ地を楽しめる場にしたいと住民が公園手作り



荒れ地を楽しめる場所に変えたいと、元サラリーマンらが話し合って生まれたアイデアを住民の力で実現させた。

草を刈ったり木を切ったりの作業をメンバーが手弁当で進めた。約1300平方㍍もの公園に生まれ変わった。公園を維持する草刈りの業務委託を受けている。近くの工業団地の緑地の植栽管理も請け負う。

嬉野市地域力開発プロジェクト・新ツーリズムチーム

賞 第３回優秀賞

〒843-0301 佐賀県嬉野市嬉野町下宿乙 848

HP

スリッパ卓球、ホタル、お茶企画で温泉街に活気



嬉野温泉に活気をもたらそうと、地元の若手経営者らが立ち上げた。卓球のラケットの代わりに、旅館にあるスリッパを使用し、宿泊者らと「スリッパ卓球大会」を毎月開催するほか、市内のマッサージ師を旅館の大広間に集め、低料金でリラックスしてもらえる「もみフェス」を実施。ホタルを少人数で観賞する企画や、さまざまな場所で特産のお茶体験ができる「ティーツアー」など、若い感覚で集客のイベントを次々と仕掛け、温泉街の魅力アップにつなげている。

蕨野棚田保存会

賞 第１回優秀賞

〒849-3203 佐賀県唐津市相知町平山上甲 1334

千枚棚田を生かし、農業体験や米のブランド化



後継者不足や高齢化で休耕田が増え始めた、約700枚の棚田が連なる蕨野地区の現状に危機感を持った住民有志が立ち上げた。棚田米のブランド化と、交流事業をスタート。昼夜の寒暖差があるなど特性を生かしたコメは注文が増えている。大学と地域交流協定を結び、学生ボランティアを中心に「棚田援農隊」が結成され、休耕田を実習田とし農作業や水路掃除など地区の共同作業に参加している。棚田のウオーキングや桜の植樹も実施。

栄町地域づくり会

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒848-0021 佐賀県伊万里市大坪町甲 2443-63

高齢者の支え合いが若い世代との交流に発展



高齢者同士が支え合う仕組みとして、75歳以上の独居世帯に地域の高齢者が夕食を届け、安否も確認する「見守り弁当」に取り組んできた。民間業者の利用が増え、2020年3月にサービスを廃止。4月からは高齢者に限らず、幅広い世代の交流事業を進めている。子どもと高齢者のふれあいの場や、一緒にできるラジオ体操、高校生が高齢者にタブレットの使い方を教える教室など企画はさまざま。参加者の昔の写真を集めた「あれから50年」展などユニークな発想で活動する。

黒川町家読連絡会

賞 第５回優秀賞

〒848-0121 佐賀県伊万里市黒川町塩屋 504-1 黒川コミュニティセンター

家族で読書し、コミュニケーションを促進



2007年に伊万里市で家読運動が始まって以来、毎年度末に「家読のすすめ発表会」を黒川公民館で開催し、200人を超える参加で町民と共に家読の大切さを共有している。また、開始から10周年を迎えた2016年には、伊万里市が「日本一のうちどく推進のまち・いまり」を宣言し、伊万里うちどく推進ネットワークが発足した。「黒川町うちどく広め隊」が結成され、市内全域に黒川の取り組みを紹介するなど、推進運動を展開している。

牛津赤れんが会

賞 第９回優秀賞

〒849-0303 佐賀県小城市牛津町牛津 586 牛津町会館内

HP

れんが建物を拠点に地域づくり、自主映画を製作



国の登録有形文化財「牛津赤れんが館」を活用、「アートなまち」をコンセプトに、30～70代の会員15人が自由な発想でジャズコンサートや伝統芸能の発表会などを2002年から続ける。地域に光を当てる取り組みとして17年に会員が中心となりドキュメント映画を製作。幕末・明治期にまちの礎を築いた人物に迫る内容で、協賛やエキストラなどで住民を巻き込み、県内各地で上映された。19年には鎌倉～明治期を取り上げた映画を製作。観光客誘致にも取り組む。

鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会

賞 第６回優秀賞

〒849-1312 佐賀県鹿島市納富分 2463-1　鹿島市役所内

HP

古い家並みを舞台に酒蔵が合同でイベント



江戸後期から昭和初期にかけての白壁土蔵や町家が残る佐賀県鹿島市浜町の「酒蔵通り」で、6蔵元が一斉に蔵開きをし、うまい日本酒、食文化、歴史を堪能してもらう「酒蔵ツーリズム」を開いている。2011年、世界的ワインコンクール日本酒部門で地元蔵元が最高賞を獲得した機会を生かし、即座に組織をつくってツーリズムを開催、成功した。他産業、他地域とも連携して来場者を年々伸ばし、空き家対策としても具体的成果を挙げ始めている。

佐賀未来創造基金

賞 第 11 回大賞　　公益財団法人

〒840-0813 佐賀市唐人2丁目5- 25

HP

資源の循環により、地域で支え合う社会の実現に寄与



設立は2013年。市民や企業から寄付を集めCSO（市民社会組織）に助成、地域や社会の課題解決、活性化に取り組む。佐賀県「ふるさと納税（NPO等指定寄付）」も活用し「さが・こども未来応援プロジェクト」事業、遊休不動産を活用した「エリアマネジメント」事業、「佐賀災害支援プラットフォーム」事業等を実施。20年度までに700団体以上を支援し助成総額は2億円を超える。コロナ禍では医療従事者、飲食店、CSOを緊急支援。「休眠預金等による助成対象事業」の資金分配団体に選ばれ県内、九州一円のCSOとコンソーシアムを組む。

さがクリークネット

賞 第 10 回ブロック賞（九州・沖縄）　　任意団体

〒840-0826 佐賀市白山 2-1-12 佐賀商工ビル 7 階

水路を活用・保全し、豊かな環境を実現する



街中の水路網「クリーク」を地域の誇れる土木遺産として、市民が佐賀の歴史や風土の魅力を再発見できるよう取り組む。2015年から学生や会社員、公務員ら約30人が、江戸時代に築かれたクリーク文化の発展を目指し、「暮らす」「使う」「維持する」をコンセプトに楽しみながら活動している。企業、自治会、大学と連携しながら、クリークに船着き場を造り、カヤックや和船の乗船体験、川底や護岸の清掃のほか、マルシェなど水辺に親しむイベントを実施している。



SAGA バルーンチャレンジシリーズ　〈写真提供：佐賀県観光連盟〉

長崎

- 長崎コンプラドール
- まつうら党交流公社
- あづち大島たからもんの会
- 平戸国際交流 HIRA の会
- 南島原市冬のお祭り実行委員会
- 大地といのちの会
- 松原宿活性化協議会
- 神代小路まちなみ保存会
- 平戸観光ウェルカムガイド
- 雪浦あんばんね
- 東彼杵ひとこともの公社

まつうら党交流公社

賞 第２回ブロック賞（九州・沖縄）　一般社団法人

〒859-4778 長崎県松浦市御厨町田代免 601

HP

農漁村の体験型修学旅行を提供、中高生呼び込む



人口減少が進む厳しい状況をはね返し、広域で体験型修学旅行の受け入れを進めようと、北松浦半島の市町村 は 2003 年、母体となる協議会を設立した。田植えや定置網漁など農業・漁業、そば打ちや元寇の史跡見学、乗馬まで80を超えるプログラムをそろえ、約 300 会員が1日1200 人を受け入れる体制を整えた。年間約2万人の中学生、高校生らが訪れる。修学旅行が少ない時期を中心に、外国人観光客の受け入れに力を入れている。

あづち大島たからもんの会

賞 第３回優秀賞

〒859-5801 長崎県平戸市大島村神浦 52 番地

HP

島の景観を保存、スギ花粉「避粉地」をアピール



的山大島は長崎県西北端、平戸島からフェリーで約 40 分の距離に位置する離島。かつては海上交通の要衝として栄え、開発されずに残った古い家並みの景観を、空き家を活動拠点にして守る。スギ花粉の飛散量が極めて少ないことから、花粉症に悩む人のための「避粉地」をアピールしている。2泊3日の「避粉地体験セラピーツアー」を企画し、花粉症の季節に毎年、都市部からの客が訪れ、まちの活性化につながっている。

長崎コンプラドール

賞 第１回優秀賞　ＮＰＯ法人

〒852-8013 長崎市梁川町 13-29

HP

歴史や文化に触れるまち歩き推進、スタッフ育成



長崎弁で「ぶらつく」などを意味する「さるく」。2006 年度に開催されたまち歩き博覧会「長崎さるく博」に関わった市民らが立ち上げた。歴史や自然が豊かな長崎を紹介するほか、観光動向の調査研究、住民主体のイベント開催のノウハウの提供などを通じ、地域の活性化に寄与する。長崎市内の観光コースや地図の作製も手掛け「歩く」ことを通じて、まちの魅力の再発見につなげる。出島で観光客を出迎えるスタッフの育成や、全国各地でのまち歩きフォーラム開催にも取り組む。

大地といのちの会

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒857-0121 長崎県佐世保市潜木町 1016

HP

生ごみを利用した無農薬野菜の栽培を広める



約 50 アールの畑には四季折々の旬の野菜が育つ。ダイコン、ニンジン、タマネギなど、年間で約 30 種類。どれもが無農薬で、「元気野菜」と呼んでいる。雑草が生い茂った土を耕し、家庭などから出た生ごみを微生物で分解させ、土づくりをする。ごみの減量が実現し、安全・安心な農業にもつながる。耕作放棄地の有効活用にも目を向けている。畑で収穫した元気野菜の大半は、九州を中心に全国の顧客へ宅配している。農園は月１回開かれる畑の手入れの講習会会場にもなっている。

平戸国際交流 HIRA の会

賞 第４回優秀賞

〒859-5153 長崎県平戸市戸石川町 464-1

家康の外交顧問、三浦按針ゆかりの地とサミット



徳川家康の外交顧問を務め、平戸で亡くなった英国人「三浦按針（ウィリアム･アダムス）」を顕彰する「按針忌」を毎年、開催している。また按針ゆかりの大分県臼杵市、静岡県伊東市、神奈川県横須賀市と持ち回りでサミットを開いてきた。太平洋戦争中の英国人捕虜との和解活動や、日本人を父とするインドネシア系オランダ人との対話集会にも取り組んだ。地元では按針の墓から西洋人とみられる遺骨が発見される話題も。2020 年は没後 400 年に当たり、記念事業に取り組む。

松原宿活性化協議会

賞 第７回優秀賞

〒856-0009 長崎県大村市松原本町 77-1

伝統文化の継承へ講師を招き寺子屋塾を開催



長崎街道の宿場町として栄えた古い街並みが残る長崎県大村市の松原地区で、街並みの保存と地域交流を目的に 2004 年から活動を始めた。夏休みに子どもたちを集めて行う寺子屋塾や、地域住民が持ち寄り飾るひな祭りは、江戸時代に建てられた旧松屋旅館が拠点。参加者は年々増え、世代間交流の潤滑油としての役割も果たす。また長崎街道松原宿は、20 年に長崎街道～シュガーロード～の構成文化財として、日本遺産に認定された。村川一恵会長は「活動を通じて子どもたちの心のよりどころとなる古里を残したい」と話している。

南島原市冬のお祭り実行委員会

賞 第５回優秀賞

〒859-2304 長崎県南島原市北有馬町丁 397

HP

キリシタン文化が花開いた地域性を生かす



キリシタン文化で知られる南島原の歴史的特性を生かし、毎年冬にイベントを開催する。市内の若者らが制作する、立ち木としては国内最大級の約 30 メートルのクリスマスツリー2本を小学校のグラウンドに設置。合わせて約5万個の電球が夜のまちを飾る。たいまつを持ちながら、キリシタン時代の服を再現した姿で市内を歩く「南蛮行列」や、「ボーロ」などの南蛮菓子、料理の再現に取り組み、文化的遺産をまちの活性化に活用している。

東彼杵ひとこともの公社

賞 第 11 回地域の未来賞兼九州・沖縄ブロック賞

一般社団法人

〒859-3923 長崎県東彼杵町瀬戸郷 1303 の 1

HP

倉庫改装し交流拠点化、新店舗開業や移住促進に成果



県内で2番目に人口が少ない東彼杵町でまちづくりや商品開発、移住者支援などに取り組む。廃倉庫を改装した交流拠点施設を立ち上げてにぎわいを創出し、周辺エリアでの新店舗開業をサポート。5年余りで15件以上の店が開業し、50人以上の移住につなげた。独創的な発想と多様なネットワークで、交流人口拡大と地域活性化に貢献。コロナ禍で苦境に立つ地域の飲食業、観光業のサポートにも積極的に取り組んでいる。





五島の手延べうどん　〈提供：ソラシドエア〉

神代小路まちなみ保存会

賞 第８回優秀賞

〒859-1303 長崎県雲仙市国見町神代丙 126-2

HP

歴史ある武家町の景観を守る活動に取り組む



江戸時代から佐賀鍋島藩の飛び領地として独特の景観を持つ武家町として歴史を刻んできた雲仙市国見町神代小路（こうじろくうじ）。生垣や石垣、水路など往時の面影を今に伝える景観を守るため2000年に「神代小路まちなみ保存会を設立、活動を開始した。生垣やまちなみ清掃などを行い住民の郷土愛の高揚に努めてきた。今後、歴史資料や古写真、まちなみガイドブックなどの出版も目指す。一方、高齢化や人口の減少に伴う空き家の増加の歯止めは喫緊の課題である。次の世代に活動をつなげ広めてゆくため、NPO法人「神代小路ネットワーク」が2020年春新たに誕生した。今後、転出者の空き家・空地管理、景観維持に取り組む。

雪浦あんばんね

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒857-2328 長崎県西海市大瀬戸町雪浦下釜郷 504

HP

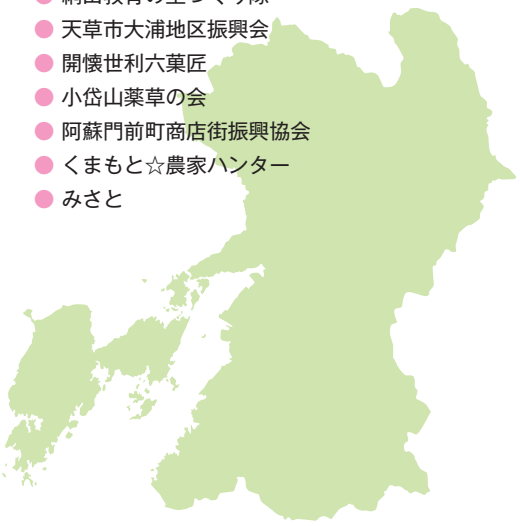
空き店舗や古民家を拠点にイベント、放棄地再生



海辺の静かな町の空き店舗を改修した交流施設「ゆきや」、古民家を活用したゲストハウス「雪浦ゲストハウス森田屋」を拠点に、住民や移住者が始めた地域回遊型散策イベント「雪浦ウィーク」は、毎年5月の大型連休の西海市を代表するイベントに育った。交流拠点にはパン工房を併設。ゲストハウスには海外からの旅行者も訪れる。耕作放棄地の開墾や移住希望者の相談、地域資源を生かしたグリーンツーリズム、森のようちえんの取り組みなどもはじめる。

熊 本

- 阿蘇グリーンストック
- 水俣市久木野ふるさとセンター愛林館
- 二見わっしょいファーム
- 芦北伽哩街道実行委員会
- 網田教育の里づくり隊
- 天草市大浦地区振興会
- 開懐世利六菓匠
- 小岱山薬草の会
- 阿蘇門前町商店街振興協会
- くまもと☆農家ハンター
- みさと



水俣市久木野ふるさとセンター愛林館

賞 第２回優秀賞

〒867-0281 熊本県水俣市久木野 1071

HP

森づくりや棚田保全、イベントに幅広い活動拠点



愛林館はJR山野線久木野駅跡地にできた交流施設。「エコロジー（風土・循環・自立）に基づくむらおこし」「今後2000年間、この地に住み森と棚田を守っていけるむらづくり」をテーマに、地域づくりを進める。施設では、むらづくりの研修、そば打ちや豆腐、こんにゃく作りの体験ができる。照葉樹の造林を進め、荒れた棚田の再生のため、大豆を育てるプロジェクトを行う。マラソン大会やライブ、「棚田のあかり」も開催。

二見わっしょいファーム

賞 第３回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒869-5172 熊本県八代市二見本町 681-2

HP

買い物難民化に悩む住民らコンビニ的直売所運営



二見地区は海から山までつながる豊かな土地で、さまざまな産物に恵まれるが、人口減少によって日用品などを扱う店がゼロになった。住民が地元の農家や漁業者らに呼び掛け、農水産物のほかコンビニ的な機能も持つ直売所「しょい」を開店した。「～しよう」という方言にちなんだ。2012年にNPO法人設立。かんきつ類のバンペイユなど珍しいものも並べられている。他の地域の物産館や飲食店などと共に八代市の中心部で月1回物産市を開いており、500～1000人の買い物客でにぎわう。

阿蘇グリーンストック

賞 第１回特別賞　　公益財団法人

〒869-2307 熊本県阿蘇市小里 656-1

HP

雄大な草原を守るため野焼きをボランティア支援



雄大な阿蘇の草原地帯。行政や農家、市民、企業が協力して設立し、ボランティアで野焼き支援活動を行い、美しい緑を守る取り組みを続けてきた。乾燥した草を燃やすだけに危険は付きまとうが、研修会を行ったり、難燃性のヘルメットや活動服を身に着けたりするなど安全対策に力を入れる。特産の「あか牛」を支援するオーナー制度やファームステイ事業といった農村と都市の交流の促進など活動の幅を広げてきた。「地域の宝」を伝えるために、若者を含めさらに多くの人の理解を深めていく構えだ。

天草市大浦地区振興会

賞 第６回特別賞

〒861-7203 熊本県天草市有明町大浦 1723-1 大浦地区コミュニティーセンター

HP

定置網のオーナー制度などを企画し交流人口増加



定置網や底引き網漁を体験できる「ひと網オーナー制度」など、ユニークな地域おこしに取り組み大人気。全住民総出の温かなおもてなしに魅了された参加者はリピーターも多い。2018、19年度は「大浦田舎暮らし体験」として会員制でホタル観賞、民泊、デコポン施設見学、定置網漁、神社の祭り、ウオーキングなどの交流を楽しめる催しを開催した。交流人口の増加を、地域の活力と住民の生きがいにつなげる。

芦北伽哩街道実行委員会

賞 第４回優秀賞

〒869-5461 熊本県芦北町芦北 2592-15

地元素材のオリジナルカレーを十数店が競い合う



芦北町と水俣市にあるレストランや食堂など十数店舗で組織する。料理研究家の先駆けで芦北町出身の故江上トミさんが、日本の家庭に最初にカレーを紹介したとされる功績をたたえ、海水浴客らに楽しんでもらおうと企画した。夏休み期間中に芦北伽哩街道夏フェアを開催し、地元食材を使って各店がオリジナルカレーの味を競う。あしきた牛を使った焼きカレーやアシアカエビのフライをのせたカレーなどが出た。地元高校と協力してカレー弁当を開発、カレーが食べられる列車運行にも取り組んでいる。

開懐世利六菓匠

賞 第７回優秀賞　　一般社団法人

〒861-4115 熊本市南区川尻１丁目 3-39-1

HP

和菓子職人が工芸菓子の実演・販売会を地元で開催



熊本市南区川尻地区は江戸時代、年貢米の積み出し港として栄えた「職人の町」。和菓子職人らでつくる「開懐世利六菓匠」は1990年に結成。造形にこだわった「工芸菓子」の実演・販売会を地元で長年にわたって開催し、「川尻といえば和菓子」のイメージを定着させ、まちおこしに一役買っている。全国イベントの際には記念菓子も作成。学校現場でも体験教室を催し、日本の和菓子文化を伝える。新型コロナが収まったら菓子をツールに日本により多くの外国人観光客を迎える構えだ。

網田教育の里づくり隊

賞 第５回ブロック賞（九州・沖縄）

〒869-3171 熊本県宇土市長浜町 328-1-4

あいさつやまちの清掃通じ、地域ぐるみで子育て



過疎や少子化が進む人口4000人弱の網田地区で地域ぐるみで子育てに取り組んでいる。地元の大人たち約30人で構成する。地域を挙げたあいさつ運動や、まちの清掃に取り組み、小中学校にメンバーが出向いての読み聞かせも続けている。地元を愛する心を育もうとする結束力が強く、学校も協力的だ。年1回の地域のイベントでは地元食材を使った長さ12㍍以上にもなる巻きすし作りに挑戦している。東京からUターンして農業に励む若者も出てきた。

くまもと☆農家ハンター

賞 第 10 回優秀賞

〒869-3203 熊本県宇城市三角町戸馳 1945-1

HP

若手農家がイノシシ駆除。IT活用、ジビエにも



熊本県内の若手農家がイノシシから農地を守るため勉強、防護を重ね、自ら狩猟免許を取り、駆除にも当たっている。ITを活用し、センサーや監視カメラで現場を「見える化」して負担を軽減。ネットを使った情報発信にも熱心だ。活動拠点の宇城市三角町では、住民が駆除に取り組むなど、地域維持への好循環が生まれている。ジビエ活用拡大のため解体施設も完成した。レシピの共同開発など高校生にも活動の輪が広がっている。

小岱山薬草の会

賞 第８回優秀賞

〒865-0051 熊本県玉名市繁根木 75 サンビル 1 階

地元の薬草を生かし、料理教室や出前授業を展開



19 人のメンバーが崇城大薬学部と連携し、地元の薬草（山野草）を生かした地域活性化や健康づくりに取り組む。料理教室や出前授業をはじめ、イベントで薬草を使った料理や茶を振る舞うなどして住民への普及啓発に努める。自前の薬草園も持ち、商品化を視野に加工食品の開発も進めている。玉名市は「薬草のまち」としての認知度が上がり、県内外から愛好者らが視察や研修に訪れている。後継者を育て、若い人に「食べて健康になれる」薬草の魅力を伝える。

みさと

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒869-6301 熊本県芦北町天月1337番地1

HP

子どもたちに里山保全や伝統行事、文化の大切さ継承



芦北町東部の中山間地・大野地域で、高齢化や過疎化で地域や里山が廃れていく中、地元の子どもたちに豊かな里山の大切さや地域の伝統行事を伝える活動に取り組み、地域活性化につなげている。地元の大野小で、地元の高校生が間伐した木材を使い、児童に向けた炭焼き体験教室を開催しているほか、地元神社に奉納する地域伝統の「わらび粉」作りなどに子どもたちと一緒に取り組み、里山保全の重要性や地域の伝統文化を継承している。

阿蘇門前町商店街振興協会

賞 第９回優秀賞

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 3092-2

商店街を湧き水活用や豪華景品の夜市などで復活



事業者一丸で地域のにぎわい創出に励む。阿蘇神社の門前にある商店街は、幹線道路への大型店進出などで 1970 年代に衰退したが、一帯に自噴する豊富な湧き水を散策スポットにした「水基」や桜並木を 90 年代から整備。花見の季節に通りに多数の畳を敷いて、飲食や交流を楽しんでもらう「お座敷商店街」や、豪華景品の夜市、農産物を生かした商品開発などに取り組み、往時の輝きを復活させた。2016 年の熊本地震では被災者支援にも力を入れた。

大分

- 安心院町グリーンツーリズム研究会
- ハットウ・オンパク
- 豊後森機関庫保存委員会
- BEPPU PROJECT
- くにさき七島藺振興会
- 豊の国宇佐市塾
- 別府八湯ウォーク連絡協議会
- 湯布院映画祭実行委員会
- 下郷村
- 庄内神楽座長会
- 水辺に遊ぶ会



ハットウ・オンパク

賞 第２回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒874-0920 大分県別府市北浜 1-14-15

体験・交流型地域づくりで資源発掘、人材育成



温泉地として有名な別府八湯で誕生した「ハットウ・オンパク」は、多種多様な体験プログラムの開催を通じて、地域資源の発掘と人材育成を促進する取り組み。路地裏の共同湯といった地域密着の場を、ボランティアの住民が紹介しながら歩くといった体験・交流型の地域づくりに有効な「オンパク」の手法は、これまで全国１００以上の地域に導入された。近年ではタイやグアテマラなどの海外でも行われるようになった。

豊後森機関庫保存委員会

賞 第３回優秀賞

〒879-4403 大分県玖珠町帆足 473-1

HP

廃止された機関庫を保存、観光スポットの公園に



蒸気機関車が活躍していた１９７０年まで稼働していた機関庫を観光資源として保存に取り組んできた。活動が実を結び、国の登録有形文化財に指定された。機関庫には列車１２両が入り、車両の向きを変える転車台もある。歴史的価値があると年間1万人以上が訪れ、映画のロケ地にもなった。９６００型蒸気機関車を展示、ミニトレインを走らせる７００㍍のコースや町営の資料館もある機関庫公園として、観光スポットに育った。委員会メンバーはイベントなどの際に案内を引き受けている。

安心院町グリーンツーリズム研究会

賞 第１回ブロック賞（九州・沖縄）　　ＮＰＯ法人

〒872-0521 大分県宇佐市安心院町下毛 1195-1

HP

農家に泊まり農作業を体験、地域経済の柱に成長



農家に泊まり農作業を体験するグリーンツーリズムの先駆けだ。活動を始めた１９９６年に8軒だった会員は５０軒に増加。人気旅館のおかみさんからもてなしを学んだり、料理を習ったりする〝大学〟や、本場・ドイツなどへの視察など、会員の研修にも力を入れてきた。日帰りも含め年間約8千人を受け入れ、地域経済の柱に成長した。漁村の家庭も加わり活動の場は海にも広がり、バカンス法制定の運動にも力を入れる。

豊の国宇佐市塾

賞 第６回優秀賞

〒879-0311 大分県宇佐市森山 216

HP

戦争中の映像発掘やフォーラムで歴史伝える



太平洋戦争中、日本軍の出撃拠点だった旧宇佐海軍航空隊を地域資源と捉え、戦争遺産の保存や、平和フォーラム、ウオークといった市民への啓発活動を展開してきた。とりわけ米国立公文書館が保有する米軍の空襲や空中戦、日本軍機の特攻などの映像を発掘、撮影地などを解析する活動は大きな反響を呼んでいる。平和の大切さと命の尊さを訴える活動の成果は、資料館と戦争の遺構群で構成する「宇佐市平和ミュージアム（仮称）」建設という形で結実する。

BEPPU PROJECT

賞 第４回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒874-0933 大分県別府市野口元町 2-35 菅建材ビル2F

HP

アートやクリエイティブの力でまだ見ぬ価値を創造する



撮影：久保貴史　© 混浴温泉世界実行委員会

2005年4月発足、2006年5月に法人化。大分県別府市でアートやクリエイティブを軸に活動しているNPO法人。『in BEPPU』『国東半島芸術祭』などのアートプロジェクトの企画・運営、地元企業とクリエイターのマッチングを支援する『CREATIVE PLATFORM OITA』など、さまざまな事業を展開。アートやクリエイティビティを地域の課題解決や新たな可能性が生まれる場づくりに活用し、まだ見ぬ価値を生み出すことを目指す。

別府八湯ウォーク連絡協議会

賞 第７回優秀賞

〒874-0944 大分県別府市元町 11-7

HP

地域密着で個人客に温泉地の魅力を発信



日本一の温泉湧出量を誇る別府は鉄輪、浜脇、別府、観海寺、亀川、柴石、堀田、明礬という8つの温泉地からなる。昭和の時代は宴会中心で団体客がターゲットだったが、平成からは個人客がメイン。温泉地の良さをアピールするため、目を付けたのが土地の魅力探しだった。別府にあるいろいろなタイプの温泉、路地裏の共同湯といった地域に密着した場所を、ボランティアの住民が紹介しながら歩く。泉都を体感するコースは23にもなった。案内の様子は動画で公開、自宅からも温泉街散策を楽しめる。

くにさき七島藺振興会

賞 第５回優秀賞

〒873-0355 大分県国東市安岐町富清 3209

HP

敷物材料の特産植物を栽培、後継者も育成



七島藺は1660年代ごろから別府湾周辺一帯で栽培され、敷物や畳表の材料として江戸時代から昭和40年代まで大分の特産品だった。戦後のピーク時は年間550万畳を生産したが、畳表は海外産の材料に取って代わり、生産者の高齢化が進んで消滅寸前だった。それに対し、国産品を見直す動きが起き、畳表に加えて円座などの工芸品を取り入れ、ブランド化を通じた七島藺復活を目指す。年間2000畳程度生産されるようになり、Iターン、Uターンの後継者も出ている。

庄内神楽座長会

賞 第 10 回優秀賞

〒879-5498 大分県由布市庄内町柿原 302 由布市役所

HP

神楽座結集、公演やグッズで財源確保、知名度も



由布市庄内町地域の神楽座が集まり、1993年に庄内神楽座長会を立ち上げた。定期公演や神楽祭り、出張公演を開催。グッズ販売や公演の有料化などに取り組んだことで、自主財源を確保した。「庄内といえば神楽」というイメージが内外に浸透。知名度は飛躍的に伸び、県外からの出張依頼も。神楽のシンボルマーク「みことちゃん」は各商店でも利用され、地域全体で神楽を軸とした活性化が進んでいる。コロナ禍では感染防止のオリジナルマスクキットをつくった。

湯布院映画祭実行委員会

賞 第８回ブロック賞（九州・沖縄）

〒870-0022 大分市大手町 2-2-5

HP

全国の映画祭の草分け、温泉エリアで文化交流



全国の映画祭の草分けとなる「湯布院映画祭」は1976年から大分県由布市湯布院町の由布院温泉エリアにある湯布院公民館を主会場に開かれている。映画人とファンがシンポジウムで熱く議論を交わし、毎晩、食事しながら交流するのが恒例。映画館のない町に文化を根付かせる原動力になっている。2016年の熊本地震、17年の九州北部豪雨で被害を受けたが、両年ともに映画祭を開催して湯布院の健在ぶりを県内外に発信した。コロナ禍の20年は【夏の陣】【秋の陣】を分散開催。

水辺に遊ぶ会

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒871-0006 大分県中津市東浜1151の4

HP

カブトガニがすむ遠浅の海を保全、自然体験や研究活動



カブトガニやアオギスなど希少生物がいる遠浅の海を中津干潟と名付け、浸透させてきた。清掃活動や松林再生などの「保存・保全」、自然体験活動や教材製作などの「共感」、生物目録や中津干潟レポートなどを作成する「研究」という３つの柱で活動を1999年から展開。2020年夏に発足記念日の7月1日を「中津干潟の日」と定めた。自然の素晴らしさに市民の目を向ける取り組みと共に地域資源の魅力と学術的価値を高めている。

下郷村

賞 第９回ブロック賞（九州・沖縄）

〒871-0431 大分県中津市耶馬溪町大島 3818-1

地域誌や学童施設、共同店舗整え移住者呼び込む



人口1300人余りの中山間地、中津市耶馬溪町下郷地区で、地元の人と移住者がつくった地域づくりグループだ。顧問の中島信男さんは「暮らしの範囲はお寺の鐘が聞こえるくらいがちょうどいい」と活動の本質を語る。有機無農薬農業をベースに、林業などプラスアルファの仕事で〝いのちき（生計を立てる）〟する。盆踊りや祭りに加え、新しく映画祭を開いて楽しみを創出。地域誌「雲与橋」を発行して豊かな暮らしを発信し、移住者を呼んでいる。

宮崎

- 「定期朝市」トロントロン軽トラ市
- のべおか天下一市民交流機構
- 小川作小屋村運営協議会
- 染ケ岡地区環境保全協議会
- 酒谷地区むらおこし推進協議会
- どんぐり1000年の森をつくる会
- 五ケ村村おこしグループ
- はなどう
- ままのて
- 川坂川を守る会
- 宮崎がん共同勉強会



のべおか天下一市民交流機構

賞 第２回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒882-0813 宮崎県延岡市東本小路 131-5

HP

旧藩主由来の「天下一」能面を使った薪能を開催



延岡城址を背景に毎年10月、薪能を開催し、2021年で24回を迎えた。旧藩主の内藤家に伝えられた安土桃山から江戸時代初期の面で、「天下一」の称号が与えられ裏面に焼き印が押された名品も。延岡市は72の面を所有しており、一流の能楽師が演じる。来場者は全国から約1200人。会場設営などの準備は地元の中高生ら1000人以上が手伝っている。寄付という形で協力する人も多く、地域が結束力を示している。

小川作小屋村運営協議会

賞 第３回優秀賞

〒881-1302 宮崎県西米良村小川 254

HP

地元料理、宿泊を楽しめる施設運営、地域に活気



レストランなどを備える「おがわ作小屋村」を運営し、年間2万～3万人が訪れる。メンバーは地元住民約20人。年配の女性が腕を振るう。四季折々の山菜やシカ肉やシシ肉を使った料理が16皿の小鉢で並ぶ「おがわ四季御膳」は月1000食ほどが出る人気メニューだ。手打ちそばも提供している。春には山菜祭りを開催し、採れたての山菜を直売している。宿泊施設の運営も受け持っており、地域は観光客らでにぎわう。

「定期朝市」トロントロン軽トラ市

（受賞当時：まちづくりトロントロン）

賞 第１回優秀賞

〒889-1301 宮崎県川南町川南 13680-1

HP

長い坂道で名物朝市・軽トラ市を開催、来客多数



トロントロンと呼ばれる地区の坂道600㍍を使って、毎月第4日曜日の朝8時から開催し、農家や漁業者らが農、海産物、畜産加工品など、多彩な商品を軽トラックに載せて出店する。135台前後が並び、新鮮で安い食材を求めて1万人が訪れる。午前11時45分まで開かれるが、売り切れは珍しくない。抽選会も開かれる。2006年に始まり、口蹄疫や新型コロナといった問題で中止もあったが、たくましく再開、にぎわいを取り戻している。

どんぐり 1000 年の森をつくる会

賞 第６回ブロック賞（九州・沖縄）　　ＮＰＯ法人

〒889-1801 宮崎県都城市山之口町富吉 2985-26

HP

森を守ろうと市民の出資を集め植林



九州で水質ワースト1だった大淀川源流の森づくりを目指し、どんぐりの種から育苗する植樹活動を展開している。植樹1本につき500円の協力金を負担してもらう「株主制度」など誰もが参加しやすい仕組みをつくり、自然再生を実践。活動開始から26年目に入り、植樹した広葉樹も17万本を超えた。以前は国有林での植樹だったが、過疎高齢化で山林を管理できなくなった所有者からの依頼で植樹するケースも増えている。子どもの環境教育なども開き、環境保全に成果を上げている。

染ケ岡地区環境保全協議会

賞 第４回優秀賞

〒884-0005 宮崎県高鍋町持田 2205

ひまわり畑を柱に口蹄疫を克服、植栽を継続



地元農家を中心に発足し、現在のメンバーは約130人。2010年に発生した口蹄疫の影響によりキャベツ畑などで畜産堆肥を使えなくなったことから、ヒマワリを使った緑肥に変更した。耕して土中に混ぜ入れる前の8月、咲き誇る約1100万本のヒマワリを楽しむことができる「きゃべつ畑のひまわり祭」を開催してきた。祭りは19年度で終了したが、ヒマワリ植栽は今後も続ける予定だ。

五ケ村村おこしグループ

賞 第７回ブロック賞（九州・沖縄）

〒882-1621 宮崎県高千穂町岩戸 58

HP

地元料理提供の温泉茶屋、古民家移築の施設を整備



国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に登録された「高千穂郷・椎葉山」の五ケ村集落。平均年齢60歳の住民9人が1994年に村おこしグループを立ち上げ、地元料理を提供する「天岩戸温泉茶屋」、古民家を移築して作った「神楽の館」などの施設をほぼ自前で整備した。地域の食材を利用したメニューの提供、夜神楽の伝承保存などに取り組む。地元の意欲ある若者夫婦に事業継承するとともに、閉鎖の危機にあった「天岩戸の湯」の存続や、コロナ禍対応として3密にならないキャンプ場づくりも進める。

酒谷地区むらおこし推進協議会

賞 第５回準大賞

〒889-2511 宮崎県日南市酒谷乙 4557 日南市役所酒谷支所

住民が 80 年以上守った棚田で地域おこし



80年以上にわたって守る「坂元棚田」は、日本の棚田百選の一つ。過疎化に負けない地域をつくろうと住民で協議会を結成した。拠点としている道の駅は、名物料理や新鮮な地元の野菜が人気を呼び、年間20万人が訪れる。全世帯が参加し、それぞれ年1200円を負担している。道の駅の運営団体にも出資する。坂元棚田は石垣で囲まれた独特な構造で、2002年にオーナー制度を取り入れ、石垣の清掃や稲刈りの体験も始めた。

川坂川を守る会

賞 第 10 回優秀賞

〒889-0102 宮崎県延岡市北川町長井 3813

HP

希少動植物の宝庫、湿原を保全、案内し魅力発信



延岡市北川町を流れる川坂川周辺の豊かな自然環境を保護しようと2010年に発足。希少動植物の宝庫である川坂湿原の草刈り作業など定期的な維持管理に努めている。地区外のボランティアが参加する環境保全イベントも実施。会員はボランティアガイドとして県内外の個人や団体客を湿原に案内し、地区の魅力を県内外に発信している。近年は、環境保全活動に加えて、イベント開催や農業振興など地域づくりに精力的に取り組んでいる。

はなどう

賞 第８回優秀賞　　農事組合法人

〒889-4414 宮崎県高原町蒲牟田 788-2

HP

耕作放棄地でビールや酒原料を栽培、直売店で販売



高齢化や鳥獣被害が深刻化し、耕作放棄地が増加していた宮崎県高原町蒲牟田の花堂地区で、農地を集積。県内企業と連携し、ビールや日本酒、そして焼酎の原料となる米や麦を栽培している。県内企業と提携して「牛乳甘酒」も開発した。出来上がった製品は法人が運営する木造の農産物直売所「杜の穂倉」でも販売し、黒字経営を続けている。古民家レストランも開店し、観光客が増加。また、平成30年発足の女性加工グループ「はなどうキッチン」により、「ちまき」をはじめ多くの加工品が出されている。若手農家の育成や移住者の呼び込みなど、法人が核となり地域に活気をもたらしている。

宮崎がん共同勉強会

賞 第 11 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒880-0841 宮崎市吉村町大田ケ島甲 410 番地 3 サンジェルマンV103号

HP

がん患者が医師らと学習、悩み相談、オンラインも活用



医師の呼び掛けで2009年発足。がんの種類や治療している病院を問わずに参加できることが特徴で、月1回の会合でがんの知識を学ぶほか、化学療法で生じる副作用など当事者にしか分からない悩みなどを語り合う。悩みを解消でき、治療に前向きになるなど患者同士が支え合う場になっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で会合の開催が難しくなる中、オンライン参加を併用することで、患者同士のつながりを懸命に保ち続ける。

ままのて

賞 第９回優秀賞

〒880-0811 宮崎市錦町 38 番 1 号 グラード錦町店 2F

HP

食事の提供や学習の指導、講座を開き子育て支援



子どもを軸に多世代を支援しようと２０１４年に設立。ひとり親や生活困窮家庭を含む子育て世帯を対象に講座やセミナーを開き、保育士や行政書士、社会福祉士などの専門職が相談に応じている。大学など市内3カ所で行う小中高校生対象の無料学習塾「ままのて宅習塾」では、シニアや大学生らのボランティアが学習を支援。家庭が抱える複雑な課題を解決する糸口を探し、子どもを中心とした地域コミュニティーの形成や居場所づくりにつなげている。

鹿児島

- 種子島アクションクラブ
- 大隅横川駅保存活用実行委員会
- さくらじま旬彩館
- 伊佐みりょく研究所
- Ｌａｂ蒲生郷
- 着物で出水武家屋敷を歩こう会
- がんばろう高山
- 阿室校区活性化対策委員会
- 金吾様踊り活性化実行委員会
- とりさし協会



大隅横川駅保存活用実行委員会

賞 第２回優秀賞

〒899-6303 鹿児島県霧島市横川町中ノ 263 霧島市横川総合支所

木造駅舎の保存、活用を核に活性化に取り組む



霧島連山の裾野に広がる横川町は、かつて金の取引で栄えた。輸送を担う大隅横川駅は 1903 年に開業し、九州で最も古い木造駅舎とされる。2006 年、国の登録有形文化財に指定。太平洋戦争末期、機銃掃射を受けた7月30 日には弾痕が残る駅で毎年、コンサートを開催し、平和の尊さを語り継いでいる。駅で地元の若者の成人式を開催しており、委員会のメンバーが作った門松を前に記念撮影をしている。ハロウィーンのイベントも開いている。

さくらじま旬彩館

賞 第３回ブロック賞（九州・沖縄）　有限会社

〒891-1419 鹿児島県桜島横山町 1722-48

HP

桜島大根や小ミカンで主婦がオリジナル商品開発



桜島小ミカンなどのかんきつ類を中心に地元の農産物を使い、ドレッシングやジュース、みそなどオリジナルの商品を主婦が開発してきた。水を入れるとすぐに大根おろしになるフリーズドライの「桜島大根パウダー」は話題に。おふくろの味を楽しめるレストランも好評だ。2004 年に有限会社に組織を改め、黒字経営が続く。主婦の感覚を生かした無駄のないやり方と、子育てを優先し支え合う柔軟な働き方が評価され、地方での起業の一つのモデルとなっている。

種子島アクションクラブ

賞 第１回特別賞

〒891-3607 鹿児島県中種子町田島 4141 番地

HP

ローカルヒーローが活躍、アクション創作劇上演



鹿児島県・種子島に元気を与える活動を、と立ち上がったローカルヒーロー「離島閃隊タネガシマン」。奮闘は 20 年を超え、島の〝顔〟に。オリジナル作品で行う公演は 320 回を超え、農業の衰退や人口減少など島を襲う「敵」と戦ったり、地元の人やエピソードを盛り込んだりしてきた。毎回違うシナリオ、単純な正義のヒーローでない活動が、子どもだけでなく大人からも人気を集め、活動の幅を広げてきた。地域発のキャラクターの先駆けとして、息の長い活動を続けている。

着物で出水武家屋敷を歩こう会

賞 第７回優秀賞

〒899-0203　鹿児島県出水市上鯖渕 715 番地 16
一般社団法人　出水市観光特産品協会

HP

武家屋敷を着物で散策し、風景を満喫



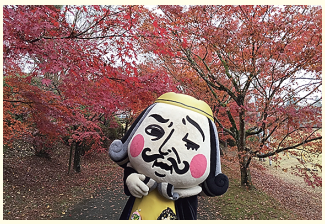
江戸時代に建てられた武家屋敷が数多く残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれた麓（ふもと）武家屋敷群を着物で散策し、美しい風景を楽しんでもらうイベントを春秋の年2回開いている。そこから発展して「出水麓着物・浴衣・茶道体験の会」が結成され、参加料１万円で、着物と帯は持ち帰りできる催しを通年で開いている。若い女性を中心に県内外から多くの人が参加するほか、日本文化に興味のある海外の観光客からも人気だ。日本語、英語、中国語、韓国語のパンフレットも作成した。

伊佐みりょく研究所

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

鹿児島県伊佐市

ご当地グルメ開発や、ご当地キャラで活性化



過疎高齢化が進む伊佐市でご当地グルメやゆるキャラによる活性化に取り組む。地元農畜産物を使った手羽先料理を「手羽キング」と名付け、ご当地グルメ大会に出場。料理PRのため、キャラクター「イーサキング」が生まれた。伊佐を「13（いさ）」と読み、トランプのキングとかけた。ご当地キャラ総選挙で上位に入るなど人気で、市の知名度アップにも貢献している。近年は海外での特産品販売イベントなども行い、好評。インスタグラム、YouTube、Twitter、Facebook にアカウントがあり、毎日情報を発信、県内外から高評価だ。

がんばろう高山

賞 第８回特別賞　　ＮＰＯ法人

〒899-2311 鹿児島県日置市東市来町養母 15819-4

HP

全住民参加で稲作体験などグリーンツーリズム推進



棚田がある集落で交流人口の拡大や若い世代の定住、高齢者の生活サポートに取り組む。156 人（2020 年４月時点）の住民全員で構成。田植えや稲刈り体験、山菜狩りなどグリーンツーリズムに力を入れる。秋祭りやこんにゃく作り、かずら細工、マス釣りも人気だ。市街地に高齢者を車で案内する「買い物支援事業」も開始。軽トラで各戸を回り、野菜を物産館に共同出荷して支え合う。廃校の小学校に宿泊施設があり学生らが合宿などに利用、祭りの手伝いにも参加。19 年には農産物や団子、お総菜を販売する「たかやま峠茶屋」もオープンした。

Ｌａｂ蒲生郷

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒899-5302 鹿児島県姶良市蒲生町上久徳 2241

HP

多彩なイベントや講座で歴史のまちを再発見



日本遺産に認定された武家屋敷群など、歴史と文化のまち「蒲生郷」を再発見し楽しんでもらうイベントを総称した「蒲生ワクワクコレクション」（略称：カモコレ）を2009年から続けてきた。観光資源や人材、行政を横断的につないだ共生協働のまちづくりがにぎわいを創出、「蒲生は熱い」「元気だ」という評価につながっている。コロナ禍ではオンライン発信をするためのオンライン講座などに取り組む。

とりさし協会
（受賞当時：鶏の生食加工業者協議会）

賞 第 11 回優秀賞

〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡3635（南薩食鳥）

HP

「鳥刺し」食文化守ろうと衛生基準や店の認証制度創設



鳥刺しを食べる習慣が鹿児島県内と宮崎県の一部にある。9年前に他県の焼き肉店で発生した集団食中毒事件を機に、固有の食文化は危機を迎えた。立ち上がったのが食肉業者や飲食店の有志。自主的に食肉処理の衛生基準作りに取り組み、提供店の認証制度を創設、さらに鶏料理を楽しめる臨時観光列車で安全性をアピールした。コロナ禍でも鳥刺しは「中食」として人気があり、帰省できない出身者らに送る人も多い。食の安心安全はもちろん、郷土愛を育む点でも貢献度は大きい。



薩摩揚げ〈提供：ソラシドエア〉





しろくま 〈提供：ソラシドエア〉

阿室校区活性化対策委員会

賞 第９回優秀賞

〒894-3632 鹿児島県宇検村阿室 195

HP

学校の存続目指し親子留学を誘致、農業の振興も



阿室小中学校存続のために始めた親子山村留学を機に、住民一丸となって活気ある地域づくりに成功した。「親子」の移住が進んだことで児童生徒増だけでなく、移住者が農業の担い手となったり、起業して農産加工物を全国に販売したりと、新たな感性で地域資源を生かす力となっている。委員会は移住者の住宅確保、地元住民との交流推進などを実施。地元住民と移住者の協働による地域再生は人口減少時代の地域づくりのモデルとなっている。

金吾様踊り活性化実行委員会

賞 第 10 回優秀賞

〒895-2202 鹿児島県さつま町中津川 825-1

若い世代が伝統芸能でU・Iターン、地域を担う



400年前から続く伝統芸能「金吾様踊り」のにぎわいを取り戻そうと、有志７人が2003年に活動を始めた。踊りの復活と継承が、過疎の農村地域を再生する原動力になっている。趣旨に共鳴する若い世代がU・Iターンし、14世帯45人が農畜産業、行事など地域の担い手に加わった。地元への愛着や結束力は強まるばかり。夢は踊り手500人が40種の踊りを奉納する演目「大念仏踊り」の完全復活だ。コロナ禍では動画サイトも活用、疫病退散を祈願する。写真はH30年に61年ぶりに復活した「棒打ち舞」。

沖 縄

- 鳩間島音楽祭実行委員会
- 琉球在来豚アグー保存会
- 栄町市場商店街振興組合
- 島の風
- 船浮音祭り実行委員会
- 嘉手納町商工会女性部
- ハマスーキ
- 大城花咲爺会
- 平久保サガリバナ保存会
- 久米島ホタルの会
- フーカキサバニ
- てぃーだこども食堂
- にじのはしファンド
- 首里まちづくり研究会
- 地域サポートわかさ
- いけま福祉支援センター
- バリアフリーネットワーク会議
- 与那原大綱曳実行委員会支度係
- 国頭村安田区

琉球在来豚アグー保存会

賞 第１回特別賞

〒905-0011 沖縄県名護市宮里 4-11-15-1

沖縄在来種の豚復活に取り組み、ブランドに成長



農家や研究者らが連携して、沖縄在来のアグー豚を守ってきた。「戻し交配」と呼ばれる方法で約１０年かけて原種に近いアグー豚を復活させることに成功し、絶滅も危惧された状況から脱した。〝復活の地〟となった名護市が「アグーの里宣言」を打ち出しPRに力を入れるなど、特産品としてアピールする動きも広がり、沖縄の新たなブランドに成長した。豚熱（CSF）からの防疫や、コロナ禍による需要減といった試練にも果敢に立ち向かっている。

栄町市場商店街振興組合

賞 第２回優秀賞

〒902-0067 那覇市安里 388-1

復興期のレトロな街を、屋台祭やライブで元気に



那覇市の繁華街、国際通り北口近くにある栄町市場商店街は戦後復興期に誕生、当時とほとんど変わらない姿のままだ。小さな商店や食堂などがひしめき合うように店を出し、レトロ感たっぷりの雰囲気はアジアの市場のようだと脚光を浴びている。毎年6月から１０月は、月1回屋台を出して飲食物を提供する「屋台祭」を開く。毎年１１月のライブではミュージシャンに加え、屋台の人も演奏するように。昼は買い物客でにぎわい、夜も多くの人が訪れる人気スポットとなった。

鳩間島音楽祭実行委員会

賞 第１回優秀賞

〒907-1544 沖縄県竹富町字鳩間 26

HP

小さな島に観客１０００人集めライブイベント



人口60人ほど、周囲約4㌔しかない鳩間島で毎年5月4日、1000人前後の観客を集めて音楽祭を開く。民宿の庭で始まったイベントは屋外の広場にステージを変え、２０回を超えた。全国で活動するアーティストら１０組ほどが出演し、幅広い音楽を楽しめる。行政からの補助を一切受けず、島民が準備や当日の作業に協力。終了後には港で三線を演奏して、来島者を盛大に見送る。リピーターが多く、小さな島を元気にしている。

嘉手納町商工会女性部

賞 第４回優秀賞

〒904-0203 沖縄県嘉手納町嘉手納 259

伝統の野国芋を活用、人気の特産品に育てる



「基地の町」のイメージを払拭するため、伝統の芋を活用した地域再生に取り組む。中国から沖縄に甘藷を伝えた野国総管の功績をたたえ、地元では甘藷のことを野国芋と呼ぶ。作付面積が少なく量が取れないが、ソフトクリームやアイスぜんざいなどとして商品化され、道の駅や地元料理店で人気だ。年1回の「野国総管まつり」では、芋の葉を使った雑炊〝カンダバージューシー〟をアンケートに答えた客に振る舞う。嘉手納町のゆるキャラ「いもっち」のポロシャツも受注販売している。

島の風

賞 第３回大賞　　ＮＰＯ法人

〒905-0605 沖縄県伊是名村勢理客 1542

HP

「島のこし」目指して古民家を宿泊施設に改修



名護市からフェリーで約１時間の伊是名島で、人口減に立ち向かい「島のこし」を目指す。赤やグレーの瓦屋根をサンゴの垣根が囲む伝統の風景を守ろうと、空き家を借り受けて、宿泊施設への改修を進める。将来は、施設の運営を地元集落に移し、地域を支える経済の柱をつくることで、活性化を進める計画だ。地元産のコメを加工した麺など特産品の開発・販売も進める。他の離島の団体とも連携し活動を広げたいとしている。

ハマスーキ

賞 第５回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町 1-4-11 糸満海のふるさと公園内

HP

糸満の古式漁具や漁師に関する資料を収集、保存



沖縄本島の最南端に位置する糸満市。沿岸部にある糸満地区は沖縄屈指の漁業のまちだ。糸満海人の歴史、文化を継承するため、地元有志が設立したこの団体は「糸満海人工房・資料館」を拠点に、海人文化に関する資料の収集や保存に当たっている。展示物についての説明や講話のほか、子どもたちや観光客を対象にした体験メニューもある。施設では古式の水中眼鏡〝ミーカガン〟などのオリジナルグッズを販売している。

船浮音祭り実行委員会

賞 第３回優秀賞

沖縄県竹富町

HP

沖縄を代表するアーティストら音楽祭で集落応援



西表島の西部に位置する船浮地区には40人ほどが暮らす。近隣の集落とつながる道路がなく、交通手段は船が頼りだ。過疎化が深刻なこの土地で生まれた池田卓さんはミュージシャンとして那覇を中心に活躍していた。拠点を船浮に移す前から、活性化を目的に「音祭り」を続けている。池田さんの人脈で沖縄を代表するアーティストが集まり、700人を超える観客が集まる。住民はイベント当日、名物イノシシ汁の販売や、船の送迎などでもてなす。

久米島ホタルの会

賞 第６回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒901-3138 沖縄県久米島町上江洲 457-20

HP

ホタルが生きる環境を守り、島民に誇り



クメジマボタルがすむ島の環境を蘇らせ、水質汚染や不法投棄、ゴミ問題、赤土問題といった課題解決を目指す。それによる経済の活性化、そして何よりも久米島で生きる誇りと喜びを人々が見いだすことを活動理念としている。「久米島ホタル館」のパネル展示、生態飼育やガイドの手伝い、「ホタルの里」づくりのための草刈や清掃、植栽を行い、指定管理者となった。島全体の不法投棄ゴミや海洋ゴミの回収、啓蒙活動を住民と協力して実施。島内の保育園児から高校生で組織する「久米島ホタレンジャー」も育っている。

大城花咲爺会

賞 第５回優秀賞

〒901-2314 沖縄県北中城村大城 124

HP

沿道の除草や花壇増設、樹木の植栽を管理



年配の男性の生きがい、居場所をつくろうと１６人で組織。地域の清掃、花の手入れ、植栽を続け、シーサーや彫刻などの造形作品を飾るなどして訪れる人たちを喜ばせている。花咲かじいさんの昔話をイメージし、３０００本のボウランを丸太に着生させて通りと公民館横広場の周囲に植え、管理している。定例の活動日は月2回だが、それぞれが空いた時間を活用し、美化活動に取り組む。梅雨明けの満月の時期に開催する「ムーンライトコンサート」や、集落全体を美術館に見立てた「スージグヮー美術館」もにぎわっている。

フーカキサバニ

賞 第７回優秀賞

〒905-0021 沖縄県名護市東江 2-8-47

HP

伝統の帆かけ船、体験乗船や上級者向けスクール



琉球王国時代の沖縄の漁師が乗って世界の海を駆け巡った木のくり舟「帆かけサバニ」（=フーカキサバニ）を２１世紀の日常の中に取り戻そうと２００２年に結成された。名護市を拠点に体験乗船会や上級者向けのスクールを実施し、操船技術を伝授してきた。単なるマリンレジャーにとどまらず沖縄文化の継承、地域活性化につなげている。２０年夏からは恩納村のリゾートホテルでもサバニ体験を実践している。

平久保サガリバナ保存会

賞 第６回優秀賞

〒907-0331 沖縄県石垣市平久保 47-7

サガリバナの群落を守り、貴重な観光資源に



沖縄県石垣島の北端、平久保集落に自生する一夜限りの花、サガリバナ。２００５年に米盛三千弘さんが自宅畑脇にあるサガリバナ群落を発見、多くの人に楽しんでほしいと遊歩道の整備などに夫婦で取り組んできた。北部地区活性化に向け保存会を開設、開花に合わせ地元のボランティアを含め一斉清掃を行っている。開花時期の夏場は観光客を含め地元の人も多く訪れている。

首里まちづくり研究会

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒903-0824 那覇市首里池端町 34 ２Ｆ

HP

琉球王朝時代の花の都で地域づくりにミツバチ



沖縄戦で失われた琉球王朝からの記憶をつむぎ、花の都だった首里のロマンを追い求め、ミツバチを活用したまちづくりを進めている。ハチミツのもととなる花の植栽に取り組み、「王朝蜂蜜」の地域ブランド開発を展開している。子どもたちに関心を持ってもらうため、ハチの専門家と協力、小学校でミツバチの飼育を始めた。地域のホテルの庭にもミツバチ小屋を設け、ハチミツを食事に使用している。「蜂蜜ビール」の生産も企画中だ。豊かな環境の再生に努め、観光客が歴史を感じられる地域を目指す。

てぃーだこども食堂

（受賞当時：浦添小学校ＰＴＡ）

賞 第７回特別賞

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間 2-47-5

こども食堂や、受験対策の無料塾で子どもたちを支援



地域の児童館で、未就学児～18歳までの子どもを対象に事業を展開、定期的に無料で昼食を提供する。また経済的理由で学習塾に通えず、意欲があるのに志望校を諦める子どものために〝受験対策の無料塾〟を開いている。地元小学校PTAのサークル活動からスタートし、学校・行政・地域の有志と連携、地域で子どもを守り育てる事業として独立した。人と人との関係を育み、関わるボランティアも生きがいを感じる居場所でありたいと奮闘している。

地域サポートわかさ

賞 第９回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒900-0031 那覇市若狭 2-12-1

HP

公民館拠点に多彩な講座、ＳＮＳも駆使



若狭公民館周辺の住民や自治会、学校関係者らが結成。公民館の指定管理者として「朝食会」や、大学生が子どもを教える「土曜朝塾」、一人親家庭の児童らへの無料英会話教室、公民館から遠い場所に出向く「パーラー公民館」など多彩な企画を展開している。参加者が物資を持ち寄り、専門家と活用法を考える防災キャンプを年4回、場所を変えて開催。コロナ禍では母子家庭、困窮した外国人の食を支援した。動画配信に積極的で、在住外国人や地域住民・市議会議員等による「グローバル市民会議」を開催し、その様子を配信した。

にじのはしファンド

（受賞当時：にじの森文庫）

賞 第８回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒902-0062 那覇市松川 275-4 ディファイ南西 102 号

HP

困窮世帯に食料支援、読書できる子どもの居場所も



児童養護施設・ファミリーホーム・里親のもとで養育を経験した子どもたちの進学や資格取得を、自助努力を大切にしながらサポートしている。活動の一部門として子どもたちが本や漫画を読んで過ごしたり、友達と遊んだりできる居場所「にじの森文庫」を運営。子どもたちの要望や寄贈で蔵書は約2000冊に達した。子ども食堂として昼食も無料提供している。コロナ禍では困窮した家庭への弁当支給や食料配布、生活が苦しい学生への支援に取り組んだ。

与那原大綱曳実行委員会支度係

賞 第 10 回優秀賞

〒901-1392 沖縄県与那原町上与那原 16

HP

綱の上に乗る「支度」の豪華な衣装展示会を開催



440 年の歴史と伝統を誇る与那原大綱曳。長さ 90 メートル、重さ5トンもの大綱の上に、琉球史劇の登場人物に扮した「支度」が乗り、豪華絢爛な衣装を身にまとった勇壮な姿で観衆を魅了する。これまで支度の姿は大綱曳当日の限られた時間しか見ることができなかった。そこで多くの人に間近で支度の衣装や装飾品を見てもらい、関心を深めて伝統継承につなげることを目的に、2018 年から「支度衣装展」を開催している。コロナ禍で大綱曳が神事のみとなった 20 年も 10 月 30 日～ 11 月3日に衣装展を開催。

いけま福祉支援センター

賞 第９回準大賞　　ＮＰＯ法人

〒906-0421 沖縄県宮古島市平良池間 90-6

HP

手作りの介護事業、高齢者の知恵を次世代に継承



宮古島の隣にある池間島で、最後まで故郷に暮らしたいお年寄りの願いをかなえようと主婦グループが奮闘、2006 年 に介護事業所を開設した。使われていなかった建物を拠点に、お年寄りをケア、介護士など新たな雇用も生まれた。民泊運営もサポートする。

高齢者の〝生きる知恵〟を次世代に継承する「アマイ・ウムクトゥ・プロジェクト」として小中学校に授業を設けた。月1回の「いけまシマ学校」で地域の人々が高齢者から踊りや歌謡を学んでいる。

国頭村安田区

賞 第 11 回優秀賞

〒905-1503 沖縄県国頭村安田858

住民がヤンバルクイナの保護活動、村・県・国を動かす



国の天然記念物ヤンバルクイナは1981年の新種登録から40年目を迎えた。一時は個体数約700羽まで減少し絶滅寸前といわれたが「先輩方から受け継いだ自然を次世代に」と区民を挙げて保護活動に取り組んだ。住民自治に基づく熱心な活動は村、県、国へと波及して継続的な外来種駆除事業や飼育繁殖事業となり、ヤンバルクイナは1500羽まで回復した。世界に誇る自然を守り、持続可能な地域づくりを目指す、SDGs時代のモデルとなる自治会である。

バリアフリーネットワーク会議

賞 第 10 回優秀賞　　ＮＰＯ法人

〒904-2151 沖縄県沖縄市松本 2-30-1

HP

観光バリアフリー目指し空港にセンター、情報誌



全ての人々が障がいの有無に関わりなく自由に暮らせる地域社会を目指し設立された。観光バリアフリーの推進を柱に高齢者や子ども、子育て中の親などあらゆるハンディキャップのある人々の社会参画を支援する。那覇空港で2011 年、全国初のバリアフリーツアーセンターを開設。福岡空港でも同様のサービスを始めた。県内のバリアフリー対応施設を紹介する情報誌も発行している。県内全バス路線での視覚障害者向け音声サービスや、車いす利用者が暑さを避け快適に通行できる断熱舗装材開発にも成功した。

協賛社・後援団体のことば











井村屋グループ

おいしい！の笑顔を求めて地域に根差した活動に邁進

１８９６（明治29）年の創業以来、「積極・誠実・進取」の考えを大切にお客様へのお役立ちにつながる商品・サービスの提供に邁進してまいりました。

「おいしい！に笑顔をつくる」の経営理念のもとに今後もグローバルに展開するとともに地域社会との共生にも参画してまいります。

その取り組みの１つとして２０２１年８月に発売した「秋田枝豆あんトッピング」は秋田県大館市の名産である朝採れ枝豆がさや付き枝豆以外、廃棄される課題に向き合った商品です。今回ご縁があり地域連携ＤＭＯ秋田犬ツーリズム様との取り組みにより、朝採れ枝豆をペースト化したものを当社全量買い取り、あずきの加工技術で培ったノウハウで枝豆あんとして商品化しました。秋田大館は渋谷駅前に鎮座する「忠犬ハチ」の故郷であり、そのハチの飼い主だった帝国大学教授（現東京大学）上野英三郎博士は当社本社所在地である三重県津市の出身であり、今回の取り組みは「忠犬ハチ」が取り持つ形になりました。８月に秋田県大館市で実施した記者発表で枝豆生産者・製造者・小売りなどサプライチェーンを繋ぐ関係者が一堂に会し、今回の製品化に向けた想いを発表致しました。

一方で当社は２０２１年７月、三重県多気郡にあるリゾート施設「ＶＩＳＯＮ多気」に酒蔵「福和蔵」をＯＰＥＮしました。三重県伊賀市で酒造りをされていた福井酒造場の事業継続困難の話から連綿と続く三重の酒造文化の一端を引継ぎ、進取の気持ちで新たな挑戦を行いました。三重の酒米、水は松阪市にある香肌峡から採水されたミネラル分を多く含む硬水、三重県産酵母を使用し、三重県の豊かな風土が織りなすテロワールに根差したお酒を提供することになりました。そうした地域の魅力の発信が地域振興につながることを確信しております。

今後もサステナブルな社会の構築に寄与し、食文化と日々の食生活に役立つ活動を推進してまいります。



住友化学

「自利利他」― 設立の理念脈々と

住友化学は、１９１３年、愛媛県新居浜にある別子銅山で銅製錬の際に生じる排ガスの煙害を解決するため、その原因である亜硫酸ガスから肥料を製造し、食料増産へ貢献することを目的に設立されました。

その設立の経緯にも通じる、住友の事業は、住友自身を利するとともに、国家を利し、かつ社会を利するものでなければならない、とする「自利利他　公私一如」の考え方を脈々と受け継ぎながら、時代の変遷にあわせて事業の変革を遂げてきました。

地域社会の一員としての貢献活動については、地域イベントへの参加と協力に加えて、当社グループの製品を使って実験や工作を行う「理科教室」、工場・研究所見学会などを開催しています。２０２０年には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出を自粛している子どもたちが、自宅で楽しく過ごせるよう、当社愛媛工場と新居浜市美術館とのコラボレーション企画「ステイホーム 夢の工場ＷＥＢ展覧会」を開催しました。

また、当社の事業所がある地域や海岸などにおける清掃活動を通して、プラスチック廃棄物問題の解決に貢献しています。三沢工場（青森県）では、毎年、海洋プラスチックごみ問題対策の一環として、淋代海岸で漂流プラスチックごみの清掃活動を実施しています。

この先も、地域の皆さまから信頼され続けるために、さまざまな活動を通じて「地域との共存共栄」「世界を取り巻く諸課題への解決」につながる当社グループらしい社会貢献活動を推進してまいります。





中日本高速道路（ＮＥＸＣＯ中日本）

つなぐ原動力へ

当社は、高速道路という重要な社会インフラを担う会社として、高速道路の建設・管理だけでなく、そこに暮らす方々とのつながりを大切にしています。さらに、高速道路ネットワークの効果を活かして地域と地域をつなぎ、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長に貢献していかなければならないと考えています。

地域社会の一員として、２０１１年度から、高速道路沿線地域の皆さまと対話し、協働することを目的とし、人手不足の農山村へのボランティア活動を3県5地区で活動しています。本活動は２００回を超え、延べ約3、６００名のグループ社員が参加してきました（２０２１年12月末時点）。富山県南砺市五箇山地区では、世界遺産の合掌造り屋根の材料となる茅を地域の皆さまと一緒に育てており、茅場の再生とともに地域の皆さまとの関係を築いてきました。

また、岐阜県美濃加茂市や外部企業と連携し、２０２１年3月に「ローカルＳＤＧｓみのかも包括連携協定」を締結し、観光ＭａａＳ・ワーケーション型研修・防災医療ＭａａＳの３つの分野からなるプロジェクトをスタートさせました。本プロジェクトは、ローカルＳＤＧｓの実現に寄与する取り組みを行うことを目的としており、行政をはじめとした地域の皆さまと対話を重ねる中で見えてきた地域の課題解決に向け、美濃加茂市が大切にしている「健康」をベースとし、暮らし・文化・自然をテーマに地域の外の人にも関心を持っていただけるような施策の検討を進めています。

今回ご紹介した取り組み以外にも、当社では、地域ごとに様々な取り組みを行っています。今後も地域の皆さまとつながり、地域をつなぐ原動力として活動していきます。



新市場区分特設サイト　https://jpx-market.jp
の人気コーナー「あろーずくんの全国上場会社の旅」

日本取引所グループ（ＪＰＸ）

新たな市場区分の始動で地域経済の活性化に貢献

日本取引所グループ（ＪＰＸ）は、株式市場を運営する東京証券取引所、デリバティブ市場を運営する大阪取引所と東京商品取引所などを傘下に持ち、日本の資本市場を担うという公共的な使命を果たすとともに、利便性、効率性及び透明性の高い市場基盤を構築するため、弛まず市場の持続的な発展を図り、豊かな社会の実現に貢献しています。

２０２２年４月、東京証券取引所において、株式市場の市場区分の見直しを実施します。東証と大証の経営統合後、複雑でコンセプトが曖昧となっていた市場区分をコンセプトを明確にした新たな３つの市場区分「プライム市場」、「スタンダード市場」、「グロース市場」に再編することにより、投資家にとってはわかりやすく利便性を高めるとともに、上場会社にとっては企業価値向上のモチベーションを促してまいります。

「プライム市場」は、世界が直面するサステナビリティを巡る課題に果敢に挑み、中長期の企業価値向上と持続的な成長を目指す上場会社向けの市場です。グローバル基準を踏まえた経営によって、世界中の投資家から信頼を獲得し世界の変革をリードしていただきたいと思います。これに対して「スタンダード市場」は、企業活動を通じた地域経済の活性化や国内の雇用拡大などにより、わが国経済の発展を支える上場会社の皆様を、長期資金の供給によって応援する市場です。そして、「グロース市場」は、日本経済の持続的成長に不可欠なイノベーションを生み出す成長企業を支援する市場です。革新的技術の開発と実装のためには長期で多額の資金が必要となる一方で、高いリスクも伴うことから、十分な情報開示によって高い透明性を保ちつつ、イノベーションを生み出していただきたいと思います。

新たな市場区分への再編は、将来の豊かな社会を実現する長い道のりのスタート地点です。今後もＪＰＸは、上場企業の持続的な成長、中長期的な企業価値の向上を促してゆくことを通じて、地域経済基盤の強化、地域社会の活性化・雇用の創出に貢献してまいります。



東日本高速道路（ＮＥＸＣＯ東日本）

地域をつなぎ、地域とつながる

私たちＮＥＸＣＯ東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献することを、グループ全体の経営理念としています。高速道路をご利用のすべてのお客さまに、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けするため、リニューアル工事、４車線化事業などの高速道路機能の強化や地震、台風などの自然災害への対応といった課題に真摯に向き合い、皆さまのご期待に応えるべく日々事業に取り組んでおります。

本年度からは、５年間を対象に「ＮＥＸＣＯ東日本グループ中期経営計画」をスタートさせ、この５年間を「ＳＤＧｓの達成に貢献し、新たな未来社会に向けて変革していく期間」と位置付けました。一つ一つの事業を着実に実行していくことを基本としつつ、自動運転車両やコネクテッドカーの普及といった技術革新の進展など、様々な事業環境の変化とそれに伴うお客さまニーズの変化に的確に対応することにより、持続可能な社会を実現するための必要な変革を進めていきます。

また、２０１７年度から進めている、高速道路と福祉が連携した「高福連携」活動も推し進めていきます。障がい者の方が種まきから丁寧に育ててくれた花の苗を、サービスエリアやインターチェンジなどの花壇に植える取組みや障がい者の方が手作りした木工品や刺繍製品などを休憩施設やＷｅｂサイト上で販売する取組みなどを実施しています。

今後も２０３０年までに持続可能でよりよい世界を目指すというＳＤＧｓの達成に貢献できるよう、当社の強みを活かし高速道路を通じた人々の暮らしと地域社会の発展に貢献してまいります。

［ ゆうちょ銀行の中期経営計画における重点課題 ］



ゆうちょ銀行

地域経済発展への貢献

ゆうちょ銀行の歴史は、１８７５（明治８）年の郵便為替事業および郵便貯金事業の創業に始まります。創業以来、長い歴史の中で、世の中を支える金融機関として、お客さまとともに歩んでまいりました。

当行は、２０２１年５月に公表した中期経営計画において、企業価値向上と社会的課題解決の両立に向けた基本方針の一つとしてＥＳＧ経営を位置づけています。環境課題・社会課題認識と当行の強み・事業特性を踏まえ、注力すべき４つの重点課題を設定し、それを経営戦略と結び付けることでＥＳＧ経営を推進します。

特に、「地域経済発展への貢献」については、全国津々浦々にネットワークを有する当行にとって大きな役割を果たしていける領域だと考えています。

当行は、お客さまの大切な資金を地域に資金循環させていくために、地域金融機関との連携を通じて、２０１６年度から事業承継や起業・創業、成長の支援等を目的とした地方創生に資する地域活性化ファンドへの参加を積極的に推し進めています。引き続き、地域金融機関との連携・協働により、地域経済の発展・成長に貢献します。

また、全国の地域金融機関と連携し、「地域の金融のプラットフォーム」の中核として、当行のＡＴＭネットワークの活用や税公金取りまとめ事務の共同化など各地域の実情に応じた金融ニーズにも応えてまいります。

ゆうちょ銀行は、今後も地域社会の未来に向けた取り組みを積極的に進めてまいります。



山形県立新庄神室産業高校の生徒さんと共同開発した
「まるでラ・フランスみたいなパン～山形県産ラ・フランスのジャム入りチーズクリーム～」

ローソン

様々な商品販売を通じて全国各地の〝マチ〟を活性化

ローソンは１９７５年の創業以来、社会の変化に対応し、お客様のニーズを見極め、新たな商品やサービスを作り出してきました。「私たちは〝みんなと暮らすマチ〟を幸せにします」というグループ理念のもと、マチに暮らす人々の生活全般を支える〝なくてはならない存在〟であり続けるために、お客様が笑顔になっていただける商品やサービスの開発を進めています。その取り組みの一環として、全国各地の〝マチ〟の活性化を目指し、47都道府県・約１５、０００店舗の店舗網を活かして、各地の名産品や地元食材を使用した商品の発売を行うなど、地産地消や地産外消を積極的に進めています。また、各地域の学生さん達と地元食材を使用した商品開発を共同で行い、地域の皆さまと一緒に地元を盛り上げる取り組みも行っています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、出荷量が落ち込んだ食材の消費拡大応援も行っており、２０２１年度も、様々な地域の食材を使用した商品を販売いたしました。牛乳乳製品の需要回復が遅れている中で、牛乳の消費量が減少する年末年始を迎えるにあたり、ミルク缶マークを掲げるローソンとして、２０２１年12月31日と２０２２年元日の２日間、国産生乳１００％使用牛乳の「ホットミルク」を半額で販売しました。お客様より大変ご好評をいただき、２日間のホットミルクの販売量は約１３５トンとなり、年末年始の牛乳の消費量拡大につながりました。

さらに各地域の人気ラーメン店や老舗洋食店などの飲食店と様々な商品の共同開発などを実施し、コラボを行った企業数は２０２０年10月から全国で延べ１６０社以上にのぼりました。「おいしさでマチを元気に」をテーマにローソンと飲食店が一緒になって行う本取り組みは、飲食店になかなか足を運べないお客様にとって、「地元でお馴染みの味を近くのローソンで購入できる事」に価値を感じていただき、大変多くの方にご利用いただいています。今後も、地域ならではの食文化の紹介による観光振興、そして各地域のおすすめ品の販売拡大を通じた地域経済の活性化を図ってまいります。



城南信用金庫

「よい仕事おこしネットワーク」が地域の枠を超えて拡大中

信用金庫は、地域を守り、地域の方々の幸せのためにつくられた公共的使命を持つ金融機関であり、「地域社会の繁栄への奉仕と発展に貢献する」という経営理念に基づき活動しています。我が国には、北海道から沖縄まで２５４（２０２１年12月末時点）の信用金庫があり、金融面の支援はもちろんのこと、各々の信用金庫が、地域のあらゆる課題を解決するために日々奮闘しています。また、全国で約７４００店舗のネットワークをもつ信用金庫は、個々のエリアを越えてスクラムを組んで連携している「よい仕事おこしネットワーク」（事務局：城南信用金庫）に参画しており、地域の枠を超えたビジネスチャンスの創出や多種多様な課題の解決に取り組んでいます。さらに、このネットワークには、信用金庫や中小企業のみならず、「地域課題を解決して、日本を明るく元気に！」という同じ志を持つ、自治体やマスコミ、大学などにも続々とご参加いただいており、幅広いネットワークが拡がっているところです。

本ネットワークでは、２０１８年から「全国の絆で日本を元気に！」の想いをこめ、日本が一つになるため、47都道府県産のお米を集め、それをブレンドした興こし酒「絆舞（きずなまい）」を醸造いたしました。２０２１年においても、「絶対にコロナに負けない！」「今こそ全国の絆で日本を元気に！」のスローガンのもと、全国47都道府県の２１１地域のお米で「佳酔（かすい）絆舞」が完成いたしました。さらに本年醸造分より、「食品ロス」防止の観点から、「絆舞」の酒粕を利用した「絆舞風呂」や「絆舞わさび漬け」「絆舞カレー」などを計画して商品化を目指しています。今後とも地域再生大賞に関係する皆様のご協力を賜り、本ネットワークをさらにバージョンアップさせて、お客様の課題を解決していけるよう全力で行動して参ります。

Be a Great Small.
中小機構

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

中小機構は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

中小企業基盤整備機構

中小企業・小規模事業者のＳＤＧｓを応援

独立行政法人中小企業基盤整備機構（略称：中小機構）は、事業の自律的発展や継続を目指す中小企業・小規模事業者・ベンチャー企業のイノベーションや地域経済の活性化を促進し、我が国経済の発展に貢献することを目的とする政策実施機関です。東京の本部のほかに、北海道から沖縄まで全国に10の地域本部・事務所、人材育成のための９つの中小企業大学校、起業家育成のための29のインキュベーション施設を設置し、経営環境の変化に対応し持続的成長を目指す中小企業等の経営課題の解決に向け、直接的な伴走型支援、人材の育成、共済制度の運営、資金面での各種支援やビジネスチャンスの提供を行うとともに、関係する中小企業支援機関の支援力の向上に取り組んでおります。

中小機構は昨年、「中小企業ＳＤＧｓ応援宣言」をいたしました。ＳＤＧｓは企業にとって、事業の持続性を高めることにもつながります。ＳＤＧｓの考えを尊重し、中小企業・小規模事業者がスムーズにＳＤＧｓを経営に取り入れられるよう、相談窓口の設置、セミナーや研修、当機構が運営するビジネスポータルサイト「Ｊ－Ｎｅｔ21」を通じた情報提供、カーボンニュートラルや脱炭素化をテーマとした商談会の開催など、様々な支援施策を実施しております。

中小機構は、今後も中小企業・小規模事業者のＳＤＧｓへの理解促進と趣旨に沿った事業活動への支援を通じて、ＳＤＧｓの達成に貢献してまいります。


既存建築物も活用した再開発事業による拠点づくり（新潟県長岡市）


居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指した実証実験（広島県福山市）


火災により失われた中心市街地の賑わい再生（福岡県飯塚市）


サテライトオフィスを設置して地域活性化に挑戦（徳島県美波町）

都市再生機構（UR）

URは全国のまちづくりを応援します

まちづくり・地域づくりの主役は、そこで暮らし、働く方々にほかなりません。私たちURは、地元の方々との対話を大切に、歴史や文化を含む地域の資源を存分に生かし、まち・地域を元気にするための取り組みを進めています。

1955年に設立された日本住宅公団を母体とする私たちURは、60年以上にわたり「まち」と「くらし」に関わるさまざまな課題に向き合ってまいりました。現在、我が国において、地方を中心とした人口減少・少子高齢化や頻発する自然災害への対応などが求められるなか、URは、全国の「地方都市の再生」に向けたまちづくり支援に全力で取り組んでいます。

地域のおかれる状況や課題は千差万別です。このため、URによる支援の方法についても、地方公共団体によるまちづくり構想・計画づくりの支援、構想・計画に基づく具体的な事業化の支援、あるいはUR自らによる事業の実施などさまざまなツールを組み合わせることが必要です。

そのまちの課題が何か、これからの時代にどのようなまちづくりを進めるべきか、URは何を担えるのか、それが住んでいる人や訪れる人の満足感や幸せにつながるのか。こうしたことを、地元公共団体や地元の方々とともに考えることから始めます。そこに、URならではの外部からの視点、国の機関として都市・住宅整備や災害からの復旧・復興に携わってきた経験、国や全国の企業・プレイヤーとのネットワークを総動員し、一緒に全国のまちづくり支援を進めてまいります。

{ 年表・地域再生大賞のあゆみ }

年	地域再生大賞	社会の動き
2010	地方新聞社と共同通信が合同で地域再生大賞を創設	【国内】参院選で民主党大敗。迷走の鳩山内閣が総辞職 【地域づくり】所在不明の高齢者が続々と判明、「無縁社会」も深刻に 【国際】中国が日本のＧＤＰを抜き世界第２位の経済大国に
2011	2月　第１回大賞に「グラウンドワーク三島」（静岡）	【国内】東日本大震災、東京電力福島第１原発事故 【地域づくり】台風 12 号、15 号で大きな被害 【国際】世界人口 70 億人に
2012	1月　第２回大賞に「ブルーリバー」（広島）	【国内】衆院選で自公が政権奪還 【地域づくり】消費税増税法が成立、２段階で 10％へ 【国際】中国で習近平氏の新指導部発足
2013	1月　第３回大賞に「島の風」（沖縄）	【国内】2020 年の東京五輪開催決定 【地域づくり】環太平洋連携協定（ＴＰＰ）交渉に参加 【国際】中国で大気汚染深刻化
2014	1月　第４回大賞に「はやめ南人情ネットワーク」（福岡）	【国内】御嶽山噴火で戦後最悪の火山被害、広島市で大規模土砂災害 【地域づくり】人口減対策の５カ年計画「地方創生総合戦略」を政府決定 【国際】マララ・ユスフザイさんにノーベル平和賞
2015	1月　第５回大賞に「てごねっと石見」（島根）	【国内】安保法が成立、集団的自衛権行使可能に 【地域づくり】ＴＰＰ大筋合意、国内では農協改革 【国際】ＣＯＰ 21 で温室ガス排出実質ゼロ目指す協定採択
2016	1月　第６回大賞に「かさおか島づくり海社」（岡山）	【国内】熊本地震で２度の震度７ 【地域づくり】出生数、初の 100 万人割れ 【国際】米大統領にトランプ氏選出
2017	1月　第７回大賞に「都岐沙羅パートナーズセンター」（新潟）	【国内】森友、加計学園問題、国会で安倍首相を追及、忖度争点に 【地域づくり】九州北部の豪雨、福岡と大分 39 人死亡 【国際】英がＥＵ離脱正式通知
2018	1月　第８回大賞に「陽気な母さんの店」（秋田）	【国内】西日本豪雨で死者 220 人超。台風、猛暑も 【地域づくり】外国人材受け入れ拡大の改正出入国管理法成立 【国際】米中が報復関税で応酬、貿易摩擦の収拾難航
2019	1月　第９回大賞に「多言語センター FACIL」（兵庫）	【国内】天皇代替わり、平成から令和に 【地域づくり】相次ぐ台風で列島被害甚大、停電や河川氾濫 【国際】温暖化防止訴え少女グレタ・トゥンベリさんが国連演説
2020	1月　第 10 回大賞に「ふるさと福井サポートセンター」（福井）	【国内】新型コロナウイルスまん延、政府が緊急事態宣言、 東京五輪・パラリンピック延期 【地域づくり】移動自粛と休業要請で経済低迷 【国際】米大統領にバイデン氏選出
2021	1月　第 11 回大賞～コロナ禍を越えて～に「佐賀未来創造基金」（佐賀）	【国内】コロナ禍の中、東京五輪 【地域づくり】感染拡大、医療崩壊危機 【国際】米軍がアフガン撤退
2022	1月　第 12 回大賞～未来へつなぐ、みんなで～に「河原部社」（山梨）	【国際】ロシアがウクライナ侵攻

まちづくりチャレンジ600　～未来へつなぐ、みんなで～

発 行 日　2022年3月22日

編　　著　地域再生大賞実行委員会
編　　集　橋田欣典
制　　作　神田詩野、川村和久、竹内萌葉、藤田康文、横田実
発 行 人　水谷　亨
発　　行　一般社団法人共同通信社
　　〒105-7201 東京都港区東新橋1-7-1 汐留メディアタワー
デザイン　沖直美（MORE than WORDS）

写真提供

AIR DO　ANA　Solaseed Air

© Kyodo News,2022

地域再生大賞事務局

〒105-7201 東京都港区東新橋1-7-1 共同通信社内
電　話　03（6252）8237　　ファクス　03（6252）8238
メール　thd.chiikisaisei@kyodonews.jp

公式ホームページ

公式フェイスブック





Link to the future,
together



